

通信教育実施計画

3DAY スタイル・5DAY スタイル

※キャンパスごとに開講科目が異なります。詳細は各キャンパスにお問い合わせください。

学校
法人 三幸学園

飛鳥未来きぼう高等学校

《通信教育実施計画》

授業科目名	現代の国語	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章を用いて、実社会における国語によるあらゆる活動に必要な資質・能力を身につけることを目標とする。言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、日本の言語文化に関する事項を話す・聞く、書く、読むといった言語活動を通して学ぶ。						
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
	1. 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。						
	2. 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
	3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「現国701 新編現代の国語」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	—	—	オリエンテーション	—	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	—	—	—
2	1	5月	読む こそめスープ	p6-11	・筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれが持つ意識の世界に思いをはせる。	○	○	◎
3			読む ルリボシカミキリの青	p12-17	・筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考える。	○	○	◎
4	—	—	話す・聞く 気になるニュースについて話そう	p18	・情報を整理し、内容や構成に注意して話す。	○	◎	○
5						○	◎	○
6	2	6月	未来をつくる創造力 考えようメディアとの付き合い方	p 24～32	・情報と想像力の関係を論じた文章を読み、意見の根拠を的確に理解して筆者の主張をつかむ。 ・さまざまなメディアの特長を知り、受信者としても送信者としても適切な判断のもと、使い分ける。	○	◎	○
7						○	◎	○
8			水の東西 評論の読み方 やってみよう 文章の要旨をまとめてみよう	p 33～43	・「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。 ・評論の書かれ方を理解し、読み方を知る。 ・要旨をまとめ、文章の要点を把握する。	○	◎	○
9						○	◎	○
10	3	7月	スキマが育む都市の緑と生命のつながり	p 68～77	・身近な植物を観察してきた成果を述べる文章を読み、提示された新しい視点について理解する。	○	◎	○
11			無彩の色	p 78～86	・色について論じた文章を、具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観と主張をつかむ。	○	◎	○
12	—	—	書く 集めた情報の内容を検討して意見文を書こう	p 44～49	・情報を集めて検討し、構成を工夫して意見文を書く。	◎	○	○
13						◎	○	○
14						◎	○	○
15						◎	○	○

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	4	10月	読む 鍋洗いの日々	p 94-99	・自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。	○	◎	○
17			読む 森で染める人	p 100-109	・自然や社会の中で生きる意味を考えながら働く筆者の思いに触れ、働くということについて考える。	○	◎	○
18						○	◎	○
19			読む 真夏のひしこ漁 働くとは？	p 110-122	・海での漁の様子を伝える文章を読み、自然の中での労働について理解を深める。 ・読書を通じて将来の職業や働き方を考える。	○	○	◎
20	5	11月	読む 美しさの発見	p 142-149	・「美」という抽象的な題材について論じた文章を読み、その展開を論理的に捉え、筆者の価値観を理解する。	○	◎	○
21						○	◎	○
22			読む りんごのほっぺ	p 150-158	・出来事の順序に着目しながら、戦時下の人々の状況と、作品に一貫する筆者の思いを読み取る。	○	◎	○
23	6	12月	読む 不思議な拍手 考えよう 推論の仕方	p 166-178	・人間の心・意識について体験を踏まえつつ考察する文章を読み、人間への認識を深める。 ・推論の仕方を理解し、日常で使えるようになる。	◎	○	○
24						◎	○	○
25			読む 真の自立とは	p 179-187	・「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。	○	◎	○
26	－	－	書く 読み手のアドバイスを生かして紹介文を書こう	p 159－165	・助言をもとに推敲して、よりよい文章に仕上げる。	○	◎	○
27						○	◎	○
28						○	◎	○
29						○	◎	○
30						○	◎	○
備 考			・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。					

《通信教育実施計画》

授業科目名	言語文化	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	昔から近現代に受け継がてきたわが国の言語文化への理解を深めることを目標とする。古典だけでなく、日本の伝統と文化や古典に関する近代以降の文章などを扱い、日本の言語文化への理解を深めていく。						
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
	1. 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。						
	2. 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
	3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編言語文化」（言文701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	－	－	オリエンテーション（学習の進め方）	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	－	－	－
2	1	5月	読む さくらさくらさくら 言語活動 「花」といえば「桜」？	p 10～17	・引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。	◎	○	○
3						◎	○	○
4						◎	○	○
5			読む とんかつ	p 24～35	・会話や行動の描写に着目して、登場人物の心情とその変化を読み取る。	◎	○	○
6	2	6月	読む 柳あをめる【短歌】	p 50～53	・短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉にこめられた情景や心情を読み取る。	◎	○	○
7			読む 雪の深さを【俳句】	p 54～57	・俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。	◎	○	○
8			読む 冬が来た 言語活動 歌詞の意味や表現技法について考えよう 詩の読み方	p 58～59 p 66～70	・比喩とリフレインの効果を理解して詩を読み味わい、作者のものの感じ方について考える。 ・日頃耳にする歌謡曲の歌詞にも見られる表現技法について知り、散文への理解を深める。	◎ ◎	○ ○	○ ○
9						◎	○	○
10	3	7月				○	◎	○
11			読む 羅生門	p 72～92	・極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。	○	◎	○
12						○	◎	○
13						○	◎	○
14			読む 夢十夜	p 94～106	・表現に即して小説を丁寧に読み味わい、そこに展開する独自の世界を味わう。	○	◎	○
15						○	◎	○

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	4	10月	古文に親しむ 古文学習のしるべ1 古文の言葉と仮名遣い	p 118～121	・それぞれの文章の、リズムや調子の違いを感じ取る。 ・歴史的仮名遣いについて理解し、歴史的仮名遣いで書かれた文章を読むことができる。	㊟	○	○
17			古文学習のしるべ2 古語を調べるために 古文学習のしるべ3 用言の活用／係り結び／仮定条件と確定条件	p 128～129 p 134～136	・文語の品詞について理解し、文節ごとに区切り品詞を教科書を見ながら識別ができる。古語辞典を引くことができる。 ・文語の活用について理解し、品詞・活用の種類を教科書を見ながら識別ができる。	㊟	○	○
18			徒然草 枕草子	p 138～145 p 146～147	・随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。 ・作品の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を深める。	㊟	○	○
19			折々のうた	p 154～168	・詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取る。	㊟	○	○
20	－	－	古文学習のしるべ4 助動詞 古文学習のしるべ5 和歌	p 150～152 p 154～168	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解する。 ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解する。	㊟	○	○
21	5	11月	伊勢物語	p 170～177	・歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。	㊟	○	○
22			平家物語 古文学習のしるべ6 敬語	p 179～188	・軍記物語特有の表現に注意しながら、登場人物の言動や心情を読み取る。	㊟	○	○
23			奥の細道	p 190～195	・構成に注目しながら、作品にこめられた思いを読み取る。	㊟	○	○
24	6	12月	読む 訓読の基本 〔言語〕漢字の読みと意味－漢和辞典を活用しよう	p 210～219	・漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 ・漢和辞典の使い方を知り、漢字の読みと意味の関係について理解する。	㊟	○	○
25						㊟	○	○
26			読む 故事成語－三編〔言語〕 漢文の意1 名前の表し方	p 220～226	・故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。	㊟	○	○
27						㊟	○	○
28			読む 絶句と律詩－七首 【奉望】	p 228～233	・漢詩の詩形ときまりを理解し、漢詩に描かれた情景や心情を読み取る。	㊟	○	○
29			読む 論語－八章	p 238～246	・孔子の学問・人間・政治に対する考え方を知り、孔子の思想に興味を持つとともに、ものの見方や考え方を豊かにする。	㊟	○	○
30						㊟	○	○

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	論理国語	スクーリング回数	4	レポート回数	12	単位数	4
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるため、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる力を養う。						
学習の到達目標	1. 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。						
	2. 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
	3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編論理国語」（論国701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習に 取り組む 態度
1	—	—	オリエンテーション（学習の進め方）	—	①学習内容や到達目標を理解する。 ②学習の進め方を理解する。	—	—	—
	2	1	5月	対話とは何か	P8～P14	【学習目標】対話についての筆者の考えを捉え、日常のコミュニケーションの在り方を振り返る。 ①「対話」と「おしゃべり」の違いを本文の論旨をもとにまとめ、「対話成立のポイント」が何かを理解する。 ②「他者不在の言語活動」とはどのようなことかを読み取り、まとめる。 ③本文で使われている接続表現を挙げ、その中から「逆説」「根拠」の接続表現に当たるものをまとめる。（論理の力）	㊟	○
世界を作り替えるために				P15～22	【学習目標】対話についての筆者の考えを捉え、日常のコミュニケーションの在り方を振り返る。 ①「他者存在としての相手の領域に大きく踏み込む行為」とはどのような行為かを読み取り、まとめる。 ②筆者は「対話」の意義をどのように捉えているか、本文の論旨をもとに読み取り、まとめる。 ③普段の生活の中でどんなときに「おしゃべり」をし、どんなときに「対話」をしているかを振り返り、話し合う。	○	㊟	○
3			2	5月	少女たちの「ひろしま」	P26～P36	【学習目標】戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いを巡らし、時代や社会について考える態度を養う。 ①三つに分かれたそれぞれの部分の話題に注意しながら、本文を通読する。 ②筆者が美しいと感じた石内館の写真集の特徴と「洋服たち」に対する視点を捉え、まとめる。 ③筆者の認識の変化が最もよく示されている部分を捉え、指摘する。	㊟
	「ふしぎ」ということ	P37～P43			【学習目標】戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いを巡らし、時代や社会について考える態度を養う。 被爆死した女性たちと筆者を繋ぐ「回路」の意味を捉える。	○	㊟	○
5			学ぶことと人間の知恵	P56～P65	【学習目標】挙げられている話題を関連づけて読み取り、「ふしぎ」ということについて考えを深める。 ①本文を通読し、子供の頃「ふしぎ」に思ったことを発表する。 ②具体例を挙げて説明している部分を指摘する。 ③本文の三つの部分で取り上げている事柄や問題についてまとめる。 ④「あたりまえ」と感じている「ふしぎ」と受け止める事の意義について理解する。	㊟	○	○
					【学習目標】挙げられている話題を関連づけて読み取り、「ふしぎ」ということについて考えを深める。 ①子供の説明が「物語」に直結しているということについて理解する。 ②「自然科学」の方法と「物語」の違いについて理解する。 ③「慣用語の意味」を通読し、慣用語の意味について確認する。	○	㊟	○
6	3	6月	ラップトップを抱えた「石器人」	P66～P72	【学習目標】文のつながりに着目して主張を読み取り、人間の思考や学ぶことの意義について理解を深める。 ①本文の中心的な「問い」を端的に表現している一文と、その問いを詳しく表現し直している一文をそれぞれ指摘する。 ②「忘却」という人間特有の能力の長所と短所を読み取り、確認する。 ③勉強しても忘れてしまうにも関わらず、筆者が「学ぶことは、結果として無駄にはならない」と述べる理由を読み取り、まとめる。 ④人間の脳のみが持っている「ゆとり」とは、頭脳のどのような状態のことをいうのかを読み取り、まとめる。 ⑤人間の頭脳にある「寛容性」とはどのようなものであるかを読み取り、まとめる。	㊟	○	○
					【学習目標】文のつながりに着目して主張を読み取り、人間の思考や学ぶことの意義について理解を深める。 ①「知恵」の「広さ」「深さ」「強さ」それぞれについて整理し、まとめる。 ②学ぶことの意義における筆者の主張のまとめを読み取る。 ③「コンピューター」と「人間」の違いについて、関連する他の文書を読むなどして、考えたことを話し合う。	○	○	㊟
7			思考の肺活量	P76～P82	【学習目標】事実と主張の関係に注意して文章を読み、人間の脳の働きについて考える。 ①第一段から、事故の具体例と筆者の主張との関係を整理し、「リスクの認識」について、筆者がどのような考えを述べようとしているかを読み取る。 ②第二段から、「ギャンブラーの誤謬」の例を通して筆者の述べたい内容をつかみ、昔と今日の状況の違いを捉える。	㊟	○	○
					【学習目標】事実と主張の関係に注意して文章を読み、人間の脳の働きについて考える。 ①「ヒューマンエラー」に対する筆者の考えを読み取る。 ②第三段から、脳の進化と文明の発展についての筆者の考えを読み取り、タイトルの意味を理解する。 ③「私たちは、ラップトップを抱えた『石器人』でもある」といえる根拠を本文からまとめる。 ④「学ぶことと人間の知恵」と「ラップトップ抱えた『石器人』」を読み比べ、「人間の脳の特性」について自分はどのように受け止めるか、自分の知識や体験なども関連付けながら考えをまとめる。	○	○	㊟
8	4	6月	思考の肺活量	P76～P82	【学習目標】比喩表現に注意して内容を読み取り、思考のあるべき姿について理解を深める。 ①論の展開に注意しながら、本文を通読する。 ②「思考」のために必要な「肺活量」とはどういうものか理解する。 ③本文の主張について、「例示」の役割を持っている段落がどこか、指摘する。（論理の力）	㊟	○	○
					【学習目標】比喩表現に注意して内容を読み取り、思考のあるべき姿について理解を深める。 ①第二段における三つの例示について理解する。 ②「思考の原型」について理解する。 ③筆者が述べる、「思考」において「だいたいなこと」を理解する。	○	㊟	○

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
8	4	6月	安心について	P83～P91	【学習目標】文章構成に注意して筆者の考えを理解し、安心というものの本質について考える。 ①第二段を音読し、シュルツの半生を箇条書きにまとめる。 ②第一段の漫画の内容とシュルツの半生との関わりを理解する。 ③シュルツや『ピーナッツ』について知っていることを挙げる。 ④筆者の考えを理解するうえでよく分からなかった部分について、質問を考える。（論理の力） ⑤子供にとっての「安心」とは何かをまとめる。	◎	○	○
9					【学習目標】文章構成に注意して筆者の考えを理解し、安心というものの本質について考える。 ①第三段を音読し、世界の現状を踏まえ、「安心」が、全ての子供に行きわたっているわけではないことを理解する。 ②第四段を音読し、老人にとっての「安心」とは何かをまとめる。 ③全体を読み直し、これまでの内容を振り返り、「安心」というものを筆者がどのように捉えているか考える。 ④「母の苦しみはだんだんひどくなっていった。かわいそうなお母さん、ボクらは何もしてあげることができない。」には、どのような表現の工夫が見られるか各自で考え、グループで話し合う。	○	○	◎
10	5	7月	弱肉強食は自然の摂理か	P102～P113	【学習目標】筆者の提示している問いや根拠に注意して読み、文章の論理展開を的確に捉える。 ①生き物の「強さ」の意味に注意しながら、本文を通読する。 ②この文章における筆者の問題提起とそれに対する主張が書かれている部分を把握し、文章の構成を理解する。 ③「（弱肉強食論）には大きな疑問が横たわっています。」とは、どのようなことか、読み取る。 ④「食う者・食われる者の関係は力の強さとは別の話」（104・7）と筆者が述べる理由を読み取る。	◎	○	○
			複数の「わたし」	P114～P121	【学習目標】筆者の提示している問いや根拠に注意して読み、文章の論理展開を的確に捉える。 ①「統一的な強さの尺度」とは、どのようなことか読み取る。 ②ハフェーカーの実験の目的は何かを読み取る。 ③「生態学における強さの概念」（111・2）とは何かを読み取る。 ④「弱い者の肉が強い者の食料となることだけを想定する弱肉強食は、自然の摂理ではない」とあるが、なぜそうにいえるのか読み取る。 ⑤ハフェーカーの実験結果のグラフから、どのようなことが読み取れるか、話し合う。	○	○	◎
11		7月	はじめに「言葉」がある	P124～P131	【学習目標】文章に示された考え方が手がかりに、「わたし」の捉え方について理解を深める。 ①「私たちは、常に複数の役割を持って生きています。」とは、どのようなことか読み取る。 ②「誰とも関係を持たない『わたし』が、本当の『わたし』といえるのか」（115・10）という筆者の問いに対して、ここまで読み取ったことを踏まえて自分の考えをまとめる。 ③「近代の個人主義的な人間観」とは、どのようなものか、読み取る。 ④「小説家の平野啓一郎」（116・3）と「英語の『個人individual』」（116・7）の例によって示される「分人」（116・5）の概念について理解する。 ⑤「ハーゲンの人々の人格」とは、どのようなものか読み取る。	◎	○	○
					楽に働くこと、楽しく働くこと	P132～P137	【学習目標】文章に示された考え方が手がかりに、「わたし」の捉え方について理解を深める。 ①「ブタを飼育した女性の労働に目を向けてこなかった」という批判に対して、ストラザーンはどのように反論しているか、根拠の接続表現を用いてまとめる。（論理の力） ②「別の『わたし』」が「他者によって引き出される」とは、どのようなことか、読み取る。 ③「そう捉えたと、少し気が楽になりませんか。」とあるが、筆者がそのように言うのはなぜか読み取り、まとめる。	◎
12	6	7月	楽に働くこと、楽しく働くこと	P132～P137	【学習目標】楽しく働くとはどういうことかについての筆者の考え方を理解する。 ①本文に述べられている「楽に働くこと」と「楽しく働くこと」の違いに注目しながら、本文を通読する。 ②本文について、「情報の問い」「意味の問い」「論証の問い」を意識しながら質問を考える。	◎	○	○
					楽に働くこと、楽しく働くこと	P132～P137	【学習目標】楽しく働くとはどういうことかについての筆者の考え方を理解する。 ①「工場のもつくり」がどのようなものか理解し、近代工場での労働の「楽さ」と「楽しさ」についてまとめる。 ②内山節と白鷹幸伯の著作について書かれた内容を整理し、著者がこの二冊を編める理由を理解する。 ③本文を読んで、「働くよろこび」について考えたことを話し合う。（言語活動）	○
13	-	-	情景の中の労働 鉄、千年のいのち	P138～142	【学習目標】文章に取り上げられた事例をもとに、働くことについて理解を深める。 ①筆者の言う「『仕事』の世界が作りだした景色の美しさ」（140下・3）を理解する。（情景の中の労働） ②筆者の言う鍛冶屋の楽しみを理解し、和釘づくりが「歴史への参加」（142上・16）だという考え方を理解する。（鉄、千年のいのち） ③本文を読んで、「仕事」についての自分の考えを文章にまとめる。	○	◎	○
14	-	-	【論理の力】論理とは何か／つなげる力	P146～P153	【学習目標】書かれている内容を理解し、「論理的」とはということかを学ぶ。 ①「接続関係」について学び、文章を論理的に理解する力を養う。 ②狭い意味での論理について、【例1】から「演繹」という推論の仕方を理解する。 ③広い意味での論理について、【問1】の文章から考え、「論理的」であることの意味を解説とともに確認する。	◎	○	○
	-	-	【論理の力】論証する力	P154～P157	【学習目標】論証の適切さを判断する方法を学び、説得力のある論証や反論を行う力を養う。 ①「事実」と「考え」の区分、「推測」と「意見」の違いを理解する。 ②「憶測」と「独断」、「論証」の違いを捉え、「論証」において根拠を示す重要性を理解する。 ③論証の説得力を検討し、反論する方法について理解を深める。	◎	○	○
15	-	-	【論理の力】要約する力	P158～161	【学習目標】「幹」「枝葉」「根」という文章の構造を理解し、適切に要約する力を養う。 ①文章の「幹」（中心的主張）と、「枝葉」（読ませる工夫・分かりやすくする工夫・根拠を示す「太い枝」）という文章の構造を理解する。 ②文章を「根」（問い）と答えの構造を持つものと捉えることを理解する。 ③【問7】の要約作業を通して、文章構造への理解を深める。 ④「要約するための五つのステップ」を読み、長文を要約する手順とポイントの理解を深める。	○	◎	○
	-	-	【論理の力】質問する力	P162～P166	【学習目標】質問の意義や種類を学び、よい質問をする力を養う。 ①質問力を鍛える重要性和効能を、「読む力・聞く力」「書く力・話す力」「議論する力」の三つのポイントとのつながりから理解する。 ②「情報の問い」「意味の問い」「論証の問い」という三種類の質問を理解し、物事に対する姿勢や心がけとの関連性を捉える。また、【問8】の発言に対して、観点を変えた質問を考え、その解説から質問の三つの種類についての理解を深める。 ③質問のよし悪しについて、【問9】の文章から考え、論理的な文章における鋭い質問とは何かについて理解を深める。	○	◎	○

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	7	10月	最初のペンギン	P168～P175	【学習目標】 タイトルに象徴される筆者の考えを手がかりにして、自分の生き方について考える。 ①「神ならぬ」(168・1)や「有限の立場」(168・4)などの語句、および「神」と「人間」の対立図式を確認し、第一段の内容を整理する。 ②生きるために、不確実性のもとで決断し、海の中に真っ先に飛び込む「最初のペンギン」(170・15)の行動の意味を確認し、第二段の内容を整理する。 ③「譲歩」を用いて論じている部分を指摘し、その効果を考える。	◎	○	○
17			【学習目標】 タイトルに象徴される筆者の考えを手がかりにして、自分の生き方について考える。 ①「感情」「決断」「直観」等の意味を確認しながら第二段の内容を整理し、不確実性の中での決断の必要性和、感情の技術を磨く必要性を理解する。 ②「未来感覚」(174・13)などの語句を手がかりとして、創造することは未知の世界にジャンプすることだという筆者の主張を捉え、第四段および文章全体の内容を整理する。 ③「不確実な状況下」でどう決断して行動するかの意味について考える。	○	○	◎		
18	8	10月	豊かさや生物多様性	P176～P183	【学習目標】 論の展開に注意して読み、生物多様性の重要性と課題について理解を深める。 ①多様な生物によって作られている生態系を大切にすることをまとめる。 ②生物多様性保全の課題として挙げられている「南北問題」の内容を読み取りまとめる。 ③生物多様性についての「質と量」の問題と、それに対する筆者の考えについて読み取り、まとめる。 ④生物多様性を大切にすることで必要な発想について、具体的に読み取りまとめる。	◎	○	○
19			【学習目標】 論の展開に注意して読み、生物多様性の重要性と課題について理解を深める。 ①筆者の考える、生物多様性を大切にするために必要なことをまとめる。 ②生物多様性を大切にするために必要なことについて考えたことを話し合う。 ③「『真の価値』を求めて」を通過し、「豊かさや生物多様性」の筆者が何に価値を見いだしているのか、本文から読み取りまとめる。(考える楽しみ◎……「『真の価値』を求めて」) ④現代という時代に、何に価値があると思うか、考えたことについてまとめる。	○	◎	○		
20	9	11月	物語の外から	P186～P192	【学習目標】 二人の語り部に共通する姿から、「語る」ということの本質について考えを深める。 ①二人の「語り」の場面で筆者が感じたことに注意しながら、本文を通過する。 ②第一段の語り部の男性と、第二段の語り部の女性の行動や様子をまとめ、「語り」について理解する。 ③筆者の考える、語り部の男性が「一言も出せなくなり、ただ狼狽して、黙り込んでしまった」理由を読み取り、まとめる。	◎	○	○
21			【学習目標】 二人の語り部に共通する姿から、「語る」ということの本質について考えを深める。 ①「物語」と「自己」との関係を理解する。 ②「自己」というものはさまざまな物語の寄せ集めである。」について理解する。	○	◎	○		
22	10	11月	カフェの開店準備	P193～P199	【学習目標】 日々の何気ない光景から広がっていく筆者の思考を手がかりにして、自分の日常を見つめ直す。 ①本文を通過して話の進め方について気づいたことを発表する。 ②「行為の習慣化」について、筆者の考えをもとにして考える。 ③第一・二段に書かれている「喫茶店の開店準備」を巡っての筆者の考えを理解する。 ④「現在」「過去」「未来」も含め」というものについての筆者の考えを理解し、そのことについて話し合う。	◎	○	○
23			【学習目標】 日々の何気ない光景から広がっていく筆者の思考を手がかりにして、自分の日常を見つめ直す。 ①楽器の演奏に関する考察について理解する。 ②「痕跡の残らない行為」に対する筆者の考えを理解し、そのことについてどう思うかを話し合う。 ③日常生活の在り方について考え、四五百程度の文章にまとめ、話し合う。(言語活動) ④「紛らわしい漢字」を通過し、識別の方法を理解した後、間違えやすい熟語や同音異義語の例についても併せて確認する。(言葉の扉◎……紛らわしい漢字)	○	○	◎		
24	11	12月	鏡としてのアンドロイド	P210～P218	【学習目標】 アンドロイドの研究を踏まえた評論を読んで、人間に対する筆者の考えを捉える。 ①「技術開発」にもたらす「新たな意味」とは何かを読み取る。 ②「それが自分の脳であることは論理的には理解できる」とは、どのようなことか読み取る。 ③「他人は自分を映し出す鏡のようなものだ」とは、どのようなことか読み取る。 ④「私の研究は自虐的かもしれない。」とあるが、どのような点が「自虐的」だなのか、読み取る。 ⑤「乏しい表情」と「止まったアンドロイドのような完全な無表情」とは、どのように違うのかの違いをまとめる。	◎	○	○
25			【学習目標】 アンドロイドの研究を踏まえた評論を読んで、人間に対する筆者の考えを捉える。 ①「心は自分と他人を取り巻くさまざまな状況の中に分散している」とは、どのようなことか読み取る。 ②「人間についての根本的な疑問」と「創造的な活動」との関係を読み取る。 ③「何かを作り出す」ことについての筆者の考えを読み取る。 ④筆者の考えを参考にしながら、「何かを作る」とは、どのようなことであると考えられるか、話し合う。(言語活動)	○	◎	○		
26	12	1月	ロボットが隣人になるとき	P219～P227	【学習目標】 哲学的な思考に沿って書かれた評論を読んで、人間の意志や自由について理解を深める。 ①「意志」「自由」という言葉の意味に注意しながら本文を通過する。 ②「この問いは、単純な技術の問題ではない。」とあるが、なぜそういえるのかを読み取る。 ③「近年のAIの発展はこのイメージを崩しつつある。」とは、どのようなことかを読み取る。 ④「『意志』と『欲求』を比較してみよう。」とあるが、意志と欲求はどのように異なるのかを読み取り、まとめる。	◎	○	○
27			【学習目標】 哲学的な思考に沿って書かれた評論を読んで、人間の意志や自由について理解を深める。 ①「『意志』というのは約束に似ている」(223・3)と筆者が考えるのはなぜかを読み取る。 ②「ロボットは社会的な存在になれるだろうか。」(223・9)という問いに対する筆者の考えを読み取る。 ③「対等の隣人」とあるが、どのような点で対等なのか筆者の考えを読み取る。 ④「そうはならないだろう。」とあるが、ここで述べられているようなロボットが「自分の意志で自由に行動する」といえないのはなぜかを読み取り、まとめる。 ⑤筆者が考えるような「自分の意志で自由に行動するロボット」が生まれることは望ましいと考えるかどうか、話し合う。(言語活動)	○	◎	○		
28	1	2月	言葉は「ものの名前」ではない	P232～P239	【学習目標】 言語と認識の関係について、具体例をもとに主張している評論を読み、言葉の働きについて考える。 ①言葉と「もの」の関係に注意しながら、本文を通過する。 ②第一段を読んで、「ギリシャ以来の伝統的な言語観」がどのようなものなのかを理解する。 ③ソシュールの言語観をまとめる。 ④本文中で筆者は言語についてのどのような考えに反対しているのかを読み取り、まとめる。(論理の力)	◎	○	○
29			【学習目標】 言語と認識の関係について、具体例をもとに主張している評論を読み、言葉の働きについて考える。 ①第二段第一節を読んで、「羊」や「devilish『悪魔の魚』」の例をもとに、「ギリシャ以来の伝統的な言語観」の問題点を理解する。 ②第二段第二節を読んで、具体例をもとに、言葉の「意味の幅」がどのように決まるのかを確認し、「もの」と言葉の関係を理解する。 ③日本語と英語の場合について、筆者の考えを表す具体例を本文以外の例で考え、話し合う。(言語活動)	○	◎	○		
30	2	3月	科学的「発見」とは	P240～P248	【学習目標】 本文中の二つの課題を追究して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。 ①「図1」と「図3」が何に見えるかを考えながら本文を通過する。 ②「事実を観察する」ということは、それほど単純ではない。」という筆者の考えを理解する。 ③第一段の「事実を観察する」ということは、それほど単純ではない。」という考えの根拠を、第二段から理解する。	◎	○	○
31			【学習目標】 本文中の二つの課題を追究して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。 ①第三段から、「信じられないという表情から驚きの表情に変わっていく」理由を理解する。 ②「『見る』ことは解釈することだ。』」の意味するところを理解する。	○	◎	○		
32	3	4月	知識における作者性と構造的性	P262～P270	【学習目標】 インターネットと本を比較しながら書かれた評論を読み、情報と知識について理解を深める。 ①「『情報』と『知識』の決定的な違い」について、筆者はどのように述べているかを読み取る。 ②「リングが突っ迫している木の幹を見定めたり、そこから出ているいくつもの枝の関係を極めたりすることができなくなってしまう」とは、どのようなことか理解する。 ③「自力で自分がどんな森を歩いているのかを知る能力」(266・10)とはどのような能力か、比喩が表しているものを理解し、読み取る。 ④「ネット情報」と「図書館に収蔵されている本」について、筆者の言う「作者性」(263・4)における違いをまとめる。	◎	○	○
33			【学習目標】 インターネットと本を比較しながら書かれた評論を読み、情報と知識について理解を深める。 ①「論理的創造的展開」とは、どのようなことか、読み取る。 ②「ネット検索」が「読書」より優れている点として筆者が挙げているものは何か、指摘する。 ③「本」を読むことは、どのような点で「ネット検索」より優れていると筆者は考えているかを読み取りまとめる。 ④インターネット上の情報を、他の情報や知識との関係性の中で捉え直すためにはどうすればよいのか、具体的な方法を話し合う。(言語活動)	○	◎	○		

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
25	11	12月	もう一つの知性	P271～P279	【学習目標】科学的思考とは異なる思考の在り方を理解し、現代社会を生きるうえで必要な態度について考える。 ①「血肉になっているような情報」（272・14）「服のポケットにたくさんの紙片を詰め込んでいるような知性」（272・15）などの比喩表現を理解する。 ②「情報化社会」とはどのような社会を言うのか。また、情報化社会で重要なことは何か、意見を述べ合う。 ③第一段の後半部分を音読し、例として挙げられている事項・用語を「情報通」と「知性」の二つのグループに分類する。 ④「この小学生がお父さんより知的な人間とはいえない」といえる根拠として、本文で述べられていることをまとめる。 【学習目標】科学的思考とは異なる思考の在り方を理解、現代社会を生きるうえで必要な態度について考える。 ①アメリカの先住民や医療現場の話を通して、科学技術の発達とともに知性がどう変化したか、またトルストイの人生論の話は、どのようなことを説明する目的で紹介されているのかを考えてまとめる。 ②第三段を読み、冒頭の一文の役割を確認するとともに、276ページ1行目までを読み「ブリコラージュ」的な知とはどのような知の在り方なのかを読み取る。 ③後半部分を読み、本教材における筆者の主張を理解する。 ④第二段を読み、冒頭部分を中心に、筆者が考える本来の「知性」の在り方をまとめる。 ⑤筆者の提案する「ブリコラージュ」的な知の可能性を、自分たちの生活にどう生かせるか話し合う。（言語活動）	◎	○	○
26	12	12月	ホンモノのおカネの作り方	P282～P290	【学習目標】二つの例の対比に注意して論旨をたどり、貨幣の持つ不思議さについて理解を深める。 ①第一段の内容を確認し、文章全体との関係や構成の型、その効果について理解する。 ②第二段の内容を把握し、佐土原章の偽造法の説明が持つ意味を確認し、ニセガネの本質を叙述に即して理解する。 ③預かり手形の仕組みと便利さを確認し、「ホンモノの代わり」がホンモノに代わる過程を理解する。 ④語義の確認を含めてここで言う「逆説」（286・8）の内容とそれが発生する理由を理解する。 ⑤貨幣の本質、電子マネーの仕組み、円安・円高など、経済や貨幣に関する話題を適宜取り上げ、互いの知識や考えを発表し合う。 【学習目標】二つの例の対比に注意して論旨をたどり、貨幣の持つ不思議さについて理解を深める。 ①「金銀」「金銀の塊」「金貨銀貨」「銀行券」などの語句に注意しながら、整理する。 ②「ホンモノのおカネ」を作るのに必要な条件を確認する。 ③「その時々のホンモノ」（287・8）「ホンモノの形而上学」（287・15）などの語句に注意して、筆者の結論の妥当性を確認し、更にその結論を通して、筆者は何を言おうとしているのかを考える。 ④経済の仕組みについて他教科で学習したことを整理してまとめ、本文の内容との関連について話し合う。（言語活動）	◎	○	○
27			未来のありか	P291～301	【学習目標】小見出しを参考にして各部分の内容と関係を読み取り、未来とは何かについて考える。 ①「未来の事物」「未来の時間」について考えたことを、具体的に挙げる。 ②未来の事物の予期や予想や想像が個々の意識の中に生まれ、社会生活の中で共有されていく過程について読み取り、まとめる。 ③「未来らしさを支えるもの」について、論の展開と構成を踏まえて、箇条書きでまとめる。 【学習目標】小見出しを参考にして各部分の内容と関係を読み取り、未来とは何かについて考える。 ①「未来」が事前に想像されるものであることを、万国博覧会の例をもとに読み取る。 ②「未来のありか」についての筆者の考えを、私たちの生き方と関連づけてまとめる。 ③本文の内容を踏まえて「未来」について考えたことを話し合う。 ④要約するための五つのステップを意識して、本文の内容を二百字程度で要約する。（論理の力）	◎	○	○
28	-	-	書く 短い論文を書いて読み合おう	P203～P208	【学習目標】文章を読んで問いを持ち、自分の意見を短い論文にまとめる。 ①「学習の流れ」を読み、活動のポイントの見通しを持つ。 ②資料を読んで自分の考えを短い論文にまとめ、読み合った例を参考に、学習の進め方を理解する。 ③「課題」（P208）の中から話題の一つを選び、実際にその話題に関する論説文や関連資料を収集する。 ④収集した資料を読み、自分の問題意識に根拠しているかなど、論じる視点を考えて、適切な資料を選び情報収集をする。	○	○	◎
	-	-			【学習目標】文章を読んで問いを持ち、自分の意見を短い論文にまとめる。 ①資料に基づいてまとめた意見をもとに、「活動のポイント」2も参考にして、論文の構成や展開を考え、構成メモを作る。 ②構成メモをもとに、八百字程度の短い論文を書く。 ③文章の構成や論理の展開、表現において、自分の意見が的確に伝わるかなどの視点から、書いた文章を読み返し、推敲し発表の準備をする。	○	○	◎
	-	-			【学習目標】文章を読んで問いを持ち、自分の意見を短い論文にまとめる。 ①グループに分かれ、書いた論文を発表し合う。聞き手はチェックシート（P208）などを用いて、論文に対する意見を記す。 ②それぞれが書いた論文に対する意見を交換する。 ③交換した意見や、チェックシートの内容を踏まえ、自分の論文を読み返し、課題を捉え直したうえで、論文を書き直し、よりよいものに仕上げる。 ④「振り返りのポイント」の各項目について振り返り、課題について各項目が達成できているかを確認する。	○	○	◎
29	-	-	書く 図表の読み取り方	P249～P252	【学習目標】図表の読み方を理解し、情報を適切に読み取れるようにする。 ①「図表の読み取り方」の①②を読み、現象を把握する具体的方法を理解する。 ②「図表の読み取り方」の③を読み、複数の図表を関連づけて分析する具体的方法を理解する。	○	○	◎
30	-	-	書く 資料を活用して論述しよう	P253～P260	【学習目標】資料を集めて論題を設定し、意見を整理して論述する。 ①「活動のポイント」1を読み、論題設定の方法を理解する。 ②「課題」（P260）を踏まえ、「SDGs」の17項目（P254・255）と身近な話題や具体例、自分の興味・関心に関連させ、開発目標から各自が一つを選んでテーマを決定する。 ③テーマに沿った資料を収集し、観点を決めて整理する。「情報整理のポイント」（P47）や「論点整理表」（P53）を活用して資料を視覚化したり、思考ツール・発想の方法（P310・311）を使ったりして考察を行う。 ④資料の考察から「問い」のかたちで論題の候補を箇条書きにする。その中から自分の意見をまとめられそうなものを焦点化していく。 【学習目標】資料を集めて論題を設定し、意見を整理して論述する。 ①資料を集めて論題を設定し、意見を整理して論述する。 ②四～六人のグループに分かれて、各自の考察や論題を持ち寄り、意見交換を行い論題の再検討を行う。資料の偏りや不足に気づいた場合は、随時資料収集を行い、再度考察を行う。	○	○	◎
	-	-			【学習目標】資料を集めて論題を設定し、意見を整理して論述する。 ①資料を集めて論題を設定し、意見を整理して論述する。 ②四～六人のグループに分かれて、各自の考察や論題を持ち寄り、意見交換を行い論題の再検討を行う。資料の偏りや不足に気づいた場合は、随時資料収集を行い、再度考察を行う。	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	文学国語	スクーリング回数	4	レポート回数	12	単位数	4
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	「現代の国語」及び「言語文化」により育成された資質・能力を基盤とし、主として「思考力、判断力、表現力等」の感性・情緒の側面の力を伸ばす科目として、深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする資質・能力を養う。						
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。						
	1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。						
	2 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
	3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「文学国語」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	-	-	オリエンテーション（学習の進め方）	-	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方或使用ツールを確認する。	-	-	-
2	1	5月	光の窓	P8-14	【学習目標】 筆者のものの見方や感じ方を読み取り、言葉と感覚との関係について考える。 ・「光の窓」というタイトルが持つ意味を考える。 ・大人になって実物の絵を見たとき、印象が変わった理由を本文から読み取り、考える。	○	◎	○
3			雨月物語	P15-18	【学習目標】 筆者のものの見方や感じ方を読み取り、言葉と感覚との関係について考える。 ・筆者の絵の見方について、幼年期と大人になってからでは、どのように変わったかを読み取り、理解する。 ・自分の好きな絵を選び、その絵の魅力を自分自身の感覚と関連付けながら他者に向けて発表する。	○	○	◎
4	2	5月	窓	P34-38	【学習目標】 筆者の考え方の変化を捉え、「雨月物語」が筆者にどのような影響を与えたのかを考える。 ・『怪談』や『雨月物語』がどのような作品か確認し、筆者がなぜ好んで読んでいたか理由を考え、理解する。	◎	○	○
5			言葉を生きる	P44-49	【学習目標】 筆者の考え方の変化を捉え、「雨月物語」が筆者にどのような影響を与えたのかを考える。 ・筆者がどのようなことを「これ以上ない希望だった」と述べているか、読み取る。	◎	○	○
6			意	P34-38	【学習目標】 場面や登場人物の設定における特徴を捉え、作中の「短編小説」が象徴するものについて考える。 ・「短編小説」の語り内容と「僕」との関係を考え、読み取る。 ・「ね、人は誰でもページ数を超えようのない、一編の小説なんですよ。」とはどのようなことを表しているか読み取る。	○	◎	○
7			意	P34-38	【学習目標】 場面や登場人物の設定における特徴を捉え、作中の「短編小説」が象徴するものについて考える。 ・窓から外の風景を見ている「僕」の心情を読み取る。	○	◎	○
8			言葉を生きる	P44-49	【学習目標】 場面や登場人物の設定における特徴を捉え、作中の「短編小説」が象徴するものについて考える。 ・自分自身の記憶の風景を思い出し、文章を書く。	○	○	◎
9			言葉を生きる	P44-49	【学習目標】 筆者の考えを表現に即して読み取り、「生きていること」と「言葉」の関係について理解を深める。 ・「悲しみ」に向き合うことについて、筆者はどのように捉えているかを読み取る。 ・悲しむことへの「励まし」を筆者はどのように考えているかを読み取る。	○	◎	○
10			言葉を生きる	P44-49	【学習目標】 筆者の考えを表現に即して読み取り、「生きていること」と「言葉」の関係について理解を深める。 ・「悲しみの経験」について筆者の捉え方を理解し、グループで話し合う。	○	○	◎
11	3	6月	山椒魚	P58-70	【学習目標】 登場人物の心情を理解しつづ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について考える。 ・作者について知っている知識を出し合い、必要に応じてさらに調べ、確認する。 ・山椒魚の状況や岩屋の内外の動植物の様子についてまとめ、それぞれに対する山椒魚の気持ちを整理する。	○	◎	○
12			山椒魚	P58-70	【学習目標】 登場人物の心情を理解しつづ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について考える。 ・この作品に込められた寓意について考え、理解する。	○	◎	○
13			沖繩の手記から	P71-91	【学習目標】 戦争の中に生きる登場人物の生き方や考え方を捉え、人間の生と死について考えを深める。 ・本文を通読し、あらすじを整理するとともに、語句の意味、漢字の読みを確認する。 ・太平洋戦争、殊に沖縄戦に関する知識を出し合い、必要に応じてさらに調べ、確認する。	◎	○	○
14			沖繩の手記から	P71-91	【学習目標】 戦争の中に生きる登場人物の生き方や考え方を捉え、人間の生と死について考えを深める。 ・感想共有をし、議論を深める。 ・主題について話し合いを行い、考えを深める。	○	○	◎
15	4	6月	永訣の朝	P98-103	【学習目標】 表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈する。 ・作者について知っている知識を出し合い、必要に応じてさらに調べ、確認する。 ・表現やリズムに留意して、情景や心情を味わいながら音読する。	◎	○	○
16			永訣の朝	P98-103	【学習目標】 表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈する。 ・作者の心境の変化や、時間の移り変わりを考えながら全体を四つに分ける。 ・作者独特の表現がされた部分を抜き出し、表現の背景にあるものについて考える。 ・妹が置かれた状態を表す比喩などから、作者がどんな変化を体験しているのかを考え、作者の目標としたものをまとめる。	○	◎	○
17			「硝子の駒」	P104-107	【学習目標】 短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉に込められた情景や心情を読み取る。 ・レポートに課題されている短歌を一言ずつ、それぞれの歌の表現に着目し、リズムを味わいながら音読する。 ・それぞれの歌について、どのような情景や心情を読み取ったか各自でまとめ、グループで話し合う。	○	○	◎
18			モードの変遷	P108-113	【学習目標】 具体例として挙げられた短歌の表現の特質を理解し、時代の変化との関わりを考える。 ・本文中に取り上げられている短歌とそれらが採られた「時代性」の関係に注意しながら本文を通読する。 ・筆者が、近代以降に関して、短歌のモードはどのような変化をしてきたと捉えているかを読み取る。	○	◎	○
19	5	7月	こころ	P116-148	【学習目標】 人物の関係性と心情を的確に捉え、人の心のありようについて考えを深める。 ・作者について知っている知識を出し合い、必要に応じてさらに調べ、確認する。 ・「こころ」についての概説と、本教材に至るあらすじを読み、登場人物の関係を理解する。 ・本文を通読し、登場人物の言動（「私」から見たKの性格、「私」の性格など）を挙げる。 ・本文を話の展開にしたがって、五つの意味段落に分け、それぞれの内容を大まかに把握することを目標に、簡潔に要約する。 ・Kの「覚悟」を「私」はどう解釈したのか「私」が「最後の決断」に至る経緯について考える。 ・場所・時などの変化に注意して事の経緯をまとめ、「私」とKの性格や生き方の違いについて考える。 ・この小説の主題（例えばエゴイズムなど）について、考えたことを話し合う。	◎	○	○
20			こころ	P116-148	【学習目標】 人物の関係性と心情を的確に捉え、人の心のありようについて考えを深める。 ・作者について知っている知識を出し合い、必要に応じてさらに調べ、確認する。 ・「こころ」についての概説と、本教材に至るあらすじを読み、登場人物の関係を理解する。 ・本文を通読し、登場人物の言動（「私」から見たKの性格、「私」の性格など）を挙げる。 ・本文を話の展開にしたがって、五つの意味段落に分け、それぞれの内容を大まかに把握することを目標に、簡潔に要約する。 ・Kの「覚悟」を「私」はどう解釈したのか「私」が「最後の決断」に至る経緯について考える。 ・場所・時などの変化に注意して事の経緯をまとめ、「私」とKの性格や生き方の違いについて考える。 ・この小説の主題（例えばエゴイズムなど）について、考えたことを話し合う。	○	◎	○
21			こころ	P116-148	【学習目標】 人物の関係性と心情を的確に捉え、人の心のありようについて考えを深める。 ・作者について知っている知識を出し合い、必要に応じてさらに調べ、確認する。 ・「こころ」についての概説と、本教材に至るあらすじを読み、登場人物の関係を理解する。 ・本文を通読し、登場人物の言動（「私」から見たKの性格、「私」の性格など）を挙げる。 ・本文を話の展開にしたがって、五つの意味段落に分け、それぞれの内容を大まかに把握することを目標に、簡潔に要約する。 ・Kの「覚悟」を「私」はどう解釈したのか「私」が「最後の決断」に至る経緯について考える。 ・場所・時などの変化に注意して事の経緯をまとめ、「私」とKの性格や生き方の違いについて考える。 ・この小説の主題（例えばエゴイズムなど）について、考えたことを話し合う。	○	○	◎
22	6	7月	文学のふるさと	P150-160	【学習目標】 具体例と筆者の主張との関係に注意して評論を読み、文学のよりどころについて理解を深める。 ・具体例の三作品とそこから導かれている筆者の考えに注意しながら本文を通読する。 ・具体例の三作品（赤頭巾、狂言、伊勢物語）とそこから導かれている筆者の考えを読み取る。	◎	○	○
23			文学の未来	P161-170	【学習目標】 本文中における引用の役割を押さえて筆者の主要を理解し、文学の意義について理解を深める。 ・四つの意味段落で述べられている筆者の考えを、事柄の関係性に注意しながら押さえて、本文を通読する。 ・文学作品と読者の豊かな関係性についての筆者の考えを読み取る。 ・筆者の考える、文学作品を読むことについての意義についてまとめる。	◎	○	○

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
13	6	7月	袍	P172－179	【学習目標】 寓意に注意しながら、小説を読み、「現代」という時代について考えを深める。 ・話の展開と誰のせりふかに注意しながら、本文を通読する。 ・教科書の作者紹介などを参考に、作者について確認する。必要に応じてさらに調べ、確認する。	㊦	○	○
14	－	－	【言語活動】 共同で詩を創作する	P114	【学習目標】 寓意に注意しながら、小説を読み、「現代」という時代について考えを深める。 ・この小説の舞台設定を確認し、青年の行動に対する「私」の印象を読み取る。 ・袍の象徴するものを手がかりに、作品の主題について考える。	○	㊦	○
	－	－			○	㊦	○	
15	－	－			【学習目標】 共同で詩を創作して意見を交換し、詩に対する自らの価値観を捉え直す。 ・本文を読み、活動の進め方を確認し、グループで詩を創作する。 ・新たに出来た詩を発表する。 ・他のグループの詩について、よいところや工夫されているところを伝え合う。 ・作り手として楽しかった点や苦労した点について感想を伝え合う。	○	㊦	○
	－	－			○	㊦	○	
16	7	10月	国語から旅立って	P190－198	【学習目標】 筆者の多言語体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係について考えを深める。 ・筆者の幼い頃から現在までの日本語との関わり注意到意しながら、本文を通読する。 ・筆者が、平仮名を覚えたときのことをどのように捉えているかを読み取る。	○	㊦	○
17			檸檬	P206－216	【学習目標】 筆者の多言語体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係について考えを深める。 ・筆者が「国語から旅立って」というタイトルを付けた理由を考えまとめる。 ・筆者の主張を踏まえ、言葉と自分との関係について、自分自身を振り返りながら考えをまとめる。	○	○	㊦
18	8	10月	コンビニの母	P217－222	【学習目標】 登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「檸檬」の持つ意味について考える。 ・作者の経歴やその他の作品について概略を知る。 ・本文を通読し、「えたいの知れない不吉な魂」によってもたらされた「私」の心理状態を捉える。	㊦	○	○
					【学習目標】 登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「檸檬」の持つ意味について考える。 ・檸檬を買ってからの「私」の心情を理解する。 ・作中の檸檬の役割（の変化）を捉える。	○	㊦	○
19	8	10月	小諸なる古城のほとり	P230－231	【学習目標】 登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、現代社会における人間関係について考える。 ・和也の言動と心情に注意しながら、本文を通読する。 ・福平さんが、和也の考えるコンビニ店員と違ったところはどこかを読み取る。 ・福平さんと和也が最初に接したとき、福平さんがどのような態度をしていて、和也はそれについてどう感じたかを読み取る。	○	㊦	○
					【学習目標】 登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、現代社会における人間関係について考える。 ・筆者が「コンビニの母」というタイトルを付けた理由を考え、まとめる。 ・年齢や立場の違うさまざまな状況にある人々を想定し、「福平さん」の接客態度をそれぞれがどのように受け止めるか考えをまとめ、グループで話し合う。	○	○	㊦
20	9	11月	空っぽの瓶	P248－254	【学習目標】 文語の響きや五七調のリズムに親しみ、詩に描かれた情景や心情を読み取る。 ・文語の響きや五七調のリズムに注意しながら音読し、この詩の形式や表現の特徴をまとめる。 ・作者の経歴と、この詩が発せられた時代を確認する。 ・この詩の各連に描かれている情景を読み取り、どのような情景かを思い浮かべる。	㊦	○	○
					【学習目標】 文語の響きや五七調のリズムに親しみ、詩に描かれた情景や心情を読み取る。 ・第一連の「雲白く遊子悲しむ」とは、どのようなことを述べていて、そこには作者のどのような心情が込められているか考える。 ・第三連の「草枕しばし慰む」とは、どのようなことを述べていて、そこには作者のどのような心情が込められているか考える。 ・この詩において、用いられている否定表現を全て指摘し、否定表現を使うことでどのような表現効果が生み出されているかについて考えをまとめる。	○	㊦	○
21		11月	クレールという女	P255－264	【学習目標】 人称を巡る筆者の体験や考えを読み取り、言葉と存在の関わりについて考える。 ・日本語の一人称、二人称、三人称をできるだけ挙げ、英語の人称もできるだけ挙げ、言語によって特徴があることを理解する。 ・一人称についての筆者の考えに注目しながら、本文を通読する。 ・筆者が子供の頃、日本語の人称を使わないようにしていた理由を読み取る。	㊦	○	○
					【学習目標】 人称を巡る筆者の体験や考えを読み取り、言葉と存在の関わりについて考える。 ・「ばく」と「おれ」についての筆者の考えを読み取る。 ・「わたしは東京であり、ボトルは空っぽなのだ。」という表現で、筆者は何をたとえているか、また、筆者がそう感じるのとはなぜかを読み取り、まとめる。 ・人称について筆者の考えをもとに、言葉と存在の関わりについて、自分の考えをまとめる。	○	㊦	○
22	10	11月	舞姫	P292－327	【学習目標】 長い時間をかけて深まっていた筆者の読書体験を読み取り、人間の生き方について考える。 ・過去に読んだ書物で現在も印象に残っているものを挙げ、その理由を考える。 ・本文を通読し、『人間のしるし』のあらすじと登場人物の関係をまとめる。	○	㊦	○
23					【学習目標】 長い時間をかけて深まっていた筆者の読書体験を読み取り、人間の生き方について考える。 ・『『人間のしるし』の登場人物のそれぞれの生き方・考え方とその変化をまとめる。 ・筆者の『人間のしるし』についての考えから、人間の生き方について自分の考えをまとめる。	○	○	㊦
24	11	12月	演技する「私」	P330－334	【学習目標】 構成や時代背景に注意しながら主人公の葛藤を読み取り、人生の選択について考える。 ・作者や作品が発表された時代について確認する。 ・場面に沿って出来事を確認しながら本文を通読する。 ・小説の中心となるのが豊太郎の情であることを確認した上でそれぞれの主な出来事や作品の概要を大まかにつかむ。 ・豊太郎が、欧米の先進国から学ぶため、東洋の発展途上国であった日本より派遣された国費留学の官員であるという点から、作品全体を確認する。 ・太田豊太郎の考え方や行動について、どのように考えるか、時代背景なども踏まえて話し合う。	㊦	○	○
					25	【学習目標】 筆者の主張の展開を押さえ、小説における作者と小説内の「私」との関係について考えを深める。 ・取り上げられている作品や作者の例から筆者が導いていることに注意しながら、本文を通読する。 ・取り上げられている作品と作者について、確認する。 ・筆者は、小説表現の面白さをより深く味わうために、どうすることを提案しているか読み取る。 ・「小説」と「事実」の関係について、筆者はどのように捉え、小説とはどのようなものだと言っているか読み取る。 ・本文の内容を踏まえて、これまでに読んだ「語り手が『私』で作者その人を連想させる」小説について、改めて「『私』と「作者その人」」の関係を考え、文章にまとめる。	○	㊦
26	12	12月	葉桜と魔笛	P348－P361	【学習目標】 物語の展開を把握しつつ、そこに浮かび上がる人間の心の奥深さを味わう。 ・太宰治の作品で既読のものがあれば発表するとともに、作者紹介欄を読み、作者とこの作品について確認する。 ・全文を通読し、三つの段に分けられる構成の大枠を把握する。 ・登場人物を確認し、まとめる。	㊦	○	○
			【学習目標】 物語の展開を把握しつつ、そこに浮かび上がる人間の心の奥深さを味わう。 ・第一段により作品の全体の語りの場が設定されていることを意識するとともに、第二段における＜回想＞部分の前提となる「時」「場所」「人」の状況がどのようなものであるかを確認する。 ・第二段を読んで七つの顔に付けたうえで、回想される出来事の時間的経過に注意しながら内容を整理する。	○	㊦	○		
27		12月	蠅	P362－371	【学習目標】 物語の展開を把握しつつ、そこに浮かび上がる人間の心の奥深さを味わう。 ・登場人物である「私」、妹、父の三者が、「魔笛」「葉桜と魔笛」という題名について検討し、感じたことを話し合う。	○	○	㊦
					【学習目標】 視点の移動に注意しながら、描かれた場面や状況を読み取り、作品の主題について考える。 ・表現の特徴に気を付けながら、本文を通読する。 ・登場人物のそれぞれの境遇や気持ちをもとめる。 ・「一」における「蠅」の動きをまとめる。	○	㊦	○
					【学習目標】 視点の移動に注意しながら、描かれた場面や状況を読み取り、作品の主題について考える。 ・「饅頭」がどのような役割を果たしているか考える。 ・馬車が転落し、「蠅」が飛び去る結末から読み取れることを考える。	○	○	㊦

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
28	-	-	【言語活動】 さまざまな資料を調べて発表する	P373	【学習目標】 作品が成立した背景やほかの作品との関係調べて発表し、作品の解釈を深める。 ・本文を読んで、文学作品に関する資料を調べる意義と手順を理解する。 ・教科書に掲載されている作品から一つ選び、作品に描かれている時代について、年表や百科事典などで調べる。 ・作者の伝記や文学辞典から、作者がどのような人物であったか、作品が成立した時代がどのような時代であったかを調べる。 ・同時代に書かれたほかの作品や、同じ作者のほかの作品を調べる。 ・作品がどう読まれてきたかについて、書籍の後書きや解説、作品に関する専門書などから調べる。 ・調べたことから分かったことをまとめる。 ・作品を読み直して気付いたことをまとめ、発表する。	○	◎	○
	-	-				○	◎	○
29	-	-				○	◎	○
	-	-				○	◎	○
30	-	-				○	◎	○
	-	-				○	◎	○

・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。

《通信教育実施計画》

授業科目名	地理総合	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	世界の生活文化の多様性や、自然環境と防災、地域や地球的課題（地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題など）について学ぶ。また地図や地理情報システムなどを用いて、地理に関する情報をまとめて多面的に考察・表現することで、諸課題を主体的に解決しようとする姿勢と、国土に対する愛情、世界の多様な文化を尊重する態度を養う。						
学習の到達目標	①地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。						
	②地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。						
	③地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「地理総合」（地総701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	－	－	オリエンテーション	－	○学習内容や到達目標を理解する。 ○学習の進め方を理解する。	-	-	-
2	1	5月	第1編第1章 私たちが暮らす世界 1 緯度・経度 2 地球儀と世界地図	8～11	○地軸の傾きや自転・公転による影響を理解する。 ○地球上には常に昼と夜が存在することを理解し、時差の影響やそれに対する工夫を考える。 ○地図にはさまざまな種類が存在することについて理解する。 ○地球を平面の地図では正確に表現できないことを理解し、地図の種類に応じた用途の多様性を考える。	◎	○	○
3			3 日本の位置と領域 第1編第2章 地図や地理情報システムの役割 4 地図の種類	12～13 22～23	○日本の位置と領域について理解する。 ○排他的経済水域について理解し、その重要性について考える。 ○私たちの生活にさまざまな地図が利用されていることを理解する。 ○多様な地図が生活を便利にしていることを理解し、地図利用のさまざまな可能性を考える。	◎	○	○
4			5 地形図のルール 6 主題図の種類と読み取り	24～27	○地形図から読み取れることについて理解する。 ○地理院地図の特徴を理解し、紙の地形図との違いについて考察する。 ○主題図にはさまざまな表現方法があることを理解する。 ○主題図の表現方法の特徴を理解し、用途に応じてどのように使い分けるのかを考察する。	◎	○	○
5			7 地理情報システムと地図 【地図の可能性は、まだまだ広がる。】	28～29	○地理情報システム（GIS）が幅広い分野で使われていることについて理解する。 ○GISとは何かを理解し、私たちの生活への影響を考える。	◎	○	○
6	2	6月	第1編第3章 資料から読み取る現代世界 8 交通の発達 9 情報通信の発達	40～43	○交通手段の多様性とその長所・短所について理解する。 ○交通手段の発達による生活の変化を考える。 ○通信情報技術（ICT）の発達について理解する。 ○通信網の発達による生活の変化と生じた課題について考える。	◎	○	○
7			10 国境をこえる人々の移動 11 拡大する貿易	44～47	○国境をこえる人々の動きについて理解する。 ○どのような理由で人々がどこからどこへ移動するかを考える。 ○世界の貿易とさまざまな地域貿易圏について理解する。 ○国際分業と産業の変化について考える。	◎	○	○
8			12 つながる世界、多極化する世界 第2編第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境 13 文化の地域性と多様性	48～49 58～59	○国家間の結び付きとその役割について理解する。 ○多極化する世界の変化について考える。 ○地域によって文化が異なる理由について理解する。 ○文化は持続することもある一方で、変容することもあることを理解する。	◎	○	○
9			14 宗教と人々の暮らし 【宗教に根ざした、習慣や文化がある。】	60～61	○世界の宗教の分布について理解する。 ○宗教ごとに特徴的な生活習慣や規範があることを理解する。	◎	○	○
10	3	7月	15 山地の暮らし 16 平野の暮らし	68～71	○山地におけるさまざまな暮らしの工夫について理解する。 ○山地における自然的、文化的なめぐみに気づき、その利用について理解する。 ○河川がつくる平野の小地形について理解する。 ○宅地化による土地利用の変化が、どのような影響をもたらしているかを理解する。	◎	○	○
11			17 海岸の暮らし 18 多様な気候とその分布	72～73 78～79	○さまざまな海岸の地形とその利用について理解する。 ○海岸の地形が自然的、人為的要因によって変化していることを理解する。 ○大気の大循環によって生じる気圧帯について理解する。 ○気温や降水量に地域差が生じる原因を理解し、それらが衣食住に与える影響を考える。	◎	○	○
12			19 熱帯の人々の暮らし 20 乾燥帯の人々の暮らし	80～83	○熱帯の各気候区における気温・降水量、風などの気候要素の特徴について理解する。 ○熱帯における土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考える。 ○乾燥帯の各気候区における気温・降水量、風などの気候要素の特徴について理解する。 ○乾燥帯における土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考える。	◎	○	○
14			21 温帯の人々の暮らし	84～87	○温帯の各気候区における気温・降水量、風などの気候要素の特徴について理解する。 ○温帯における土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考える。	◎	○	○
15			22 亜寒帯・寒帯の人々の暮らし	86～87	○亜寒帯・寒帯の各気候区における気温・降水量、風などの気候要素の特徴について理解する。 ○亜寒帯・寒帯における土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考える。	◎	○	○

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	4	10月	23 食生活と農業の分布 24 工場立地の変化	92～93 96～97	○自然環境の面から、食生活の地域差について理解する。 ○社会環境の面から、農業形態の地域差について理解する。 ○食文化に多様性が生じる理由について理解する。 ○工業立地について理解する。 ○労働集約的な工業の立地が移動する理由を理解する。 ○新興工業国と先進国との工業に違いが生じる理由について理解する。	◎	○	○
17			25 商業立地と人々の生活 26 情報産業の発達と生活文化の変化	100～103	○インターネットの普及により、商業にどのような変化が生じたのかを理解する。 ○通信産業の発展による世界の変化、産業の情報化について理解する。 ○情報化社会における働き方について考える。	◎	○	○
18			第2編第2章 27 地球環境問題(1)	124～125	○地球規模の環境問題が、人間の活動によって引き起こされていることを理解する。 ○生産・消費活動により環境問題が発生することを理解し、解決法を考える。	◎	○	○
19			28 地球環境問題(2)	126～127	○森林の減少や砂漠化の進行について理解する。 ○森林の減少や砂漠化が人間の活動によって引き起こされていることを理解し、改善に向けた取り組みを考える。	◎	○	○
20			29 資源・エネルギーの偏在 30 化石燃料から再生可能エネルギーへ	130～133	○資源・エネルギーの生産地と消費地は地理的に離れていることを理解する。 ○新興国のエネルギー需要の増加を理解し、資源を巡る対立が生じる要因を考える。 ○エネルギー資源の種類について理解する。 ○再生可能エネルギーへの関心が高まった背景を理解し、再生可能エネルギーの割合が拡大しない要因を考える。	◎	○	○
21	5	11月	31 発展途上国の人口問題 32 先進国の人口問題	136～139	○18世紀後半以降から現在にかけての世界の人口推移とその背景を理解する。 ○発展途上国が抱える人口問題を理解し、その要因・影響を考える。 ○先進国において少子高齢化が進む背景とその影響について理解する。 ○少子高齢化対策として先進国で行われる取り組みを理解し、その成果や課題を考える。	◎	○	○
22			33 食料需給をめぐる問題 34 発展途上国の居住・都市問題	142～143 146～147	○食料問題が生じる背景について理解する。 ○食の安全に関する問題について知り、その対策について理解する。 ○発展途上国で進む都市人口の増加の背景を理解する。 ○発展途上国の大都市における生活や都市環境の変化から居住問題について理解する。	◎	○	○
23			35 先進国の居住・都市問題 36 民族問題・難民問題	148～151	○先進国の都市化と郊外化、そして都市再開発までの動きとそれぞれの背景について理解する。 ○先進国の居住・都市問題を郊外化や都市再開発から考える。 ○難民と民族問題について理解する。 ○民族問題の背景について考える。	◎	○	○
24			37 地球的課題と国際協力 第3編第1章 38 日本の地形の特色 39 日本の気候の特色	154～155 176～181	○地球規模で取り組むべき課題が、相互に関連しあっていることを理解する。 ○先進国と発展途上国の対立など、さまざまな課題があることを理解し、持続可能な開発のための解決法を考える。 ○日本の地形の特徴について理解する。 ○日本の地形の特徴が河川や海岸の特徴にどのような影響を与えているかを理解する。 ○日本の春夏秋冬それぞれの季節の特徴づける天候・気候の要因を理解する。 ○日本各地の地域ごとの気候の特徴を理解する。	◎	○	○
25			40 地震災害・津波災害(1) 41 地震災害・津波災害(2) 42 火山の災害とめぐみ	182～187	○プレート境界地震とプレート内地震の違いについて理解する。 ○震源の位置や土地の条件によって、引き起こされる被害にも違いがあることを理解する。 ○過去の災害の記録が今後の災害の軽減につながる得ることを理解する。 ○ハザードマップを利用し、身近な地域の自然災害の可能性を読み取る。 ○日本列島において火山活動が活発な理由を理解する。 ○火山活動にともなう災害の種類を理解する。 ○火山活動が関係するさまざまなめぐみを理解する。	◎	○	○
26	6	12月	43 気象災害(1) 寒さ・曇りと台風 44 気象災害(2) 大雨と洪水・土砂災害	188～191	○それぞれの季節で発生しやすい気象災害とその特徴について理解する。 ○それぞれの季節で発生しやすい気象災害の要因・影響を考える。 ○大雨や集中豪雨によって発生する洪水災害は、どのように発生するのか、その原因を理解する。 ○土砂災害の発生のメカニズムを理解し、どこで被害を受けやすいかを考える。	◎	○	○
27			45 都市と自然災害 46 防災・減災と復旧・復興	192～193 204～205	○都市型災害にはどのようなものがあるかを理解する。 ○そのうえで、都市型災害の要因・影響を考え、都市型災害が発生した際にどのような行動をとるべきかを考える。 ○大規模災害の対応について、自助・共助・公助の視点からどのようなことが行われているかを理解する。 ○これまでの災害の教訓を生かし、特に、自助・共助において、どのような対策を講じていくべきかを考える。	◎	○	○
28			第3編第2章 47 調査テーマの設定 48 地域調査1(資料調査)	206～207	○身近な地域の変遷を新旧地形図の読み取りなどから理解する。 ○身近な地域の課題に対して異なるスケールを織り交ぜて考察し、調査テーマを設定する。 ○身近な地域の情報を得るためのさまざまな手段と注意点を理解する。 ○身近な地域で生じている課題の要因をさまざまな角度から分析し、仮説を設定する。	◎	○	○
29			49 地域調査2(野外調査) 【どこを歩いて誰に聞くか、計画が大切な。】	208～209	○野外調査の目的に合った方法を理解する。 ○野外調査を計画し、実施する。	○	◎	○
30			50 まとめと発表 【地域のこれからの、皆で考えていくために。】	210～211	○地域調査のまとめ方について理解する。 ○調査結果に応じた、まとめ方や発表形式を選択し、身近な地域の課題解決に向けた発表を行う。	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	歴史総合	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	現代の諸課題に関わる近現代の歴史について、世界と日本の相互的な視点から学ぶ。近現代の歴史の変化（歴史的出来事の意味や意義、特色など）や現代とのつながりに注目することで、よりよい社会の実現に向けて課題を解決しようとする態度を養い、我が国の歴史に対する感情や、他国・他国の文化を尊重することの大切さについて学ぶ。						
学習の到達目標	①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、ICT機器を用いるなど、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。						
	②近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。						
	③近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新選歴史総合」（歴総701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習に 取り組む 態度
1	－	－	オリエンテーション（学習の進め方）	－	○学習内容や到達目標を理解する。 ○学習の進め方を理解する。	－	－	－
2	1	5月	第2章2節「結び付く世界と日本の開国」 1 18世紀の東アジア 2 結び付くアジア諸地域	28～35	○18世紀の東アジア諸国がどのような関係を築いていたのかについて理解する。 ○18世紀のアジア諸地域はどのように結びついていたのかについて理解する。	㊸	○	○
3			3 18世紀のヨーロッパとアジア 4 産業革命のはじまり	36～43	○18世紀のヨーロッパとアジアとの交易にはどのような変化が見られたのかについて理解する。 ○産業革命が社会にどのような変化をもたらしたのかについて理解する。	○	㊸	○
4			5 世界市場の形成 6 東アジア国際関係の変化と日本の開国	44～47	○産業革命を経て、世界各地の経済がどのように変化したのかについて理解する。 ○19世紀の東アジアが、西欧諸国とどのような関わりをもったのかについて理解する。	㊸	○	
5			7 世界経済の変化と日本の産業革命	48～49	○イギリスではじまった産業革命が、どのように世界に広まったのかについて理解する。	○	㊸	○
6	2	6月	第2章3節 「国民国家と明治維新」 1 市民革命と近代社会 2 自由主義とナショナリズム	52～55	○市民革命はどのような社会のしくみを生み出したのかについて理解する。 ○19世紀の欧米諸国では、どのような国家形態が模索されたのかについて理解する。	○	㊸	○
7			3 アジアの諸国家とその変容 4 明治維新と東アジアの国際関係	56～59	○19世紀のアジア諸地域では、どのような背景のもとにどのような政治的変化が生じたのかについて理解する。 ○明治維新は、どのような国際環境のなかで起き、日本社会をどのように変えたのかについて理解する。	㊸	○	
8			5 立憲制の広まり 6 帝国主義と植民地	62～65	○19世紀後半の立憲制国家は、それぞれどのような特徴をもっていたのかについて理解する。 ○帝国主義とは何かを理解する。また、帝国主義国の植民地獲得競争がどのようにくり広げられたのかについて理解する。	○	㊸	○
9			7 日清戦争と華夷秩序の解体 8 帝国主義諸国の競合と国際関係	68～71	○日清戦争が東アジアの国際秩序にどのような影響を与えたのかについて理解する。 ○帝国主義国どうしがどのような関係を築いたのかについて理解する。	㊸	○	
10			9 植民地支配と植民地の近代 10 20世紀はじめの世界	72～75	○植民地の人々がどのような支配を受けていたのかについて理解する。 ○20世紀はじめ、帝国主義に対して世界各地の人々はどういう態度を示したのかについて理解する。	㊸	○	
11	3	7月	第3章2節 「第一次世界大戦と大衆社会」 1 大衆社会の時代 2 第一次世界大戦の展開	92～95	○大衆化とは何かを理解する。 ○第一次世界大戦はどのように展開したのかについて理解する。	○	㊸	○
12			3 国際協調体制の形成 4 ソヴィエト連邦の成立と社会主義	96～99	○第一次世界大戦後の国際協調体制について理解する。 ○ソヴィエト連邦の成立と、社会主義運動の拡大について理解する。	○	㊸	
13			5 アメリカ合衆国の台頭と大量消費社会 6 アジアの経済成長と移動する人々	100～102	○アメリカ合衆国の台頭と大衆文化の広がりについて理解する。 ○アジアの経済成長とそれぞれの地域の結びつきについて理解する。	○	㊸	
14			7 反植民地主義の高揚と国際秩序の変容 8 民主主義の拡大と社会変革の動き	106～109	○反植民地主義の高揚と国際秩序の変容について理解する。 ○世界における民主主義の進展と、日本での展開について理解する。	○	㊸	○
15			9 マスメディアの発達と日常生活	110～111	○マスメディアの発達と人々の日常生活の変化について理解する。	○	㊸	○
16	4	10月	第3章3節 「経済危機と第二次世界大戦」 1 世界恐慌 2 アジア・アフリカと大衆社会	112～117	○世界恐慌が発生した原因とそれに対する各国の対応について理解する。 ○動揺しつつある国際協調体制下での、アジア・アフリカ諸国の人々の対応について理解する。	○	㊸	○
17			3 国際協調体制の崩壊 4 日中戦争と深刻化する世界の危機	118～121	○第一次世界大戦後の国際協調体制の崩壊について理解する。 ○日中戦争やファシズムの膨張による世界の危機について理解する。	○	㊸	
18			5 第二次世界大戦の勃発 6 第二次世界大戦における連合国と戦後構想	122～125	○第二次世界大戦の勃発とその拡大、および日中戦争との結びつきについて理解する。 ○第二次世界大戦の終結と戦後の国際秩序の形成について理解する。	○	㊸	○
19			7 アジア太平洋戦争と日本の敗戦 8 連合国の占領政策と冷戦	126～129	○アジア太平洋戦争の展開と、日本の敗戦について理解する。 ○連合国の占領政策と冷戦のはじまりについて理解する。	○	㊸	
20			9 再編されるアジアと冷戦	132～133	○冷戦下に再編されたアジア諸地域の動きについて理解する。	○	○	㊸
21	5	11月	1 冷戦の拡大と第三勢力 2 キューバ危機と核兵器の管理	150～153	○冷戦の拡大と第三勢力の台頭について理解する。 ○冷戦下の核開発競争と宇宙開発競争、および核兵器管理への方針転換について理解する。	○	○	㊸
22			3 脱植民地化の進展と地域紛争 4 計画経済と開発	154～159	○アジア・アフリカにおける脱植民地化の動きと、それらの地域で起こった地域紛争について理解する。 ○自由主義国、社会主義国、開発途上国の経済政策について理解する。	○	○	㊸
23			5 冷戦下の日本とアジア 6 日本と欧米先進国の経済成長	160～163	○冷戦下の日本の国内政治とアジア外交について理解する。 ○欧米先進国と日本の経済成長とそれに伴う社会の変容について理解する。	○	㊸	
24			7 地域連携の拡大	166～167	○ヨーロッパやアジアにおける地域連携の動きについて理解する。	○	㊸	
25			8 ベトナム戦争と冷戦構造の変容	168～169	○ベトナム戦争と冷戦構造の変容について理解する。	○	㊸	

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
26	6	12月	第4章3節 「世界秩序の変容と日本」 1 問い直される近代 2 石油危機と経済の自由化	170～171 174～175	○先進諸国において、近代的な価値観を問い直す動きが現れ、価値観の変容が生じたことについて理解する。 ○石油危機と経済の自由化について理解する。	○	◎	○
27			3 アジアの経済発展と日本 4 冷戦の終結と世界	176～179	○東アジア・東南アジア諸国・地域の経済発展について理解する。 ○冷戦の終結と東アジアの分断状況について理解する。	○	○	◎
28			5 拡散する地域紛争 6 民主化の進展	180～181 184～185	○冷戦終結後に世界各地で起きた地域紛争や、それらに対する国際社会の動きについて理解する。 ○世界各国で進んだ民主化の動きと、日本の政権交代について理解する。	○	◎	
29			7 グローバル化と地域統合	186～187	○冷戦終結後に進んだグローバル化と地域統合について理解する。	○	◎	
30			8 岐路に立つ世界と日本	188～189	○グローバル化や地域統合、民主主義が抱えた問題点について理解する。	○	○	◎
備 考			・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。					

《通信教育実施計画》										
授業科目名		日本史探究		スクーリング回数	3	レポート回数	9	単位数	3	
面接指導実施日		各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月		レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬	
対象スタイル		3DAYスタイル、5DAYスタイル								
科目内容		原始・古代～近現代までの日本史について、地理的条件や世界の歴史とも関連付けながら深く学習する。日本の歴史の流れや歴史的事象のみならず、文化や伝統についても理解し、歴史と現代とのつながりに着目しながら学ぶ。								
学習の到達目標		我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。								
		我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。								
		我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。								
使用教科書・副教材等		東京書籍「日本史探究」（日探701）								
評価方法		添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。								
単位認定方法		規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。								
週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点				
						知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習に 取り組む 態度		
1	—	—	オリエンテーション	—	○学習内容や到達目標を理解する。 ○学習の進め方を理解する。	—	—	—		
			第1章 先史社会の生活と文化 1 旧石器時代の日本	8～9	○人類の出現と旧石器時代の日本列島について理解する。	◎	○			
2	1	5月	2 縄文文化 3 弥生文化と小国家の形成	8～11 14～17	○縄文文化の特色や日本人の起源について理解する。 ○弥生文化の特色と小国家の形成について理解する。 ○先史社会の展開から古代への時代の転換に着目して、先史社会の特色や古代の国家や社会との関わりについて多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。	○	◎	○		
			第2章 歴史資料と先史・古代の展望 1 先史・古代の歴史を組み立てる資料の特質 3 木簡が語る律令国家の実態	18～19 22～23	○先史・古代の歴史を組み立てる資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、先史・古代の歴史を組み立てる資料を通して読み取れる情報から、先史・古代の資料の特質について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。 ○木簡から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、木簡を通して読み取れる情報から、古代国家の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。	◎	○	○		
第3章 古代社会の形成と展開 1節 律令国家の形成と古代文化の展開 1 大和王権と古墳文化 2 飛鳥の朝廷と文化	24～33		○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、1節「律令国家の形成と古代文化の展開」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「大和王権と古墳文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、古墳時代の政治と文化について理解する。 ○主題を基に、2項「飛鳥の朝廷と文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、飛鳥時代の政治と文化について理解する。	○	◎					
3 律令国家の形成と白鳳文化 4 平城京と天平文化	34～39 41～47		○主題を基に、3項「律令国家の形成と白鳳文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、律令国家の形成過程と律令制の特徴について理解する。 ○主題を基に、4項「平城京と天平文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、奈良時代の政治と文化について理解する。 ○1節「律令国家の形成と古代文化の展開」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、先史から古代の政治・社会や文化の特色を理解する。	○	◎	○				
4	2節 摂関政治と貴族文化 1 平安遷都と唐風文化 2 貴族社会と摂関政治		50～58	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、2節「摂関政治と貴族文化」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「平安遷都と唐風文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、平安時代初期の政治と文化について理解する。 ○主題を基に、2項「貴族社会と摂関政治」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、藤原氏の台頭と武士の出現について理解する。	◎	○	○			
	3 国風文化		60～63	○主題を基に、3項「国風文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、国風文化の特色について理解する。 ○2節「摂関政治と貴族文化」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解する。	○	◎	○			
5	2		第2編 中世の日本と世界 第1章 中世社会の成立 1 朝廷政治の変容 2 武士の政治進出	66～73	○院政の開始と展開、土地支配の変容について理解する。 ○武士の社会進出と平氏政権の誕生、およびその時代の外交と文化の特色について理解する。 ○古代から中世への時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。	○	◎	○		
			第2章 歴史資料と中世の展望 1 武家権力による日本社会の変容 2 厳しい自然環境での人々の生存戦略	74～77	○武家権力による日本社会の変容に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、武家権力による日本社会の変容に関する資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。 ○厳しい自然環境での人々の生存戦略に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、厳しい自然環境での人々の生存戦略に関する資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する	○	◎	○		
6		6月	3 中世日本の国際交流	78～79	○中世日本の国際交流に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、中世日本の国際交流に関する資料を通して読み取れる情報から、中世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。	○	◎	○		
			第3章 中世社会の展開 1節 武家政権の成立と朝廷 1 鎌倉幕府の誕生 2 執権による政治	80～84 86～89	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、1節「武家政権の成立と朝廷」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「鎌倉幕府の誕生」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、鎌倉幕府の支配のしくみについて理解する。 ○主題を基に、2項「執権による政治」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、執権政治の特色について理解する。	◎	○	○		
7	3 モンゴル襲来と社会の変貌 4 鎌倉の仏教と文化		90～96	○主題を基に、3項「モンゴル襲来と社会の変貌」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、モンゴル襲来と鎌倉時代の社会の変化について理解する。 ○主題を基に、4項「鎌倉の仏教と文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、鎌倉時代の仏教と文化について理解する。 ○1節「武家政権の成立と朝廷」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解する。	○	◎	○			
	2節 武家支配の広がりや国際交流 1 南北朝の動乱と室町幕府の成立 2 倭寇と東アジア国際交流		98～105	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、2節「武家支配の広がりや国際交流」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「南北朝の動乱と室町幕府の成立」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、鎌倉幕府の滅亡から室町幕府の成立にかけての幕府と朝廷の動きについて理解する。 ○主題を基に、2項「倭寇と東アジア国際交流」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、室町時代の対外関係について理解する。	○	◎	○			

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
8	3	6月	3 室町時代の社会と経済活動 4 自立する戦国大名	106～108 110～114	○主題を基に、3項「室町時代の社会と経済活動」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、室町時代の社会について理解する。 ○主題を基に、4項「自立する戦国大名」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、戦国大名の分国支配と都市の発達について理解する。	○	◎	
			5 室町文化	116～120	○主題を基に、5項「室町文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、室町文化の特色について理解する。 ○2節「武家支配の広がり」と国際交流」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解する。	○	◎	○
第3編 近世の日本と世界 第1章 近世社会の形成 1 地球的世界の形成と日本			124～126	○アジア各地やヨーロッパ諸国との交流が日本に及ぼした影響について理解する。	○	◎		
2 織豊政権による全国統一 3 桃山文化			128～133	○織豊政権による全国統一と、その政策の目的や意義について理解する。 ○桃山文化の特色について理解する。 ○中世から近世への時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。	○	◎		
第2章 歴史資料と近世の展望 1 参勤交代と幕藩体制			134～135	○参勤交代と幕藩体制に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、参勤交代と幕藩体制に関する資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。	○	◎	○	
2 百姓たちの生活世界 3 江戸時代の対外関係			136～139	○百姓たちの生活世界に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、百姓たちの生活世界に関する資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。 ○江戸時代の対外関係に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、江戸時代の対外関係に関する資料を通して読み取れる情報から、近世の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。	○	◎	○	
9		7月	第3章 近世社会の展開 1節 幕藩体制の確立 1 江戸幕府と大名・朝廷 2 近世の身分と人々の暮らし	140～147	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、1節「幕藩体制の確立」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「江戸幕府と大名・朝廷」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、江戸幕府の支配のしくみについて理解する。 ○主題を基に、2項「近世の身分と人々の暮らし」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、近世の身分と村や町での生活について理解する。	○	◎	○
			3 アジアのなかの幕藩体制 4 武断政治から文治政治へ	150～154 156～157	○主題を基に、3項「アジアのなかの幕藩体制」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、江戸幕府の対外政策について理解する。 ○主題を基に、4項「武断政治から文治政治へ」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、幕府政治の転換について理解する。	○	◎	
5 幕藩体制下の社会の発展			158～159	○主題を基に、5項「幕藩体制下の社会の発展」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、産業の発達と文化の興隆について理解する。 ○1節「幕藩体制の確立」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解する。	○	◎	○	
2節 近世社会の成熟と幕藩体制の動揺 1 享保の改革と経済の発展 2 近世社会の成熟と危機の始まり			166～168 170～174	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、2節「近世社会の成熟と幕藩体制の動揺」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「享保の改革と経済の発展」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、享保の改革と経済の発展について理解する。 ○主題を基に、2項「近世社会の成熟と開きの始まり」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、18世紀中後期の政治・社会・文化について理解する。	○	◎	○	
13		7月	3 幕藩体制の立て直し 4 幕藩体制の動揺	175～185	○主題を基に、3項「幕藩体制の立て直し」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、18世紀末～19世紀初期の政治・社会・文化について理解する。 ○主題を基に、4項「幕藩体制の動揺」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、19世紀前半の政治・社会・文化について理解する。 ○2節「近世社会の成熟と幕藩体制の動揺」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色を理解する。 ○時代を通観する問い、仮説をふまえて、近世の特色および近代へのつながりについて多面的・多角的に考察して表現するとともに、「近世の日本と世界」の学習について振り返り、次の学習へのつながりを見いだす。	○	◎	
			第4編 近現代の地域・日本と世界 第1章 近代社会の幕開け 1 開国と開港 2 幕府の崩壊と明治維新	188～197	○開国と開港による日本のさまざまな変化について理解する。 ○江戸幕府の崩壊から明治維新に至る過程について理解する。 ○近世から近代への時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。	○	◎	
第2章 歴史資料と近現代の展望 1 資本主義の発展と生活 2 国民国家と政治参加			198～201	○資本主義の発展と生活に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、資本主義の発展と生活に関する資料を通して読み取れる情報から、近現代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。 ○国民国家と政治参加に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、国民国家と政治参加に関する資料を通して読み取れる情報から、近現代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。	○	◎	○	
3 世界のなかの近現代日本			202～203	○世界のなかの近現代日本に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○第1章で立てた時代を通観する問いをふまえ、世界のなかの近現代日本に関する資料を通して読み取れる情報から、近現代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。	○	◎	○	
15		5	第3章 近現代社会の展開 1節 近代的制度の導入と新しい国際関係 1 制度改革と殖産興業政策 2 文明開化と教育制度の整備	204～209	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、1節「近代的制度の導入と新しい国際関係」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「制度改革と殖産興業政策」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、明治初期の諸政策とその意義について理解する。 ○主題を基に、2項「文明開化と教育制度の整備」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、明治初期の文化・教育の進展について理解する。	○	◎	○
	3 東アジア世界のなかの明治政府 4 政府専制への批判		210～217	○主題を基に、3項「東アジア世界のなかの明治政府」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、明治初期の対外政策について理解する。 ○主題を基に、4項「政府専制への批判」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、自由民権運動の展開について理解する。 ○1節「近代的制度の導入と新しい国際関係」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、近代的制度の導入、アジアや欧米諸国との国際関係を理解する。	○	◎		

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点			
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
16	6	10月	2 節 国民国家と資本主義の成立 1 立憲政治の成立	218～220	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、2節「国民国家と資本主義の成立」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「立憲政治の成立」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、立憲制の確立について理解する。	○	◎	○	
2 対外関係の変容と日清戦争			222～225	○主題を基に、2項「対外関係の変容と日清戦争」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、条約改正交渉と日清戦争の経緯について理解する。	○	◎			
3 産業革命と資本主義の定着			226～228	○主題を基に、3項「産業革命と資本主義の定着」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、明治期の産業の発展と資本主義社会の成立について理解する。	○	◎			
4 教育制度の整備と新しい文化			230～233	○主題を基に、4項「教育制度の整備と新しい文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、教育の普及と文化の発展について理解する。	○	◎			
5 日露戦争と帝国日本			234～237	○主題を基に、5項「日露戦争と帝国日本」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、日露戦争の経過と日本の帝国主義の進展について理解する。	○	◎			
6 日露戦争後の社会と政治			238～239	○主題を基に、6項「日露戦争後の社会と政治」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、20世紀初頭の政治と社会について理解する。 ○2節「国民国家と資本主義の成立」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、立憲体制への移行、国民国家の形成、産業の発展の経緯と近代の文化の特色を理解する。	○	◎	○		
17	7		10月	3 節 両大戦間期の日本 1 都市化・重工業化と生活の変化	240～244	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、3節「両大戦間期の日本」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「都市化・重工業化と生活の変化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、第一次世界大戦と当時の産業や文化の発展について理解する。	○	◎	○
2 政党政治とデモクラシー				246～249	○主題を基に、2項「政党政治とデモクラシー」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、大正期の政治と社会運動の高まりについて理解する。	○	◎		
3 国際社会のなかの日本				250～253	○主題を基に、3項「国際社会のなかの日本」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、大正期の日本の対外政策について理解する。 ○3節「両大戦間期の日本」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、大衆社会の形成、アジアと欧米諸国との関係の変容を理解する。	○	○	◎	
4 節 第二次世界大戦と日本 1 昭和恐慌と立憲政治の動揺				254～257	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、4節「第二次世界大戦と日本」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「昭和恐慌と立憲政治の動揺」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、昭和恐慌前後の経済政策と立憲政治の動揺について理解する。	○	○	◎	
2 中国侵略と戦時体制への移行				258～261	○主題を基に、2項「中国侵略と戦時体制への移行」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、満洲事変と日中戦争について理解する。	○	◎		
3 戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開				262～268	○主題を基に、3項「戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、第二次世界大戦とアジア太平洋戦争について理解する。 ○4節「第二次世界大戦と日本」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。	○	○	◎	
18	8	11月		5 節 占領と改革 1 占領と日本国憲法の成立	270～275	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、5節「占領と改革」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「占領と日本国憲法の成立」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、占領下の政治と日本国憲法の成立について理解する。	○	○	◎
					○主題を基に、1項「占領と日本国憲法の成立」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、占領下の政治と日本国憲法の成立について理解し、自分なりの考えをまとめ、意見を持つことができる。	○	○	◎	
2 冷戦の開始と経済復興				276～279	○主題を基に、2項「冷戦の開始と経済復興」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、冷戦の開始と日本の復興について理解する。 ○5節「占領と改革」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係を理解する。	○	○	◎	
					○5節「占領と改革」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係を理解し、自分なりの考えをまとめ、意見を持つことができる。	○	○	◎	

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
24	8	11月	6 節 国際社会への復帰と高度経済成長 1 国際社会への復帰と対米協調	280～285	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、6節「国際社会への復帰と高度経済成長」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「国際社会への復帰と対米協調」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、日本の主権回復とその後の政治について理解する。	○	○	◎
○主題を基に、1項「国際社会への復帰と対米協調」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、日本の主権回復とその後の政治について理解し、自分なりの考えをまとめ、意見を持つことができる。					○	○	◎	
25			2 高度経済成長	286～289	○主題を基に、2項「高度経済成長」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、高度経済成長とその影響について理解する。 ○6節「国際社会への復帰と高度経済成長」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係を理解する。	○	○	◎
					○6節「国際社会への復帰と高度経済成長」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係を理解し、自分なりの考えをまとめ、意見を持つことができる。	○	○	◎
26	9	12月	7 節 アジア情勢の変化と経済大国日本 1 1970年代の国際社会と日本	292～293	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「1970年代の国際社会と日本」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、1970年代の世界と日本の政治について理解する。	○	○	◎
○主題を基に、1項「1970年代の国際社会と日本」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、1970年代の世界と日本の政治について理解し、自分なりの考えをまとめ、意見を持つことができる。					○	○	◎	
2 安定成長への転換			294～298	○主題を基に、2項「安定成長への転換」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、高度経済成長後の政治と経済について理解する。 ○7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、現代の政治や社会の枠組みを理解する。	○	○	◎	
8 節 新しい国際秩序と日本の課題 1 激変する世界と日本			300～303	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、8節「新しい国際秩序と日本の課題」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「激変する世界と日本」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、20世紀末の世界と日本の動きについて理解する。	○	○	◎	
2 21世紀の日本			304～306	○主題を基に、2項「21世紀の日本」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、21世紀の政治と経済について理解する。 ○8節「新しい国際秩序と日本の課題」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解する。 ○時代を通観する問い、仮説をふまえて、近現代の特色および現代の日本の課題について多面的・多角的に考察して表現するとともに、「近現代の地域・日本と世界」の学習について振り返り、次の学習へのつながりを見いだす。	○	○	◎	
				○8節「新しい国際秩序と日本の課題」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解し、自分なりの考えをまとめ、意見を持つことができる。	○	○	◎	
4 章 現代の日本の課題の探究 1 社会や集団と個人			308～309	○「社会や集団と個人」をテーマに、これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用して探究する活動を通して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。	○	○	◎	
2 世界のなかの日本			310～311	○「世界のなかの日本」をテーマに、これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用して探究する活動を通して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。	○	○	◎	
				○「世界のなかの日本」をテーマに、これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用して探究する活動を通して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して表現したのから、課題に対する具体的な解決方法を根拠もって、提案することができる。	○	○	◎	
3 伝統や文化の継承と創造			312～313	○「伝統や文化の継承と創造」をテーマに、これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用して探究する活動を通して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。	○	○	◎	

備 考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	--

《通信教育実施計画》

授業科目名	公共	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	法律や消費者の権利、社会参画等について学習する。現代に起きている様々な問題を解決する活動を通して、国際社会で主体的に生きるために必要な資質・能力を学ぶ。						
学習の到達目標	1、現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。						
	2、現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを 議論する力を養う。						
	3、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「2 東書 公共701 公共」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習に 取り組む 態度
1	—	—	オリエンテーション（学習の進め方）	—	①学習内容や到達目標を理解する。 ②学習の進め方を理解する。	—	—	—
2	1	5月	青年期の自己形成の課題 自己形成と社会への参画	P10～13	①青年期の特徴や発達課題の理解を手がかりに、青年期に生きる自己形成の課題について調べて考える。 ②現代社会で生きる上で、何が課題なのか、現代社会の特質やキャリア開発の意義、社会参画を通じて育てるシディズンシップの意義について理解する。 ③キャリア開発や社会参画の視点から、青年期に生きる自己形成の課題について知る。	○	◎	○
3	1	5月	個人として尊重される人間 社会的な存在としての人間 伝統・文化のなかの人間	P14～21	①自由についてのカントの道徳法則、J.S.ミルの自由についての考え方の理解を基に、人間を「個人」として尊重することの意味について多面的・多角的に調べて考える。 ②アーレントやハーバーマース、和辻哲郎の思想の理解を手がかりに、社会的な存在としての人間のあり方及び公共空間について調べて考える。 ③丸山真男の考え方、「公」と「私」の捉え方などを手がかりに、ものの捉え方や考え方が伝統・文化と深くかかわっていることを理解し、そこにおける課題を調べて考える。	◎	○	○
4	1	5月	功利主義と幸福の原理 義務論と公正の原理	P22～25	①行為選択の理由づけについて、目的論と義務論の考え方があることを理解する。 ②目的論に関して、帰結主義による功利主義と徳倫理学の主な考え方を理解する。 ③先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察し議論する。 ④義務論について、カントの道徳法則や自律の意味について理解する。 ⑤社会的な不平等の是正について、ロールズの公正としての正義の考え方を理解する。 ⑥先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察し議論する。	○	○	◎
5	1	5月	活用 生命倫理について考える 活用 環境倫理について考える	P26～35	①生命科学の進歩がもたらしたエンハンスメントとその倫理的課題について理解する。 ②功利主義と義務論の考え方を手がかりに、エンハンスメントについて、考察し議論する。 ③人間の活動の発達した拡大がもたらしている環境問題にかかわる思想や環境倫理について理解する。 ④功利主義と義務論の考え方を手がかりに、環境についての倫理的課題について、考察し議論する。	○	○	◎
6	2	6月	公共的な空間における協働とは 民主主義とは	P36～41	①社会における利害の調整のしくみとしての市場の働きと国家の役割、及びそれぞれの課題について理解する。 ②社会における意見や利害の調整、意思決定における民主主義の意義、それらの課題について理解する。	○	◎	○
7	2	6月	立憲主義とは 人権保障の意義と展開	P42～55	①法の支配や近代立憲主義の意義について、歴史的背景も踏まえながら理解する。 ②立憲主義と民主主義の緊密関係の意味について調べて考える。 ③公共的な空間における基本的原理の一つである、人間の尊厳と平等について、その意義、歴史的展開、現代の動向について理解する。	○	◎	○
8	2	6月	民意を反映した政治を実現するには？ 私たちの民主政治	P56～61	①民意を反映した政治を実現するための現状と課題について、世論調査、投票率、世論調査と選挙結果の関連から理解する。 ②国民投票のメリットとデメリットについて、多面的・多角的に調べて考える。 ③政治の働き、民主主義の具体的な姿について理解するとともに、現代の民主主義の課題について調べて考える。	○	◎	○
9	2	6月	地方自治のしくみと役割 国会のしくみと役割	P62～69	①民意を反映した政治を実現するための現状と課題について、世論調査、投票率、世論調査と選挙結果の関連から理解する。 ②国民投票のメリットとデメリットについて、多面的・多角的に調べて考える。 ③政治の働き、民主主義の具体的な姿について理解するとともに、現代の民主主義の課題について調べて考える。	○	◎	○
10	2	6月	内閣のしくみと役割 政治参加と選挙	P70～75	①内閣と国会との関係、内閣の役割と行政組織、行政国家化と行政改革について、実際の政治事象とも関連させながら理解する。 ②国会を基盤に行政権を行使する内閣と行政組織、行政権が肥大化した今日の行政の課題について調べて考える。 ③政治参加のさまざまな方法、民主政治と選挙制度、日本の選挙制度と課題について、実際の事象とも関連させながら理解する。 ④有権者の意思をよりよく反映するという視点から、日本の選挙制度について調べて考える。	○	◎	○
11	2	6月	政党と利益集団 メディアと世論	P76～83	①民主政治における政党の役割、日本の政党政治、政治に影響を及ぼそうとする利益集団、政治資金にかかわる課題などについて理解する。 ②民主政治における政党や利益集団の役割、政治資金にかかわる課題について調べて考える。 ③政治の性格、私法の三つの原則、過失責任の原則などについて理解する。 ④世論形成に及ぼすメディアの役割、正しい情報に基づく合理的な判断の重要性について調べて考える。	○	◎	○
12	3	7月	法は私たちの生活にどのようにかわるのか？ 法の成立と適用	P84～91	①法や規範の意義や役割を考えるために、「観光地での食べ歩き」に関する法規制の事例や海外の事例を理解する。 ②観光地での食べ歩きの法規制について、多面的・多角的に考察し議論する。 ③道徳を含む社会規範における法の特色、法の役割、法の区分とそれぞれの特色について理解する。 ④法の性格や役割、法の分類、法がその成立の歴史や対象などによって区別されることについて調べて考える。 ⑤法案の作成と提出、民事裁判と刑事裁判、裁判における法の適用、法の解釈の意味などについて理解する。 ⑥民事裁判、刑事裁判の手続きの特色、法の適用と解釈、市民にも求められるリーガルマインドの意義について調べて考える。	○	◎	○
13	3	7月	現代の市民生活における私法の役割と意義は何か？ 市民生活と法	P92～95	①市民生活における私法の役割と意義に関連して、インターネットによる契約の特性や転売について理解する。 ②転売仲介サイトで不正なチケットが届いた場合の対処について、多面的・多角的に考察し議論する。 ③私法の性格、私法の三つの原則、過失責任の原則などについて理解する。 ④私法の三つの原則の意義、公共の福祉とのかかわり、過失責任の原則の意義について調べて考える。	○	◎	○
14	3	7月	多様な契約 消費者の権利と責任	P96～101	①契約自由の原則、契約の種類、契約自由の原則の修正などについて理解する。 ②契約の種類とその特徴、契約自由の修正が必要とされる理由について考察する。 ③消費者契約の特色、消費者法制と消費者の権利、消費者主権と消費者市民社会形成などについて理解する。 ④消費者契約や消費者法が、消費者の権利とその尊重、自立の支援を目指していることについて具体的な例を調べて考える。	○	◎	○

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点			
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
15	3	7月	国民が司法に参加するうえで考えるべきことは何か？ 司法上しくみと役割 刑事司法と司法参加の意義	P102～111	①裁判員と死刑制度、死刑制度の合憲性と世論、国際社会における死刑制度について理解する。 ②裁判員として死刑の判断を下すことは是非について、多面的・多角的に考察し議論する。 ③司法とその他の独立、裁判制度のしくみ、違憲審査権について理解する。 ④司法権の独立、三審制、違憲審査権の意義について調べて考える。 ⑤刑事司法のしくみや原則、刑事司法の課題、裁判員制度や検察審査会制度について理解する。 ⑥刑事司法の課題や司法への民意の反映の意義と課題について調べて考える。	○	◎	○	
16	4	10月	公正で自由な経済活動のために政府の役割はどうあるべきか？ 私たちの経済 市場経済のしくみ	P112～121	①市場を公正で効率的に働かせるための規制に関連して、タクシー事業の現状について理解する。 ②タクシー事業の規制のあり方について、多面的・多角的に考察し議論する。 ③経済活動の意義、経済主体と経済循環、グローバル化のなかの経済活動の動きについて、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ④経済循環については、「家計」を中心にして、「政府」「企業」との関係を理解する。 ⑤市場経済における価格の働き、市場の失敗と政府の役割について、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ⑥市場メカニズムの意義と限界、政府の役割が求められることの関係について調べて考える。	○	◎	○	
17	4	10月	国民所得と経済成長 金融はどのような役割をになっているのだろうか？	P122～127	①経済の指標の計算方法と意味、経済成長とその要因、景気変動と物価について、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ②景気変動や物価の変動、インフレーションなどが人々の生活にどのように影響を及ぼすか調べて考える。 ③起業家にとっての資金調達と直接金融、間接金融、クラウドファンディングなどの新たな資金調達について理解する。 ④起業家は資金提供者に対してどのような情報を発信すべきか、多面的・多角的に考察し議論する。	○	○	◎	
18	4	10月	金融のしくみ 中央銀行の役割と金融環境の変化	P128～133	①貨幣の役割と通貨制度、直接金融と間接金融、金融システム、金融市場と金利の動きについて、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ②金融と金融システムが日々の生活と密接にかかわっていることに気付く。 ③中央銀行の役割、中央銀行の行う金融政策、金融の自由化と金融商品の多様化について、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ④金融政策の近年の動向、金融の自由化と金融商品の多様化に伴ってどのような課題があるか調べて考える。	◎	○	○	
19	4	10月	「持続可能な財政」を実現するためにどうすべきだろうか？ 財政の働き	P134～137	①諸外国と比べた日本の財政規模、財政危機の原因について、資料を手がかりに理解する。 ②財政の課題を解決し持続可能な財政とするために、多面的・多角的に考察し議論する。 ③財政の三つの機能、財政政策、財政のしくみや租税法主義などについて、実際の事象とも関連させながら理解する。 ④財政と財政政策を通じて、経済政策や福祉政策その他の政策が行われていることを理解する。	○	◎	○	
20	4	10月	財政の課題 社会保障の考え方 社会保障の課題とこれから	P138～145	①租税の分類、課税の原則、国債の役割、財政問題と財政危機について、実際の事象とも関連させながら理解する。 ②財政問題については、資料を読み取りながら問題解決の方向性について調べて考える。 ③社会保障の意義と歴史、日本の社会保障制度について、実生活とのかかわりも含めて理解する。 ④社会保障制度の意義について、多面的・多角的に調べて考える。 ⑤少子高齢化の進む日本の現状、社会保障の財源確保、社会保障と経済の活性化とのかかわりなどについて理解する。 ⑥少子高齢化の進展の中で、今後の社会保障制度をどのように展望するか諸外国の例も参考に考える。		◎	○	
21	5	11月	これからの時代の職業選択をどのように考えればよいのだろうか？ 働くということ 多様な職業選択	P146～151	①産業革命の変遷と日本が目指す新しい社会「Society5.0」について理解する。 ②技術革新が進むなかでの職業選択について、多面的・多角的に考える。 ③働くことの意味、産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割などについて、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解する。 ④技術革新の進展のなかで、今後の職業や労働がどのように変化していくのか、そこにおける課題について調べて考える。 ⑤職業選択のポイント、多様化するキャリア選択、キャリア形成の課題について、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解する。 ⑥職業選択の機会の多様化とこれからのキャリア形成の課題について調べて考える。	○	◎	○	
22	5	11月	望ましい労働環境を実現するために必要な取り組みは何か？ 労働者の権利 現代の雇用・労働問題	P152～157	①労働条件の最低基準を定める法令が存在するものの、「過労死」や「ブラック企業」が問題になっている状況を理解する。 ②「過労死」をなくす対策について、多面的・多角的に考察し議論する。 ③資本主義社会における労働契約の特性、労働者の権利と労働三法の内容、労働条件改善に向けた課題について、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解する。 ④労働契約の特性を踏まえて、労働者の権利保障が必要であることについて調べて考える。 ⑤雇用環境の変化、現代のさまざまな労働問題、働きやすい労働環境について、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解する。 ⑥仕事と家庭生活の両立、男女格差の解消、安定した雇用などにかかわる課題とその解決の方向性について調べて考える。	○	◎	○	
23	5	11月	国際社会の課題を解決するためにどのようなルールが必要か？ 国際社会の成り立ち	P158～163	①有限な資源を将来にわたってどのようなルールの下で維持・管理するのか、漁業をめぐる国際社会の課題を理解する。 ②漁業資源の国際的な管理のあり方について、多面的・多角的に考察し議論する。 ③国家間の利害が錯綜する課題解決としてのルールや国際協力を第5章で学ぶ他の課題についても生かせるようにする。 ④国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、実際の国際的な事象と関連させながら理解する。 ⑤国際社会において国家間のさまざまな問題が生じる背景と外交や国際法の意義について多面的・多角的に調べて考える。		◎	○	
24	5	11月	国際連合の役割 国際社会の平和と安全を実現するには？	P164～167	①集団安全保障としての国際連盟、国際連合の成立とそのしくみ、国際連合における安全保障、国際連合のさまざまな役割と課題について、実際の国際的な事象と関連させながら理解する。 ②世界の平和と安全に国連の果たす意義と課題について調べて考える。 ③核兵器をめぐる世界の動きを、核拡散の現状、国連における核兵器禁止条約の採択と批准、INF全廃条約の失効などから理解する。 ④核軍縮が進まない理由を、多面的・多角的に考察し議論する。	○	○	◎	
25	5	11月	日本の平和主義と冷戦 冷戦後の世界と日本	P168～173	①平和主義と日本国憲法第9条、自衛隊と日米安全保障、戦後日本の防衛政策について、実際の事象とも関連させながら理解する。 ②冷戦後の世界の動き、冷戦終結後の日本の安全保障政策、自衛隊の海外派遣などについて、実際の事象とも関連させながら理解する。 ③日本の安全保障政策の変化の背景にある国際関係について考察するとともに、今後の安全保障の課題について追究する。	○	◎	○	
26	6	12月	国際社会における責任ある行動とは何か？ 現代の紛争とその影響	P174～177	①主権国家内部で起こる紛争と人権侵害について、ルワンダ内戦、コンボ紛争を例に理解する。 ②人権保護のための他国や国際機関の武力介入について、多面的・多角的に考察し議論する。 ③現代の紛争とその要因、紛争の解決に向けた取り組み、難民問題について理解する。 ④紛争や難民問題の解決に向けて国際機関やNGOなどの取り組みが求められていることを理解する。	○	◎	○	
27	6	12月	平和な国際社会に向けて 経済のグローバル化は現代社会にどのような影響をもたらしたか？	P178～183	①平和の意味、外交を通じた平和の実現の意義、日本の立場と役割について、実際の事象とも関連させながら理解する。 ②平和憲法をもつ日本として、国際平和に向けてどのような姿勢で何をなすべきか、多面的・多角的に考察し議論する。 ③拡大するサービス貿易、「プラットフォーム」の国境をこえた展開を例に、経済のグローバル化の現状と課題について理解する。 ④「プラットフォーム」の進出に伴う課題について、多面的・多角的に考察し議論する。	○	○	◎	
28	6	12月	貿易のしくみ 国際金融のしくみと動向	P184～189	①自由貿易と保護貿易、自由貿易の推進に向けた体制、国際収支統計の意味について、実際の経済的事象とも関連させながら理解する。 ②リカードの比較生産費説の概要、国際収支統計から分かる経済取引の状況について理解する。 ③為替のしくみと外国為替市場、国際通貨制度とその変化、国際金融の動向について、実際の経済的事象とも関連させながら理解する。 ④為替相場の変動が貿易取引や金融の動きにも影響を及ぼすことを理解する。	○	◎	○	
29	6	12月	グローバル化と今日の国際経済 国際経済の諸課題	P190～197	①現在の国際経済秩序とその動き、地域統合の歴史と現在、台頭する新興国の動きなどについて、実際の事象とも関連させながら理解する。 ②国際経済の秩序や動きは、経済だけでなく政治的な要因も含めて、さまざまな関係の中で展開していることを理解する。 ③南北問題の背景と推移、人口・食料問題、格差の是正に向けた取り組みについて、実際の事象とも関連させながら理解する。 ④構造的な問題としての南北問題、人口・食料問題の解決には、どのような取り組みが考えられるか考察し議論する。	○	○	◎	
30	—	—	探究のイメージをつかもう 探究プロセス	P198～211	①現代社会の諸課題について、探究的な課題を設定し、課題解決に向けて必要な情報を収集して分析したり、調べたりして考える。 ②探究の結果や自分の主張を、論拠を明確にして説明したり表現したりする。	○	◎	○	

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	政治・経済	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	政治や経済活動、税金の意義等を学習する。正解が一つではない社会課題を把握し、解決するための学習態度を身に付けながら、自立し主体的に生きる力や他者の意見をまとめる力を学ぶ。						
学習の到達目標	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について理解し、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を習得する。						
	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論を活用し、現実社会に見られる複雑な課題を把握する力や説明する力、身に付けた判断基準を根拠に構想する力、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。						
	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚を深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「2 東書 政経701 政治経済」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	－	－	オリエンテーション（学習の進め方）	－	①学習内容や、政治経済を学ぶうえでの到達目標を理解する。 ②学習の進め方を理解する。	－	－	－
2	1	5月	民主政治の基本原理	P6～25	①政治の役割や、民主政治において権力分がなぜ重要か理解する。 ②議院内閣制と大統領制の違いや各国の政治体制を理解し、よりよい民主政治のあり方について考える。	○	◎	○
3	1	5月	18歳からの社会参加① 18歳になるとできること	P14	①成年年齢が変更された背景について理解する。 ②青年をむかえたらどのような点に留意するべきか考える。	○	◎	○
4	1	5月	日本国憲法の制定と基本原理 平和主義	P26～47	①大日本帝国憲法および日本国憲法の特徴について理解する。 ②憲法改正に関する議論について考える。 ③憲法9条をめぐる意見の対立や、日本の安全保障体制の変化について理解する。 ④平和主義の下、今後の日本の安全保障はどうあるべきか考える。	○	◎	○
5	1	5月	基本的人権の保障	P31～41	①基本的人権と自分の生活との関係、新しい人権の確立が求められている背景について理解する。 ②「公共の福祉」という考え方は、どのような場合に適用されるべきか考える。	○	◎	○
6	1	5月	国会と立法 内閣と行政	P48～51 P62～55	①国会の権限や組織、運営について理解する。 ②日本の国会の課題を学び、課題の解決方法について考える。 ③内閣の権限、内閣と国会の関係について理解する。 ④日本の行政の課題を学び、課題の解決方法について考える。	◎	○	○
7	1	5月	裁判所と司法 地方自治	P56～61 P62～65	①司法権の独立の必要性、裁判のしくみ、裁判員裁判について理解する。 ②日本の司法の課題を理解し、どのように解決するか考える。 ③地方自治の規定や住民の権利について理解する。 ④日本の地方自治の課題を理し、どのように解決するか考える。	○	◎	○
8	2	6月	戦後政治と政党 選挙と政治意識	P66～73	①議会制民主主義において、政党が必要な理由や戦後日本の変化について理解し、現代の課題について考える。 ②日本の選挙制度の特徴や課題を学び、日本の選挙における低投票率を改善するにはどうすればよいか考える。	○	◎	○
9	2	6月	世論と政治参加	P74～77	①世論の形成過程や、NPOやインターネットが政治に与える影響について理解する。 ②日本の政治における争点や政治的意見を踏まえ、自分が賛同する政治的立場について考える。	○	◎	○
10	2	6月	18歳からの社会参加② 選挙権の行使に向けて	P78～79	①選挙権年齢引き下げの背景を理解する。 ②選挙権の行使に向け、政党や候補者の主張をどのように検討すべきか考える。	○	○	◎
11	3	6月	経済活動の意義 資本主義経済の発展と変容	P82～89	①希少性やトレードオフなど経済活動の基本原理について理解し、経済体制について学ぶ。 ②資本主義経済と社会主義経済の成立と発展について理解し、資本主義経済の課題について考える。	○	◎	○
12	3	7月	経済主体と経済の循環 生産のしくみと企業	P90～95	①家計と企業の経済活動や、経済循環について学ぶ。 ②企業の活動や、株式会社の特徴について理解し、現代の企業に求められているもとは何か考える。	○	◎	○
13	3	7月	市場経済の機能と限界 国民所得と経済成長	P101～104	①市場における価格の役割や、独占禁止法による規制の必要性について理解する。 ②経済活動の規模や変化をとらえる指標や、景気変動が起こる理由について理解する。 ③インフレーションやデフレーションが国民生活にどのような影響を与えるかを考える。	○	◎	○
14	3	7月	金融のしくみと機能 財政のしくみと機能	P105～111 P114～118	①金融の役割や、金融政策の手段について理解し、金融の自由化がすすめられ、日本経済にどのような影響を与えたかを考える。 ②財政の役割や、公平な税制のあり方について理解し、日本の財政の課題や、持続可能な租税のあり方について考える。	○	◎	○
15	3	7月	18歳からの社会参加③ ライフプランと金融	P112～113	①自分のライフプランを立て、それをもとにどの時期にどの程度の資金が必要か理解する。 ②金融商品を購入する際に、リスクとリターンをのどちらを重視すべきか考える。	○	◎	○

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	4	10月	戦後日本経済の発展 日本経済の現状 公害と環境保全	P119～130	①戦後復興から高度経済成長の終焉までの変遷と産業構造の変化について理解し、バブル経済が発生した理由と終わりを迎えた理由について考える。 ②2000年代以降に試みられた経済改革が日本社会に与えた影響について理解し、解決するにはどうすればよいか考える。 ③公害問題が発生する理由や、防止する方法について理解する。	○	◎	○
17	4	10月	農業・食糧問題 中小企業の現状と課題 情報化の進展と社会の変化	P131～137	①戦後日本の農業政策の展開や、林業や漁業が抱える課題について理解し、日本の農業と食料はどうあるべきか考える。 ②中小企業の地位や、抱える課題について理解し、日本経済の活性化のために、どのような中小企業政策が必要か考える。 ③情報化が社会にもたらすイノベーションや第4次産業革命が社会生活にもたらす変化について理解する。	○	◎	○
18	4	10月	消費者問題 雇用と労働問題 社会保障と福祉	P138～155	①消費者問題の発生理由や、消費者保護のための施策について理解し、消費者にはどのような知識や行動が求められるか考える。 ②労働問題の発生理由や憲法や法律が保障する労働者の権利について理解し、これからの日本の雇用のあり方について考える。 ③社会保障制度の発展・変化や、日本の社会保障制度の特徴と課題について理解する。	○	◎	○
19	4	10月	18歳からの社会参加⑤ 働き方について考える	P148～149	①自分に合った働き方を実現するためにはどのようなことに考慮すべきか理解する。 ②社会全体の労働条件を向上させるにはどうすればよいか考える。	○	◎	○
20	5	11月	少子高齢化における社会保障 地域社会の活性化	P158～161	①日本の子育て支援の現状について理解し、どうあるべきかについて考え、表現する。 ②地域社会の現状について理解し、その独自性を活かしながら活性化を図るにはどうすべきかについて考え、表現する。	○	◎	○
21	5	11月	多様な働き方・生き方の実現 中小企業の意義と諸課題	P162～165	①労働におけるジェンダー平等の現状について理解し、性別にかかわらず働きやすい労働環境はどうすればよいか考察し表現する。 ②日本の中小企業の強みと課題について理解し、強みを活かすにはどうすればよいか考え、表現する。	◎	○	○
22	5	11月	日本の財政の健全化 持続可能な食料・農業の実現 防災と安全・安心な社会の実現	P166～171	①日本の財政について理解し、どのような福祉国家をめざすべきか考え、表現する。 ②日本の農業の動向について理解し、農業を魅力ある産業にするにはどうすべきか考え、表現する。 ③日本が直面する災害と対策の現状について理解し、自分が暮らす地域の防災・減災対策について考え、表現する。	○	◎	○
23	5	11月	国際政治の特質 国際社会と国際法 国際連合の役割と課題	P174～181	①主権国家と国際社会の形成過程や特徴について理解する。 ②国際社会の秩序維持の要因や、国内法と比較した国際法の特徴について理解し、国際司法機関がどのような役割を果たしているか考える。 ③集団安全保障のしくみが必要とされた背景を理解し、国際連合の取り組みや課題について考える。	○	○	◎
24	5	11月	戦後国際関係の展開と日本 冷戦後の国際関係と日本 地域主義の動き	P182～192	①第二次世界大戦後の国際関係や、冷戦体制の変化について理解し、日本がどのようにして国際社会に復帰し、行動してきたか考える。 ②冷戦終結後の国際関係の変化や課題について理解し、日本は国際平和のためにどのように行動していくべきか考える。 ③世界で地域主義が進んでいる理由を理解し、日本はどのようにかわっていくか考える。	○	○	◎
25	6	12月	軍縮の動向と課題 紛争・難民・テロリズム 国際社会における日本の役割	P193～203	①核抑止体制の問題点や、軍縮をめぐる現在の動向について理解し、日本は唯一の被爆国として、軍縮にどのように取り組むべきか考える。 ②国境を超えたテロリズムが多発している理由について理解し、地域紛争を予防し解決するためにはどうすればよいか、日本は難民問題についてどのように向き合うべきかを考える。	○	◎	○
26	6	12月	貿易と国際収支 戦後国際経済体制の展開 発展途上国の経済	P206～219	①貿易の意義や、国際収支の各項目に反映される経済取引について理解し、為替レートがどのような要因によって変動するか考える。 ②国際通貨体制の変遷や、地域経済統合などが自由貿易の進展にどのような影響を与えるか考える。 ③南北問題の解消に向けた取り組みや、新興経済諸国の現状について理解する。	○	◎	○
27	6	12月	グローバル化する世界経済 地球環境問題 資源・エネルギー問題 人口・貧困・感染症	P220～235	①経済のグローバル化の進展や、近年の国際金融の変化について理解し、どのような課題を抱えているか考える。 ②地球環境問題や、国際社会の利害対立について理解し、持続可能な社会の形成に向けて国際社会はどのように取り組むべきか考える。	○	○	◎
28	6	12月	グローバル化にともなう社会変容 地球環境と資源・エネルギー問題 国際的な経済格差の是正 イノベーションの促進と成長市場	P238～245	①日本の多文化共生をめぐる状況について理解し、実現のためにはどうすればいいか考え、表現する。 ②地球温暖化対策の現状について理解し、食い止めるためにはどうすればいいか考え、表現する。 ③貧困と開発援助の現状について理解し、貧困削減にはどのような開発援助が有効か考え、表現する。 ④医療のイノベーション現状について理解し、促すためにはどうすればいいか考え、表現する。	○	◎	○
29	6	12月	民族問題と紛争の解決 持続可能な社会の実現	P246～249	①パレスチナ問題の経緯と現状について理解し、解決には何が必要か考える。 ②SDGs達成にむけた取り組みについて理解し、達成にむけて自分たちに何が出来るか考え、表現する。	○	◎	○
30	—	—	SDGs達成に向けて 自分のできることを考える	—	①政治・経済の授業で理解した知識や情報をもとに、よりよい未来の実現のために何ができるか考え、表現する。	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	数学Ⅰ	スクーリング回数	3	レポート回数	9	単位数	3
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について基本的な概念や原理・方法を体系的に学ぶ。						
学習の到達目標	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題についてデータの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「704 数学Ⅰ」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	－	－	オリエンテーション	P4～P29	学習内容や到達目標を理解する。 学習の進め方を理解する。	－	－	－
	2	5月	文字を使った式	P32～P33	文字を使った式の表し方の約束を確認し、正しく文字式を扱うことができるようにする。	㊟	○	○
多項式と単項式			P34～P35	単項式、単項式の次数、係数、多項式、項、定数項、同類項、多項式の次数、n次式など、式についての用語の意味を理解し、多項式を整理するなかで、式についての見方を豊かにする。	㊟	○	○	
多項式の計算（１）（２）			P36～P39	多項式と数のかけ算、多項式の加法・減法の仕組みを理解し、それらの計算ができるようにする。 指数法則、単項式の乗法について理解し、さらに分配法則を用いて多項式を展開することができるようにする。	㊟	○	○	
乗法公式			P40～P41	乗法公式について理解し、乗法公式が利用できるようにする。	○	㊟	○	
因数分解（１）			P42～P43	分配法則や乗法公式を逆に用いて因数分解することについて理解し、因数分解の公式が利用できるようにする。	㊟	○	○	
因数分解（２）			P44～P45	x^2 の係数が1以外の多項式を因数分解することができるようにする。	㊟	○	○	
展開、因数分解の工夫と利用			P46～P47	式の一部を1つの文字に置き換えて考えるなど、見通しをもって多項式を展開、因数分解することができるようにする。	○	㊟	○	
5	2	5月	平方根	P48～P49	平方根について理解できるようにする。	㊟	○	○
根号を含む式の計算			P50～P53	根号を含む式の基本的な計算をすることができるようにする。また、分母の有理化について理解し、それを活用できるようにする。	㊟	○	○	
					㊟	○	○	
6			数の分類 分数と少数	P54～P57	自然数、整数、有理数、無理数の意味を理解して、それらを区別できるようにする。さらに、実数について理解できるようにするとともに、数を拡張することに関心をもつようにする。 有限小数、循環小数について理解し、有限小数になる分数を判断できるようにする。また、循環小数を記号を用いて表すことができるようにする。	㊟	○	○
7	3	6月	1次方程式	P58～P59	1次方程式について理解し、1次方程式を解くことができるようにする。また、1次方程式を利用して身近な問題を解決することができるようにする	㊟	○	○
			不等式	P60～P61	不等号の意味を理解し、数量の大小関係を不等式で表すことができるようにする。	㊟	○	○

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
8	3	6月	不等式の性質 不等式の解	P62～P65	不等式を調べることによって、不等式の性質を理解できるようにする。 不等式の解の意味を理解し、不等式の性質を用いて不等式を解くことができるようにする。	◎	○	○
不等式の解の解き方			P66～P67	不等式の性質を用いて不等式を変形し、解くことができるようにする。また、1次不等式を利用して、文章題を解決することができるようにする。	○	○	◎	
2次方程式との解き方			P68～P69	2次方程式について理解し、平方根の考え、因数分解を用いて2次方程式を解くことができるようにする。	◎	○	○	
2次方程式の解の公式			P70～P71	解の公式を用いて2次方程式を解くことができるようにする。	◎	○	○	
10	4		関数 1次関数とグラフ 2次関数とグラフ	P74～P81	変化する2つの変量の関係を表す方法として、関数の概念を理解できるようにする。 1次関数のグラフをかき、変化の様子を捉えることができるようにする。 具体的な事象から2次関数の概念を理解できるようにする。また、2次関数のグラフの特徴を理解し、2次関数のグラフをかくことができるようにする。	○	◎	○
			グラフに平行移動	P82～P85	関数 $y = (ax)^2$ のグラフをx軸方向やy軸方向に平行移動したグラフをかくことができるようにする。	○	○	◎
11	5	7月	$y = (ax)^2 + bx + c$ のグラフ	P86～P91	2次関数 $y = (ax)^2 + bx + c$ を $y = a(x - p)^2 + q$ の形に変形し、軸と頂点を求めてそのグラフをかくことができるようにする。	○	◎	○
2次関数の最大値・最小値			P92～P95	2次関数の最大値・最小値についてグラフを利用して理解し、それらの値を求めることができるようにする。また、それを利用して身近な問題を解決することができるようにする。	○	○	◎	
2次関数のグラフと2次方程式			P96～P97	2次関数のグラフと2次方程式の解の関係を理解し、グラフとx軸の共有点のx座標を求めることができるようにする。また、式の見方を豊かにするとともに、グラフを活用することのよさを認識する。	○	◎	○	
2次関数のグラフと2次不等式			P98～P99	2次関数のグラフと関連させて、2次不等式を解くことができるようにする。	◎	○	○	
13	いろいろな2次不等式		P100～P101	2次関数のグラフとx軸の共有点の位置関係から2次不等式の解の意味を理解し、グラフを利用して2次不等式を解くことができるようにする。	◎	○	○	
○		◎			○			
14	—	—	課題学習	—	身近な問題を解決することに、不等式を活用することができるようにする。	○	○	◎
			課題学習	—	身近な問題を関数の問題として捉え、2次関数の最大値・最小値を活用して解決することができるようにする。	○	○	◎
15	—	—	試験対策	—	復習プリントで学習を進める。	○	○	◎
			試験対策	—	復習プリントで学習を進める。	○	○	◎
16	6	10月	三角形 タンジェント	P104～P107	相似な三角形の性質を理解し、辺の長さを求めることができるようにする。また、三平方の定理を理解し、直角三角形の辺の長さを求めることができるようにする。 タンジェントの意味を理解し、直角三角形の辺の長さからその値を求めることができるようにする。	○	○	◎
			サインとコサイン	P108～P109	サイン、コサインの意味を理解し、直角三角形の辺の長さからその値を求めることができるようにする。また、30°、45°、60°の三角比の値を求めることができるようにする。	○	◎	○
三角形の利用			P110～P113	三角比の表の利用の仕方を学び、三角比の表を活用して三角比の値を求めることができるようにする。また、三角比を利用して具体的な場面の問題を解くことにより、三角比の有用性を認識する。	◎	○	○	
三角比の相互関係 90° - Aの三角比			P114～P116	三角比の相互関係について理解し、1つの三角比の値から他の2つの三角比の値を求めることができるようにする。 90° - Aの三角比の値を求めることができるようにする。	◎	○	○	

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
18	7	10月	三角形の面積 正弦定理	P117～P119	与えられた辺の長さや角の大きさから、三角形の面積を求めることができるようにする。 正弦定理を理解し、図形の計量の際に有効に活用することができる。	◎	○	○
			余弦定理	P120～P121	余弦定理を理解し、図形の計量の際に有効に活用することができる。	◎	○	○
19			鈍角の三角比 三角比の相互関係	P122～P125	座標を用いて定めることで0° から180° までの角に対するものに拡張された三角比を理解し、その値を求めることができるようにする。 角が鈍角の場合も三角比の相互関係が成り立つことを理解できるようにする。また、180° -θ の三角比の値を求めることができるようにする。	○	◎	○
			鈍角の三角比の利用	P126～P127	角が鈍角の場合も正弦定理、余弦定理、三角形の面積の公式が成り立つことを理解し、図形の計量の際に有効に活用することができるようにする。また、三角比を空間図形の計量に活用することができるようにする。	○	○	◎
20	8	11月	データにもとづいた問題解決の進め方	P130～P131	統計的探求プロセスを意識した統計的問題解決の活動について理解できるようにする。	○	○	◎
			データの特徴の調べ方	P132～P135	データや階級、度数、階級値、度数分布表、累積度数、ヒストグラム、相対度数、累積相対度数の定義や意味を理解し、目的やデータに応じて、度数分布表、ヒストグラムなどに表すことができるようにする。	◎	○	○
21			代表値	P136～P137	データの特徴を1つの数値によって表せることを理解し、それを平均値、中央値、最頻値などの代表値で表すことができるようにする。	◎	○	○
			四分位数と箱ひげ図	P138～P139	データの散らばり具合を表す四分位数、四分位範囲の定義や意味を理解できるようにする。また、それを箱ひげ図に表すことができるようにする。	◎	○	○
22			分散と標準偏差	P140～P141	分散、標準偏差を理解し、それを求めることができるようにする。	○	◎	○
			相関関係	P142～P143	相関関係について理解できるようにする。	◎	○	○
23			相関係数	P144～P145	相関関係の強弱を表す相関係数について理解し、相関の強さが表せることの有用性を認識できるようにする。	◎	○	○
	データにもとづく考え方	P146～P147	仮説検定の考え方を理解できるようにするとともに、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができるようにする。	○	○	◎		
24	9	12月	集合	P150～P153	部分集合、全体集合、補集合、共通部分、和集合などの集合の表し方、用語、記号を、図を用いて理解し、記号を使って表すことができるようにする。	○	◎	○
			命題と集合	P154～P157	命題の真偽と反例を考えることができるようにする。また、必要条件、十分条件、必要十分条件の意味を知り、さらに図表示による包含関係と関連づけて理解できるようにする。	◎	○	○
25			命題と証明	P158～P160	命題の逆、裏、対偶について理解し、対偶を利用した証明法や背理法による証明法を学び、論理的な思考力を養う。	◎	○	○
						○	○	◎
26	—	—	課題学習	—	三角比を利用して、条例の基準をみたす傾斜路のこう配について考察することができるようにする。	○	○	◎
			課題学習	—				
27	—	—	課題学習	—	得点、失点、勝点について、それぞれの相関関係を調べ、上位の成績を得るために有効な開い方を考察することができるようにする。	○	○	◎
			課題学習	—				
28	—	—	レポート振り返り	—	提出したレポートの振り返りを行う。	○	○	◎
			レポート振り返り	—	提出したレポートの振り返りを行う。	○	○	◎
29	—	—	試験対策	—	復習プリントで学習を進める。	○	○	◎
			試験対策	—	復習プリントで学習を進める。	○	○	◎
30	—	—	試験対策	—	復習プリントで学習を進める。	○	○	◎
			試験対策	—	復習プリントで学習を進める。	○	○	◎
備 考			・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。					

《通信教育実施計画》

授業科目名	数学A	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・方法を体系的に学ぶ。						
学習の到達目標	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。						
	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。						
	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「704 数学A」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習に 取り組む 態度
1	-	-	オリエンテーション	-	①学習内容や到達目標を理解する。 ②学習の進め方を理解する	-	-	-
2	1	5月	①集合 ②集合の要素と個数	P4～7	①部分集合、全体集合、補集合、共通部分、和集合などの集合の表し方、用語、記号を、図を用いて理解し、記号を使って表すことができる。 ②補集合、和集合について、集合の要素の個数を求めることができる。	◎	○	○
3			①個数の数え方 ②和の法則と積の法則	P8～11	①具体的な事象に関する場合の数を樹形図や表に整理して調べることができる。 ②和の法則や積の法則など数え上げの原則について具体例を用いて理解し、場合の数を効率よく求めることができる。	◎	○	○
4			①順列 ②順列の利用	P12～15	①樹形図を利用して順列の意味を理解し、その総数を求めることができる。 ②順列の考え方をいろいろな場面に利用して、条件のついた順列の総数を求めることができる。	○	◎	○
5			①いろいろな順列 ②組み合わせ	P16～19	①重複順列、円順列の意味を理解し、その総数を求めることができる。 ②組合せの意味や性質を理解し、その総数を求めることができる。	○	◎	○
6			組み合わせの利用	P20～21	組合せの考え方をいろいろな場面に利用して、組合せの総数を求めることができる。	○	○	◎
7	2	6月	①事象と確率 ②確率の計算	P22～25	①試行と事象、事象の確率について学び、確率の意味を知り、基本的な確率を求めることができる。 ②場合の数をもとに、確率を求めることができる。	○	◎	○
8			排反事象の確率	P26～27	確率の加法定理を理解し、排反事象の確率を求めることができる。	◎	○	○
9			余事象の確率	P28～29	余事象の確率を求めることができる。	◎	○	○
10	3	7月	独立な試行の確率	P30～31	独立な試行の意味を理解し、簡単な独立な試行の確率を求めることができる。	◎	○	○
11			反復試行の確率	P32～33	反復試行について理解し、簡単な場合の反復試行の確率を求めることができる。	◎	○	○
12			条件つき確率	P34～35	条件つき確率の意味を理解する。また、確率の乗法定理を理解し、活用できる。	○	○	◎
13			期待値	P36～37	期待値を求めることができる。また、期待値を意思決定に活用することができる。	○	○	◎
14	-	-	課題学習	-	身近な問題を解決するとともに、期待値ができるようになる。	○	○	◎
15	-	-	試験対策	-	レポート復習プリントで学習を進め、定期試験に向けた準備をする。	○	○	◎

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	4	10月	①直線と角 ②多角形の角 ③三角形の合同と相似	P40～45	①平行線と角の関係を理解し、これらを利用して角の大きさを求めることができる。 ②多角形の内角、外角の性質を理解し、これらを利用して角の大きさを求めることができる。 ③三角形の合同条件、相似条件を理解し、これらを利用して辺の長さや角の大きさを求めることができる。	㊦	○	○
17			①基本の作図 ②作図の利用	P46～49	①垂直二等分線、垂線、角の二等分線の作図方法を理解し、その作図ができる ②図形の性質を利用した平行線やいろいろな大きさの角を作図する方法を理解し、目的に合った図形を作図することができる。	○	㊦	○
18			①三角形と比 ②三角形の重心	P50～53	①三角形と比の性質や中点連結定理を理解し、それを用いて線分の長さを求めることができる。 ②三角形の重心の性質を利用して、線分の長さや角の大きさを求めることができる。	○	○	㊦
19			①三角形の外心・内心 ②角の二等分線と線分の比	P54～57	①三角形の外心、内心の性質を利用して、線分の長さや角の大きさを求めることができる。 ②三角形の角の二等分線と線分の比に関する定理を理解し、それらを用いて線分の長さを求めることができる。	○	㊦	○
20			①円の接線 ②円周角の定理	P58～61	①円の接線の性質、接線の長さについて理解し、それらを利用して、接線の長さや三角形の辺の長さを求めることができる。 ②円周角の定理を理解し、それを利用して角の大きさを求めることができる。また、円周角の定理の逆を理解し、4点が同一円周上にあるかどうか判断することができる。	○	㊦	○
21			①円に内接する四角形 ②接線と弦のつくる角	P62～65	①円に内接する四角形の性質を理解し、それを利用して角の大きさを求めることができる。また、四角形が円に内接する条件を利用して、四角形が円に内接するかどうか判断することができる。 ②接線と弦のつくる角の定理を理解し、それを利用して、角の大きさを求めることができる。	○	㊦	○
22			①方べきの定理 ②2つの円	P66～69	①円と2本の直線がつくる線分の長さの関係を考察し、方べきの定理が成り立つことを理解し、長さを求めることができる。 ②2つの円の位置関係を考察できる。	○	○	㊦
23			①直線や平面の位置関係 ②多面体	P70～75	①2直線、2平面、直線と平面の位置関係を理解する。 ②多面体、正多面体を理解し、オイラーの多面体定理に触れ、空間図形に対する見方を豊かにする。	○	㊦	○
24	5	11月	①数を表す ②数の表し方のしくみ	P78～81	①古代の人々の記数法や漢数字による記数法について理解する。 ②10進法、2進法の数の表し方のしくみを調べ、法則を見つけることができる。	㊦	○	○
25			① 2進数 ②位置を表す	P82～85	①2進法と10進法の変換を行うことや2進法と10進法を対比してみることで、記数法に対する理解を深めることができる。また、2進法で表された数の計算ができる。 ②平面上の点の位置を表す座標の考え方を理解する。また、その考えを空間内の座標へ拡張し、空間内の点の位置を表すことができる。	○	○	㊦
26	6	12月	①約数と倍数 ②最大公約数と最小公倍数 ③ユークリッドの互除法	P86～91	①約数、倍数、素数、素因数分解などの整数に関する基本的概念について理解し、約数、倍数を求めたり、素因数分解したりすることができる。 ②素因数分解を利用して最大公約数、最小公倍数を求めることができる。 ③ユークリッドの互除法を理解し、これを用いて2つの正の整数の最大公約数を求めることができる。	○	㊦	○
27			①測る ②量る	P92～95	①長さや面積の単位を調べることで。また、タレスのピラミッドの高さの測量を通して、図形の性質や三角比を用いた測量の方法について考察することができる。 ②体積や重さの単位を調べることで。	○	㊦	○
28			①計る ②数で遊ぶ（魔方陣） ③図形で遊ぶ	P96～101	①古代の人々の時計や、暦（うるう年）について理解する。また、うるう年を決めた理由を考えることができる。 ②魔方陣のしくみや解き方を筋道立てて考えることができる。また、魔方陣をつくることができる。 ③これまでに学んだことを用いて図形の不思議を解明する。また、新しいパズルをつくることができる。	○	○	㊦
29			①規則性で遊ぶ ②論理で遊ぶ（帽子の色あて） ③和算で遊ぶ（塵劫記）	P102～108	①ハノイの塔の問題を解くことで、規則性を考えることのよさを知ることができる。 ②帽子の色あてパズルを解くことで、論理的に考えることのよさを知ることができる。 ③「塵劫記」の問題を通して、数学と文化の人間との関わりについての認識を深めることができる。	○	○	㊦
30	-	-	試験対策	-	レポート復習プリントで学習を進め、定期試験に向けた準備をする。	○	○	㊦

備 考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	--

《通信教育実施計画》

授業科目名	科学と人間生活	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	自然に対する理解や科学技術の発展がこれまで私たちの日常生活や社会にいかにより影響を与え、どのような役割を果たしてきたかについて学ぶ。「生物」「化学」「物理」「地学」を総合的に学ぶ。						
学習の到達目標	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。						
	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。						
	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「科学と人間生活」（科人701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
1	—	—	オリエンテーション	—	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	—	—	—
2	1	5	1編 生命の科学 1章 微生物とその利用 ・身のまわりの微生物	P16～19	・カビは微生物であることを知り、微生物とはどのような生物かに問題を見いだす。 ・身のまわりにさまざまな微生物が存在することを知る。 ・食品中、水中、空気中の微生物を観察し、それぞれの細胞の大きさや形について考察する。 ・細菌、アーキア、原生生物、菌類に属するさまざまな微生物について理解する。 ・実生活において微生物により引き起こされる現象を考えてみる。	◎		○
3	1	5	・生態系における微生物のはたらき ・微生物のはたらきと炭素の循環 ・窒素と微生物のはたらき	P20～25	・生態系における微生物の役割について考え、微生物は有機物を分解する分解者としての役割を果たしていることを理解する。 ・生態系における微生物のはたらきと炭素の循環について理解する。 ・根粒菌が大気中の窒素ガスから窒素化合物を合成していることを理解する。 ・生態系における微生物のはたらきと窒素の循環について理解する。	◎	○	
4	1	5	・水中の微生物のはたらき ・食塩と微生物 ・発酵のしくみ	P28～35	・微生物を利用して、環境の浄化が行われていることを理解し、その利点を考える。 ・発酵や腐敗が微生物のはたらきによって起こることを理解する。 ・酵母による発酵はどのような反応で、どのような温度条件のときに盛んに行われるかを調べ、酵母によって糖がエタノールと二酸化炭素に分解されることを捉える。 ・抗生物質以外にも、微生物から有用な医薬品がつくられていることを理解する。	○		◎
5	2	6	1編 生命の科学 2章 ヒトの生命現象 ・視覚とは何か ・光の受容と視覚の成立 ・ヒトの眼球の構造	P40～43	・眼の網膜で受容した光の刺激を脳で処理することにより視覚が生じることを理解する。 ・錯覚、錯視について知る。 ・ヒトの眼の構造を理解する ・近くを見るときと遠くを見るときの調節のしくみを理解する。	○		○
6	2	6	・2種類の視細胞 ・血糖とは何か ・血糖濃度の調節、ホルモンによる血糖濃度の調節 ・血糖濃度の調節のしくみ	P46～51	・2種類の視細胞のはたらきを理解する。 ・ふだんの食事のメニューを想起し、エネルギー源である炭水化物は体内でどのように利用されているかについて問題を見いだす。 ・血糖濃度を調節するためにインスリンやグルカゴンがはたらいていることを知る。 ・血糖濃度を調節するためにインスリンやグルカゴンがはたらいていることを知る。 ・食事の前後の血糖濃度、インスリン濃度、グルカゴン濃度のデータから、それらのはたらきについて考察する。 ・血糖濃度を調節するためのしくみについて理解する。	○	◎	○
7	2	6	・感染症から体を守るしくみ ・免疫のしくみと日常生活	P52～57	・うがいや手洗いの重要性について考え、病原体から体を守るためのしくみについて問題を見いだす。 ・免疫とリンパ球のはたらきについて理解する。 ・抗原抗体反応のしくみと特徴について理解する。 ・予防接種の意味を考え、予防接種で感染症を予防するしくみについて理解する。 ・免疫反応によってアレルギーが引き起こされることがあることを理解する。		◎	
8	2	6	・遺伝子とDNA ・DNAの遺伝情報からタンパク質へ	P58～63	・DNAの構造や遺伝子とDNAとの関係について理解する。 ・タンパク質はアミノ酸がつながってできていること、タンパク質によってアミノ酸の並び方は決まっていることを理解する。 ・NAの塩基配列からタンパク質がつくられる過程について考え、理解する。	○		◎
9	3	7	2編 物質の科学 1章 材料とその再利用 ・金属の性質 ・金属が電気を通すのはなぜだろうか	P70～81	・金属に特有の性質について理解する。 ・金属の構造について理解し、それを基に金属特有の性質について考える。	◎		
10	3	7	・異なる金属の区別 ・性質の違いによる金属の分類 ・金属を区別するにはどのような方法があるだろうか	P73～74	・金属の分類について理解する。 ・金属を区別するための方法を考えて実験を計画し、アルミニウム、鉄、銅の性質をさまざまな方法で調べる。 ・実験結果を基に考察し、金属の種類による物理的な性質および化学的な性質の違いについて理解する。	○	◎	
11	3	7	・プラスチックの性質と分類 ・プラスチックの構造	P82～89	・プラスチックの原料について理解する。 ・モノマーとポリマー、重合（付加重合、縮合重合）など、プラスチックの構造について理解する。 ・尿素樹脂を合成する。 ・さまざまな機能をもつプラスチックが開発、利用されていることを知り、それらと人間生活とのかかわりについて考える。	○		◎
12	3	7	・プラスチックの再生利用（リサイクル）の基本	P90～91	・プラスチックの再生利用の重要性について考えるとともに、プラスチックのマテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、サーマルリサイクルについて理解する。	○	◎	○
13	—	—	実験① 自作の顕微鏡を作って観察してみよう	P26	・P26のちょこラボを参考に自作の顕微鏡を作り、身の回りの物を観察してみる。			◎
14	—	—	実験② DNA抽出をしてみよう	P59	・P59の観察・実験の部分を参考に様々な生物に含まれるDNAを抽出する。実験を通しながら器具の使い方や、理科実験の基礎的な部分、まとめ方などを身に付ける。	○		◎
15	—	—	実験③ ペットボトルのマテリアルリサイクル実験	P91	・P91のちょこラボを参考にペットボトルより繊維を作ってみる。作った繊維を活用し制作物を作ってみる。	○		◎

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	4	10	2章 衣料と食品繊維の種類と性質 ・繊維の種類	P96 P102～103	- 植物繊維がセルロースから、動物繊維がタンパク質からできていることを理解する。 - さまざまな天然繊維の特徴と用途について理解し、それぞれがなぜその用途で利用されているのかを考える。 - 合成繊維は石油を原料とすることや、モノマーとポリマー、重合（付加重合、縮合重合）について理解する。また、さまざまな合成繊維の大きなことと欠点、性質と用途について知る。 - 再生繊維や半合成繊維の原料と用途について理解する。	◎		
17	4	10	脂質の性質 ・油脂の構造と性質 ・油脂の分解	P108～P109	- 油脂の構造と性質について理解する。 - エステルの加水分解と油脂のけん化について理解する。	○		◎
18	5	11	3編 光や熱の科学 原子や分子の熱運動 ・ブラウン運動と熱運動 ・熱運動による現象 ・温度の表し方	P140～141	- 温度による水の状態変化を基に、温度による物質の状態変化と原子や分子の動きとの関係について問題を見いだす。 - 原子や分子の熱運動と温度との関係について理解する。 - 温度の表し方であるセ氏温度や絶対温度について理解する。	◎	○	○
19	5	11	- 温度の異なる物体間での熱の移動 - 物体の温度変化に必要な熱量	P142～145	- 熱平衡、熱量、熱容量について理解する。 - 水と鉄を用いて物質の温まりやすさを調べる。 - 実験結果を基に、物質の種類や質量によって温まりやすさに違いがあることを捉え、比熱について理解する。 - 水の比熱が大きいことと人間生活とのかわりについて理解を深める。 - 熱量の保存について理解する。	◎	○	○
20	5	11	- 温度の異なる物体間での熱の移動 - 物体の温度変化に必要な熱量	P142～145	- 熱量の保存について理解する。 - 計算演習を何度か実施し、熱量の計算式を身に着ける。また、概念を理解する。	◎	○	○
21	5	11	・可逆変化と不可逆変化	P148～153	・熱現象の可逆変化と不可逆変化について理解する。	◎		
22	5	11	- エネルギーの有効利用 - 太陽エネルギーの利用	P154～P155	- エネルギーの有効利用に興味をもち、さまざまな事例を基に理解を深める。 - 太陽エネルギーの特徴について考え、太陽光発電などへの理解を深める。 - 原子や分子の熱運動と温度との関係について理解する。 - 地球環境を保全するためのエネルギーの有効利用について調べ、科学技術のあり方について判断するために必要な態度を身につける。	○		◎
23	6	12	4編 宇宙や地球の科学 1章 太陽と地球 ・太陽がつくる1日、そして1年 ・月がつくるひと月	P160～P165	- 同じ時刻に太陽や月が見える方位は日によって変化するかを考え、太陽や月の日周運動について問題を見いだす。 - 地球の自転と公転によって、1日や1年が定義されていることを理解する。 - 月の見え方とひと月、暦の関係を理解する。	○		◎
24	6	12	- 潮の満ち干と月 - 潮位の変動と周期性	P160～P170	- 潮位のデータを基に、潮位の変化の規則性について考察する。 - 潮の満ち干と月の引力との関係について考え、理解する。 - 太陽、地球、月の位置関係と潮位の変動との関係について考え、潮位の変動の周期性について理解する。	○	○	◎
25	6	12	- 太陽のエネルギー源 - 太陽活動の変動 - 大気の構造 - 空気の性質と対流圏	P166～P171	- 既習の内容や生活経験などを基に、太陽が暖かく感じる理由に問題を見いだす。 - 太陽のエネルギー源、太陽活動の変動、太陽の放射エネルギーについて知る。 - 大気の構造や空気の性質について理解する。 - 緯度による太陽の熱の入射量の違いと地球の自転によって大気の流れができることを理解し、大気の大循環を理解する。	○		◎
26	6	12	1年を通じた大気の運動と気象災害 ・地球の公転による四季の変化 ・季節による世界の気圧分布と日本への影響 ・停滞前線のつくる長雨 ・台風	P166～P171	- 地球の公転と自転軸の傾きによって季節が生じることを理解する。 - 気圧分布や大気の流れと各季節の気象との関係を理解する。 - 熱帯低気圧の経路図を基に、台風の発生場所と移動経路の特徴について考察する。 - 台風や集中豪雨などによって災害が起こることがあることを理解する。		○	◎
27	—	—	実験⑤ 水害や土砂災害が起こりやすい地形を調べよう オリジナルハザードマップの制作①	P190～P205	- 台風や低気圧などの大雨によるさまざまな災害について理解する。 - 暴風や雷、大雪などによっても気象災害が起こることを知る。	◎	○	
28	—	—	実験⑤ 水害や土砂災害が起こりやすい地形を調べよう オリジナルハザードマップの制作②	P190～P205	- ハザードマップと地形図を比較して水害や土砂災害が起こりやすい地形を調べ、それらが起こりやすい地形の特徴を捉える。 - 気象災害に対する防災・減災のための取り組みや課題について知り、自分たちにできることはあるか考える。 - 学んだことを生かして、身近な地域で起こった気象災害について考える。	○		◎
29	—	—	実験⑤ 水害や土砂災害が起こりやすい地形を調べよう オリジナルハザードマップの制作③ 発表	P190～P205	- 自然災害を軽減するために自分たちにできることについて問題を見いだす。 - 気象に関する注意報と警報について理解し、それらが発令された際の行動について考える。 - 自然災害に対する防災・減災のための取り組みへの科学技術の重要性和限界について捉え、自分たちにできることを考える。	○	◎	○
30	—	—	実験⑧ 課題や仮説の設定、検証計画の立案	P210～221	- これまでの学習を振り返り、興味や関心をもったことやもっと調べてみたいことがあるか考える。 - 自然や科学技術と人間生活とのかわりについて、調べる課題を設定する。 - 設定した課題を基に、仮説や調べる計画を立てる。		◎	○

備 考	年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	--

《通信教育実施計画》

授業科目名	化学基礎	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則を学ぶ。当科目は「化学と人間生活」、「物質の構成」、「物質の変化とその利用」の3つの大項目から構成されている。						
学習の到達目標	(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けられるようにする。						
	(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。						
	(3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編化学基礎」（東書702）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	—	—	オリエンテーション	—	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	—	—	—
2	1	5月	1編2章 1節物質の成分 A純物質と混合物 B混合物の分離と精製	12～17	・身のまわりの物がどのような物質から構成されているかを考える。 ・純物質と混合物の性質を理解する。 ・混合物から成分となる物質を分離する方法があり、それは物質の性質によるものであることを理解する。	◎		○
3	1	5月	1編2章 2節物質の構成元素 A元素 B単体と化合物 C元素の確認	18～23	・物質を構成する元素は、約120種類あることを知る。 ・純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。 ・元素を確認する方法に、炎色反応や沈殿の生成があることを理解する。 ・元素の同素体について説明する。	◎	○	○
4	1	5月	1編2章 3節物質の三態 A粒子の熱運動 B物質の三態と状態変化	24～27	・物質には三態があり、それぞれの状態のとき、物質を構成する粒子がどのように運動しているか推察する。 ・状態変化によって物質の体積がどのように変化するか確認し、粒子のふるまいと関係について考察する。 ・物理変化と化学変化、状態変化の違いを理解する。 ・状態変化には粒子の熱運動が関係していることを理解する。	○	◎	○
5	2	6月	2編1章 1節原子の構造 A原子の構造 B同位体	34～39	・物質を構成する粒子が原子であることに気づく。 ・原子の大きさや構造について知る。 ・原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・原子番号は、原子に含まれる陽子の数であることを知る。 ・質量数が陽子の数と中性子の数であることがわかり、同じ原子であっても質量数の異なるものがあることに気づく。 ・放射性同位体が年代測定や医療などに使われていることを知る。	◎	○	○
6	2	6月	2編1章 2節電子配置と周期表 A原子の電子配置 B元素の周期表	40～45	・原子のモデルを用いて原子核の周囲に電子数があることに気づく。 ・電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 ・貴ガスの性質から閉殻を知り、極めて安定な電子配置があることに気づく。 ・最外殻電子と価電子を知る。また貴ガスの場合はこれらの示しているものが違うことを知る。 ・電子配置は原子番号の順に規則正しく変化することを理解する。	○	◎	○
7	—	—	1編および2編1章2節電子配置と周期表 のまとめ	28～30、46～47	・各章のまとめや章末確認問題を参考に、今までの学習成果を確認する。	○		◎
8	3	7月	2編2章 1節イオンとイオン結合 Aイオンの生成 Bイオン化エネルギー	48～51	・電子配置からイオンの生成を理解する。 ・イオン化エネルギーの周期性に気づき、教科書p.42図10などを参考にしながら、典型元素の陽性と陰性について理解する。 ・単原子イオンと多原子イオンの違いを説明できる。	◎		○
9	3	7月	2編2章 1節イオンとイオン結合 Cイオン結合とイオン結晶	52～55	・イオン結合の形成について理解する。 ・イオンからなる物質の組成式およびイオン結晶の性質を理解する。またそれらが身近に使われている用途を知る。	◎		○
10	3	7月	2編2章 2節分子と共有結合	56～61	・分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 ・身近な高分子化合物の構造について知る。 ・配位結合の形成を理解し、錯イオンについて知る。	◎		
11	3	7月	2編2章 2節分子と共有結合	62～67	・分子の融点、沸点、水への溶解性から構成原子の電気陰性度が影響していることに気づく。結合の極性を知り、極性分子と無極性分子について理解する。 ・分子の性質と溶解性の違いを確認する。 ・分子結晶の性質、共有結合の結晶の性質の違いを比較しながら理解する。	○	◎	○
12	3	7月	2編2章 3節金属と金属結合	68～71	・金属は、金属元素の原子が規則正しく配列してできた結晶であることを知る。 ・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 ・金属の性質について理解する。	◎		○
13	3	7月	2編2章 4節化学結合と物質の分類	72～73	・結合の種類から物質の大きな性質について分類し考察する。 ・周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。		◎	○
14	—	—	2編2章化学結合 のまとめ	74～77	・各章のまとめや章末確認問題を参考に、今までの学習成果を確認する。	○		◎
15	—	—	実験「氷を使わないアイス作り」 実験「水性サインペンの色素を分離してみよう」	17、194	・実験をする前に、実験を行う際の注意事項などを把握する。		○	◎

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	4	10月	3編1章 1節原子量・分子量・式量 A原子の相対質量 B原子量 C分子量・式量	82～85	・原子1個の質量は極めて小さいため、原子の相対質量とは基準として決められたある原子の質量との比較で求めた相対質量であることを知る。 ・身近な粒の質量測定から相対質量を考える。 ・天然に存在する多くの元素には一定の割合で同位体が存在するため、原子量はその加重平均の値であることを理解する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。	◎	○	○
17	4	10月	3編1章 2節物質質量 Aアボガドロ数と物質質量	86～87	・粒子の数に基づく量の表し方が物質質量であることを知る。 ・物質量とその単位のmolの関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。	◎		
18	4	10月	3編1章 2節物質質量 B1 molの気体の体積	88～91	・物質量と気体の体積との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。気体の密度と分子量、空気の平均分子量について理解する。 ・物質量を中心とした量的関係を理解する。	◎	○	○
19	4	10月	3編1章 3節溶液の濃度	92～93	・モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。	◎	○	○
20	4	10月	3編1章 4節化学反応の表し方 3編1章 5節化学反応の表す量的関係	94～99	・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 ・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。 ・反応に関わる物質量の比が化学反応式の係数の比を表していることを見いだし理解する。 ・化学変化に伴う質量変化に注目した化学の基本法則を知る。	○	◎	○
21	5	11月	3編2章 1節酸と塩基 A酸と塩基の性質 B酸と塩基の定義 C広い意味の酸・塩基	106～109	・酸と塩基の性質について理解する。実験を通して確認する。 ・アレニウスやブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。	◎	○	○
22	5	11月	3編2章 1節酸と塩基 D酸と塩基の価数 E酸と塩基の強弱	110～111	・酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを考察する。	◎	○	○
23	5	11月	2節 水素イオン濃度とpH A水素イオン濃度 B水素イオン濃度とpH CpH指示薬とpHの測定	112～119	・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・水溶液の水素イオン濃度は広い範囲で変化するため、pHでも表せることを理解する。 ・pH指示薬と変色域により、水溶液のpHが測定できることを知る。	◎	○	○
24	5	11月	3節 中和反応と塩の生成	120～125	・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が中性になるとは限らないことがわかる。	○	◎	○
25	5	11月	4節 中和滴定	124～131	・中和の条件は、酸から生じるH ⁺ の物質量と塩基から生じるOH ⁻ の物質量が等しくなることだとわかる。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。 ・標準溶液に用いられる試薬のもつ特徴を知る。 ・酸と塩基の組み合わせによる滴定曲線を比較し、適切な指示薬の使い分けを理解する。	○	◎	○
26	6	12月	1節 酸化と還元	136～139	・酸化と還元は常に同時に起こることを知る。 ・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 ・酸化数は、原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。	◎	○	○
27	6	12月	2節 酸化剤と還元剤	140～147	・代表的な酸化剤、還元剤としては、過マンガン酸カリウムや過酸化水素、ヨウ化カリウムであることを知る。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。	○	◎	○
28	6	12月	3節 金属の酸化還元反応	148～151	・金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを知る。 ・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。	○	◎	○
29	6	12月	4節 酸化還元反応の応用	152～161	・ダニエル電池のしくみを理解する。 ・身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を知る。 ・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。	○	◎	○
30	—	—	実験 「ムラサキキャベツ液を使って酸性、塩基性の強弱を調べよう」	119	・実験観察を通して、身近な物質のpHや希釈した水溶液のpHの変化を比較し考える。		○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	生物基礎	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	中学校までに学習した内容を基礎として、日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行って、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。						
学習の到達目標	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。						
	・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。						
	・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「生物基礎」（生基702）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	1	5月	オリエンテーション	-	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	-	-	-
2			1編1章3節 細胞の特徴 A 真核細胞の構造 B 原核細胞の構造 C 細胞の共通性 D さまざまな細胞	P22～27	・多様な姿の細胞の共通している部分と、種類により異なる部分を理解する。 ・真核細胞の構造について理解する。 ・原核細胞の構造について理解する。 ・身近な原核生物について知る。 ・原核細胞、動物の真核細胞、植物の真核細胞の構造を比較し、共通性について考える。	○		◎
3			1編2章1節 生体とATP A 生命活動とエネルギー B ATPの構造	P33～34	・生物がエネルギーを得る方法や受け渡しの仕組みについて理解する。 ・生活のさまざまな場面でエネルギーを利用していることに気づく。 ・生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。 ・ATPが呼吸や光合成などの生体内でのエネルギーの受け渡しに必ず関係していることを理解する。 ・ATPの構造が、アデニンとリボースが結合したアデノシンに、3つのリン酸が結合した物質であることを理解する。 ・ATPのリン酸どうしの結合に生命活動に利用できるエネルギーが蓄えられていることを理解する。	◎	○	
4			1編2章1節 生体とATP C 代謝 2節 生体内の化学反応 A 酵素	P35～37	・生体内での化学反応の種類を整理し、理解する。また、生体内での触媒の存在について理解する。 ・生物が、同化によってエネルギーを蓄え、異化によってエネルギーを取り出していることを理解する。 ・同化や異化の代謝の過程で生じるエネルギーの授受にATPが利用されていることを理解する。 ・酵素の基本的な特徴を理解する。 ・キマイラ酶の基質特異性について観察し、報告書でまとめる。 ・酵素の基質特異性が何によってもたらされているのかについて理解する。	○	○	◎
5			1編2章3節 呼吸と光合成	P40～43	・代謝の具体例として光合成・呼吸の仕組みを理解する。 ・呼吸におけるグルコースの分解反応の概要とATPの合成について理解する。 ・呼吸と燃焼の違いを理解する。 ・光合成におけるグルコースの合成反応の概要とATPの合成について理解する。 ・真核細胞内では、光合成は葉緑体で行われ、原核細胞では細胞質基質で行われることを理解する。 ・代謝を図で整理する。	◎		○
6	2	6月	2編1章1節 生物と遺伝子 A 遺伝情報と形質 B 遺伝情報とゲノム	P50～54	・DNAの分子モデルの写真からDNAがどのような形をしているか、またDNAの構造にある規則性や特徴に気づく。	○	◎	○
7			2編1章2節 DNAの構造 DNA模型の作製 A DNAの二重らせん構造 B 塩基の相補性	P46～50	・DNAの二重らせん構造の特徴（塩基・リン酸・糖からなるスクレオチドが繰り返し並んでできている）を理解する。 ・結合する塩基に相補性があることを理解する。	○	◎	○
8			3節 DNAの複製と分配 実習5 DNAが2倍になるしくみ A 塩基の相補性に促ったDNAの複製 B DNAの正確な複製	P52～55	・塩基の相補性によりDNAが正確に複製されることを理解する。 ・DNAの複製のしくみ、原核生物、真核生物を問わず、すべての生物で共通していることを理解する。	◎	○	
9			2編 遺伝子とそのはたらき 2章 遺伝情報とタンパク質 1節 タンパク質 A 生命現象とタンパク質 B アミノ酸とタンパク質の構造	P58～61	・生命現象には多種多様なタンパク質が関与していることを理解する。 ・タンパク質はアミノ酸がつながった分子であることを理解する。 ・アミノ酸の種類と並び方によって、多様なタンパク質が生じることを理解する。 ・アミノ酸の構造について理解を深める。 ・タンパク質の構造について理解を深める。	◎		
10			2節 DNAとタンパク質の合成 A 遺伝情報の流れ B RNA C 転写の過程 D 翻訳の過程 E 遺伝暗号表	P62～65	・DNAの遺伝情報は、まずmRNAに転写された後、アミノ酸に翻訳されることで発現するという流れ（セントラルドグマ）を理解する。 ・RNAとDNAの特徴の違いを理解する。 ・転写の過程について理解する。 ・翻訳の過程について理解する。 ・mRNAの塩基3つの組をトリプレットと呼び、各トリプレットがそれぞれアミノ酸に対応していることを理解する。 ・コドンとアミノ酸の対応をまとめた遺伝暗号表について理解する。 ・転写と翻訳のしくみについて理解を深める。	◎	○	○
11	3	7月	3編 ヒトの体の調節 1章 体内環境と情報 A 体内環境とは B フィードバックが支える神経系と内分泌系 C 情報を伝える神経系と内分泌系	P76～P79	・体内環境と体液の関係について理解する。 ・消化管や気管は体内にありながら、その内腔が外界との境界であることから体外環境として分類されることを理解する。 ・フィードバックによって、体内環境の恒常性が維持されていることを理解する。 ・情報伝達の経路には神経系・循環系・内分泌系があることを知る。	◎		
12			2節 神経系による情報伝達 A 神経系の構成 B 自律神経系による調節 C 脳の構造とおもなはたらき	P80～P85	・神経系の構成を知る。 ・神経細胞の構造と情報伝達のしくみについて理解を深める。 ・体内環境の維持と自律神経系による調節に関連付けを理解する。 ・交感神経と副交感神経の違いについて神経伝達物質の違いに着目して理解を深める。 ・日常の場面から交感神経と副交感神経の作用について考えて説明する。 ・脳の構造とおもなはたらきについて知る。	○	◎	○
13			3節 ホルモンによる情報伝達 A ホルモンとその作用 B 内分泌器官としての脳 C ホルモン分泌の調節	P86～P89	・日常のコミュニケーション手段の例から、情報伝達には特徴に合わせたさまざまな種類があることに気づく。 ・内分泌腺と分泌されるホルモン、その作用について知り、ホルモンが受容されるしくみを理解する。 ・間脳の視床下部がホルモン分泌の中枢として機能することを理解する・ホルモンが細胞に受容され、機能するしくみについて理解を深める。 ・ホルモンの分泌量がフィードバックによって調節されていることを理解する。	○		◎
14			4節 血糖濃度の調節 A 血糖濃度を調節するしくみ B 血糖濃度の調節の異常	P90～94	・身近な商品のパッケージから「血糖値」とは何か考える。 ・血糖濃度の調節機構による体内環境の維持とホルモンの関係について見いだして理解する。 ・血糖濃度の調節に関わるホルモンの種類と、それぞれのはたらきについて理解する。 ・難溶性デキストリンが食後の血糖濃度の上を抑えるしくみを知る。 ・ここまで学習した用語を使って、血糖濃度の調節のしくみを図で整理する。 ・生活習慣と血糖濃度の調節に関わるホルモンとの関係について知る。 ・インスリンと糖尿病の関係について理解する。 ・糖尿病とインスリンの濃度変化について考える。	○	◎	○
15			葉っぱ図鑑を作ろう	巻末の2ページ	・学校の近くにある公園や街路樹の葉を集めてキャンパスの住家の葉っぱ図鑑を制作することで、身近な生物の世界に興味関心を持つことの意味について考える。	○	○	◎

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点			
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
16	4	10月	3編 ヒトの体の調節 2章 免疫のはたらき 1節 免疫のしくみ A 自然免疫 B 炎症	P100～P102	・風邪の症状を考える。 ・細菌、菌類、線虫、ウイルスが原因となる病気を調べる。 ・自然免疫について分類や特性を理解する。 ・白血球の一種である好中球の食作用の資料から異物を除去する機構について気づく。 ・炎症のしくみを理解する。	○	◎		
17			C 止血と血液凝固 D リンパ球と適応免疫	P102～105	・体内環境の維持の観点から血液凝固について理解する。 ・適応免疫を支えるリンパ球の種類と役割を理解する。 ・免疫のしくみについて俯瞰的に整理して理解する。	◎	○		
18			2節 免疫記憶 A 記憶細胞と二次応答 B 予防接種とワクチン	P106～P111	・予防接種について考える。 ・北里柴三郎や野口英世の感染症治療に関する功績について調べる。 ・体内の抗体量の变化のデータから二次応答のしくみを見いだして理解する。 ・免疫記憶と二次応答について理解する。 ・抗体について構造を学習することで理解を深める。 ・予防接種のしくみを理解する。 ・乳幼児期に接種するワクチンと感染症について調べる。 ・血清療法 のしくみと歴史を知る。 ・天然痘ワクチン発明の経緯や、エビデミックやパンデミックの歴史を知る。	○	◎	○	
19			3節 免疫とさまざまな疾患 A アレルギー B 自己免疫疾患 C 免疫の機能の低下による疾患	P112～P115	・アレルギーについて考える。 ・アレルギーの定義や症状について理解する。 ・花粉症発症のしくみを例にアレルギーの発症について理解を深める。 ・1型糖尿病などの自己免疫疾患について理解する。 ・免疫について整理する。 ・AIDSを例に免疫機能の低下による疾患について理解する。	○	○	◎	
20	5	11月	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移 1節 植生とその環境形成作用 A 環境形成作用 B 階層構造 C 土壌	P120～125	・さまざまな環境に多様な植物が生育していることに気づく。 ・樹木のある場所とない場所における環境の違いを見いだす。 ・環境要因と環境形成作用の関係について理解する。 ・森林の階層構造と光環境の関係について理解する。 ・森林の構造と相対照度のデータから、層ごとの明るさの変化について考える。 ・環境要因としての土壌の構造や成り立ちについて理解する。	○	○	◎	
21			2節 植生の遷移 A 植生の遷移 B ギャップ更新 C 二次遷移	P126～P131	・植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因として土壌や光環境について見いだして理解する。 ・植生の遷移について、モデル的な過程とその要因を理解する。 ・学校の校庭を例に遷移の初期段階を考える。 ・遷移の進行と光合成の関係について理解する。 ・極相林でも起きる植生の変化について、ギャップに着目して理解する。 ・二次遷移について、一次遷移との違いに注目して理解する。 ・極地での遷移など、遷移がモデル的な過程をたどらない例について、理解する。	○	◎	○	
22			3節 遷移とバイオーム A 遷移とバイオーム B 日本のバイオーム	P132～P141	・標高が高い所で森林が形成されないことから、環境によって遷移の結果が異なることに気づく。 ・世界のさまざまな地域の気候と植生の関係を調べ、バイオームが遷移を経て成立していることを見いだして理解する。 ・環境に適応した植生が成立し、植生を構成する植物と生態系によってバイオームが形成されることを理解する。 ・世界のバイオームについて、気候や構成する生物種を知る。 ・日本のバイオームについて、遷移と関連付けて整理、理解する。	○	○	◎	
23			<特集>世界のバイオーム <特集>日本のおもなバイオームと特徴的な樹木	P136～137 P140～141	・世界のバイオームについて、気候や構成する生物種を知る。 ・日本のバイオームについて、遷移と関連付けて知る。	◎	○	○	○
24	6	12月	4編 生物の多様性と生態系 2章 生態系と生物の多様性 1節 生態系における生物の多様性 A 環境と生物の関係性 B 種多様性	P144～149	・ビットフォールトラップから、生態系における種の多様性を見いだして理解する。 ・環境によって生息する生物が異なることを理解する。 ・Let's start!で見たちりめんじゃこを例に、生態系内の生物種の多様性を知る。 ・バイオームと種多様性の関係について理解する。 ・生物の多様性について、3つの視点から理解を深める。 ・生物多様性ホットスポットと日本の関係について知る。	○	○	◎	
25			2節 生態系における生物間の関係 A 食物網 B 生態系における種多様性の利点 C キーストーン種 D 生態系エンジニア	P150～153	・生態系から特定の生物を除去したときの影響から、被食と捕食による生物どうしのつながりに気づき、生物の関係性が種多様性に関わることを見いだして理解する。 ・食物網について理解する。 ・ラッコの減少が例に生態系の変化について知る。 ・種多様性の高さが生態系全体のバランスを保つことを理解する。 ・キーストーン種と生態系のバランスとの関係性について理解する。 ・オオカミの再導入の例から、生態系の回復について知る。 ・生態系エンジニアと生態系の関係について理解する。	○	◎		
26			3節 生態系と攪乱 A 人為的攪乱 B 自然攪乱 C 生態系の復元力 D 生物種の絶滅	P154～156	・生活排水の河川への流入の例から、人為的攪乱による生態系への影響を見いだして理解する。 ・人為的攪乱について生物の多様性ととの関係を理解する。 ・マイクロプラスチックの問題について知る。 ・台風や大雨などの自然攪乱について、生物の多様性との関係を理解する。 ・生態系の復元力（レジリエンス）について、生態系のバランスとの関係を理解する。 ・絶滅について、日本における現状とともに理解する。 ・環境省が定めたレッドデータブックについて知る。 ・自然攪乱と生物多様性について知る。	◎	○		
27			4節 生態系の保全 A 生物多様性の保全 B 生態系サービス C 生物多様性と生態系サービス D 人間活動が生態系に与える影響 E 日々の生活と生態系の保全	P158～163	・商品のパッケージの例から、日々の生活と生態系の保全との関係に気づく。 ・環境アセスメントの具体的な事例をもとに、生態系の保全の重要性を見いだして理解する。 ・生物多様性の保全にはそれぞれの立場からの努力や協力が必要であることを理解する。 ・生態系サービスについて私たちの生活と関連付けて理解する。 ・生態系サービスの例を調べる。 ・生物多様性と生態系サービスの関係について理解する。 ・生態系とその保全について整理する。 ・生態系サービスと自然資本について知る。 ・人間の活動が生態系に与える影響について、さまざまな例をもとに理解する。 ・琵琶湖における外来生物の影響から、人間による生物の導入が生態系に与える影響を考える。 ・人間生活の影響が低下したことによっても生態系が変化することについて理解する。 ・自分の住む地域の里山を調べ、理解を深める。 ・地球温暖化が私たちの生活にもたらす影響について知る。 ・日々の生活の見直し、生態系の保全につながることを理解する。 ・生態系保全の重要性を考える。 ・食品廃棄の問題から日々の生活と生態系の関係を考える。 ・熱帯多雨林の例から、日々の生活が大きな環境問題とつながっている	○	○	◎	
28	-	1月	A 生物の特徴と私たち やってみよう 1. 身のまわりの生物の共通性と多様性を考える 2. 身のまわりのエネルギーを利用している場面を撮影し、タイトルをつける	P168～169	・生物基礎の学習内容を関連するさまざまな活動を通して、生物基礎が日常のさまざまな場面で関わっていることを体感する。また、体感したことを表現し、他者に伝える。			◎	
29			B 遺伝子のはたらきと私たち やってみよう 1. 遺伝子とまわりのものを関連付ける 2. 「DNAの複製」「DNAのタンパク質の合成」を成長する過程で説明する	P170～171	・生物基礎の学習内容を関連するさまざまな活動を通して、生物基礎が日常のさまざまな場面で関わっていることを体感する。また、体感したことを表現し、他者に伝える。			◎	
30			C 体内環境と私たち やってみよう 1. 身近なエピソードから体内で起こる変化を説明しよう 2. 体内環境のしくみと健康を関連付けた作品をつくる	P172	・生物基礎の学習内容を関連するさまざまな活動を通して、生物基礎が日常のさまざまな場面で関わっていることを体感する。また、体感したことを表現し、他者に伝える。			◎	

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	体育①	スクーリング回数	15	レポート回数	3	単位数	3
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	現代社会における政治や経済、文化などの側面においてスポーツが及ぼす影響は大きくなってきている。そこで体育①では、スポーツの意義や歴史、文化的特徴、現代スポーツを取り巻く様々な問題について学習する。						
学習の到達目標	スポーツの文化的価値を理解し、幅広い知識と教養を身に付け、心理に求める態度を養い、豊かな情勢と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養う。						
	アンチ・ドーピング運動、スポーツにおける環境破壊・環境保護について理解し、生命の尊び、自然に対し環境の保全に寄与する態度を身に付ける。						
	日本生まれのスポーツ、オリンピックが世界平和の促進に大きな役割を果たしていることについて理解し、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を身に付ける。						
使用教科書・副教材等	大修館書店「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	-	-	オリエンテーション	-	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	-	-	-
2	1	6月	スポーツの始まりと発展	P136～P137	・スポーツがどのように始まったかの説明ができる。 ・なぜスポーツが世界中に広まったのかを説明ができる。	◎	○	○
3			世界の民族スポーツについて調べてみよう①	P138～P139	・世界の民族衣装スポーツについて調べ、スポーツ文化の多様性を知る。 ・民族スポーツにおける競技特性(スポーツ文化の多様性)を調べ、理解する。 ・発表会の内容を理解する。	◎	○	○
4			世界の民族スポーツについて調べてみよう②-1 (グループで調べ学習・発表資料にまとめる)	P138～P139	・世界の民族衣装スポーツについて調べ、スポーツ文化の多様性を知る。 ・グループごとに民族スポーツにおける競技特性(スポーツ文化の多様性)を調べ、理解する。	○	○	◎
5			世界の民族スポーツについて調べてみよう②-2 (グループで調べ学習・発表資料にまとめる・発表練習)	P138～P139	・世界の民族衣装スポーツについて調べ、スポーツ文化の多様性を知る。 ・グループごとに民族スポーツにおける競技特性(スポーツ文化の多様性)を調べ、理解する。	○	○	◎
6			世界の民族スポーツについて調べてみよう③ (発表会)	P138～P139	・世界の民族衣装スポーツについて調べ、スポーツ文化の多様性を知る。 ・班ごとに民族スポーツにおける競技特性(スポーツ文化の多様性)を発表する	○	○	◎
7			文化としてのスポーツ	P140～141	・運動との比較から文化としてのスポーツの特徴を説明できる。 ・多様ななかわり方によるスポーツの文化の変容について例をあげて説明できる。	◎	○	○
8			日本生まれのスポーツ①	P142	・武道など世界から注目されるの日本文化、日本生まれのスポーツについて調べ理解する。 ・PPTにおける発表方法を理解し、制作方法を学ぶ。 ・発表会の内容を理解する。	◎	○	○
9			日本生まれのスポーツ②-1 (グループごとに調べ学習、発表資料の作成)	P142	・グループごとに武道など世界から注目されるの日本文化、日本生まれのスポーツについて調べ理解する。 ・PPTを用いて発表する内容を班ごとに構築し、発表方法を理解する。	○	○	◎
10			日本生まれのスポーツ②-2 (グループごとに調べ学習、発表資料の作成、発表練習)	P142	・班ごとに武道など世界から注目されるの日本文化、日本生まれのスポーツについて調べ理解する。 ・PPTを用いて発表する内容を班ごとに構築し、発表方法を理解する。	○	○	◎
11			日本生まれのスポーツ③ (発表会)	P142	・班ごとに武道など世界から注目されるの日本文化、日本生まれのスポーツについて調べ理解する。 ・PPTを用いて発表する内容を班ごとに構築し、発表方法を理解する。	○	○	◎
12			競技スポーツにおける競争の意味	P143	・競技スポーツにおける競争の意味を理解する。	○	◎	○
13			オリンピックとパラリンピックの意義	P144～P145	・オリンピズムとオリンピックの価値について説明できる。 ・パラリンピックの価値について具体例をあげながら、パラリンピックの意義について説明できる。	◎	○	○
14	2	7月	オリンピックの課題 パラリンピックの課題	P146～P147	・オリンピックの課題について理解する。 ・パラリンピックの課題について理解する。	◎	○	○
15			スポーツが経済に及ぼす効果	P148～P149	・スポーツが経済活動でどのように重要な役割を果たしているのかを説明できる。 ・スポーツにかかわる業種について例をあげて説明できる。	◎	○	○
16			オリンピックの課題・パラリンピックの課題①	P146～P147	・オリンピックの課題について理解する。 ・パラリンピックの課題について理解する。 ・発表会の内容について理解する。	◎	○	○
						◎	○	○

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
17	2	7月	オリンピックの課題・パラリンピックの課題②-1 (グループで調べ学習・発表資料作成)	P146～P147	・班ごとにオリンピックの課題・パラリンピックの課題について調べ理解する。	○	◎	○
						○	◎	○
18			オリンピックの課題・パラリンピックの課題②-2 (グループで調べ学習・発表資料作成・発表練習)	P146～P147		○	◎	○
						○	◎	○
19			オリンピックの課題・パラリンピックの課題③ (制作物発表会)	P146～P147		○	◎	○
20	3	12月	スポーツの高潔さとドーピング	P150～P151	・スポーツの高潔さを脅かす要因について例をあげて説明できる。 ・ドーピングがなぜスポーツを破壊する行為になるのかを具体的に説明できる。	◎	○	○
						◎	○	○
21			スポーツの価値について考えてみよう	P152	・スポーツの価値と理念を理解し、体現する。 ・班ごとに意見交換を行いスポーツの価値について考え、自分以外の考えを理解し共感する。	◎	○	○
						◎	○	○
22			なぜ、ドーピングは許されないのか	P153	・ドーピングの定義を理解する。 ・班ごとに意見交換を行いスポーツの価値について考え、自分以外の考えを理解し共感する。	○	◎	○
						○	◎	○
23			スポーツと環境	P154～P155	・スポーツにおける環境問題について例をあげて説明できる。 ・スポーツは、環境とどのように調和していけばよいのか説明できる。	○	◎	○
						○	◎	○
24			スポーツとまちづくり①	P156	・スポーツとの多様なかかわりについて健康、ビジネス、コミュニティ、持続可能性について理解する。 ・理想とするスポーツに特化した街づくりを4つのカテゴリー（健康、ビジネス、コミュニティ、持続可能性）を含め考える。 ・PPTにおける発表方法を理解し、制作方法を学ぶ。 ・発表会の内容を理解する。	○	○	◎
						○	○	◎
25			スポーツとまちづくり②-1 (班ごとに調べ学習、PPT制作)	P156	・スポーツとの多様なかかわりについて健康、ビジネス、コミュニティ、持続可能性について理解する。 ・理想とするスポーツに特化した街づくりを4つのカテゴリー（健康、ビジネス、コミュニティ、持続可能性）を含め考える。 ・PPTにおける発表方法を理解し、制作方法を学ぶ	○	◎	○
						○	◎	○
26			日本生まれのスポーツ②-2 (班ごとに調べ学習、PPT制作)	P156		○	◎	○
						○	◎	○
27			日本生まれのスポーツ③ (発表会)	P156	・ルール、競技特性を理解する。 ・基礎的な技術を学び、実践する。 ・試合形式で実践し、試合での駆け引きを味わう。	○	◎	○
						○	◎	○
28			実技(バドミントン)	-		○	○	◎
						○	○	◎
29			実技(バスケットボール)	-	・ルール、競技特性を理解する。 ・基礎的な技術を学び、実践する。 ・試合形式で実践し、試合での駆け引きを味わう。	○	○	◎
						○	○	◎
30			実技(バレーボール)	-	・ルール、競技特性を理解する。 ・基礎的な技術を学び、実践する。 ・試合形式で実践し、試合での駆け引きを味わう。	○	○	◎
						○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	体育②	スクーリング回数	10	レポート回数	2	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	私たちは運動やスポーツを行うことで、大きな達成感や喜びを味わい心や体を健康にすることができます。そこで体育②では、合理的な動きを理解することや運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学ぶ。						
学習の到達目標	トレーニングの原理を理解し、より効果的なトレーニング方法を学ぶことで、効率よく技能や体力を向上させることが出来るようになる。						
	健康的な体力作りをするためのトレーニング計画・実施・確認・改善までが出来るようになり、目的に応じたメニューを立案し、実践できるようになる。						
	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
1	-	-	オリエンテーション（学習の進め方）	-	①学習内容や到達目標を理解する。 ②学習の進め方を理解する。	-	-	-
						-	-	-
2	1	7月	運動・スポーツにおける技能と体力の関係	P158～P159	①体力の構成要素を説明できる。 ②エネルギー的体力とサイバネティックス的体力の違いを理解する。	◎	○	○
	1	7月			①エネルギー的体力とサイバネティックス的体力の違いを理解したうえで、関連する種目について例を挙げられるようになる。 ②技能と体力との関係について説明できる。	◎	○	○
3	1	7月	練習とトレーニングの原理と原則	P159	①トレーニングの基本原理3つを学び、自らの過去の経験と結びつけて考えることで、理解度を深める。 ②トレーニング5原則の名称と違いを説明できる。	○	○	◎
	1	7月			・休み時間を惜しんで熱心に練習やトレーニングに打ち込むことの良い面と悪い面を説明できる。	○	○	◎
4	1	7月	スポーツにおける技術と戦術	P160～P161	①技術と技能の違いを説明できる。 ②クロースドスキルとオープンスキルの違いを説明できる。	◎	○	○
	1	7月			・戦術・作戦・戦略を理解する。	◎	○	○
5	1	7月	自分の興味のある集団的球技について、どのようなチーム戦術、グループ戦術、個人戦術があるか考えてみよう （班ごとに調べ学習・まとめ）	P161	・班で決めた集団的競技について、チーム戦術・グループ戦術・個人戦術を調べることで、競技の理解を深める。（バスケットボールとバレーボール以外の種目）	○	○	◎
	1	7月				○	○	◎
6	1	7月	自分の興味のある集団的球技について、どのようなチーム戦術、グループ戦術、個人戦術があるか考えてみよう （班ごとに調べ学習・発表）	P161	・班で決めた集団的競技について、チーム戦術・グループ戦術・個人戦術を調べることで、競技の理解を深める。（バスケットボールとバレーボール以外の種目）	○	○	◎
	1	7月				○	○	◎
7	1	7月	バスケットボールについて、どのようなチーム戦術、グループ戦術、個人戦術があるか考えてみよう （チームごとに調べ学習）	P161	・バスケットボールのチーム戦術・グループ戦術・個人戦術を調べることで、競技の理解を深め、実践に向けたイメージを持つ。	○	○	◎
	1	7月				○	○	◎
8	1	7月	実技（バスケットボール）		①ルール、競技特性を理解する。 ②基礎的な技術（パス・ドリブル・シュート）を学び、実践する。 ③バスケットボールのフリースローの得点数を競う。	○	○	◎
	1	7月			・試合形式で行い、チームでまとめた戦術を試し、試合での駆け引きを味わう。	○	○	◎
9	1	7月	戦術の振り返り		・試合中の映像を見返して、チームごとで立てた各戦術を活かすことが出来たのか確認する。	○	○	◎
	1	7月			・場面ごとに一時停止をして、そこから活かせる戦術がないかを確認する。	○	○	◎
10	1	7月	スポーツルールはなぜ変わるのかメディアとの関係性も含めて考えてみよう （班ごとに調べ学習・まとめ）	P161～P162	・班で決めた競技・種目に対して、どのようなルール変更があったかを調べることで、競技・種目の歴史を学ぶと共にメディアとの関係性も知る。	○	○	◎
	1	7月				○	○	◎

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
11	1	7月	スポーツルールはなぜ変わるのかメディアとの関係性も含めて考えてみよう (班ごとに調べ学習・発表)		・班で決めた競技・種目に対して、どのようなルール変更があったかを調べることで、競技・種目の歴史を学ぶと共にメディアとの関係性も知る。	○	○	◎
	1	7月			・班で決めた競技・種目に対して、どのようなルール変更があったかまとめたものをグループごとに発表して、それぞれの競技・種目の理解を深める。	○	○	◎
12	1	7月	技能の上達過程と練習	P164～P165	①技能の上達過程に見られる3つの段階の違いと停滞現象を説明できる。 ②自身の運動経験から、プラトール・スランプの状態を認識する。	○	○	◎
	1	7月			・2つのフィードバックを説明できる。	○	○	◎
13	1	7月	フリースローのフィードバックを通して自身の動作やタイミングを修正し、適切な目標設定をする (チームごとに学習)	P165	・フリースローの動画をフィードバックから課題を発見し、修正点を検討することで、適切な目標の設定を行う。	○	○	◎
	1	7月			・戦術の振り返りから再度戦術を確認する。	○	○	◎
14	1	7月	実技（バスケットボール）		①フリースローの練習と成功数の確認 ②フリースローを撮影し、直後に動画を見ることでチーム内でフィードバックを行い、修正点を確認する。	○	○	◎
	1	7月			・試合形式で行い、チームでまとめた戦術を試し、試合での駆け引きを味わう。	○	○	◎
15	1	7月	フリースローと戦術の確認		①フリースロー時の映像を見返して、修正点が無いか確認する。 ②試合中の映像を見返して、チームごとで立てた各戦術を活かすことが出来たのか確認する。	○	○	◎
	1	7月			・場面ごとに一時停止をして、そこから活かせる戦術がないかを確認する。	○	○	◎
16	2	12月	効果的な動きのメカニズム	P168～P169	・体の動きについて、どのようなしくみで開始され、持続していくのかを説明できる。	◎	○	○
	2	12月			・動きを支える調整力について例をあげて説明できる。	○	○	◎
17	2	12月	運動・スポーツと脳 (班ごとに調べ学習)	P170	・運動のコントロールにかかわる脳部位の特徴を説明できる。	○	○	◎
	2	12月			・運動のコントロールにかかわる脳部位の特徴を説明できる。	○	○	◎
18	2	12月	体力トレーニング	P172～P174	・目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を説明できる。	○	○	◎
	2	12月			・筋力を高める具体的な方法をあげることができる	○	○	◎
19	2	12月	筋力トレーニング (班ごとに調べ学習・まとめ)	P172～P174	・班ごとに目的に応じて、自重トレーニングを用いた筋力トレーニングメニューを考案する。	○	○	◎
	2	12月				○	○	◎
20	2	12月	筋力トレーニング (班ごとに調べ学習・まとめ)	P172～P174		○	○	◎
	2	12月				○	○	◎
21	2	12月	筋力トレーニング (班ごとに調べ学習・発表)	P172～P174	・各班ごとで考えた自重トレーニングを用いた筋力トレーニングを発表することで、様々な種類の筋力トレーニングを知る。	○	○	◎
	2	12月				○	○	◎
22	2	12月	持久力トレーニング 調節力・柔軟性のトレーニング (班ごとに調べ学習・まとめ)	P174～P175	・持久力、調節力、柔軟性を高める具体的な方法をあげることができる。	○	○	◎
	2	12月				○	○	◎

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
23	2	12月	持久力トレーニング 調節力・柔軟性のトレーニング (班ごとに調べ学習・発表)	P174～P175	・持久力、調節力、柔軟性を高める具体的な方法をあげることできる。	○	○	◎
	2	12月			・各班ごとで考えた調節力・柔軟性のトレーニングを発表することで、様々な種類のトレーニングを知る。	○	○	◎
24	2	12月	実技（フットサル）		①ルール、競技特性を理解する。 ②基礎的な技術（パス・ドリブル・シュート）を学び、実践する。	○	○	◎
	2	12月			・試合形式で実践し、試合での駆け引きを味わう。	○	○	◎
25	2	12月	運動やスポーツでの安全の確保 (個人で調べ学習・まとめ)	P176～P177		○	○	◎
	2	12月			①スポーツ外傷とスポーツ障害の違いを説明できる。 ②スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、その発生の原因と予防方法を説明できる。	○	○	◎
26	2	12月			○	○	◎	
	2	12月	運動やスポーツでの安全の確保 (個人で調べ学習・発表)		・自身で調べた運動やスポーツを行うときに、ケガが起きないように注意すべき点を発表することで、スポーツに応じた対策が出来るようになる。	○	○	◎
27	2	12月	スポーツによるさまざまなリスクを考える スポーツ外傷・障害とその原因 (個人で調べ学習・まとめ)	P178～P179		○	○	◎
	2	12月			①スポーツのシーンをあけて、起こりえるケガについて、リスクの例をあげられるようになる。 ②さまざまなスポーツ外傷の例をあげられるようになる。	○	○	◎
28	2	12月			○	○	◎	
	2	12月	スポーツによるさまざまなリスクを考える スポーツ外傷・障害とその原因 (個人で調べ学習・発表)		・各班ごとで調べた、起こりえるケガについて、リスクの例を発表する。	○	○	◎
29	2	12月	応急処置			○	○	◎
	2	12月			・スポーツで良く起きる外傷（捻挫・突き指）に対して応急手当てができるようになる。	○	○	◎
30	2	12月	実技（バドミントン）		①ルール、競技特性を理解する。 ②基礎的な技術（ラリー・スマッシュ）を学び、実践する。	○	○	◎
	2	12月			・試合形式で実践し、試合での駆け引きを味わう。	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	体育③	スクーリング回数	10	レポート回数	2	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	生涯にわたって健康で豊かな生活を送るには、スポーツと継続的にかかわることが必要であり、ライフステージやライフスタイルに応じてスポーツライフを設計することが重要であるため、生涯にわたってスポーツと豊かにかかわるためのスポーツライフの設計のしかたについて学習をする。						
学習の到達目標	社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのか、ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を理解し、説明することができる。						
	豊かなスポーツライフを実現するために何が大切かについて理解し、現在のスポーツライフの諸条件を整理して、自分にあったスポーツライフを設計することができる。						
	国や自治体が行っているスポーツ推進の施策、企業や地域におけるスポーツの関わり方について把握し、これからの豊かなスポーツライフにおける課題について考える力を養う。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
1	-	-	オリエンテーション(学習の進め方)	-	①学習内容や到達目標を理解する。 ②学種の進め方を理解する。	-	-	-
	1	7月	社会の変化とスポーツの役割 (社会の変化とレジャー社会の到来)	P182	・社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのかを説明できる。	◎	○	○
2	1	7月	社会の変化とスポーツの役割 (レジャー社会におけるスポーツの役割)	P182	・レジャー社会におけるスポーツの役割、生涯スポーツとしての考え方を理解する。	◎	○	○
	1	7月	ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方 （「する」から「みる」「支える」「知る」へ）	P183	・ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を説明できる。	◎	○	○
3	1	7月	ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方 (各ライフステージの楽しみ方)	P183	・各年代ごとにおけるスポーツとのかかわり方を理解し、豊かなスポーツ活動を展開するための知識を深める。	◎	○	○
	1	7月	スポーツ科学について (個別学習)	P184	・スポーツ科学の学問分野について調べ、スポーツ科学の理解を深める。	◎	○	○
4	1	7月	スポーツ科学について (グループ活動)		・スポーツ科学を理解し、自分の考えを共有することができる。	○	○	◎
	1	7月	スポーツ科学について (グループ毎に発表)		・グループ内で発表時の役割を決め、グループ毎にまとめた内容を発表する。	○	○	◎
5	1	7月	スポーツにかかわる職業について (個別学習)	P185	・ｽﾎﾟｰﾂに関わる職業について調べ、ｽﾎﾟｰﾂに関わる職業の役割につて理解を深める。	◎	○	○
	1	7月	スポーツにかかわる職業について (グループ活動)		・ｽﾎﾟｰﾂに関わる職業の役割を理解し、自分の考えを共有することができる。	○	○	◎
6	1	7月	スポーツにかかわる職業について (グループ毎に発表)		・グループ内で発表時の役割を決め、グループ毎にまとめた内容を発表する。	○	○	◎
	1	7月	バスケットボールについて、どのようなチーム戦術、グループ戦術、個人戦術があるか考えてみよう (チームごとに調べ学習)	-	・バスケットボールのチーム戦術・グループ戦術・個人戦術を調べることで、競技の理解を深め、実践に向けたイメージを持つ。	○	○	◎
7	1	7月		-	①ルール、競技特性を理解する。 ②基礎的な技術（バス・ドリブル・シュート・フリースロー）を学び、実践する。	○	○	◎
	1	7月	実技（バスケットボール）	-	・試合形式で行い、チームでまとめた戦術を試し、試合での駆け引きを味わう。	○	○	◎
8	1	7月	戦術の振り返り	-	・試合中の映像を見返して、チームごとで立てた各戦術を活かすことが出来たのか確認する。	○	○	◎
	1	7月		-	・場面ごとに一時停止をして、そこから活かせる戦術がないかを確認する。	○	○	◎
9	1	7月		P186	・「する」スポーツライフスタイルについて例をあげ説明ができる。	○	○	◎
10	1	7月	いろいろなスポーツライフ (スポーツライフスタイルのタイプ)	P186	・自分のライフスタイルに適したスポーツライフを選択するとともに、スポーツに対する多様なかかわり方を理解する。	◎	○	○
	1	7月	豊かなスポーツライフの設計 (現在のスポーツライフ)	P187	・現在の自分のスポーツライフの諸条件を整理し、今後の豊かな設計のための諸条件や工夫のしかたの例をあげられる。	◎	○	○

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
11	1	7月	豊かなスポーツライフの設計 (マイスポーツライフの設計のしかた)	P187	・スポーツライフを規定する条件に人的要因、環境的要因があるが具体的にどのようなものか理解する。	○	○	◎
	1	7月	身のまわりの人のスポーツライフを調べてみよう (個別学習)	P188	・P188の資料を参考に自分のスポーツライフについて調べ、自分のスポーツライフを理解する。	◎	○	○
12	1	7月	身のまわりの人のスポーツライフを調べてみよう (ペア活動)		・P188の資料を参考にペアの生徒同士でスポーツライフについて役割を行い、身のまわりの人に目を向け、どのようなスポーツライフを行っているのか認識する。	○	○	◎
	1	7月	身のまわりの人のスポーツライフを調べてみよう (グループ内で発表)		・グループ内で発表時の役割を決め、グループ内でまとめた内容を発表する。	○	○	◎
13	1	7月	自分でスポーツライフを設計しよう (個別学習)	P189	・P189の資料を参考に自分のスポーツライフを設計し、自分のスポーツライフについて現状の把握をする。	◎	○	○
	1	7月	身のまわりの人のスポーツライフを調べてみよう (ペア活動)		・P189の資料を参考にペアの生徒同士で自分で設計したスポーツライフについて発表し、身のまわりの人に目を向け、どのようなスポーツライフを設計したのか確認し、自分との違い、良いところについて把握する。	○	○	◎
14	1	7月	実技(バレーボール)	－	①ルール、競技特性を理解する。 ②基礎的な技術(オーバーパス・アンダートス)を学び、実践する。	○	○	◎
	1	7月		－	・試合形式で行い、チームでまとめた戦術を試し、試合での駆け引きを味わう。	○	○	◎
15	1	7月	戦術の振り返り	－	・試合中の映像を見返して、チームごとで立てた各戦術を活かすことが出来たのか確認する。	○	○	◎
	1	7月		－	・場面ごとに一時停止をして、そこから活かせる戦術がないかを確認する。	○	○	◎
16	2	12月	日本のスポーツ推進の歩み (オリンピックとスポーツの推進施策)	P190	・国内でスポーツを推進してきた従来の取り組みを理解し、説明できる。	◎	○	○
	2	12月	日本のスポーツ推進の歩み (さまざまなスポーツ推進のアクター)	P190	・スポーツ推進にむけて、国や自治体以外でも様々なかわり方があることを理解し、それが担っている役割を理解することができる。	◎	○	○
17	2	12月	日本のスポーツ推進の歩み (ペア活動)	P190	・スポーツ推進における取組みを調べ、どのような活動をおこなったか理解する。	○	○	◎
	2	12月	日本のスポーツ推進の歩み (グループ内で発表)		・スポーツ推進における取組みについてグループ内で発表時の役割を決め、グループ内でまとめた内容を発表する。	○	○	◎
18	2	12月	地域とスポーツクラブ (地域スポーツの推進)	P191	・自分が住んでいる身近な地域におけるスポーツ推進の取り組みについて例をあげ、理解する。	○	○	◎
	2	12月	地域とスポーツクラブ (高校生活と地域のスポーツ環境)	P191	・地域のスポーツ環境を調べ、その役割や実際に利用する際のシュミレーションし、共有することができる	◎	○	○
19	2	12月	地域とスポーツクラブ (ペア活動)	P191	・P191の資料2を参考にペアの生徒同士で、地域における取組みを調べ、現在行われている活動について理解する。	○	○	◎
	2	12月	地域とスポーツクラブ (グループ内で発表)	P191	・グループ内で発表時の役割を決め、グループ内でまとめた内容を発表する。	○	○	◎
20	2	12月	諸外国のスポーツを推進する取り組みを調べてみよう (個別学習)	P192～193	・欧米諸国によるスポーツ推進する取り組みの歴史を調べ、理解する。	◎	○	○
	2	12月	諸外国のスポーツを推進する取り組みを調べてみよう (グループ活動)	P192～193	・欧米諸国によるスポーツ推進する取り組みの歴史について調べたことをグループ内で自分の考えを共有することができる。	○	○	◎
21	2	12月	諸外国のスポーツを推進する取り組みを調べてみよう (グループ毎に発表)	P192～193	・他の生徒の考えをまとめ、グループ毎にまとめ発表することができる。	○	○	◎
	2	12月	実技(フットサル)	－	①ルール、競技特性を理解する。 ②基礎的な技術(パス・ドリブル・シュート)を学び、実践する。	○	○	◎
22	2	12月		－	・試合形式で行い、チームでまとめた戦術を試し、試合での駆け引きを味わう。	○	○	◎
	2	12月	戦術の振り返り	－	・試合中の映像を見返して、チームごとで立てた各戦術を活かすことが出来たのか確認する。	○	○	◎
23	2	12月		－	・場面ごとに一時停止をして、そこから活かせる戦術がないかを確認する。	○	○	◎

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
23	2	12月	日本のスポーツライフの特徴 (これまでのスポーツライフ)	P194	・現在までのスポーツライフについての歴史を理解することができる	◎	○	○
24	2	12月	日本のスポーツライフの特徴 (これからのスポーツライフ)	P194	・現在の社会問題(超高齢社会)を理解し、これからのスポーツライフの在り方について理解し共有することができる。	◎	○	○
	2	12月	日本のスポーツライフの特徴 (ベア活動)	P194	・P191の資料2を参考にベアの生徒同士で、地域における取組みを調べ、現在行われている活動について理解する。	○	○	◎
25	2	12月	日本のスポーツライフの特徴 (グループ内で発表)		・グループ内で発表時の役割を決め、グループ内でまとめた内容を発表する。	○	○	◎
	2	12月	豊かなスポーツライフの創造のために (スポーツを文化として楽しむこと)	P194	・豊かなスポーツライフを創造していくための課題について、例をあげて説明ができる。	◎	○	○
26	2	12月	豊かなスポーツライフの創造のために (豊かなスポーツライフの課題)	P194	・スポーツ文化が社会の中でどのように受け入れられ発展してきたのかを理解し、共有することができる。	◎	○	○
	2	12月	豊かなスポーツライフの創造のために (ベア活動)	P194	・ベアの生徒同士で、スポーツ文化が社会の中でどのように受け入れられ発展してきたのか地域における取組みを調べ、現在行われている活動について理解する。	○	○	◎
27	2	12月	豊かなスポーツライフの創造のために (グループ内で発表)		・グループ内で発表時の役割を決め、グループ内でまとめた内容を発表する。	○	○	◎
	2	12月	適切な救急対応について (救急車の適切な呼び方)	P200	・傷病者をなるべく早く救急隊員や医師に引き継ぐために正確な必要事項を伝えるための知識や対応方法を理解する。	◎	○	○
28	2	12月	AEDの使い方について	P201	・AEDの使用方法を理解し、設置場所などの理解し緊急時に使用できる知識を身につける。	◎	○	○
	2	12月	保健・医療・福祉の仕事を調べてみよう (個別学習)	P202	・P202の表から職業を1つ選び、その職業はどのような役割があるのか、どのように社会に貢献しているのかを理解する。	◎	○	○
29	2	12月	保健・医療・福祉の仕事を調べてみよう (グループ活動)	P202	・調べたその職業の役割、どのように社会へ貢献しているのかをグループの中で発表し、理解する。	○	○	◎
	2	12月	保健・医療・福祉の仕事を調べてみよう (グループ毎に発表)	P204	・グループ内で発表時の役割を決め、グループ内でまとめた内容を発表する。	○	○	◎
30	2	12月	実技(ニュースポーツ)	－	①ルール、競技特性を理解する。 ②基礎的な技術を学び、実践する。	○	○	◎
	2	12月	実技(ニュースポーツ)	－	・試合形式で行い、チームでまとめた戦術を試し、試合での駆け引きを味わう。	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	保健①	スクーリング回数	1	レポート回数	3	単位数	1
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。						
学習の到達目標	1. 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。						
	2. 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。						
	3. 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	-	-	オリエンテーション（学習の進め方）	-	①学習内容や到達目標を理解する。 ②学習の進め方を理解する。	-	-	-
2	1	6月	健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた	P6～9	①さまざまな健康の考え方について例をあげて説明できる。 ②健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる。 ①わが国の健康水準の変化とその背景について説明できる。 ②わが国の現在の健康問題について例をあげて説明できる。	◎	○	○
3			生活習慣病の予防と回復	P12～13	①生活習慣病の種類と要因について説明できる。 ②生活習慣病の一次予防、二次予防について例をあげて説明できる。	○	◎	○
4			がんの原因と予防 がんの治療と回復	P14～17	①がんの種類や原因について説明できる。 ②がんの一次予防と二次予防について例をあげて説明できる。 ③がんのおもな治療法や緩和ケアについて説明できる。 ④がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。	◎	○	○
5			運動と健康	P20～21	①健康と運動の関係について説明できる。 ②目的に応じた健康的な運動のしかたについて例をあげて説明できる。	○	◎	○
6			食事と健康 休養・睡眠と健康	P22～25	①食事と健康の関係について説明できる。 ②健康的な食事のとり方について説明できる。 ③健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。 ④健康と睡眠の関係及び健康によい睡眠のとり方について説明できる。	○	◎	○
7			喫煙と健康	P28～29	①喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる。 ②喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる。	○	○	◎
8			飲酒と健康	P30～31	①飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。 ②飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげて説明できる。	○	○	◎
9			薬物乱用と健康	P32～33	①薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。 ②薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策例をあげることができる。	○	◎	○
10	2	7月	精神疾患の特徴	P36～37	①精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について説明できる。 ②現代社会における精神保健の課題をあげることができる。	○	◎	○
11			精神疾患の予防 精神疾患からの回復	P38～41	①精神疾患を予防する方法について説明できる。 ②精神疾患の早期発見のために必要なことについて説明できる。 ③精神疾患の治療について例をあげて説明できる。 ④精神疾患の適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か説明できる。	○	○	◎
12			現代の感染症 感染症の予防	P44～47	①感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて説明できる。 ②新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ説明できる。 ③感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる。 ④感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる。	○	○	◎
13			性感染症・エイズとその予防	P48～49	①性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について説明できる。 ②性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。	○	◎	○
14			健康に関する意思決定・行動選択	P52～53	①意思決定・行動選択に影響を与える要因について説明できる。 ②健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげて説明できる。	○	◎	○
15			健康に関する環境づくり	P54～55	①社会環境の健康への影響について例をあげて説明できる。 ②ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できる。	○	◎	○

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	3	12月	事故の現状と発生要因	P60～61	①事故の実態と被害の実態について説明できる。 ②事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて例をあげて説明できる。	○	◎	○
17			事故の現状と発生要因	P60～61	①あり運転について考え、他者の価値観を受け入れる。 ②あり運転が道路交通法の規定に組み込まれた背景を理解する。	○	○	◎
18			安全な社会の形成	P62～63	①安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。 ②すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例をあげて説明できる。	◎	○	○
19			安全な社会の形成	P62～63	①身の回りの安全対策について調べ、実情を知る。 ②実際の環境に必要な安全対策について考えることができる。	○	○	◎
20			交通における安全	P64～65	①交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて説明できる。 ②交通事故における責任を3つに分けて説明できる。	○	○	◎
21			交通における安全	P64～65	①運転者にはどのような資質が求められるか理解できる。	○	◎	○
22			防災・避難計画	P66	①災害を想定した準備・計画ができる。	○	○	◎
23			応急手当の意義とその基本	P68～69	①応急手当の意義について説明できる。 ②傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。	○	○	◎
24			応急手当の意義とその基本	P70～71	①実際に傷病者を発見したときに適切な確認・観察ができる力を身に付ける。 ①応急手当の手順を身に付ける。	○	◎	○
25			日常的な応急手当	P70～71	①日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明できる。 ②実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。	○	◎	○
26			日常的な応急手当	P70～71	①脱臼や骨折が疑われる場合に適切な固定ができる力を身に付ける。	○	◎	○
27			日常的な応急手当	P70～71	①RICE法による応急手当が適切にできる力を身に付ける。	○	◎	○
28			心肺蘇生法	P72～73	①心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。 ②AEDによる除細動の重要性を理解する。	○	○	◎
29			心肺蘇生法	P72～73	①実際に、心肺蘇生法をおこなうことができる。 ②AEDを適切に使用することができる。	○	○	◎
30	-	-	QOLの高め方	p6～74	①現代社会と健康、安全な社会生活について学んだ知識をもとに自身のQOLを高める具体的な方法を考えることができる。	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	保健②	スクーリング回数	1	レポート回数	3	単位数	1
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。						
学習の到達目標	1．個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。						
	2．健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。						
	3．生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	-	-	オリエンテーション（学習の進め方）	-	①学習内容や到達目標を理解する。 ②学習の進め方を理解する。	-	-	-
2	1	6月	ライフステージと健康	P76, 77	①ライフステージと健康の関連について説明できる。 ②各ライフステージで活用できる社会からの支援について例をあげて説明できる。	○	◎	○
3			思春期と健康	P78, 79	①思春期における体の変化を、女性と男性に分けて説明できる。 ②思春期の心の発達にかかわって起こる問題について例をあげて説明できる。	◎	○	○
4			性意識と性行動の選択	P80, 81	①性意識の男女差について例をあげて説明できる。 ②性情報が性行動の選択に影響を及ぼす要因について説明できる。	◎	○	○
5			妊娠・出産と健康	P82, 83	①妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。 ②妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて例をあげて説明できる。	○	◎	○
6			避妊法と人工妊娠中絶	P84, 85	①家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。 ②人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。	○	◎	○
7			結婚生活と健康	P88, 89	①心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。 ②結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。	○	◎	○
8			中高年期と健康	P90, 91	①加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる。 ②高齢社会に必要な社会的な取り組みについて例をあげて説明できる。	○	○	◎
9	2	7月	働くことと健康	P92, 93	①働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。 ②働き方や働く人の健康問題の変化について説明できる。	○	○	◎
10			労働災害と健康	P94, 95	①労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。 ②労働災害を防止するために必要なことをあげることができる。	○	◎	○
11			健康的な職業生活	P96, 97	①職場がおこなう健康に関する取り組みについて例をあげて説明できる。 ②余暇を積極的にとることの意義について説明できる。	○	◎	○
12			大気汚染と健康	P100, 101	①大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる。 ②大気にかかわる地球規模の健康問題について例をあげて説明できる。	◎	○	○
13			水質汚濁、土壌汚染と健康	P102, 103	①水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。 ②大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて説明できる。	○	○	◎
14			環境と健康にかかわる対策	P104, 105	①環境汚染による健康被害を防ぐ方法について説明できる。 ②産業廃棄物の処理について説明できる。	○	◎	○
15			ごみの処理と上下水道の整備	P106, 107	①ごみの処理の現状やその課題について説明できる。 ②上下水道のしくみと健康にかかわる課題を説明できる。	○	○	◎

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	3	12月	食品の安全性	P110, 111	①食品の安全性と健康とのかかわりについて説明できる。 ②食品の安全性に関する今日的課題について説明できる。	○	◎	○
17			食品衛生にかかわる活動	P112, 113	①食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる。 ②食品の安全性を確保するための個人の役割について説明できる。	○	◎	○
18			保健サービスとその活用	P116, 117	①保健行政の役割について例をあげて説明できる。 ②保健サービスの活用の例をあげることができる。	○	○	◎
19			医療サービスとその活用	P118, 119	①わが国における医療保険のしくみについて説明できる。 ②さまざまな医療機関の役割について説明できる。	○	◎	○
20			医薬品の制度とその活用	P120, 121	①医薬品の正しい使用法について説明できる。 ②医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。	◎	○	○
21			さまざまな保健活動や社会的対策	P124, 125	①国際機関・民間機関などの保健活動について例をあげて説明できる。 ②行政機関による社会的対策について例をあげて説明できる。	○	◎	○
22			健康に関する環境づくりと社会参加	P126, 127	①健康の保持増進のための環境づくりについて説明できる。 ②環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。	○	○	◎
23	復習	－	性意識と性行動の選択	P86	①諸外国の性教育について説明できる。 ②現在の性教育について他者と意見交換ができる。	○	○	◎
24		－	避妊法と人工妊娠中絶	P87	①現在多く使用されている避妊法について説明できる。 ②失敗している避妊法が多く使用されている原因について意見交換ができる。	○	◎	○
25		－	結婚生活と健康	P88	①不妊治療の方法を説明できる。 ②不妊治療の経済的負担や心理的負担について正しく理解し、他者の考えを受け入れることができる。	○	○	◎
26		－	健康的な職業生活	P98	①福利厚生について説明できる。 ②福利厚生の実情について正しく理解することができる。	○	◎	○
27		－	ごみの処理と上下水道の整備	P109	①海洋プラスチックごみについて説明できる。 ②海洋プラスチックごみの対策についての国や自治体の取り組みを正しく理解する。	○	◎	○
28		－	食品衛生にかかわる活動	P115	①フードファディズムについて説明できる。 ②フードファディズムの消費者側の課題について例をあげて説明できる。	○	○	◎
29		－	医療サービスとその活用	P122	①医療機関を選ぶ条件について正しく理解する。 ②医療機関を選ぶ際に参考にできる方法を知る。	○	◎	○
30		－	健康に関する環境づくりと社会参加	P128	①健康情報を正しく判断するための情報の見方を知る。 ②健康方法が正しく活用されるための取り組みについて意見交換ができる。	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	音楽Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力について学ぶ。						
学習の到達目標	音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。						
	音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。						
	音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。						
	中学校音楽科の学習を踏まえ、楽曲固有のよさや美しさなどを味わうだけでなく、文化的・歴史的背景など広い視野で音楽を捉えて、我が国及び諸外国の音楽文化への理解を深める。						
	音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。						
使用教科書・副教材等	教育出版「音楽Ⅰ Tutti+」（17教出 音Ⅰ701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	－	－	オリエンテーション	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	－	－	－
2	1	5	楽典・西洋音楽史・日本歌曲 「この道」	P146～147	①音楽の楽典について理解する。 ②大譜表と音名について理解する。	◎	○	○
3	1	5	楽典・西洋音楽史・日本歌曲 「この道」	P108～113	西洋音楽史について理解する。	○	◎	○
4	1	5	楽典・西洋音楽史・日本歌曲 「この道」	P14～15 P149	①日本歌曲「この道」を通して、日本語の語感や言葉のリズムを感じる。 ②用いられている記号表現を理解する。	○	○	◎
5	－	－	鑑賞	－	①自分の興味のある日本歌曲を探し、鑑賞する。 ②歌曲を通して感じたことや特長を自分の言葉で表現したり他者と共有し様々な価値観に触れる。	○	◎	○
6	2	6	楽典・西洋音楽史・ドイツ歌曲 「野ばら」	P149	強弱記号について理解する。	◎	○	○
7	2	6	楽典・西洋音楽史・ドイツ歌曲 「野ばら」	P114～117	各世紀の西洋音楽を聴き、時代背景と共に理解する。	○	◎	○
8	2	6	楽典・西洋音楽史・ドイツ歌曲 「野ばら」	P28～29	ドイツ歌曲「野ばら」を通して、旋律の動きやテンポの変化を感じる。	○	○	◎
9	－	－	鑑賞	－	①シュペルトの「魔王」を聴く。 ②歌曲を通して感じたことや特長を自分の言葉で表現したり他者と共有し様々な価値観に触れる。	○	◎	○
10	3	7	声という大切な楽器 世界の声の音楽・楽器の音楽 カンツォーネ 「オー・ソレミオ(我が太陽)」	P12	①発声の仕組みについて理解する。 ②姿勢や声道と音色について理解する。	◎	○	○
11	3	7	声という大切な楽器 世界の声の音楽・楽器の音楽 カンツォーネ 「オー・ソレミオ(我が太陽)」	P106～107	世界の様々な音楽の魅力や特徴を理解する。	○	◎	○
12	3	7	声という大切な楽器 世界の声の音楽・楽器の音楽 カンツォーネ 「オー・ソレミオ(我が太陽)」	P22～23 P147～149	カンツォーネ「オー・ソレ・ミオ（我が太陽）」に使われている楽典を理解する。	○	○	◎
13	3	7	声という大切な楽器 世界の声の音楽・楽器の音楽 カンツォーネ 「オー・ソレミオ(我が太陽)」	P22～23 P147～149	①カンツォーネ「オー・ソレ・ミオ（我が太陽）」を聴き、雰囲気を感じる。 ②自分が歌うことを想定し、自分なりの表現を考える。	○	◎	○
14	－	－	探究	－	①ハベネラなどのこれまで学んだ曲で使用されているリズムや表現方法について調べまとめる。 ②まとめたことを他者に発表することで表現したり他者と共有し様々な価値観に触れる。	○	○	◎

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
15	—	—	鑑賞	—	①これまで学んだ世界の音楽のうち興味のあるものを鑑賞する。 ②感じたことや特長を自分の言葉で表現したり他者と共有し様々な価値観に触れる。	○	◎	○
16	4	10	楽典・「Danny boy」 (アイルランド民謡)	P146～148	①音程について理解する。 ②音程を楽譜を見て表現できる。	◎	○	○
17	4	10	楽典・「Danny boy」 (アイルランド民謡)	P148	アイルランド民謡「Danny boy」に用いられている和音について理解する。	○	◎	○
18	4	10	楽典・「Danny boy」 (アイルランド民謡)	P38	①アイルランド民謡「Danny boy」を聴き、アイルランド民謡を感じる。 ②ほかのアイルランド民謡について調べる。	○	○	◎
19	—	—	探究	—	①自分の好きな曲について調べまとめる。 ②他者への発表のための表現方法を検討する。	○	○	◎
20	—	—	鑑賞	—	①自分の好きな曲について他者に発表する。 ②曲の鑑賞を通して、感じたことをお互いに共有し感性を磨く。	○	◎	○
21	5	11	日本の民謡と芸能・日本音楽 「会津磐梯山」(福島民謡)	P46～47	日本の民謡と芸能について理解する。	◎	○	○
22	5	11	日本の民謡と芸能・日本音楽 「会津磐梯山」(福島民謡)	P96～99	日本の音楽史について理解する。	○	◎	○
23	5	11	日本の民謡と芸能・日本音楽 「会津磐梯山」(福島民謡)	P49	福島県民謡「会津磐梯山」を聴き、コブシや囃子言葉などの民謡らしい表現を理解する。	○	◎	○
24	—	—	鑑賞	—	自分が興味のある日本の民謡を調べ聞き、感想を文章で表現したり他者と共有し様々な価値観に触れる。	○	◎	○
25	—	—	探究	—	雅楽の管弦と舞楽の違いについて調べまとめる。	○	○	◎
26	6	12	楽典・L' inverno「冬」	P118～119	ピアノの進化と作品について理解する。	◎	○	○
27	6	12	楽典・L' inverno「冬」	P124～125 P148	「交響曲第9番」などで使われている、ソナタ形式について理解する。	○	◎	○
28	6	12	楽典・L' inverno「冬」	P83 P110 P149～152	①「L' inverno（冬）」を聴き、リコーダーやギターの合奏を感じる。 ②作曲されたバロック時代などの時代背景を理解する。	○	◎	○
29	—	—	探究	—	①協奏曲について調べまとめる ②まとめた特長や、楽曲などを発表し表現したり他者と共有し様々な価値観に触れる。	○	○	◎
30	—	—	鑑賞	—	①学園歌を聴き、特長や感想を表現する。 ②他校の校歌などを鑑賞し共通点を見つける。 ③自分が学園歌を作成するとしたら、どんな歌詞を入れるか考える。	○	◎	○

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	美術Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	美術Ⅰは美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
学習の到達目標	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。						
	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。						
	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。						
使用教科書・副教材等	日本文教出版「高校生の美術Ⅰ」（美Ⅰ-702）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	—	—	オリエンテーション	—	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	—	—	—
2	1	5月	「視点と表し方」 絵画の魅力を考える	12・13、 22・23、 46-52、 53-55	複数の視点から見た画面を組み合わせた作品の表現の意図や工夫について考え、鑑賞するとともに、作者の視点に着目し、作品の表現の意図や工夫、全体のイメージや作風、様式などを捉える。	◎	○	○
3			「想像を形に」 想像の世界を表そう	24・25、 12・13、 18-21、 130、 131、 132-135、 136・137、 138・139、 140・141、 142・143	想像や空想したイメージなどを基に、形体や色彩、配置、組み合わせなどの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、具体物や抽象的なものの組み合わせ、構図や色彩などの効果、全体のイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かして、空想や夢などから、心の中の世界を表す。	○	◎	○
4			「人物を描く」 自分を見つめて描こう	18-21、 12・13、 24・25、 130・131、 132-135、 136・137、 138・139、 140・141、 142・143	自己の内面を見つめ、今の気持ちや性格など自分らしい印象などを基に、構図や表情などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、構図や表情、色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かして表す。	○	○	◎
5						○	○	◎
6	2	6月	「身近なものを描く」 作品を鑑賞しよう	6-9、 130・131、 132-135	教科書内の作品を見比べ、身近なものの特徴や美しさなどを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練ったり、鑑賞したりする。	◎	○	○
7			「身近なものを描く」 文房具を描こう	6-9、 130・131、 132-135	身近なものの特徴や美しさなどの全体のイメージなどを捉え、線の強弱や絵の具などの特性を生かして表す。	○	○	◎
8			「私が見つけた風景」 図法を学び、作品を鑑賞しよう	14-17、 22・23、 136・137、 138・139、 140・141、 142・143	一点透視図法、二点透視図法などを学び、実際にレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」などの作品を鑑賞する。	○	◎	○
9			「私が見つけた風景」 身近な風景を描こう	14-17、 22・23、 136・137、 138・139、 140・141、 142・143	身近な場所や風景のイメージなどを基に、形や色彩、構図などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、風景の中の空間、形や色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、風景から感じ取ったよさや美しさなどを絵の具などの特性を生かして表す。	○	○	◎
10						○	○	◎
11	3	7月	「墨表現の可能性」 墨の濃淡で、イメージを表現しよう	40・41、 26-31	墨による表現の特性やイメージを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、墨の濃淡、にじみやかすれなどの効果を理解し、墨によりつくりだされるイメージを捉え、意図に応じて墨の特性を生かして、積墨法や破墨法、筋目描きなどの技法を体験しながら発想を広げ、いろいろなモチーフのイメージを水墨画で表現する。	○	◎	○
12			「立体表現の魅力」 立体表現のよさや特性について考える	56・57、 46-52、 58・59、 60・61、 62・63、 64・65、 66・67	作品がつくれた時代や場所、材料や技法、つくった人の思いや願いへの理解を深め、立体作品の質感や量感、重心など、また、立体作品が置かれた空間の印象などのイメージを捉えて、立体表現のよさや特性について考える。	○	◎	○
13			「日本美術」 日本の美術のよさや特質を 味わおう	26-31、 32-37、 38・39、 40・41、 42・43、 66・67、 103・104、 105-108、 109-115、 116-122	屏風や掛軸、絵巻などのよさや美しさ、日本の美術の表現の特質、美術文化の継承と創造について考え、日本の美術の独自の美意識や自然観、制作の知恵などを理解し、金雲や空間、構図、色彩などの効果、全体のイメージや作風、様式などを捉え、鑑賞する。	○	◎	○
14			「抽象彫刻で表す」 動きを感じる抽象彫刻を つくろう	62・63、 46-52、 56・57、 58・59、 60・61、 64・65、 66・67	自然物や人工物などからイメージしたり、楽しい、悲しいなどの感情から形を考えたりしながら、主題を生成し、造形的なよさや美しさを考え、創造的な表現の構想を練ったり鑑賞したりするとともに、重心やバランス、動きなどを生かして、全体のイメージなどを捉え、材料や用具の特性を生かし、意図に応じて表現方法を創意工夫して、存在感や美しさなどが感じられる抽象彫刻に表す。	○	○	◎
15						○	○	◎

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	4	10月	「デザインの世界」 デザインの広がりを考える	68・69、 70・71、 72-75、 76・77、 78・79、 80・81、 82・83、 84・85、 86・87、 88・89、 90・91、 123・124	「飾る」「伝える」「使う」「環境」などの幅広いデザインの世界や役割を理解し、デザインとは何か、デザインをするときに大切なことは何かを考える。	㊟	○	○
17			「ポスターで伝える」 メッセージを伝えるポスターをつくろう	72-75、 68・69、 70・71、 78・79、 80・81、 130、 131、 142・143、 145、 149、 150・151、 152-154	伝えたいメッセージや伝える場面などを基に、形や色彩、写真やイラスト、文字などによる伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、イラストや写真、文字の形や色、構成などの効果、伝えたいイメージなどを捉え、環境問題に対する注意喚起等を目的としたポスターを構想する。	○	○	㊟
18						○	○	㊟
19			「サインのデザイン」 分かりやすい校内案内を デザインしよう	76・77、 68・69、 70・71、 78・79、 80・81、 130、 131、 142・143、 145、 149、 150・151、 152-154	伝達する内容や目的と見やすさや美しさの調和を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、認識されやすい効果的な形や色彩を使用し、伝達の目的や意図に基づいて、マークやビクトグラムをデザインする。	○	㊟	○
20						○	㊟	○
21	5	11月	色彩、美の秩序、文字の基本などについて学ぼう	149、 150・151、 152-154	「キャラクター」・「サイン」・「生活を彩る模様」のデザインを構想・表現するために、色彩、造形の秩序、構成の要素、構図、文字の基本などについて学び、理解を深める。	㊟	○	○
22			「キャラクターのデザイン」 マスコットキャラクターを デザインしよう	80・81、 68・69、 70・71、 76・77、 78・79、 130、 131、 142・143、 145、 149、 150・151、 152-154	伝えたい情報や使われる場面などを基に、キャラクターの形や色彩、性格設定などによる伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、キャラクターの形や色、性格を表すポーズや持ち物などの効果、伝えたい情報やイメージなどを捉え、材料や用具などの特性を生かしてキャラクターをデザインする。	○	㊟	○
23						○	㊟	○
24			「パッケージのデザイン」 卵やカップのパッケージを デザインしよう	84・85、 68・69、 70・71、 86・87	目的や条件、美しさや使いやすさ、入れるもののイメージなどを基に、形や色彩などの効果などを考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、包むものの形やイメージ、用いる場面などに着目し、包むものの形状や強度、パッケージの目的を考え、全体のイメージなどを捉え、材料の特性を生かして、美しく機能的なパッケージをデザインする。	○	○	㊟
25						○	○	㊟
26	6	12月	「映像に包まれて」 人を包み込む映像表現の よさを鑑賞しよう	100・101、 96・97、 98・99、 125・126、 147、 148	映像表現の特質や表現効果、投影の工夫などを感じ取り、機器の特質を生かした創造的な工夫について考えるとともに、光や動きを生かした映像の効果、美しさや全体のイメージなどを捉え、機器の特性を生かした投影の工夫に着目し、人を包み込む映像表現のよさや美しさなどを理解する。	○	○	㊟
27						○	㊟	○
28			「アニメーションの手法」 切り紙アニメをつくろう	96・97、 98・99、 100・101、 125・126、 147、 148	テーマを基に、絵コンテを描くなどして画面の変化のさせ方や速度などを検討し、表現効果や伝達効果を工夫して、映像メディア機器の機能や効果を生かし、画面の構成と時間の流れや物語性、言葉や音などの効果を考え、映像メディア機器等の特性を生かした表現方法などを創意工夫してアニメーションを制作する。	○	㊟	○
29			「写真で表す」 学校生活を表す情景を撮ろう	92-95、 146	被写体の印象や瞬間の美しさなどを基に、構図やシャッター速度などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、写す角度や配置、拡大や縮小、光や影、時間の静止などの効果、全体のイメージなどを捉え、カメラの特性を生かして、学校生活で心に残る情景を思いが伝わるように表す。	○	○	㊟
30						○	○	㊟

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	書道Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力について学ぶ。						
学習の到達目標	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。						
	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。						
	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「書道Ⅰ」（書Ⅰ701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習に 取り組む 態度
1	－	－	オリエンテーション	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	－	－	－
2	1	5	書写から書道へ	P2～4	①楷書の基本について理解する。 ②行書の基本について理解する。	◎	○	○
3	1	5	書写から書道へ	P6～7	①用具・用材の種類を理解する。 ②筆・墨の種類や特徴をとらえる。	◎	○	○
4	1	5	書写から書道へ	P6～7	①用具・用材の種類を理解する。 ②硯・紙の種類や特徴をとらえる。	◎	○	○
5	1	5	書写から書道へ	P8～9	①基本の姿勢について理解する。 ②執筆法の種類や特徴をとらえる。	◎	○	○
6	1	5	作品創作	－	①2週～5週で学んだ知識を用いて、実際に作品を作成する。	○	◎	○
7	2	6	漢字の書（楷書、行書）	P12～14	①漢字の成立と変遷について理解する。 ②古典に基づく学習の流れについて理解する。	◎	○	○
8	2	6	漢字の書（楷書、行書）	P16～25	①楷書の特長について理解する。 ②各作品の表現を比較し、特長を理解する。	◎	○	○
9	2	6	漢字の書（楷書、行書）	P26～37	①楷書の作品と作者について理解する。 ②作品を生み出した作者の人物像を理解する。	◎	○	○
10	2	6	拓本の採り方	P15	実際に拓本をとることで、学んだことを実践する。	○	◎	○
11	2	6	表現を比べよう	P18 P156	①楷書で描かれた作品を鑑賞し、言葉を用いて特長を表現する。 ②個人のとらえ方の違いなどを感じる。	○	○	◎
12	3	7	漢字の書（行書）	P38～39	①行書の特長について理解する。 ②王羲之について理解する。	◎	○	○
13	3	7	漢字の書（行書）	P40～48	①行書の作品を知る。 ②蘭亭序について知り、使われている表現を理解する。	○	◎	○
14	3	7	漢字の書（行書）	P50～51	争坐位文稿について知り表現の特長を理解する。 ②蘭亭序と比較しそれぞれの特長をより理解する。	◎	○	○
15	3	7	漢字の書（行書）	P52～58	①風信帖について知り表現の特長を理解する。	○	◎	○

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	4	10	作品創作	-	行書を用いて作品を書くことで、学んだことを実際に表現する。	○	◎	○
17	4	10	漢字の書（草書、隸書、篆書）	P59～61	①草書の特長について理解する。 ②草書の作品を知る。	◎	○	○
18	4	10	漢字の書（草書、隸書、篆書）	P62～65	①隸書の特長について理解する。 ②隸書の作品を知る。	◎	○	○
19	4	10	漢字の書（草書、隸書、篆書）	P66～69	①篆書の特長について理解する。 ②篆書の作品について知る。	◎	○	○
20	4	10	漢字の書（草書、隸書、篆書）	P70～73	①創作の手順を理解する。 ②古典を生かした創作を行う。	○	◎	○
21	4	10	漢字の書（草書、隸書、篆書）	P72～73	①創作を行う。 ②他者の作品を鑑賞して、評価する。	○	○	◎
22	5	11	仮名の書	P76～81	①仮名の成立について理解する。 ②仮名を書く準備について理解する。	◎	○	○
23	5	11	仮名の書	P86～93	①仮名の表現の特長を理解する。 ②仮名で書かれた作品を知る。	◎	○	○
24	5	11	仮名の書	P96～103	①平安時代の手本について理解する。	◎	○	○
25	5	11	作品創作	P98	①教科書P98を参考、仮名作品に創作する。	○	◎	○
26	6	12	漢字仮名交じりの書	P112～115	①線による表現の広がりや天の川の作品を通して理解する。 ②自分が表現することを想像し、適切な方法を選択できる。	○	◎	○
27	6	12	漢字仮名交じりの書	P114～P119	①用具・用材による表現の違いを理解する。 ②紙面構成などによる表現の違いを理解する。	◎	○	○
28	6	12	漢字仮名交じりの書	P124～129	①書を生活に広げて考え、場面や目的に沿った表現を理解する。 ②街や自分の身の回りに生かされている書を知る。	○	○	◎
29	6	12	漢字仮名交じりの書	P132～138	①篆刻と落款について理解する。 ②落款印の作成方法を理解する。	◎	○	○
30	6	12	創作	P133～138	消しゴム印を29週目で学んだことを生かして作成できる。	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ	スクーリング回数	12	レポート回数	9	単位数	3
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	英語コミュニケーションⅠは、日常生活や旅行の場面、電話・メールでの表現など、様々なシーンを題材として、英語でのコミュニケーションにおける「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やりとり）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」という5つの領域を基礎から総合的に学習する。						
学習の到達目標	1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。						
	2. 必要な情報を聞くことや、読むことを通して、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。						
	3. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合ったり、文章に書いて伝えることができる。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「All Aboard! English Communication Ⅰ」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に
1	前期：5月 後期：10月	Lesson 1 Breakfast around the World 私の朝ごはん Lesson 2 Australia's Cute Quokkas 人なつっこい野生動物	p20～35	①世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。 ②過去形の用法を理解する。 ③好きな食べ物について、英語で述べるようになる。 ④オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習する。 ⑤進行形：（be動詞＋動詞の-ing形）の用法を理解する。 ⑥好きな動物について、英語で述べるようになる。	○	○	◎
2	前期：5月 後期：10月	Lesson 3 A Train Driver in Sanriku 笑顔を運ぶ列車	P38～45	①被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考える。 ②ある場所への行き方とそこでできることについて、英語で述べるようになる。 ③助動詞can、willを用いた文の形・意味・用法を理解する。	○	○	◎
3	前期：5月 後期：10月	Lesson 4 A Miracle Mirror 夢のような絶景	P48～57	①海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する ②行ってみたい場所について、英語で述べることができる ③to不定詞（to＋動詞の原形）を用いた文の形・意味・用法を理解する	◎	○	○
4	前期：6月 後期：11月	Lesson 5 Learning from the Sea 長浜高校水族館部	P60～69	①高校のユニークな部活動を通して、好きなことと将来の夢について考える ②将来の夢について、英語で述べることができる ③動名詞（動詞の-ing形）を用いた文の形・意味・用法を理解する	◎	○	○
5	前期：6月 後期：11月	Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period 奇想天外な浮世絵師	P78～87	①江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。 ②好きな絵について、英語で述べるようになる。 ③受け身（be動詞＋過去分詞）を用いた文の形・意味・用法を理解する。	◎	○	○

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
6	前期：6月 後期：11月	Lesson 7 A Diary of Hope アンネ・フランク	P88～97	①アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考える ②関心のある人物について、英語で説明することができる ③比較表現 〈-er〉 〈the -est〉 〈as＋原級＋as〉を用いた文の形・意味・用法を理解する	◎	○	○
7	前期：7月 後期：12月	Lesson 8 A Door to a New Life ロボットカフェ	P98～107	①ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える ②人の生活を豊かにするロボットについて考え、英語で提案することができる ③現在完了形 〈have [has]＋過去分詞〉の用法を理解する	○	◎	○
8	前期：7月 後期：12月	Lesson 9 Fighting Plastic Pollution 海の豊かさを守る	P112～121	①プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する。 ②環境を守るためにできることについて、英語で述べることができるようになる。 ③「名詞を後ろから説明する分詞」が用いられた文の形・意味・用法を理解する。	○	◎	○
9	前期：7月 後期：12月	Lesson 10 Pigs from across the Sea 海の間こうからの贈り物	P122～131	①第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する。 ②海外の文化や社会に対する理解を深める活動について、英語で述べることができるようになる。 ③関係代名詞who、whichを用いた文の形・意味・用法を理解する。	○	◎	○
備 考		・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。					

《通信教育実施計画》

授業科目名	家庭基礎	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	人の一生と家族・家庭及び、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けることを目指す。家庭や地域社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策の構想から実践、評価など生涯を通して課題を解決する力を養う。様々な人々と協働し、地域の生活を創造することについて学ぶ。						
学習の到達目標	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて知る。						
	家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むための知識を得る。						
	生活を営むために必要な技能を身に付けるようとする姿勢を育む。						
	地域社会及び、家庭生活に参画するためのコミュニケーション能力を育む。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「家庭基礎 自立・共生・創造」2東書 家基701						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習に 取り組む 態度
1	-	-	オリエンテーション	P. 17	①1年間の家庭科授業の受け方を理解する ②自身の生活力を振り返り、自分が伸ばすべき力を理解することで、これから学ぶ家庭科の授業に対して前向きな姿勢を促す	-	-	-
2	1	5月	第1章 生涯を見通す	P. 12～21	①生涯発達の視点から、自身のステージの課題を知る ②自身の長所、短所を考えることで自己概念を理解する ③10年後のなりたい姿を考え①～②も基に、必要な資源やこれからやることを考える	○	◎	○
3			第2章 人生をつくる	P22～31	①様々なライフコースを知ること、人生設計の選択肢を増やす ②家族・家庭の意義とこれらに関する法律を知る ③前回の内容と①～②を基に、自身の人生設計を考える	◎	○	○
4				P. 32～37	①ジェンダーについて考え、自身の固定概念に気付く ②性別による固定概念による扱いの違いを防ぐための法律・制度を知る ③ワークライフバランスについて、自身がその立場になった時に何ができるか考える	○	○	◎
5	2	6月	第3章 子どもと共に育つ	P. 38～63	①子どもの発達と特徴を知り、保育者の責任について考える ②家族・社会で協力して家庭を築く重要性を感じる・法律を知る ③社会の一員として、地域で行われている子どもに対する支援を調べる	○	○	◎
6			第4章 超高齢社会を共に生きる	P. 64～77	①高齢社会の現状と高齢者の心身の変化や特徴を知る ②高齢社会における課題と、支援制度を知る、対策を考える	○	○	◎
7	3	7月	第5章 共に生き、共に支える	P. 78～	①生活する上での様々な社会保障制度を知る ②社会生活を送っていく上で、社会保障制度や社会生活を営む人同士で支えられていることに気付く	◎	○	○
8				P. 78～	①多様な人々が生活する上での困難と解決策・施策を知る ②日本と、他国での社会保障の違いを知る ③社会生活を送る上で、自身にできる取り組みを考える	◎	○	○
9			第6章 食生活をつくる	P. 86～	①食生活の課題を知り、自身の食生活を振り返る ②食品の栄養素を知る	○	○	◎
10				P. 86～	①食品の栄養素を知り、食事の参考にする意識を養う	◎	○	○
11				P. 86～	①食中毒や寄生虫病について理解し、安全な食生活の選択ができる ②食品添加物について知る	○	◎	○
12	-	-	P. 86～	①調理技術を知る ②自身の地域の郷土料理を知る	◎	○	○	
13			P. 86～	①自身の地域の郷土料理づくりを通し、地産地消の考え方を身に付ける	○	○	◎	
14			P. 86～		○	○	◎	
15			前期試験対策		前期の範囲について振り返り、理解を深める	◎	○	

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	4	10月	第6章 食生活をつくる	P. 86～	①日本の食文化について知る ②食をめぐる問題と、その対策を知る ③SDGsの観点も含めて、自分にできる取り組みを考える	○	◎	○
17			第7章 衣生活をつくる	P. 134～	①被服の役割を理解する ②正しい被服の選択ができるようになる	◎	○	○
18				P. 134～	①他国の民族衣装を体験することで、文化や気候への順応を理解する ②被服のデザインについて考え、TPOに合わせた選択ができるようになる	○	◎	○
19				P. 134～	①被服の素材における特徴を知る ②被服の正しい手入れの方法を知り、生活に活かそうとする気持ちを養う	◎	○	○
20				P. 134～	①ボタン付けや穴を修繕することができるようになる	○	○	◎
21	5	11月	第8章 住生活をつくる	P. 164～	①住居の機能と造りの移り変わりを家族形態やライフステージの視点から知る ②平面図について理解し、適切な住居の選択に活かす知識を学ぶ	○	◎	○
22				P. 164～	①健康で安全な住まいのための施策を知る	○	◎	○
23	6	12月	第9章 経済生活を営む	P. 184～	①消費者としての注意点を知り、消費活動に役立てることができる ②購入・支払い方法の特徴を知り、留意して消費活動ができる	○	◎	○
24				P. 184～	①お金の管理と運用について知り、自分のお金の管理に役立てられる	◎	○	○
25			第10章 持続可能な生活を営む	P. 200～	①今現在の消費社会における課題と施策について知る ②自身の生活を振り返り、環境・社会に与える影響に気付く	○	◎	○
26				P. 200～	①SDG s の目標を知り、生活の中で意識することができる	○	◎	○
27				P. 200～				
28	-	-	第11章 これからの生活を創造する	P. 208～	①自分のキャリアプランを描くことができる	○	◎	○
29								
30			後期試験対策		後期の範囲について振り返り、理解を深める	◎	○	

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	情報Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	情報技術を適切に活用することを通して、情報を正しく理解すること、様々な情報を組み合わせて適切に活用すること、問題の発見・解決に繋げることについての知識を学ぶ。また、情報社会を生きる上で大切なコミュニケーションやプログラミングについても理解を深める。						
学習の到達目標	(1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。						
	(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。						
	(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編情報Ⅰ」（情Ⅰ701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習に 取り組む 態度
1	—	—	オリエンテーション	—	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	—	—	—
2	1	5月	【1章】（理論編） 1 情報とメディアの特性	P6-7	・情報の特性から、情報とは何かを理解する。 ・さまざまなメディアの特性を理解する。	◎	○	○
3			【1章】（理論編） 2 問題解決の流れ 3 発想法	P8-11	・問題を発見・解決するための一連の流れを理解する。 ・問題の発見・解決に情報技術が活用できることを理解する。 ・問題解決の各場面で活用できる発想法を学習する。	○	◎	○
4			【1章】（理論編） 4 情報モラル 5 個人情報流出 6 傷つけない傷つけないために	P12-17	・情報社会で生活していくための情報モラルを理解する。 ・情報社会の安全を守るための、法規や制度および個人の責任について学習する。 ・個人情報とはどのようなものか理解する。 ・SNSを通して個人情報流出・特定される仕組みを学習する。 ・SNS等の不適切な使い方による問題を理解する。 ・ソーシャルエンジニアリングにより不正に情報が盗まれることを理解する。	◎	○	○
5			【1章】（理論編） 7 著作権	P18-19	・著作権について理解する。 ・引用の仕方を理解する。	◎	○	○
6			【1章】（理論編） 8 情報技術の発展 9 情報化と私たちの生活の変化 10 よりよい情報社会へ	P20-25	・画像処理や電子商取引などの新しい情報技術について学習する。 ・人工知能やロボットなどの情報技術と生活の変化を理解する。 ・情報化による健康への影響などの問題について学習する。 ・サイバー犯罪などの問題について学習する。	◎	○	○
7			【1章】（理論編） 章末問題	P30-32	・練習問題の実践を通して、1章の学習内容の理解度を図る。	◎	○	○
8	6	12月	【巻末】（資料編） 文書処理ソフトウェアの操作①（実習）	P150-151	・文書処理ソフトウェアについて、書式の設定や配置の変更など、基本的な操作を学習する。 ・文書処理ソフトウェアで図、表、画像を利用する方法を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	○	○	◎
9			【巻末】（資料編） 文書処理ソフトウェアの操作②（実習）	P150-151	・文書処理ソフトウェアについて、書式の設定や配置の変更など、基本的な操作を学習する。 ・文書処理ソフトウェアで図、表、画像を利用する方法を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	○	○	◎
10	2	6月	【2章】（理論編） 11 コミュニケーション手段の変化 12 ネットコミュニケーションの特徴	P34-37	・メディアとコミュニケーションの変遷について学習する。 ・メディアの特性について学習する。 ・近年のソーシャルメディアによる人のつながりを理解する。 ・ネットコミュニケーションの特徴である記録性や匿名性について学習する。	○	◎	○
11			【2章】（理論編） 13 デジタルの世界へ 14 数値と文字のデジタル表現	P38-41	・デジタルデータとは何か学習する。 ・デジタルデータのメリットとデメリットを理解する。 ・2進法と情報の単位について学習する。 ・文字のデジタル表現について学習する。	◎	○	○
12			【2章】（理論編） 15 音と画像のデジタル表現 16 色と動画のデジタル表現 17 目的に応じたデジタル化	P42-47	・音、画像、動画のデジタル化について学習する。 ・デジタルでの色の原理を理解する。 ・デジタル情報の品質の違いについて学習する。 ・データの圧縮について学習する。	◎	○	○
13			【2章】（理論編） 18 情報デザイン 19 ユニバーサルデザイン 20 情報デザインの流れ	P48-53	・情報デザインとは何か学習する。 ・情報デザインの方法である抽象化、可視化、構造化を理解する。 ・学校のWebサイトがどのような階層構造になっているか調べる。 ・情報デザインの方法を使って分かりやすい文書を作成する。 ・ユニバーサルデザインについて学習する。 ・ユーザインタフェースについて学習する。 ・情報デザインのプロセスを理解する。 ・情報デザインのプロセスを活用する方法を身につける。 ・デザイン思考に基づいた分析を理解する。	○	◎	○
14			【2章】（理論編） 章末問題	P58-60	・練習問題の実践を通して、2章の学習内容の理解度を図る。	◎	○	○
15	6	12月	【巻末】（資料編） 表計算ソフトウェアの操作①（実習）	P152-153	・表計算ソフトウェアの書式の設定や配置の変更など、基本的な操作を学習する。 ・表計算ソフトウェアでの数式の利用を学習する。 ・表計算ソフトウェアでの関数の利用を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	○	○	◎

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	6	12月	【巻末】（資料編） 表計算ソフトウェアの操作②（実習）	P152-153	・表計算ソフトウェアの書式の設定や配置の変更など、基本的な操作を学習する。 ・表計算ソフトウェアでの数式の利用を学習する。 ・表計算ソフトウェアでの関数の利用を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	○	○	◎
17	3	7月	【3章】（理論編） 21 コンピュータとは何か 22 ソフトウェアの仕組み	P62-65	・コンピュータの基本構成について理解する。 ・ハードウェアとソフトウェアについて理解する。	◎	○	○
18			【3章】（理論編） 23 演算の仕組みとコンピュータの限界 24 アルゴリズムの表現	P66-69	・プログラムの動作の仕組みについて学習する。 ・コンピュータの演算の仕方について学習する。 ・コンピュータの処理のための基本的な回路について学習する。 ・アルゴリズムの必要性を理解する。 ・アルゴリズムの表現方法について学習する。	○	◎	○
19			【3章】（理論編） 23 演算の仕組みとコンピュータの限界 24 アルゴリズムの表現	P66-69	・プログラムの作り方について学習する。 ・プログラムの制御構造について学習する。 ・Scratchを通して、プログラミングの基礎とプログラミング思考を学習する。	○	◎	○
20			【3章】（理論編） 25 プログラムの基本構造1 26 プログラムの基本構造2 【巻末】 Scratch	P70-73 P186-187	・プログラムで制御構造を組み合わせる方法を学習する。 ・プログラムの配列とリストについて学習する。 ・簡単な対話プログラムを開発する。 ・プログラムでの関数の利用について学習する。 ・Pythonを通して、実践的なプログラミングとプログラミング的思考を学習する。	○	◎	○
21			【3章】（理論編） 27 発展的なプログラム1 28 発展的なプログラム2 【巻末】 Python	P74-77 P176-177	・モデル化の考え方と、モデルの分類について学習する。 ・シミュレーションによるモデルの評価について学習する。 ・モデル化とシミュレーションにおける注意点を学習する。 ・テーマを決めて、表計算ソフトウェアでシミュレーションを行う。	○	◎	○
22			【3章】（理論編） 章末問題	P86-88	・練習問題の実践を通して、3章の学習内容の理解度を図る。	◎	○	○
23	6	12月	【巻末】（資料編） プレゼンテーションソフトウェアの操作①（実習）	P154-155	・プレゼンテーションソフトウェアの書式の設定や配置の変更など、基本的な操作を学習する。 ・プレゼンテーションソフトウェアでの視覚的な情報伝達の方法を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	○	○	◎
24			【巻末】（資料編） プレゼンテーションソフトウェアの操作②（実習）	P154-155	・プレゼンテーションソフトウェアの書式の設定や配置の変更など、基本的な操作を学習する。 ・プレゼンテーションソフトウェアでの視覚的な情報伝達の方法を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	○	○	◎
25	4	10月	【4章】（理論編） 31 ネットワークとインターネット 32 インターネットの仕組み 33 サーバとクライアント	P90-95	・情報通信ネットワークとは何か学習する。 ・LANとWANの違いを学習する。 ・プロトコルと、その1つとしてTCP/IPについて学習する。 ・ネットワークを構成するハードウェアについて学習する。 ・サーバの役割について学習する。 ・インターネットでのIPアドレスとDNSの役割を学習する。 ・認証後に使えるようになるサービスには、どのようなものがあるか調べる。	◎	○	○
26			【4章】（理論編） 34 インターネット上のサービス 35 情報セキュリティ	P96-99	・WWWについて理解する。 ・電子メールについて学習する。 ・情報セキュリティの機密性、完全性、可用性を理解する。 ・情報セキュリティを確保するための方法・技術について学習する。	○	◎	○
27			【4章】（理論編） 36 データの形式 37 データベースの活用 38 さまざまなデータモデル	P100-105	・データとは何か学習する。 ・データの尺度とは何か学習する。 ・データベースの役割がどのようなものか理解する。 ・社会でのデータベースの活用例を学習する。 ・データベースで使用するデータモデルについて学習する。 ・関係データベースを分析して、解釈する。	◎	○	○
28			【4章】（理論編） 39 データ分析の流れ 40 目的に合わせたデータの利用	P106-109	・データ分析の流れと方法を学習する。 ・分析の目的に合わせたデータの利用方法を学習する。 ・適切なデータの解釈方法を学習する。	○	◎	○
29			【4章】（理論編） 章末問題	P114-116	・練習問題の実践を通して、4章の学習内容の理解度を図る。	◎	○	○
30	5	11月	【5章】（実習編） クラスの実態調査	P144-148	・クラスの実態調査をアンケートで行い、分析結果を発表する。	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。 ・教科書P117-143の範囲については、教科書内容の特性を考慮し、各校の授業計画および実施の進捗に合わせ柔軟に対応するものとする。
-----	--

《通信教育実施計画》

授業科目名	医療事務	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	医療業界がおかれている現状や、医療に携わる各職種・仕事内容について理解を深める。医療スタッフの基本的なマナーや考え方についても学ぶ。また、医療事務の職種ごとの仕事内容の違いや、一日の仕事の流れを知り、職業イメージを掴む。						
学習の到達目標	1. 医療業界がおかれている現状を理解し、時代変化に対応できる思考力・判断力を身に付ける。						
	2. 医療機関で働く方々の職種を十分に理解し、その業務内容について学び、社会的な見方や考え方を培う。						
	3. 医療現場で必要とされる基本的マナーを理解することで、相手の立場に立って考え行動できる人間力を磨く。						
使用教科書・副教材等	日本医療事務協会「医療事務」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的に学 習に 取り組む 態度
1	—	—	オリエンテーション	—	①学習内容や到達目標を理解する ②学習の進め方を理解する	-	-	-
2	1	5月	1. 医療業界を理解しよう 医療業界の現状 日本の保険医療制度とは 変化する医療業界	5-7	①医療保険制度について興味関心を高める ②医療業界の変化について学ぶ	◎		
3			1. 医療業界を理解しよう 医療業界の現状 変化する医療業界 今後の医療業界	8-9	①医療保険制度について興味関心を高める ②医療業界の変化について学ぶ	◎	○	
4			1. 医療業界を理解しよう 医療従事者に求められる資質 医療従事者のやりがい	10-14	①医療従事者に求められる資質について考える ②業界や職種によって求められる資質が異なることを学ぶ ③医療従事者のやりがいを知る	◎	○	○
5			2. 医療の現場と医療の仕事を知ろう 医療現場とは	15-17	①病院だけでなく様々な医療現場があることを理解する ②診療所と病院の違いを学ぶ	◎	○	○
6			2. 医療の現場と医療の仕事を知ろう ・診療所 ②病院	18～19	①診療所と病院について復習し、より詳しく学ぶ ②一般病院や地域医療支援病院、特定機能病院など、病院にもその役割と機能が分化されていることを学び、違いを理解する	◎	○	
7	2	6月	2. 医療の現場と医療の仕事を知ろう 医療現場の特徴 (③歯科医院 ④調剤薬局 ⑤その他)	20～21	①診療所や病院以外にも医療や福祉の現場が多く存在することを理解する	◎	○	
8			2. 医療の現場と医療の仕事を知ろう ・医療現場の職種と医療に携わる仕事	22-30	①医療現場の様々な職種と仕事内容を学ぶ ②多岐にわたるメディカルスタッフの職種と業務を学ぶ ③医療事務を含む事務スタッフ、その他職種も多数あることを理解する	◎	○	
9						◎	○	
10	5	7月	学習のおさらい（第2章）・アウトプット	参考章 2章	【学習のおさらい（第2章）・アウトプット】 医療現場とは（主な医療現場・医療現場の特徴） ・自分が住んでいる地域の医療現場について調べることで、診療所・病院の特徴を具体的に理解する ・自分の地域の医療体制・病診連携等を理解することで、より身近に医療事務を感じ教材としての学びを現実と結び付けて提えられるようにする	○	○	◎
11						○	◎	○
12			学習のおさらい（第1章）・アウトプット	参考章 1章	【学習のおさらい（第1章）・アウトプット】 自分やグループで考えて主体的に取り組む ・以下から興味関心のあるテーマを個人・グループで選択する ・ニュースや本、インターネット等、様々な情報ツールを駆使して医療業界への興味関心、理解を深める テーマ例 ①「国民皆保険制度」日本と海外の医療保険制度の違い ②患者中心の医療 ③チーム医療 ④手術・技術の進化 ⑤医薬分業 ⑥病院のデジタル化推進（電子カルテ・オンライン診療） ⑦マイナ保険証 ⑧高齢化社会と医療	○	○	◎
13						○	◎	○
14						○	◎	○
15	—	—	前期のまとめ （レポート1・2回の復習）	—	①レポート1・2回分の復習をすることで知識の定着を図る	◎	○	

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	—	—	後期オリエンテーション（学習の進め方）	—	①学習内容や到達目標を理解する ②学習の進め方を理解する ③前期の復習	◎		
17	3	10月	3. 医療現場に必要なマナー ・ マナーの5つのポイント	31～35	①一般マナーと医療スタッフに求められるマナーの違いを理解する ②医療現場での5つのマナーのポイントを理解する ③患者の立場、医療従事者、両者の立場で接遇について考える	○	◎	○
18						○	○	◎
19			4. 医療事務の仕事の概要を知ろう ・ 医療事務スタッフの仕事 （初診受付・再診受付）	36～43	①医療事務の仕事にも様々な職種・仕事があることを学ぶ ②初診受付業務、再診受付業務の流れを理解する ③「保険証」・「問診票」について理解、関心を深める	◎	○	
20						◎	○	
21	4	11月	4. 医療事務の仕事の概要を知ろう ・ 医療事務スタッフの仕事 （会計業務・案内業務・レセプト業務）	44～47	①医療事務の仕事にも様々な職種・仕事があることを学ぶ ②会計・案内・レセプト業務の概要を理解する ③診療報酬明細書（レセプト）について知識を深める	◎	○	
22			4. 医療事務の仕事の概要を知ろう ・ 医療事務スタッフの仕事 （クラーク業務・秘書業務・診療情報管理士）	48～52	①医療事務の仕事にも様々な職種・仕事があることを学ぶ ②クラーク業務・秘書業務・診療情報管理士の職業を理解する ③外来クラーク・病棟クラークの役割の違いを理解する ④秘書業務の種類や役割の違いを理解する	◎	○	
23			4. 医療事務の仕事の概要を知ろう ・ 医療事務スタッフの仕事 （調剤薬局事務・歯科医院事務） ・ 医療事務員の一日の流れ	53～54	①医療事務の仕事にも様々な職種・仕事があることを学ぶ ②調剤薬局事務の仕事内容を理解する ③歯科医院の医療事務の仕事内容、病院事務との違いを理解する	◎	○	
24			4. 医療事務の仕事の概要を知ろう ・ 医療事務員の一日の流れ	55～60	①医療事務員の仕事の1日の流れのイメージを掴み、職業理解を深める ②勤務先や職種によって1日の仕事内容が大きく異なることを理解する	◎	○	
25	6	12月	学習のおさらい（第4章）・アウトプット	参考章 4章（1章）	【学習のおさらい（第4章）・アウトプット】 医療現場の職種と仕事内容 ・教科書に記載のある職種から1つ選び、職業についてより深く調べまとめる（医療事務に限らず、1章の医療に関連する職種でも可とする） ・仕事内容や資格等を調べることで、将来の選択肢を広げ社会に興味関心を持つ	○	◎	○
26						○	◎	○
27						○	○	◎
28						○	○	◎
29	—	—	後期のまとめ （レポート3・4回の復習）	—	①レポート3・4回分の復習をすることで知識の定着を図る	◎	○	
30	—	—	1年間のまとめ	—	①1年間の復習・学びを整理する	◎	○	

備 考	・ 年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	--

《通信教育実施計画》

授業科目名	福祉	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	高齢社会の現状やサポートの方法、介護の定義、高齢者福祉の基本を学ぶ。						
学習の到達目標	福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。						
	福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。						
	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	日本医療企画「はじめて学ぶ介護」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に取り組む 態度 学習に
1	1	5月	オリエンテーション	－	・学習内容や到達目標を理解する。 ・学習の進め方を理解する。	－	－	－
2			高齢社会の現状 高齢者の健康介護問題 高齢者の生活環境 高齢者が事故を起こす場所と原因を知る	P2～P7	・介護の位置づけや介護職について知る。 ・日本の高齢社会の現状について理解する。 ・高齢者の健康と介護問題について知る。 ・平均寿命が延びている社会の背景を知り、介護が必要な高齢者の現状を知る。 ・高齢者が生活する環境について理解する。	◎	○	
3			介護の役割 利用者が自立するための支援 役割意識と自尊心のためのたらしかけ 介護専門職の存在、介護者が行うべき支援 介護の種類 介護に必要な心掛け	P8～P13	・自立の意味と意義について理解する。 ・人間の尊厳とは何か考え、視野や対応方法の視野を広げる。 ・介護をする上での基礎知識や支援方法を理解する。 ・利用者への寄り添い方を理解する。	◎	○	
4			介護の意味 介護とは 介護の基本原則 骨粗鬆症 感染予防	P14～P17 P21 P101	・介護とは利用者の日常生活を理解して支援することを理解する。 ・介護専門職として医療的な知識と技術を学ぶ必要性を知る。 ・高齢者に多い病気についての知識を得る。 ・介護者の健康管理の心掛けを理解する。	◎	○	
5	2	6月	介護保険制度の理念 介護保険制度はどうしてできたのか 制度の理念	P30～P32	・介護保険制度が創設された背景を理解する。 ・介護保険制度の理念を理解する。	◎	○	
6			制度の特徴	P32～P33	・介護保険制度の特徴を理解する。	◎	○	
7			介護保険制度のしくみとサービスの理解 介護保険制度のしくみ	P34～P36	・要介護認定の受け方にも理解する。 ・介護保険給付について理解する。	◎	○	
8				P38～P39	・介護保険サービスの種類や内容について理解する。	◎	○	
9	5	7月	【課題探究】 個人探究①	－	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、 個人別探究を行い単元に対する理解を深める。 例) 探究・発表「高齢者の現状に対し、私たち世代が出来ること」 例) 探究・発表「相手を大切にすることについて（尊厳・人権）」 例) 探究・発表「私が考える新しい介護保険制度」	○	○	◎
10			【課題探究】 個人探究②	－		○	○	◎
11			前期学習内容の振り返り①	－	MetaMoJiなどデジタルを使用しての小テストを配布したり、それぞれのレポートに沿った調べ学習などを生徒へ 配布しその場で答え合わせなどを行う。		◎	○
12			前期学習内容の振り返り②	－			◎	○
13			【実技学習】 高齢者体験	－	白杖や目隠し、車いすなどを使用し高齢者、障がい者体験を実施する。	○	○	◎
14	1、2	－	レポート復習プリント	－	学習内容を整理する。	◎		
15	1、2	－	前期授業全体の振り返り	－	前期の学習内容を振り返り、重要なポイントを復習（実践）する。			◎

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	3	10月	介護保険制度のサービス 居宅サービス	P41～P47	・介護保険サービスの種類や内容について理解する。	◎	○	
17			その他の居宅サービス	P47～P52		◎	○	
18			高齢者向け福祉サービス 地方自治体の関わる高齢者福祉サービス 高齢者の保健サービス	P53～P54	・介護保険以外の高齢者福祉サービスを把握する。 ・高齢者の保健サービスを理解する。	◎	○	
19			高齢者虐待の防止と対応 高齢者虐待防止法 高齢者虐待の定義	P55～P59	・高齢者の虐待について理解する。 ・高齢者虐待防止法について理解する。	◎	○	
20	4	11月	介護技術の基本 家事援助	P168～P184	・家事援助によって利用者の生活、行動範囲が広がることを理解する。 ・家事援助の目的について理解する。 ・家事援助の具体的な介護技術の基本を学ぶ。	◎	○	
21			移乗、移動の介助（レポート範囲外）	P185～210	・移乗、移動解除の基本を学ぶ。 ・安心な移乗、移動で利用者の生活、行動範囲が広がることを理解する。	◎	○	
22			食事介助（レポート範囲外）	P211～P220	・食事は利用者の楽しみの一つであることを理解する。 ・食事介助の基本を学ぶ。	◎	○	
23			入浴と清潔の介助（レポート範囲外）	P231～P253	・転倒は大きなけがにつながるので安全な介助方法を選択する。 ・プライバシーに配慮することを理解する。	◎	○	
24	6	12月	【課題探究】 個人探究①	-	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、個人別探究を行い単元に対する理解を深める。	○	○	◎
25			【課題探究】 個人探究②	-		○	○	◎
26			【課題探究】 グループ・クラス発表	-	探究活動の発表を通して、自身の考えをアウトプットする。 総合評価を行ったり、発表に対する意見や他者の考えを聞く機会を設ける。 発表後の振り返り学習（まとめ）を行い情報を整理する。		◎	○
27			【課題探究】 発表活動のまとめ・振り返り	-			◎	○
28			【実技学習】 麻痺体験	-		○	○	◎
29	3、4	-	レポート復習プリント	-	学習内容を整理する。	◎		
30	3、4	-	後期授業全体の振り返り	-	後期の学習内容を振り返り、重要なポイントを復習（実践）する。			◎

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	健康スポーツ	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	スポーツ健康科学を理解するための解剖学、生理学の基本とトレーニングの基礎知識を学ぶ。						
学習の到達目標	身体の構造と機能を理解し、救急処置、コンディショニングの実践に繋げる。						
	運動のためのエネルギー供給と利用の仕組み、情報伝達の仕組みを理解し、トレーニングとからだづくりに必要な知識を身に着ける。						
	筋力トレーニングの基礎知識を理解し実践に繋げる。						
使用教科書・副教材等	金芳堂「図解スポーツ健康科学入門」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的に学習に 取り組む態度
1	-	-	オリエンテーション	-	①学習内容や到達目標を理解する。 ②学習の進め方を理解する。	-	-	-
2	1	5	からだの構造と機能について①	2～3	①からだを形づくる主な骨を理解する。 ②関節の構造と働きを理解する。	○	○	◎
3	1	5	からだの構造と機能について②	4～7	筋肉の構造と働きを理解する。	○	○	◎
4	1	5	からだの構造と機能について③	7～8	体幹の筋肉の名称、簡単な走行、機能を理解する。	○	○	◎
5	1	5	からだの構造と機能について④	8～10	上肢の筋肉の名称、簡単な走行、機能を理解する。	○	○	◎
6	1	5	からだの構造と機能について⑤	10～11	下肢の筋肉の名称、簡単な走行、機能を理解する。	○	○	◎
7	1	5	からだの構造と機能について⑥	11～12	①筋肉の微細構造を理解する。 ②筋収縮のメカニズムを理解する。	○	○	◎
8	1	5	学習内容 振り返り		学習内容 振り返り 機能解剖学（筋肉・骨）を中心に2～7回目までの復習を実施する。	◎	○	
9	2	6	運動のためのエネルギー供給と利用の仕組み①	14～18	呼吸器系の解剖と機能について ①肺の機能と構造について理解する。 ②呼吸中枢について理解する。	◎	○	○
10	2	6	運動のためのエネルギー供給と利用の仕組み②	19～23	循環器系の解剖と機能について ①心臓について理解する。 ②血管について理解する。	◎	○	○
11	2	6	運動のためのエネルギー供給と利用の仕組み③	23～25	運動のためのエネルギー供給と利用の仕組みについて ①代謝の概要について理解する。 ②エネルギー基質について理解する。	◎	○	○
12	2	6	運動のためのエネルギー供給と利用の仕組み④	25～26	①エネルギーの供給機構について理解する。 ②運動と乳酸について理解する。	◎	○	○
13	2	6	運動のためのエネルギー供給と利用の仕組み⑤	26～27	エネルギー供給系から見たスポーツについて理解する。	○	◎	○
14	2	6	運動のためのエネルギー供給と利用の仕組み⑥	28～29	エネルギー消費量の内訳について理解する。	○	◎	○
15	5	7	体幹トレーニングについて	57～63	①体幹トレーニングについて理解する。 ②体幹トレーニングを実践する。	○	◎	○

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	3	10	運動のための情報伝達の仕組み①	3 1～3 4	神経細胞の構造と情報伝達の仕組みについて ①ニューロンの構造について理解する。 ②軸索の種類と活動電位の伝達について理解する。 ③シナプスの構造と情報伝達について理解する。	◎	○	○
17	3	10	運動のための情報伝達の仕組み②	3 4～3 6	大脳皮質について ①神経系について理解する。 ②一次運動野について理解する。 ③一次体性感覚野・頭頂連合野について理解する。 ④運動関連野について理解する。	◎	○	○
18	3	10	運動のための情報伝達の仕組み③	3 6～3 7	小脳・大脳基底核について ①小脳の神経回路について理解する。 ②大脳基底核の神経回路について	◎	○	○
19	3	10	運動のための情報伝達の仕組み④	3 7～3 8	脊髄について ①脊髄の構造について理解する。 ②脊髄神経と髄節について理解する。 ③皮質脊髄路について理解する。	◎	○	○
20	3	10	運動のための情報伝達の仕組み⑤	3 8～3 9	運動単位について ①運動単位の構成について理解する。 ②運動単位の種類について理解する。 ③運動単位の動員について理解する。	○	◎	○
21	3	10	運動のための情報伝達の仕組み⑥	4 0～4 2	感覚情報の伝達と統合について ①筋紡錓について理解する。 ②ゴルジ腱器官について理解する。 脊髄反射について ①伸張反射について理解する。 ②I b群線維について理解する。	○	◎	○
22	3	10	学習内容 振り返り	-	前期中の内容について復習する。	◎	○	
23	4	11	筋力トレーニングの基礎知識①	4 4～4 5	①筋収縮の様式について理解する。 ②遅発性筋肉痛について理解する。	◎	○	○
24	4	11	筋力トレーニングの基礎知識①	4 5～4 7	最大筋力に影響する因子について ①筋断面積について理解する。 ②固有筋力について理解する。 ③羽状角について理解する。 ④モーメントアームについて理解する。	◎	○	○
25	4	11	筋力トレーニングの基礎知識①	4 8～5 0	トレーニングによる最大筋力の向上と影響因子の変化について ①筋断面積の変化について理解する。 ②固有筋力の変化について理解する。 ③羽状角の変化について理解する。	◎	○	○
26	4	11	筋力トレーニングの基礎知識①	5 1～5 2	筋力トレーニングプログラム作成の基礎知識について ・筋力トレーニングプログラムの要素について理解する。	◎	○	○
27	4	11	筋力トレーニングの基礎知識①	5 4～5 6	筋の出力特性とトレーニングによる変化について ①力－速度の関係について理解する。 ②パワーについて理解する。 ③速度・力・パワーの変化について理解する。	○	◎	○
28	6	12	学習内容 振り返り	-	後期中の内容について復習する。	◎	○	
29	-	-	テスト対策	-	後期中の内容について復習する。	◎	○	
30	-	-	テスト対策	-	後期中の内容について復習する。	◎	○	

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	メイク	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	ヘア・メイク分野に関する教養を身につける。						
学習の到達目標	ヘア、メイクに関する知識を身につける。						
	身に着けた知識を実技に活かすことができる。						
	状況に応じた施術ができるようにする。						
使用教科書・副教材等	高橋書店「あなたの美を引き出す正しいヘア&メイク事典」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的に学 習する態度
1	-	-	オリエンテーション	-	学習内容や到達目標を理解する。 学習の進め方を理解する。	-	-	-
2	1	5月	【基礎】 ベースメイクについて①	P12-P84	ベースメイクの基本を正しく理解する。 工夫のポイントを整理する。	◎	○	
3			【基礎】 ベースメイクについて②	P12-P84	仕上がりの違いや印象について考察する。	○	◎	
4			【基礎】 目元のメイクについて	P12-P84	仕上がりの違いや印象について考察する。 必要な道具を想像し、再現をする方法を理解する。	○	◎	
5			実技・実習活動	P12-P84	これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解する。	○	○	◎
6	2	6月	【考察】 眉と目元メイクの考察	P85-P153	仕上がりの違いや印象について考察する。	○	◎	
7			【基礎】 メイクを直す際の注意点とポイント	P85-P153	メイクを修正するためのポイントを理解し、他者に説明が出来る力を身につける。	◎	○	
8			【基礎】 リップメイクについて	P85-P153	リップメイクの特徴を正しく理解する。	◎	○	
9			【探究学習】 シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言①」	P85-P153	これまでの学習内容を振り返りながら、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。	○	○	◎
10			実技・実習活動	P85-P153	これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解をする。	○	○	◎
11	5	7月	【課題探究】 個人探究①	-	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、個人別探究を行い単元に対する理解を深める。 例）探究・発表「メイクが利用者の生活にどのような影響を与えるか」 例）探究・発表「私が感動したメイク作品とその理由」 例）探究・発表「メイク創作活動（個人作品）」	○	○	◎
12			【課題探究】 個人探究②			○	○	◎
13			【個人探究発表会】	-	探究活動の発表を通して、自己への評価を得たり、他者を評価する。 発表後の振り返り学習（まとめ）を行い情報を整理する。			◎
14	1, 2	-	レポート復習プリント	-	学習内容を整理する。	◎		
15	1、2、5	-	前期振り返り	-	前期の学習内容を振り返り、重要なポイントを復習（実践）する。			◎

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	-	-	【オリエンテーション】 後期・学習の進め方 前期の復習	-	学習内容や到達目標を理解する。 学習の進め方を理解する。			◎
17	3	10月	【考察】 自身のヘアスタイルや 過去のアレンジ経験を振り返る	P154-P200	イメージを具体化し、アレンジに対する理解を深める。	○	◎	
18	3		【基礎】 ヘアの変化やダメージについて	P154-P200	ヘアの変化やダメージに関する正しい理解を行う。	◎	○	
19	3		【探究学習】 シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言②」	P154-P200	これまでの学習内容を振り返りながら、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。	○	○	◎
20	3		実技・実習活動	P154-P200	これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解をする。	○	○	◎
21	4	11月	【基礎】 シャンプーの意味について	P154-P200	シャンプーの効果や方法について理解する。	◎	○	
22	4		【基礎】 トリートメントの意味について	P154-P200	トリートメントの効果や方法について理解する。	◎	○	
23	4		【基礎】 ヘアの変化による印象の違い①	P154-P200	仕上がりの違いや印象について考察する。	◎	○	
24	4		【基礎】 ヘアの変化による印象の違い②	P154-P200	ヘアに関する知識を用いて、相談に対して適切なアドバイスが出来るようにする。	◎	○	
25	4		実技・実習活動	P154-P200	これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解をする。	○	○	◎
26	6	12月	【課題探究】 グループ探究①	-	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、グループ別探究（協働学習）を行い単元に対する理解を深める。 例）探究・発表「他者の心を動かすメイク作品を考えよう」 例）探究・発表「メイクの魅力を広く伝えよう」 例）探究・発表「メイク創作活動（グループ作品）」	○	○	◎
27	6		【課題探究】 グループ探究②	-		○	○	◎
28	6		【グループ探究発表会】	-	探究活動の発表を通して、自グループへの評価を得たり、他グループを評価する。 発表後の振り返り学習（まとめ）を行い情報を整理する。			◎
29	3、4	-	レポート復習プリント	-	学習内容を整理する。	◎		
30	3、4、6	-	後期振り返り	-	後期の学習内容を振り返り、重要なポイントを復習（実践）する。			◎

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	ネイル	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	ネイルに関する基礎的な教養を身につける。						
学習の到達目標	ネイルの正しい知識を知り、自己や他者の生活に「潤い」や「彩り」を与えることができる力を身につける。						
	探究的な視点を持ち、適切なアドバイスが出来るようになる。						
	実技を通して、器具や薬品の安全な取り扱いについて理解を深める。						
使用教科書・副教材等	ソーテック『「セルフジェルネイル教室」 nailsteps リップ』						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習に 取り組む 態度
1	-	-	オリエンテーション	-	学習内容や到達目標を理解する。 学習の進め方を理解する。	-	-	-
2	1	5月	【基礎】 ネイルアレンジ 自分の爪をよく見てみよう	P5-P12、P77	自身の爪を観察し、特徴を理解する。 ケアやアレンジに関して興味を持つ。		◎	○
3	1		【基礎】 ジェルネイルについて	P5-P12、P77	ジェルネイルに対する正しい知識を身に付ける。	◎	○	
4	1		【基礎】 ファイル、ウッドスティックについて	P5-P12、P77	ファイル、ウッドスティックに対する正しい理解をする。	◎	○	
5	1		実技・実習活動	P5-P12、P77	これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解をする。	○	○	◎
6	2		【基礎】 ネイルケアについて	P13-P22	ネイルケアがもたらす効果を理解する。 他者に与える印象について考察をする。		◎	○
7	2	6月	【基礎】 ウェットステリライザーの作り方 キューティクルニッパーのお手入れ	P13-P22	ウェットステリライザー、キューティクルニッパーに対する正しい理解をする。	◎	○	
8	2		【基礎】 ネイルの形状と構造について	P13-P22	形状を比較し、特徴を理解する。 爪の各構造を理解する。	◎	○	
9	2		実技・実習活動	P13-P22	これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解をする。	○	○	◎
10	5		【課題探究】 個人探究①	-	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、個人別探究を行い単元に対する理解を深める。 例）探究・発表「ネイルが利用者の生活にどのような影響を与えるか」 例）探究・発表「私が感動したネイル作品とその理由」 例）探究・発表「ネイル創作活動（個人作品）」	○	○	◎
11	5	7月	【課題探究】 個人探究②			○	○	◎
12	5		【課題探究】 個人探究③			○	○	◎
13	5		【個人探究発表会】	-	探究活動の発表を通して、自己への評価を得たり、他者を評価する。 発表後の振り返り学習（まとめ）を行い情報を整理する。			◎
14	1、2	-	レポート復習プリント	-	学習内容を整理する。	◎		
15	1、2、5	-	前期振り返り	-	前期の学習内容を振り返り、重要なポイントを復習（実践）する。			◎

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	-	-	【オリエンテーション】 後期・学習の進め方 前期の復習	-	学習内容や到達目標を理解する。 学習の進め方を理解する。			◎
17	3	10月	【基礎・探究】 ドライケアについて ウォーターケアについて	P23-P38	ドライケアとウォーターケアの違いを理解する。 それぞれの特徴を基に、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。	◎	○	
18			【基礎】 ジェルネイルの道具・工程について 筆の活用とお手入れについて	P23-P38	道具に対する理解を深め、場面に応じた適切な活用が重要であることを理解する。	◎	○	
19			実技・実習活動	P23-P38	これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通してこれまでの内容を理解する。	○	○	◎
20			【探究学習】 シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言①」	P23-P38	これまでの学習内容を振り返りながら、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。	○	○	◎
21	4	11月	【考察】 ジェルネイル作成上の注意点	P40-P79	想像力を働かせながら、ネイル作品の分析を行い、ポイントを理解する。	○	◎	
22			【探究学習】 シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言②」	P40-P79	これまでの学習内容を振り返りながら、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。	○	○	◎
23			【基礎】 ネイルオフについて	P40-P79	安全に施術を行うための知識を理解する。	◎	○	
24			【探究学習】 シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言③」	P40-P79	これまでの学習内容を振り返りながら、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。	○	○	◎
25			【考察】 作品分析	P40-P79	想像力を働かせながらネイル作品の分析を行い、ポイントを理解する。		◎	○
26	6	12月	【課題探究】 グループ探究①	-	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、グループ別探究（協働学習）を行い単元に対する理解を深める。 例）探究・発表「他者の心を動かすネイル作品を考えよう」 例）探究・発表「ネイルの魅力を広く伝えよう」 例）探究・発表「ネイル創作活動（グループ作品）」	○	○	◎
27			【課題探究】 グループ探究②	-		○	○	◎
28			【グループ探究発表会】	-	探究活動の発表を通して、自グループへの評価を得たり、他グループを評価する。 発表後の振り返り学習（まとめ）を行い情報を整理する。			◎
29	3、4	-	レポート復習プリント	-	学習内容を整理する。	◎		
30	3、4、6	-	後期振り返り	-	後期の学習内容を振り返り、重要なポイントを復習（実践）する。			◎

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	こども	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	保育士、幼稚園教諭になる方法や幼児教育に関わる仕事内容を理解し、また資格取得方法について学ぶ。						
学習の到達目標	保育所と幼稚園の違いを理解し、幼保一元化の背景と今後について考察出来る力をつける。						
	保育士・幼稚園教諭の資格取得方法とその流れについて理解し、自身の将来のキャリア選択を省察する力を育む。						
	保育士・幼稚園教諭・福祉施設職員の役割や仕事内容について知り、自身の将来のキャリア選択を省察する力を育む。						
使用教科書・副教材等	日本実業出版社「保育の仕事がわかる本」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習に 取り組む 態度
1	—	—	オリエンテーション（学習の進め方）	—	①学習内容や到達目標を理解する。 ②学習の進め方を理解する。	—	—	—
2	1	5	保育職の活動場所	8～17	①保育所の仕事について理解する。 ②保育園と幼稚園の違いについて理解する。 ③保育士と幼稚園教諭の違いについて理解する。 ④保育職の活躍について理解する。 ⑤保育職のやりがいについて理解する。	◎	○	○
3				18～34	①認定こども園について理解する。 ②認定こども園での生活について理解する。 ③保育士資格と幼稚園教諭免許の両方を取得するメリットについて理解する。 ④保育職を目指す学生の戸惑いについて理解する。 ⑤仕事と家庭の両立について理解する。 ⑥離職率の高さについて理解する。 ⑦園長・主任の仕事について理解する。	◎	○	○
4				8～34	※前回、前々回の復習として生徒同士で理解が深まっているか下記のポイントにおいて各グループに分けてまとめ学習を行う。 2回目授業ポイント：②③⑤ 3回目授業ポイント：①③⑤	○	○	◎
5	2	5	保育士の役割	35～45	①保育士について理解する。 ②保育士40万人の役割について理解する。 ③保育士資格を取得する方法について理解する。 ④保育士になるための進学先について理解する。	◎	○	○
6				46～56	①保育士になるためのカリキュラムを理解する。 ②保育原理を理解する。 ③保育実習を理解する。 ④国家試験で保育士になることについて理解する。 ⑤保育士が守るべき倫理について理解する。	◎	○	○
7				35～56	※前回、前々回の復習として生徒同士で理解が深まっているか下記のポイントにおいて各グループに分けてまとめ学習を行う。 5回目授業ポイント：③④ 6回目授業ポイント：③⑤	○	○	◎
8	3	6	保育士の仕事	57～73	①児童福祉施設について理解する。 ②保育士の勤務形態について理解する。 ③保育所における保育士の配置基準について理解する。 ④認可保育所と認可外保育所の特徴について理解する。 ⑤乳児期ケアと教育について理解する。	○	◎	○
9				74～89	①子育てのパートナーについて理解する。 ②生活リズム・シフト組について理解する。 ③保育計画について理解する。 ④専門職との連携について理解する。 ⑤小学校との連携について理解する。 ⑥延長保育・夜間保育・休日保育について理解する。	◎	○	○
10				57～94	①病児・病後児保育について理解する。 ②子育て短期支援事業について理解する。	◎	○	○
11	—	—	保育所以外での保育士の仕事	96～101	①子育て支援と中高生支援について理解する。 ②遊びについて理解する。 ③乳児院での保育士の仕事について理解する。	○	◎	○
12				102～107	①児童養護施設での保育士の仕事について理解する。 ②児童自立支援施設での保育士の仕事について理解する。 ③母子生活支援施設での保育士の仕事について理解する。	◎	○	○
13				108～113	①障害児入所施設での保育士の仕事について理解する。 ②児童発達支援センターでの保育士の仕事について理解する。 ③児童家庭支援センターでの保育士の仕事について理解する。	◎	○	○
14				114～118	①学童保育での保育士の仕事について理解する。 ②放課後等デイサービスの保育士の仕事について理解する。	○	◎	○
15	—	—	テスト対策	—	レポート復習プリント実施 テスト対策	○	○	◎

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	4	10	幼稚園教諭の役割	119～129	①幼稚園教諭について理解する。 ②10万人の幼稚園教諭について理解する。 ③幼稚園教諭の役割について理解する。 ④幼稚園教諭になるためのルートと特徴について理解する。	◎	○	○
17				130～138	①幼稚園教諭になるための進学先について理解する。 ②幼稚園教諭になるためのカリキュラムについて理解する。 ③教育実習の内容について理解する。 ④教員免許更新制について理解する。	◎	○	○
18				119～138	※前回、前々回の復習として生徒同士で理解が深まっているか下記のポイントにおいて各グループに分けてまとめ学習を行う 16回目授業ポイント：①③④ 17回目授業ポイント：①②③	○	○	◎
19	5	11	幼児期の教育	70	①幼児期のケアと教育について理解する。 ②折り紙について調べ学習をして理解する。	○	◎	○
20					①折り紙製作指導について理解したものをもとにレポートをまとめる。	○	◎	○
21		11	保育所の年間行事スケジュール	80	①七夕について理解する。 ②短冊について理解する。 ③七夕飾りについて調べ学習をして理解する。	○	◎	○
22					①七夕飾り折り紙製作について理解する。 ②レポート5を実施する。	○	◎	○
23	6	12	幼稚園教諭の仕事	140～145	①公立幼稚園と私立幼稚園について理解する。 ②幼稚園の仕組みについて理解する。 ③幼稚園の一日の活動計画について理解する。 ④一日の計画を立ててみる。	◎	○	○
24				146～153	①保育時間帯以外の仕事について理解する。 ②保育中の仕事について理解する。 ③保育環境の整備について理解する。 ④指導計画を立てることについて理解する。 ⑤年間スケジュールについて理解する。	◎	○	○
25					①幼児の遊びの重要性について理解する。 ②レポート6を実施する。	○	○	◎
26				156～164	①預かり保育について理解する。 ②保護者を支援することについて理解する。 ③幼稚園と小学校の連携について理解する。 ④保育所との連携や交流について理解する。	◎	○	○
27	—	—	保育職に関する資格と仕事内容	166～173	①母子指導員、児童生活支援について理解する。 ②保育ママの特徴について理解する。 ③小規模保育事業の特徴について理解する。 ④ベビージッターの仕事について理解する。	◎	○	○
28	—	—		174～181	①病棟保育士の仕事について理解する。 ②子育て支援員の仕事について理解する。 ③幼児教育アドバイザーの仕事について理解する。 ④子どもNPOの仕事について理解する。	◎	○	○
29	—	—		182～最後まで	①ファミリーサポートセンターについて理解する。 ②保育者とレクリエーション活動について理解する。 ③近隣領域の資格を取ることに理解する。 ④里親制度について理解する。	◎	○	○
30	—	—	テスト対策	—	レポート復習プリント実施 テスト対策	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	スイーツ	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	ケーキに使用する材料や製法を知り、お菓子の基礎知識を学ぶ。						
学習の到達目標	①お菓子作りに必要な、材料や用具、動作について学び、基礎知識を身に付ける。						
	②実習を通して、主体性を育む。						
使用教科書・副教材等	新星出版社「お菓子の教科書きほん編」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1			オリエンテーション		①学習内容や到達目標を理解する。 ②学習の進め方を理解する。	-	-	-
2	1	5月	お菓子作りの道具	P.12～21	①お菓子作りに使用する、道具の名称と使い方について理解する。	◎		
3			お菓子作りの下準備	P.22～28	①お菓子作りにおける、計量の重要性について理解する。 ②様々な計量の仕方について理解する。 ③オープンの扱い方について理解する。 ④お菓子作りに使う型について理解する。	◎		
4	2	6月	ふるう	P.30～31	①お菓子作りの基本動作である、「ふるう」について理解する。	◎		
5			混ぜる	P.32～33	①お菓子作りの基本動作である、「混ぜる」について理解する。	◎		
6			泡立てる	P.34～35	①お菓子作りの基本動作である、「泡立てる」について理解する。	◎		
7			ぬる	P.36～37	①お菓子作りの基本動作である、「ぬる」について理解する。	◎		
8			のぼす	P.40～41	①お菓子作りの基本動作である、「のぼす」について理解する。	◎		
9	5	7月	実習		◆2～8回目で学んだことの実践（2コマ連続が望ましい） ①実習を通して、道具の使い方への理解をさらに深める。 ②実習を通して、計量の重要性についての理解をさらに深める。 ③実習を通して、お菓子作りの基本動作についての理解をさらに深める。			◎
10			実習		【実習の内容（案）】 ・ スポンジケーキ ・ パウンドケーキ ・ シフォンケーキ ※実習室が5校ではない場合※ ・ スポンジを事前に購入しクリームを塗る ・ パウンドケーキ			◎
11	-	-	デザイン案・レシピ作成①		◆13～14回目の実習に向けて、グループごとにデザイン案・レシピの作成 ①ケーキのデザインを考えることで、購入者目線で考える重要性について理解する。 ②チームで1つのものを作り上げる楽しさを知る。 ③ケーキ作りに必要な材料、作り方の流れについて理解する。		◎	○
12	-	-	デザイン案・レシピ作成②		◆13～14回目の実習に向けて、グループごとにデザイン案・レシピの作成 ①ケーキのデザインを考えることで、購入者目線で考える重要性について理解する。 ②チームで1つのものを作り上げる楽しさを知る。 ③ケーキ作りに必要な材料、作り方の流れについて理解する。		◎	○
13	5	7月	実習		◆実践（2コマ連続が望ましい） ①実習を通して、道具の使い方への理解をさらに深める。 ②実習を通して、計量の重要性についての理解をさらに深める。 ③実習を通して、お菓子作りの基本動作についての理解をさらに深める。 ④アイデアを形にすることの難しさと面白さを知る。			◎
14			実習		【実習の内容（案）】 ・ スポンジケーキ ・ パウンドケーキ ・ シフォンケーキ ※実習室が5校ではない場合※ ・ スポンジを事前に購入しクリームを塗る ・ パウンドケーキ			◎
15	-	-	実習振り返り 前期まとめ		①2回の実習について振り返り、良かった点と課題を整理し、後期に繋げる。		○	◎

週	レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
16	3	10月	世界のお菓子	P. 2～5	①普段何気なく食べているお菓子の発祥地を知る。	◎		
17			生地の種類	P. 50～70	①お菓子の土台となる、生地の種類について理解する。	◎		
18	-	-	実習		◆実践（2コマ連続が望ましい） ・実習を通して、生地の違いについて理解を深める。 【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ ・パウンドケーキ ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る ・パウンドケーキ			◎
19	-	-	実習					◎
20	4	11月	牛乳・生クリーム	P. 140～143	①牛乳と生クリームの違いについて理解する。 ②生クリームの種類について理解する。 ③牛乳の効果について理解する。	◎		
21			ケーキのデコレーション〔基本の組み立て方〕	P. 82～85	①ケーキのデコレーションの手法について理解する。	◎		
22			ケーキのデコレーション 〔クリームのぬり方・絞り方〕	P. 86～87	①クリームのぬり方について理解する。 ②クリームの絞り方について理解する。	◎		
23			お気に入りのデコレーションケーキについて考える	-	◆第4回レポート2. (6)を調べ学習として実施する。 ①個人ワーク ②グループ発表 ③全体共有			◎
24	6	12月	実習	-	◆実践（2コマ連続が望ましい） ①実習を通して、ショートケーキの組み立て方について理解を深める。 ②実習を通して、クリームの塗り方について理解を深める。 ③実習を通して、クリームの絞り方について理解を深める。 【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ ・パウンドケーキ ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る ・パウンドケーキ			◎
25			実習	-				◎
26	-	-	デザイン案・レシピ作成①	-	①前期の振り返りを踏まえ、デザイン案・レシピを作成する。 ②ケーキのデザインを考えることで、購入者目線で考える重要性について理解する。 ③チームで1つのものを作り上げる楽しさを知る。 ④ケーキ作りに必要な材料、作り方の流れについて再確認する。		○	◎
27	-	-	デザイン案・レシピ作成②	-	①前期の振り返りを踏まえ、デザイン案・レシピを作成する。 ②ケーキのデザインを考えることで、購入者目線で考える重要性について理解する。 ③チームで1つのものを作り上げる楽しさを知る。 ④ケーキ作りに必要な材料、作り方の流れについて再確認する。		○	◎
28	6	12月	実習	-	◆実践（2コマ連続が望ましい） ①実習を通して、ケーキのデコレーション方法への理解をさらに深める。 ②実習を通して、クリームのぬり方についての理解をさらに深める。 ③実習を通して、クリームの絞り方についての理解をさらに深める。 ④アイデアを形にすることの難しさと面白さを知る。 【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ ・パウンドケーキ ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る ・パウンドケーキ			◎
29			実習	-				◎
30	-	-	実習振り返り 後期まとめ	-	①3回の実習について振り返り、良かった点と課題を整理し、今後に繋げる。		○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、適宜入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	総合探究①	スクーリング回数	4	レポート回数	4	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	自分の興味関心のあることや社会の課題等について、突き詰めて研究し自分なりの結論を見出していく「探究学習」について学ぶ。探究学習とは何か、どのように行うのかという基礎を学ぶ。						
学習の到達目標	探究の見方・考え方を備かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。						
	・探究学習のプロセスや手法を理解する。						
	・簡単な探究に取り組み、主に情報収集とまとめ・表現を体験する。						
使用教材・副教材等	リクルート「興味研究型 探究講座」「課題発見型 探究講座」						
評価方法	添削指導、面接指導への取り組み状況を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格を条件に単位認定する。						

週	レポート 該当回	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	1	・「自分らしい問い」の意義 ・「問いをつくる」体験をする ・「自分らしい問い」の見つけ方	・「働く」ということについて考え、自分らしい問いもって働くことがやりがいや楽しさにつながることを学び、理解する。 ・事例から「問いをつくる」体験をし、問いをつくる考え方のヒントを学び、理解する。	◎	○	
2	2		・「自分らしい問い」は、自分が好きなものから考えることもできるということを事例をもとに学び、理解する。	◎	○	
3	3		・「課題」とは何かを学び、理解する。 ・「課題を発見する」体験をし、課題を発見する考え方のヒントを学び、理解する。	◎	○	
4	4	・「課題を発見する力」について ・「課題を発見する」体験をする ・探究活動について理解する	・これからの社会を生きていく上で「課題を発見する力」の重要性を学び、理解する。 ・「『課題』を動かす＝探究」であることを学び、探究活動について理解する。	◎	○	
5	－			○	○	◎
6	－			○	○	◎
7	－			○	○	◎
8	－			○	○	◎
9	－			○	○	◎
10	－			○	○	◎
11	－			○	○	◎
12	－			○	○	◎
13	－			○	○	◎
14	－		・1～4コマ目で学習したことを踏まえて簡単な探究に取り組み、実践を通して探究学習のプロセスや手法について理解を深める。	○	○	◎
15	－		・主に情報収集とまとめ・表現を体験し、調べたことを自分なりに整理し、アウトプットする力を身につける。	○	○	◎
16	－		・参考文献の書き方など、情報を収集する際のスキルを身につける。	○	○	◎
17	－	・簡単な探究の実践	・探究につながるあらゆる学習に取り組み、探究に関する知識・理解を深め、実践力を身につける。	○	○	◎
18	－	・その他探究につながる学習	《探究テーマ例》 ・STEAMライブラリーからの引用 ・SDGs関連 ・在住・在学する地域関連 ・金融教育関連 ・キャリアプラン・ライフプラン関連 ・その他身近な問い 等	○	○	◎
19	－			○	○	◎
20	－			○	○	◎
21	－			○	○	◎
22	－			○	○	◎
23	－			○	○	◎
24	－			○	○	◎
25	－			○	○	◎
26	－			○	○	◎
27	－			○	○	◎
28	－			○	○	◎
29	－			○	○	◎
30	－			○	○	◎

備 考	・各キャンパスの状況に応じて、1～4コマ目の内容を実施するタイミング（週）は調整して良い。 ・5コマ目以降の探究のテーマ設定は各キャンパスにて行う。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	総合探究②	スクーリング回数	4	レポート回数	4	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	自分の興味関心のあることや社会の課題等について、突き詰めて研究し自分なりの結論を見出していく「探究学習」について学ぶ。探究学習とは何か、どのように行うのかという基礎を学ぶ。						
学習の到達目標	探究の見方・考え方を備かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（1）探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。（2）実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。（3）探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。						
	・課題を見つける視点を持つ。						
	・他者との共有に挑戦する。						
使用教材・副教材等	飛鳥未来・飛鳥未来きずな・飛鳥未来きぼう高等学校 オリジナル教材						
評価方法	添削指導、面接指導への取り組み状況を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格を条件に単位認定する。						

週	レポート 該当回	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
1	1	・オリエンテーション ・探究課題の設定	・総合探究②の特徴や授業の進め方、受講のルールについて理解する。 ・探究課題を見つけるためのポイントや考え方を学び、探究課題を考える。 ・探究課題を設定した理由について考え、自分の言葉で表現する。	○	◎	
2	2	・探究課題の共有 ・情報収集	・設定した探究課題を、動機とともに自分の言葉で他者に共有する。 ・情報収集の目的や手段、ポイントやコツについて学び、理解する。 ・設定した探究課題に基づき、ポイントやコツを押さえながら情報収集を実践する。	○	○	◎
3	3	・情報収集結果の共有 ・整理・分析	・情報収集した結果を、気づいたこととともに自分の言葉で他者に共有する。 ・整理・分析の方法について学び、理解する。 ・収集した情報を整理・分析し、そこから自分なりの考察を導き出す。	○	◎	○
4	4	・これまでの成果の共有 ・探究のまとめ ・共有・発表	・これまでの探究の成果を、自分の言葉で他者に共有し、お互いに新たな気づきを得る。 ・探究のまとめを行い、結論付け、探究全体を通しての学びや変化を振り返り、今後探究したい新たな問いや課題を見出す。 ・共有や発表の準備を実施する（タイトルをつける→骨組みをつくる→原稿・視覚資料などの発表・共有資料をつくる）。 ・お互いの共有や発表を見聞きし、他者からのフィードバックを受けて視野を広げたりする。	○	○	◎
5	－	・探究プロセスの実践 ・その他探究につながる学習	・1～4コマ目で学習したことを踏まえて探究に取り組み、実践を通して探究学習のプロセスや手法について理解を深める。 ・自らの興味・関心に基づき自分で問いを立てるところから本格的に探究のサイクルを一周回し、他者との共有にも挑戦する。 ・他者との共有や発表を実践することで、他者の視点や考えを取り入れ、視野を広げたりする。 ・探究につながるあらゆる学習に取り組む、探究に関する知識・理解を深め、実践力を身につける。 《探究テーマ例》 ・STEAMライブラリーからの引用 ・SDGs関連 ・在住・在学する地域関連 ・金融教育関連 ・キャリアプラン・ライフプラン関連 ・その他身近な問い 等	○	○	◎
6	－			○	○	◎
7	－			○	○	◎
8	－			○	○	◎
9	－			○	○	◎
10	－			○	○	◎
11	－			○	○	◎
12	－			○	○	◎
13	－			○	○	◎
14	－			○	○	◎
15	－			○	○	◎
16	－			○	○	◎
17	－			○	○	◎
18	－			○	○	◎
19	－			○	○	◎
20	－			○	○	◎
21	－			○	○	◎
22	－			○	○	◎
23	－			○	○	◎
24	－			○	○	◎
25	－			○	○	◎
26	－			○	○	◎
27	－			○	○	◎
28	－			○	○	◎
29	－			○	○	◎
30	－			○	○	◎

備 考	・各キャンパスの状況に応じて、1～4コマ目の内容を実施するタイミング（週）は調整したり、各フェーズに時間をかけて5コマ以上で実施をしても良い。 ・5コマ目以降の探究のテーマ設定は各キャンパスにて行う。
-----	---

《通信教育実施計画》

授業科目名	総合探究③	スクーリング回数	4	レポート回数	4	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	
対象スタイル	3DAYスタイル、5DAYスタイル						
科目内容	自分の興味関心のあることや社会の課題等について、突き詰めて研究し自分なりの結論を見出していく「探究学習」について学ぶ。探究学習とは何か、どのように行うのかという基礎を学ぶ。						
学習の到達目標	探究の見方・考え方を備かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（1）探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。（2）実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。（3）探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。						
	・学校外の人との関わり等も含んだ協働的な探究に取り組む。						
	・主体的に探究のプロセスを実践する。						
	・探究の最後にプレゼンテーションに挑戦する。						
使用教材・副教材等	各種提携プログラム もしくは 各校オリジナルプログラム より選択						
評価方法	添削指導、面接指導への取り組み状況を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格を条件に単位認定する。						

週	レポート 該当回	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
				知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習 する 態度
1	1	・探究の意義について ・プログラムゴールの理解 ・テーマ理解 ・探究課題検討（個人で実施） ・アイスブレイク	・探究の意義について改めて理解する。 ・使用するプログラムのゴールについて理解する。 ・扱うテーマに関する知識や基本的な情報をインプットし、探究するにあたって理解を深める。 ・グループの活動に入る前に、個人での探究課題を検討する。 ・グループでの探究活動に向け、グループを編成し、アイスブレイクを実施してグループでの探究がしやすい雰囲気づくりをする。	◎	○	
2	2	・個人で検討した探究課題の共有 ・グループの探究課題設定 ・情報収集準備 ・情報収集	・個人で検討した探究課題を共有し、グループでの探究課題を設定する。 ・探究するために不足している情報や必要な情報をグループで洗い出し、情報収集の準備をする（インタビュー準備含む）。 ・適宜グループ内で共有しながら情報収集を行い、探究に必要な情報を蓄積する。	○	○	◎
3	3	・インタビューの動機づけ ・インタビュー	・インタビューを実施する意義について学び、理解する。 ・テーマ関係者に実際にインタビューを実施し、さらに深い情報を収集する。	○	○	◎
4	4	・情報の整理・分析・まとめ ・考察や提案の検討 ・グループ発表 ・探究活動全体のまとめ	・情報収集やインタビューで得た情報を元に、グループで整理・分析を実施し、考察や提案を検討する準備をする。 ・整理・分析した情報を元にグループなりの考察・提案を検討する。 ・設定した探究課題・得られた情報・情報からの考察や結論（解決策や提案）を簡潔にグループごとに発表をする。 ・お互いのグループの発表を聞き、感じたことや学んだことを記する。 ・適宜フィードバックや質疑応答等を実施し、他者の視点や考えを取り入れ、視野を広げたりする。 ・探究活動の各フェーズにおいて重要だと感じたことや意識したこと、活動全体を通して学んだことや感じたことについて、自分の言葉でアウトプットする。 ・改めて探究活動の意義を理解する。	○	○	◎
5	－	・学校外の人との関わり等も含んだ協働的な探究プロセスの実践 ・その他探究につながる学習	・1～4コマ目で学習したことを踏まえて繰り返し学校外の人との関わり等も含んだ協働的な探究に取り組み、実践を通して探究学習のプロセスや手法について理解を深める。 ・プレゼンテーションにも挑戦し、他者との共有を通して、他者の視点や考えを取り入れ、視野を広げたりする。 ・探究につながるあらゆる学習に取り組み、探究に関する知識・理解を深め、実践力を身につける。 《探究テーマ例》 ・地方創生関連 ・国際理解関連 ・企業課題解決 ・STEAMライブラリーからの引用 ・SDGs関連 ・在任・在学する地域関連 ・金融教育関連 ・キャリアアプラン・ライフプラン関連 ・その他身近な問い 等	○	○	◎
6	－			○	○	◎
7	－			○	○	◎
8	－			○	○	◎
9	－			○	○	◎
10	－			○	○	◎
11	－			○	○	◎
12	－			○	○	◎
13	－			○	○	◎
14	－			○	○	◎
15	－			○	○	◎
16	－			○	○	◎
17	－			○	○	◎
18	－			○	○	◎
19	－			○	○	◎
20	－			○	○	◎
21	－			○	○	◎
22	－			○	○	◎
23	－			○	○	◎
24	－			○	○	◎
25	－			○	○	◎
26	－			○	○	◎
27	－			○	○	◎
28	－			○	○	◎
29	－			○	○	◎
30	－			○	○	◎

備 考	・探究プログラムの選択は各キャンパスにて行う。
-----	-------------------------

通信教育実施計画

ベーシックスタイル・スタンダードスタイル・ネットスタイル

※キャンパスごとに開講科目が異なります。詳細は各キャンパスにお問い合わせください。

学校
法人 三幸学園

飛鳥未来きぼう高等学校

《通信教育実施計画》

授業科目名	現代の国語	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	現代の社会生活に必要とされる論理的な文章及び実用的な文章を用いて、実社会における国語によるあらゆる活動に必要な資質・能力を身につけることを目標とする。言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、日本の言語文化に関する事項を話す・聞く、書く、読むといった言語活動を通して学ぶ。						
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
	1. 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。						
	2. 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
	3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「現国701 新編現代の国語」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	読む こそそめスープ 読む ルリボシカミキリの青	p 6～16	・筆者独自の考え方を読み取り、人それぞれが持つ意識の世界に思いをはせる。 ・筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考える。	○	○	◎
2	前期：5月 後期：10月	読む 未来をつくる想像力 読む 水の東西	p 24～38	・情報と想像力の関係を論じた文章を読み、意見の根拠を的確に理解して筆者の主張をつかむ。 ・「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。	○	◎	○
3	前期：6月 後期：11月	読む スキマが育む都市と生命のつながり 読む 無彩の色	p 68～86	・身近な植物を観察してきた成果を述べる文章を読み、提示された新しい視点について理解する。 ・色について論じた文章を、具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観と主張をつかむ。	◎	○	○
4	前期：6月 後期：11月	読む 鍋洗いの日々 読む 森で染める人 読む 真夏のひしこ漁	p 94～121	・自分の道を切り開いた筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。 ・自然や社会の中で生きる意味を考えながら働く筆者の思いに触れ、働くということについて考える。 ・海での漁の様子を伝える文章を読み、自然の中での労働について理解を深める。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	読む 美しさの発見 読む りんごのほっぺ	p 142～158	・「美」という抽象的な題材について論じた文章を読み、その展開を論理的に捉え、筆者の価値観を理解する。	◎	○	○
6	前期：7月 後期：12月	読む 不思議な拍手 読む 真の自立とは	p 166～187	・人間の心・意識について体験を踏まえつつ考察する文章を読み、人間への認識を深める。 ・「自立」の在り方について考察する文章を読み、自分の考えを持ち、視野を広げる。	○	◎	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	言語文化	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	昔から近現代に受け継がれてきたわが国の言語文化への理解を深めることを目標とする。古典だけでなく、日本の伝統と文化や古典に関する近代以降の文章などを扱い、日本の言語文化への理解を深めていく。						
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
	1.生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。						
	2.論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
	3.言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編言語文化」（言文701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	読む さくらさくらさくら 読む とんかつ	p 10～15 p 24～35	・引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。 ・会話や行動の描写に着目して、登場人物の心情とその変化を読み取る。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	読む 柳あをめる【短歌】 読む 雪の深さを【俳句】 読む 冬が来た	p 50～53 p 54～57 p 58～59	・短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉にこめられた情景や心情を読み取る。 ・俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。 ・比喩とリフレインの効果を理解して詩を読み味わい、作者のものの感じ方について考える。	◎	○	○
3	前期：6月 後期：11月	読む 離生門 読む 夢十夜	p 72～92 p 94～106	・極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。 ・表現に即して小説を丁寧に読み味わい、そこに展開する独自の世界を味わう。	○	◎	○
4	前期：6月 後期：11月	徒然草 枕草子 折々のうた	p 138～145 p 146～147 p 154～163	・歴史的仮名遣いについて理解し、歴史的仮名遣いで書かれた文章を読むことができる。 ・文語の品詞について理解し、文節ごとに区切り品詞を教科書を見ながら識別ができる。古語辞典を引くことができる。 ・文語の活用について理解し、品詞・活用の種類を教科書を見ながら識別ができる。 ・随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉える。 ・作品の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 ・詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解する。	◎	○	○
5	前期：7月 後期：12月	伊勢物語 平家物語 奥の細道	p 170～177 p 179～188 p 190～195	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解する。 ・歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。 ・軍記物語特有の表現に注意しながら、登場人物の言動や心情を読み取る。 ・構成に注目しながら、作品にこめられた思いを読み取る。	◎	○	○
6	前期：7月 後期：12月	読む 訓読の基本 読む 故事成語―三編（言語） 読む 絶句と律詩一七首【春望】 読む 論語―八章	p 210～219 p 220～226 p 228～233 p 238～246	・漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 ・故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。 ・漢詩の詩形ときまりを理解し、漢詩に描かれた情景や心情を読み取る。 ・孔子の学問・人間・政治に対する考え方を知り、孔子の思想に興味を持つとともに、ものの見方や考え方を豊かにする。	◎	○	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	論理国語	スクーリング回数	4	レポート回数	12	単位数	4
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるため、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる力を養う。						
学習の到達目標	1. 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。						
	2. 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
	3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編論理国語」（論国701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に
1	前期：5月 後期：10月	①対話とは何か ②世界を作り替えるために	P8～P22	①対話についての筆者の考えを捉え、日常のコミュニケーションの在り方を振り返る。 ②学ぶことの意味について、筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。	○	○	◎
2	前期：5月 後期：10月	①少女たちの「ひろしま」 ②「ふしぎ」ということ	P26～P43	①戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いを巡らし、時代や社会について考える態度を養う。 ②挙げられている話題を関連づけて読み取り、「ふしぎ」ということについて考えを深める。	○	◎	○
3	前期：5月 後期：10月	①学ぶことと人間の知恵 ②ラップトップを抱えた「石器人」	P56～P72	①文のつながりに着目して主張を読み取り、人間の思考や学ぶことの意義について理解を深める。 ②事実と主張の関係に注意して文章を読み、人間の脳の働きについて考える。	◎	○	○
4	前期：5月 後期：10月	①思考の肺活量 ②安心について	P76～P91	①比喩表現に注意して内容を読み取り、思考のあるべき姿について理解を深める。 ②文章構成に注意して筆者の考えを理解し、安心というものの本質について考える。	◎	○	○
5	前期：5月 後期：10月	①弱肉強食は自然の摂理か ②複数のわたし	P102～P121	①筆者の提示している問いや根拠に注意して読み、文章の論理展開を的確に捉える。 ②文章に示された考え方を手がかりに、「わたし」の捉え方について理解を深める。	◎	○	○
6	前期：6月 後期：11月	①はじめに「言葉」がある ②素に働くこと、楽しく働くこと	P124～P137	①筆者の仕事の経験を手がかりにして、働くことと言葉の関わりについて考える。 ②楽しく働くとはどういうことかについての筆者の考え方を理解する。	◎	○	○
7	前期：6月 後期：11月	①最初のペンギン ②豊かさとは生物多様性	P168～P184	①タイトルに象徴される筆者の考えを手がかりにして、自分の生き方について考える。 ②論の展開に注意して読み、生物多様性の重要性と課題について理解を深める。	◎	○	○
8	前期：6月後期：11月	①物語の外から ②カフェの開店準備	P186～P199	①二人の語り部に共通する姿から、「語る」ということの本質について考えを深める。 ②日々の何気ない光景から広がっていく筆者の思考を手がかりにして、自分の日常を見つめ直す。	○	◎	○
9	前期：6月 後期：11月	①鏡としてのアンドロイド ②ロボットが隣人になるとき	P210～P227	①アンドロイドの研究を踏まえた評論を読んで、人間に対する筆者の考えを捉える。 ②哲学的な思考に沿って書かれた評論を読んで、人間の意志や自由について理解を深める。	○	○	◎
10	前期：7月 後期：12月	①言葉は「ものの名前」ではない ②科学的「発見」とは	P232～P248	①言語と認識の関係について、具体例をもとに主張している評論を読み、言葉の働きについて考える。 ②本文中の二つの課題を迫体験して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。	◎	○	○
11	前期：7月後期：12月	①知識における作者性と構造化 ②もう一つの知性	P262～P279	①インターネットと本を比較しながら書かれた評論を読み、情報と知識について理解を深める。 ②科学的思考とは異なる思考の在り方を理解し、現代社会を生きるうえで必要な態度について考える。	○	◎	○
12	前期：7月 後期：12月	①ホンモノのおカネの作り方 ②未来のありか	P282～P301	①二つの例の対比に注意して論旨をたどり、貨幣の持つ不思議さについて理解を深める。 ②小見出しを参考にして各部分の内容と関係を読み取り、未来とは何かについて考える。	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	文学国語	スクーリング回数	4	レポート回数	12	単位数	4
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	「現代の国語」及び「言語文化」により育成された資質・能力を基盤とし、主として「思考力、判断力、表現力等」の感性・情緒の側面の力を伸ばす科目として、深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする資質・能力を養う。						
学習の到達目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。						
	1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。						
	2 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
	3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「文学国語」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	光の窓 雨月物語	P8-14 P15-18	・筆者のものの見方や感じ方を読み取り、言葉と感覚との関係について考える。 ・筆者の考え方の変化を捉え、「雨月物語」が筆者にどのような影響を与えたのかを考える。	○	○	◎
2	前期：5月 後期：10月	窓 言葉を生きる	P34-38 P44-49	・場面や登場人物の設定における特徴を捉え、作中の「短編小説」が象徴するものについて考える。 ・筆者の考えを表現に即して読み取り、「生きること」と「言葉」の関係について理解を深める。	○	◎	○
3	前期：6月 後期：11月	山椒魚 沖繩の手記から	P58-70 P71-91	・登場人物の心情を理解しつつ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について考える。 ・戦争の中に生きる登場人物の生き方や考え方を捉え、人間の生と死について考えを深める。	○	◎	○
4	前期：5月 後期：10月	永訣の朝 硝子の駒 セオードの変遷	P98-103 P104-107 P108-113	・表現された内容を読み取り、描かれた行動や言葉から「わたくし」の妹に対する思いを解釈する。 ・短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉に込められた情景や心情を読み取る。 ・具体例として挙げられた短歌の表現の特質を理解し、時代の変化との関わりを考える。	◎	○	○
5	前期：6月 後期：11月	こころ	P116-148	・人物の関係性と心情を的確に捉え、人の心のありようについて考えを深める。 ・場所・時などの変化に注意して事の経緯をまとめ、「私」とKの性格や生き方の違いについて考える。	○	◎	○
6	前期：6月 後期：11月	文学のふると 文学の未来 絶	P150-160 P161-170 P172-179	・具体例と筆者の主張との関係に注意して評論を読み、文学のよりどころについて理解を深める。 ・本文中における引用の役割を押さえて筆者の主張を理解し、文学の意義について理解を深める。 ・寓意に注意しながら、小説を読み、「現代」という時代について考えを深める。	◎	○	○
7	前期：6月 後期：11月	国語から放立って 檸檬	P190-198 P206-216	・筆者の多言語体験に基づく随筆を読み、言葉と自分との関係について考えを深める。 ・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、「檸檬」の持つ意味について考える。	○	◎	○
8	前期：6月 後期：11月	コンビニの母 小諸なる古城のほとり	P217-222 P230-231	・登場人物の言動・心理を表現に即して読み取り、現代社会における人間関係について考える。 ・文語の響きや五七調のリズムに親しみ、詩に描かれた情景や心情を読み取る。	○	○	◎
9	前期：7月 後期：12月	空っぽの瓶 クレールという女	P248-254 P255-264	・人称を巡る筆者の体験や考えを読み取り、言葉と存在の関わりについて考える。 ・長い時間をかけて深まっていた筆者の読書体験を読み取り、人間の生き方について考える。	○	◎	○
10	前期：7月 後期：12月	舞姫	P292-264	・構成や時代背景に注意しながら主人公の葛藤を読み取り、人生の選択について考える。 ・作者や作品が発表された時代について確認する。	○	◎	○
11	前期：7月 後期：12月	演技する「私」	P330-334	・筆者の主張の展開を押さえ、小説における作者と小説内の「私」との関係について考えを深める。 ・取り上げられている作品と作者について、確認する。	○	◎	○
12	前期：7月 後期：12月	葉桜と魔笛 蠅	P348-P361 P362-371	・物語の展開を把握しつつ、そこに浮かび上がる人間の心の奥深さを味わう。 ・視点の移動に注意しながら、描かれた場面や状況を読み取り、作品の主題について考える。	○	◎	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	地理総合	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	世界の生活文化の多様性や、自然環境と防災、地域や地球的課題（地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題など）について学ぶ。また地図や地理情報システムなどを用いて、地理に関する情報をまとめて多面的に考察・表現することで、諸課題を主体的に解決しようとする姿勢と、国土に対する愛情、世界の多様な文化を尊重する態度を養う。						
学習の到達目標	①地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 ②地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「地理総合」（地総701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	第1編第2章 地図や地理情報システムの役割 7 地理情報システムと地図 【地図の可能性は、まだまだ広がる。】	28～31	○地形図から読み取れることについて理解する。 ○地理院地図の特徴を理解し、紙の地形図との違いについて考察する。 ○主題図の表現方法の特徴を理解し、用途に応じてどのように使い分けられるのかを考察する。 ○地理情報システム（GIS）が幅広い分野で使われていることについて理解する。 ○GISとは何かを理解し、私たちの生活への影響を考える。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	9 情報通信の発達 【世界中が、ネットにつながりはしたけれど。】	42～43	○通信情報技術（ICT）の発達について理解する。 ○通信網の発達による生活の変化と生じた課題について考える。	◎	○	○
3	前期：6月 後期：11月	22 亜寒帯・寒帯の人々の暮らし 【長い冬を過ごすための食料や、町の工夫とは。】	86～87	○亜寒帯・寒帯の各気候区における気温・降水量、風などの気候要素の特徴について理解する。 ○亜寒帯・寒帯における土壌や植生の特徴を理解し、人々の生活や文化に与える影響を考える。	○	◎	○
4	前期：6月 後期：11月	30 化石燃料から再生可能エネルギーへ 【地球を、「電池切れ」にさせないために。】	132～133	○エネルギー資源の種類について理解する。 ○再生可能エネルギーへの関心が高まった背景を理解し、再生可能エネルギーの割合が拡大しない要因を考える。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	41 地震災害・津波災害(2) 【くり返す地震を、災害史から学ぶ。】	184～185	○過去の災害の記録が今後の災害の軽減につながり得ることを理解する。 ○ハザードマップを利用し、身近な地域の自然災害の可能性を読み取る。	○	○	◎
6	前期：7月 後期：12月	45 都市と自然災害 【都市を襲う災害、危険はどこにある？】	192～193	○都市型災害にはどのようなものがあるかを理解する。 ○そのうえで、都市型災害の要因・影響を考え、都市型災害が発生した際にどのような行動をとるべきかを考える。	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	歴史総合	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	現代の諸課題に関わる近現代の歴史について、世界と日本の相互的な視点から学ぶ。近現代の歴史の変化（歴史的出来事の意味や意義、特色など）や現代とのつながりに注目することで、よりよい社会の実現に向けて課題を解決しようとする態度を養い、我が国の歴史に対する感情や、他国・他国の文化を尊重することの大切さについて学ぶ。						
学習の到達目標	①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、ICT機器を用いるなど、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。						
	②近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。						
	③近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新選歴史総合」（歴総701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月		学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
						知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	1、2	前期：5月 後期：10月	第1章歴史の扉「歴史と私たち」	7、42～43	○諸資料を活用し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。	◎	○	○
2	2、3		第2章4節「近代化と現代的な諸課題」	78～83	○自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。	◎	○	○
3	3、4	前期：6月 後期：11月	第3章2節 「第一次世界大戦と大衆社会」 2 第一次世界大戦の展開	84～121	○第一次世界大戦はどのように展開したのかについて理解する。 ○第一次世界大戦後の国際協調体制について理解する。	○	◎	○
4	4、5		第3章4節「国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題」	136～141	○自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。	○	◎	○
5	5、6		第4章3節 「世界秩序の変容と日本」 5 拡散する地域紛争	180～183	○冷戦終結後に世界各地で起きた地域紛争や、それらに対する国際社会の動きについて理解する。 ○冷戦終結後に進んだグローバル化と地域統合について理解する。 ○グローバル化や地域統合、民主主義が抱えた問題点について理解する。	○	○	◎
6	5、6	前期：7月 後期：12月	第4章4節 「現代的な諸課題の形成と展望」	192～195	○グローバル化の負の側面をどのように解消し、持続可能な社会を作っていくのかを、これまで学んできたことを踏まえて、自分の考えをまとめる。 ○人と自分の考えを共有する。	○	○	◎
備 考			・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。					

《通信教育実施計画》

授業科目名	日本史探究	スクーリング回数	3	レポート回数	9	単位数	3
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	原始・古代～近現代までの日本史について、地理的条件や世界の歴史とも関連付けながら深く学習する。日本の歴史の流れや歴史的事象のみならず、文化や伝統についても理解し、歴史と現代とのつながりに着目しながら学ぶ。						
学習の到達目標	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。						
	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。						
	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「日本史探究」（日探701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	第1章 先史社会の生活と文化 1 旧石器時代の日本 2 縄文文化 3 弥生文化と小国家の形成 第2章 歴史資料と先史・古代の展望 1 先史・古代の歴史を組み立てる資料の特質 3 木簡が語る律令国家の実態 第3章 古代社会の形成と展開 1節 律令国家の形成と古代文化の展開 1 大和王権と古墳文化 2 飛鳥の朝廷と文化	8～33	○人類の出現と旧石器時代の日本列島について理解する。 ○縄文文化の特色や日本人の起源について理解する。 ○弥生文化の特色と小国家の形成について理解する。 ○先史社会の展開から古代への時代の転換に着目して、先史社会の特色や古代の国家や社会との関わりについて多面的・多角的に考察し、時代を通観する関いを表現する。 ○先史・古代の歴史を組み立てる資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○木簡から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○主題を基に、1項「大和王権と古墳文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、古墳時代の政治と文化について理解する。 ○主題を基に、2項「飛鳥の朝廷と文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、飛鳥時代の政治と文化について理解する。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	3 律令国家の形成と白鳳文化 4 平城京と天平文化 2節 摂関政治と貴族文化 1 平安遷都と唐風文化 2 貴族社会と摂関政治 3 国風文化 第2編 中世の日本と世界 第1章 中世社会の成立 1 朝廷政治の変容 2 武士の政治進出 第2章 歴史資料と中世の展望 1 武家権力による日本社会の変容 2 厳しい自然環境での人々の生存戦略 3 中世日本の国際交流 第3章 中世社会の展開 1節 武家政権の成立と朝廷 1 鎌倉幕府の誕生 2 執権による政治 3 モンゴル襲来と社会の変貌 4 鎌倉の仏教と文化	34～96	○主題を基に、3項「律令国家の形成と白鳳文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、律令国家の形成過程と律令制の特徴について理解する。 ○主題を基に、4項「平城京と天平文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、奈良時代の政治と文化について理解する。 ○1節「律令国家の形成と古代文化の展開」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や面期を表現することを通して、先史から古代の政治・社会や文化の特色を理解する。 ○主題を基に、1項「平安遷都と唐風文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、平安時代初期の政治と文化について理解する。 ○主題を基に、2項「貴族社会と摂関政治」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、藤原氏の台頭と武士の出現について理解する。 ○主題を基に、3項「国風文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、国風文化の特色について理解する。 ○2節「摂関政治と貴族文化」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や面期を表現することを通して、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解する。 ○院政の開始と展開、土地支配の変容について理解する。 ○武士の社会進出と平氏政権の誕生、およびその時代の外交と文化の特色について理解する。 ○古代から中世への時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する関いを表現する。 ○武家権力による日本社会の変容に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○厳しい自然環境での人々の生存戦略に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○中世日本の国際交流に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○主題を基に、1項「鎌倉幕府の誕生」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、鎌倉幕府の支配のしくみについて理解する。 ○主題を基に、2項「執権による政治」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、執権政治の特色について理解する。 ○主題を基に、3項「モンゴル襲来と社会の変貌」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、モンゴル襲来と鎌倉時代の社会の変化について理解する。 ○主題を基に、4項「鎌倉の仏教と文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、鎌倉時代の仏教と文化について理解する。 ○1節「武家政権の成立と朝廷」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や面期を表現することを通して、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解する。	◎	○	○
3	前期：5月 後期：10月	2節 武家支配の広がりや国際交流 1 南北朝の動乱と室町幕府の成立 2 倭寇と東アジア国際交流 3 室町時代の社会と経済活動 4 自立する戦国大名 5 室町文化 第3編 近世の日本と世界 第1章 近世社会の形成 1 地球的世界の形成と日本 2 織豊政権による全国統一 3 桃山文化 第2章 歴史資料と近世の展望 1 参勤交代と幕藩体制	98～143	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、2節「武家支配の広がりや国際交流」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「南北朝の動乱と室町幕府の成立」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、鎌倉幕府の滅亡から室町幕府の成立にかけての幕府と朝廷の動きについて理解する。 ○主題を基に、2項「倭寇と東アジア国際交流」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、室町時代の対外関係について理解する。 ○主題を基に、3項「室町時代の社会と経済活動」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、室町時代の社会について理解する。 ○主題を基に、4項「自立する戦国大名」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、戦国大名の分国支配と都市の発達について理解する。 ○主題を基に、5項「室町文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、室町文化の特色について理解する。 ○2節「武家支配の広がりや国際交流」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や面期を表現することを通して、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解する。 ○アジア各地やヨーロッパ諸国との交流が日本に及ぼした影響について理解する。 ○織豊政権による全国統一と、その政策の目的や意義について理解する。 ○桃山文化の特色について理解する。 ○中世から近世への時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する関いを表現する。 ○参勤交代と幕藩体制に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。	◎	○	○

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
4	前期：6月 後期：11月	2 百姓たちの生活世界 3 江戸時代の対外関係 第3章 近世社会の展開 1 江戸幕府と大名・朝廷 2 近世の身分と人々の暮らし 3 アジアのなかの幕藩体制 4 武断政治から文治政治へ 5 幕藩体制下の社会の発展 2 節 近世社会の成熟と幕藩体制の動揺 1 享保の改革と経済の発展 2 近世社会の成熟と危機の始まり 3 幕藩体制の立て直し 4 幕藩体制の動揺	145～185	○百姓たちの生活世界に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○江戸時代の対外関係に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、1節「幕藩体制の確立」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「江戸幕府と大名・朝廷」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、江戸幕府の支配のしくみについて理解する。 ○主題を基に、2項「近世の身分と人々の暮らし」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、近世の身分と料や町での生活について理解する。 ○主題を基に、3項「アジアのなかの幕藩体制」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、江戸幕府の対外政策について理解する。 ○主題を基に、4項「武断政治から文治政治へ」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、幕府政治の転換について理解する。 ○主題を基に、5項「幕藩体制下の社会の発展」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、産業の発達と文化の興隆について理解する。 ○1節「幕藩体制の確立」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、幕藩体制の確立、近世の社会と文化の特色を理解する。 ○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、2節「近世社会の成熟と幕藩体制の動揺」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「享保の改革と経済の発展」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、享保の改革と経済の発展について理解する。 ○主題を基に、2項「近世社会の成熟と開きの始まり」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、18世紀中後期の政治・社会・文化について理解する。 ○主題を基に、3項「幕藩体制の立て直し」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、18世紀末～19世紀初頭の政治・社会・文化について理解する。 ○主題を基に、4項「幕藩体制の動揺」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、19世紀前半の政治・社会・文化について理解する。 ○2節「近世社会の成熟と幕藩体制の動揺」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色を理解する。 ○時代を通観する問い、仮説をふまえて、近世の特色および近代へのつながりについて多面的・多角的に考察して表現するとともに、「近世の日本と世界」の学習について振り返り、次の学習へのつながりを見いだす。	○	◎	○
5	前期：6月後期：11月	第4編 近現代の地域・日本と世界 第1章 近代社会の幕開け 1 開国と開港 2 幕府の崩壊と明治維新 第2章 歴史資料と近現代の展望 1 資本主義の発展と生活 2 国民国家と政治参加 3 世界のなかの近現代日本 第3章 近現代社会の展開 1 近代の制度の導入と新しい国際関係 1 制度改革と殖産興業政策 2 文明開化と教育制度の整備 3 東アジア世界のなかの明治政府 4 政府専制への批判	188～217	○開国と開港による日本のさまざまな変化について理解する。 ○江戸幕府の崩壊から明治維新に至る過程について理解する。 ○近世から近代への時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。 ○資本主義の発展と生活に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○国民国家と政治参加に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○世界のなかの近現代日本に関する資料から適切な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ○主題を基に、1項「制度改革と殖産興業政策」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、明治初期の諸政策とその意義について理解する。 ○主題を基に、2項「文明開化と教育制度の整備」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、明治初期の文化・教育の進展について理解する。 ○主題を基に、4項「政府専制への批判」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、自由民権運動の展開について理解する。 ○1節「近代の制度の導入と新しい国際関係」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、近代の制度の導入、アジアや欧米諸国との国際関係を理解する。	○	◎	○
6	前期：6月 後期：11月	2 節 国民国家と資本主義の成立 1 立憲政治の成立 2 対外関係の変容と日清戦争 3 産業革命と資本主義の定着 4 教育制度の整備と新しい文化 5 日露戦争と帝国日本 6 日露戦争後の社会と政治	218～239	○主題を基に、1項「立憲政治の成立」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、立憲制の確立について理解する。 ○主題を基に、2項「対外関係の変容と日清戦争」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、条約改正交渉と日清戦争の経緯について理解する。 ○主題を基に、3項「産業革命と資本主義の定着」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、明治期の産業の発展と資本主義社会の成立について理解する。 ○主題を基に、4項「教育制度の整備と新しい文化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、教育の普及と文化の発展について理解する。 ○主題を基に、5項「日露戦争と帝国日本」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、日露戦争の経過と日本の帝国主義の進展について理解する。 ○主題を基に、6項「日露戦争後の社会と政治」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、20世紀初頭の政治と社会について理解する。 ○2節「国民国家と資本主義の成立」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、立憲体制への移行、国民国家の形成、産業の発展の経緯と近代の文化の特色を理解する。	○	◎	○
7	前期：7月 後期：12月	3 節 両大戦間期の日本 1 都市化・重工業化と生活の変化 2 政党政治とデモクラシー 3 国際社会のなかの日本 4 節 第二次世界大戦と日本 1 昭和恐慌と立憲政治の動揺 2 中国侵略と戦時体制への移行 3 戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開	240～268	○主題を基に、1項「都市化・重工業化と生活の変化」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、第一次世界大戦と当時の産業や文化の発展について理解する。 ○主題を基に、2項「政党政治とデモクラシー」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、大正期の政治と社会運動の高まりについて理解する。 ○主題を基に、3項「国際社会のなかの日本」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、大正期の日本の対外政策について理解する。 ○3節「両大戦間期の日本」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、大衆社会の形成、アジアと欧米諸国との関係の変容を理解する。 ○主題を基に、1項「昭和恐慌と立憲政治の動揺」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、昭和恐慌前後の経済政策と立憲政治の動揺について理解する。 ○主題を基に、2項「中国侵略と戦時体制への移行」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、満洲事変と日中戦争について理解する。 ○主題を基に、3項「戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、第二次世界大戦とアジア太平洋戦争について理解する。 ○4節「第二次世界大戦と日本」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。	○	○	◎
8	前期：7月 後期：12月	5 節 占領と改革 1 占領と日本国憲法の成立 2 冷戦の開始と経済復興 6 節 国際社会への復帰と高度経済成長 1 国際社会への復帰と対米協調 2 高度経済成長	270～289	○主題を基に、1項「占領と日本国憲法の成立」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、占領下の政治と日本国憲法の成立について理解する。 ○主題を基に、2項「冷戦の開始と経済復興」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、冷戦の開始と日本の復興について理解する。 ○5節「占領と改革」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係を理解する。 ○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、6節「国際社会への復帰と高度経済成長」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「国際社会への復帰と対米協調」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、日本の主権回復とその後の政治について理解する。 ○主題を基に、2項「高度経済成長」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、高度経済成長とその影響について理解する。 ○6節「国際社会への復帰と高度経済成長」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係を理解する。	○	○	◎

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
9	前期：7月 後期：12月	7 節 アジア情勢の変化と経済大国日本 1 1970年代の国際社会と日本 2 安定成長への転換 8 節 新しい国際秩序と日本の課題 1 激変する世界と日本 2 21世紀の日本 4 章 現代の日本の課題の探究 1 社会や集団と個人 2 世界のなかの日本 3 伝統や文化の継承と創造	292～313	○時代を通観する問い、仮説をふまえて主題を設定し、7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」の学習について見通しを持つ。 ○主題を基に、1項「1970年代の国際社会と日本」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、1970年代の世界と日本の政治について理解する。 ○主題を基に、2項「安定成長への転換」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、高度経済成長後の政治と経済について理解する。 ○7節「アジア情勢の変化と経済大国日本」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、現代の政治や社会の枠組みを理解する。 ○主題を基に、1項「激変する世界と日本」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、20世紀末の世界と日本の動きについて理解する。 ○主題を基に、2項「21世紀の日本」に関わる課題（問い）を設定し、資料を用いて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現する活動を通して、21世紀の政治と経済について理解する。 ○8節「新しい国際秩序と日本の課題」の学習について振り返るとともに、諸事象の解釈や画期を表現することを通して、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解する。 ○時代を通観する問い、仮説をふまえて、近現代の特色および現代の日本の課題について多面的・多角的に考察して表現するとともに、「近現代の地域・日本と世界」の学習について振り返り、次の学習へのつながりを見いだす。 ○「社会や集団と個人」をテーマに、これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用して探究する活動を通して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。 ○「世界のなかの日本」をテーマに、これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用して探究する活動を通して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。 ○「伝統や文化の継承と創造」をテーマに、これまでの学習をふまえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用して探究する活動を通して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について、多面的・多角的に考察、構想して表現する。	○	○	◎
備 考		・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。					

《通信教育実施計画》

授業科目名	公共	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	法律や消費者の権利、社会参画等について学習する。現代に起きている様々な問題を解決する活動を通して、国際社会で主体的に生きるために必要な資質・能力を学ぶ。						
学習の到達目標	1、現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。						
	2、現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを 議論する力を養う。						
	3、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「2 東書 公共701 公共」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	現代社会における青年期と自己形成／進路 三大世界宗教／功利主義と義務論 先哲の思想	P7～35	①青年期の特徴や発達課題の理解を手がかりに、青年期に生きる自己形成の課題について調べて考える。 ②行為選択の理由づけについて、目的論と義務論の考え方があることを理解する。 ③先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察し議論する。	○	○	◎
2	前期：5月 後期：10月	民主主義・立憲主義・人権保障や日本国憲法 民主政治 政治の仕組み	P36～83	①公共的な空間における基本原理の一つである、人間の尊厳と平等について、その意義、歴史的展開、現代の動向について理解する。 ②政治の働き、民主主義の具体的な姿について理解するとともに、現代の民主主義の課題について調べて考える。 ③政治のしくみと制度を前提として展開される実際の政治の運営の現状と課題について調べて考える。	○	◎	○
3	前期：6月 後期：11月	法のはたらき 市民生活と法 司法	P84～111	①法の性格や役割、法の種類、法がその成立の歴史や対象などによって区分されることについて調べて考える。 ②契約自由の原則、契約の種類、契約自由の原則の修正などについて理解する。 ③司法権とその独立、裁判制度のしくみ、違憲審査権について理解する。	◎	○	○
4	前期：6月 後期：11月	現代の経済と市場 市場経済における金融の働き 財政の役割と持続可能な社会保障制度	P112～145	①経済活動の意義、経済主体と経済循環、グローバル化のなかの経済活動の動きについて、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ②貨幣の役割と通貨制度、直接金融と間接金融、金融システム、金融市場と金利の動きについて、実際の経済事象とも関連させながら理解する。 ③少子高齢化の進展の中で、今後の社会保障制度をどのように展望するか諸外国の例も参考に考える。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	労働 国際社会のルールとしくみ 国際社会と平和主義	P146～173	①雇用環境の変化、現代のさまざまな労働問題、働きやすい労働環境について、実際の職業や労働のあり方とのかわりも含めて理解する。 ②国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、実際の国際的な事象とも関連させながら理解する。 ③核軍縮が進まない理由を、多面的・多角的に考察し議論する。	◎	○	○
6	前期：7月 後期：12月	国際平和への課題 グローバル化する国際社会 今日の国際経済とその課題	P174～212	①平和憲法をもつ日本として、国際平和に向けてどのような姿勢で何をなすべきか、多面的・多角的に考察し議論する。 ②自由貿易と保護貿易、自由貿易の推進に向けた体制、国際収支統計の意味について、実際の経済的事象とも関連させながら理解する。 ③構造的な問題としての南北問題、人口・食料問題の解決には、どのような取り組みが考えられるか考察し議論する。	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	政治・経済	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ページスタイル、スタンダードスタイル ネットスタイル						
科目内容	政治や経済活動、税金の意義等を学習する。正解が一つではない社会課題を把握し、解決するための学習態度を身に付けながら、自立し主体的に生きる力や他者の意見をまとめる力を学ぶ。						
学習の到達目標	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論について理解し、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を習得する。						
	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論を活用し、現実社会に見られる複雑な課題を把握する力や説明する力、身に付けた判断基準を根拠に構想する力、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。						
	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚を深める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「2 東書 政経701 政治経済」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	民主主義の基本原理 日本国憲法の制定と基本原理 基本的人権の保障	P4～47	①政治の役割や、民主政治において権力分立がなぜ重要か理解する。 ②大日本帝国憲法および日本国憲法の特徴について理解する。 ③基本的人権と自分の生活との関係、新しい人権の確立が求められている背景について理解する。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	立法と行政 裁判所と司法 地方自治と現代社会の特質と課題	P48～79	①国会の権限や組織・運営、また内閣の権限、内閣と国会の関係について理解する。 ②司法権の独立の必要性、裁判のしくみ、裁判員裁判について理解する。 ③地方自治の規定や住民の権利について理解する。	◎	○	○
3	前期：6月 後期：11月	現代の資本主義経済 現代経済のしくみ 国民所得と経済成長／金融・財政のしくみと課題	P80～118	①資本主義経済と社会主義経済の成立と発展について理解し、資本主義経済の課題について考える。 ②企業の活動や、株式会社の特徴について理解し、現代の企業に求められているものは何か考える。 ③インフレーションやデフレーションが国民生活にどのような影響を与えるかを考える。	○	◎	○
4	前期：6月 後期：11月	日本経済の発展と現状 福祉社会と日本経済の課題 労働問題と社会保障	P119～155	①戦後復興から高度経済成長の終焉までの変遷と産業構造の変化について理解し、バブル経済が発生した理由と終わりを迎えた理由について考える。 ②戦後日本の農業政策の展開や、林業や漁業が抱える課題について理解し、日本の農業と食料はどうあるべきか考える。 ③労働問題の発生理由や憲法や法律が保障する労働者の権利について理解し、これからの日本の雇用のあり方について考える。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	現代日本の課題 国際政治 現代国際政治と日本の諸課題	P156～203	①日本の子育て支援の現状について理解し、どうあるべきかについて考え、表現する。 ②集団安全保障のしくみが必要とされた背景を理解し、国際連合の取り組みや課題について考える。 ③国境を超えたテロリズムが多発している理由について理解し、地域紛争を予防し解決するためにはどうすればよいか、日本は難民問題についてどのように向き合うべきかを考える。	○	◎	○
6	前期：7月 後期：12月	貿易・国際収支・国際経済体制 世界経済の現状と課題 国際社会の諸課題	P204～254	①貿易の意義や、国際収支の各項目に反映される経済取引について理解し、為替レートがどのような要因によって変動するか考える。 ②経済のグローバル化の進展や、近年の国際金融の変化について理解し、どのような課題を抱えているか考える。 ③SDGs達成にむけた取り組みについて理解し、達成にむけて自分たちに何ができるか考え、表現する。	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	数学Ⅰ	スクーリング回数	3	レポート回数	9	単位数	3
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について基本的な概念や原理・方法を体系的に学ぶ。						
学習の到達目標	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題についてデータの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「704 数学Ⅰ」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	5月 10月	文字と式	P32～P47	数を実数まで拡張する意義に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	◎	○	○
2	5月 10月	実数	P48～P57	数を実数まで拡張する意義に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	◎	○	○
3	5月 10月	方程式と不等式	P58～P71	不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めたり1次不等式を事象の考察に活用したりすることができるようにする。	○	◎	○
4	6月 11月	2次関数 ～2次関数とそのグラフ～	P74～P91	2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	◎
5	6月 11月	2次関数の値の変化	P92～P101	2次関数の値の変化について、グラフを用いて考察し、関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。また、2次関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識し、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。	○	◎	○
6	6月 11月	三角比 ～鈍角の三角比～	P104～P116	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	◎	○	○
7	7月 12月	三角比の応用	P117～P127	正弦定理や余弦定理、三角比の相互関係を利用して、三角形の面積や辺の長さ、角の大きさなどを求めることができる。図形の計量の際に有効に活用することができる。また、三角比を空間図形の計量に活用することができる。	○	○	◎
8	7月 12月	データ分析	P130～P147	データや階級、度数、階級値、度数分布表、ヒストグラム、相対度数、定義や意味を理解し、目的やデータに応じて、度数分布表、ヒストグラムなどに表すことができる。データの散らばり具合を表す四分位数、四分位範囲の定義や意味を理解する。また、それを箱ひげ図に表すことができる。	○	◎	○
9	7月 12月	集合と論証	P150～P160	集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。図などを用いて、集合に関する基本的な事項を理解する。また、集合の考え方を用いて必要条件、十分条件、対偶などを学習し、論理的な思考力を伸ばす。さらに、事象を論理的に表現する際の基礎となる知識や技能を身に付け、いろいろな事象や数学的諸概念を多面的に見たり統合的に見たりすることができるようにする。	◎	○	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	数学Ⅱ	スクーリング回数	4	レポート回数	12	単位数	4
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベシックススタイル、スタンダードスタイル ネットスタイル						
科目内容	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。						
学習の到達目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。						
	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。						
	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「717 数学Ⅱ」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	5月 10月	方程式・式と証明 ～式の計算～	P4～P11	三次の乗法公式及び、因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をできるようにする。多項式の除法や分式や複素数の四則計算の方法について理解する。二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係を理解する。因数定数について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができるようにする。	◎	○	○
2	5月 10月	方程式・式と証明 ～2次方程式～	P12～P19	三次の乗法公式及び、因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をできるようにする。多項式の除法や分式や複素数の四則計算の方法について理解する。二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係を理解する。因数定数について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができるようにする。	◎	○	○
3	5月 10月	方程式・式と証明 ～高次方程式・式と証明～	P20～P32	三次の乗法公式及び、因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をできるようにする。多項式の除法や分式や複素数の四則計算の方法について理解する。二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係を理解する。因数定数について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができるようにする。	◎	○	○
4	5月 10月	図形と方程式 ～座標と直線の方程式～	P33～P51	座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を表し、直線や円を方程式で表すことができるようにする。軌跡について理解し、不等式の表す領域を不等式で表すことができるようにする。	○	◎	○
5	6月 11月	図形と方程式 ～円の方程式・軌跡と領域～	P52～P64	座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を表し、直線や円を方程式で表すことができるようにする。軌跡について理解し、不等式の表す領域を不等式で表すことができるようにする。	○	◎	○
6	6月 11月	三角関数	P65～P77 P82～P83	角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解する。三角関数の値の変化や特徴、性質を理解する。加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解し活用できるようにする。	○	○	◎

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
7	6月 11月	三角関数	P78～P84	角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解する。三角関数の値の変化や特徴、性質を理解する。加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解し活用できるようにする。	○	○	◎
8	6月 11月	指数関数と対数関数 ～指数関数～	P85～P95	指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をできるようにする。指数関数の値の変化やグラフの特徴、対数の意味と性質を理解する。	◎	○	○
9	7月 12月	指数関数と対数関数 ～対数関数～	P96～P104	指数関数の値の変化やグラフの特徴、対数の意味と性質を理解する。対数関数の値の変化や特徴について理解する。	○	◎	○
10	7月 12月	微分と積分 ～微分係数と導関数～	P106～P115	微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求められるようにする。	◎	○	○
11	7月 12月	微分と積分 ～導関数の応用～	P116～P123	導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解する。	◎	○	○
12	7月 12月	微分と積分 ～積分～	P124～P133	不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分を求められるようにする。	◎	○	○
備 考		・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。					

《通信教育実施計画》

授業科目名	数学A	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル ネットスタイル						
科目内容	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・方法を体系的に学ぶ。						
学習の到達目標	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。						
	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。						
	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「704 数学A」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	5月 10月	場合の数	P4～21	①部分集合、全体集合、補集合、共通部分、和集合などの集合の表し方、用語、記号を、図を用いて理解し、記号を使って表すことができる。 ②補集合、和集合、集合の要素の個数を求めることについて理解する。 ③具体的な事象に関する場合の数を樹形図や表に整理して調べる。 ④和の法則や積の法則など数え上げの原則について理解する。 ⑤樹形図を利用して順列の意味を理解し、その総数を求めることができる。 ⑥順列の考え方をいろいろな場面に利用して、条件のついた順列の総数を求めることを理解する。 ⑦重複順列、円順列の意味を理解する。 ⑧組合せの意味や性質を理解する。 ⑨組合せの考え方をいろいろな場面に利用して、組合せの総数を求めることを理解する。	◎	○	○
2	5月 10月	確率① ・事象と確率 ・確率の計算 ・排反事象の確率 ・余事象の確率	P22～29	①試行と事象、事象の確率について学び、確率の意味を知り、基本的な確率について理解する。 ②場合の数とともに、確率を求めることができる。 ③確率の加法定理を理解し、排反事象の確率を求めることができる。 ④余事象の確率を求めることができる。	○	◎	○
3	6月 11月	確率② ・独立な試行の確率 ・反復試行の確率 ・条件付きの確率 ・期待値	P30～37	①独立な試行の意味を理解し、簡単な独立な試行の確率を求めることができる。 ②反復試行について理解し、簡単な場合の反復試行の確率を求めることができる。 ③条件付き確率の意味を理解する。また、確率の乗法定理を理解し、活用できる。 ④期待値を求めることができる。また、期待値を意思決定に活用することができる。	○	◎	○
4	6月 11月	図形の性質	P40～75	①平行線と角の関係を理解し、これらを利用して角の大きさを求めることができる。 ②多角形の内角、外角の性質を理解し、これらを利用して角の大きさを求めることができる。 ③三角形の合同条件、相似条件を理解し、これらを利用して辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ④垂直二等分線、垂線、角の二等分線の作図方法を理解し、その作図ができる。 ⑤図形の性質を利用した平行線やいろいろな大きさの角を作図する方法を理解し、目的に合った図形を作図することができる。 ⑥三角形と比の性質や中点連結定理を理解し、それを用いて線分の長さを求めることができる。 ⑦三角形の重心の性質を利用して、線分の長さや角の大きさを求めることができる。 ⑧三角形の外心、内心の性質を利用して、線分の長さや角の大きさを求めることができる。 ⑨三角形の角の二等分線と線分の比に関する定理を理解し、それらを用いて線分の長さを求めることができる。 ⑩円の接線の性質、接線の長さについて理解し、それらを利用して、接線の長さや三角形の辺の長さを求めることができる。 ⑪円周角の定理を理解し、それを利用して角の大きさを求めることができる。また、円周角の定理の逆を理解し、4点が同一円周上にあるかどうか判断することができる。 ⑫円に内接する四角形の性質を理解し、それを利用して角の大きさを求めることができる。また、四角形が円に内接する条件を利用して、四角形が円に内接するかどうか判断することができる。 ⑬接線と弦のつくる角の定理を理解し、それを利用して、角の大きさを求めることができる。 ⑭円と2本の直線がつくる線分の長さの関係を考察し、方べきの定理が成り立つことを理解し、長さを求めることができる。	◎	○	○
5	7月 12月	数学と人間の活動	P78～87	①古代の人々の記数法や漢数字による記数法について理解する。 ②10進法、2進法の数の表し方のしくみを調べ、法則を見つけることができる。 ③2進法と10進法の変換を行うことや2進法と10進法を対比してみることで、記数法に対する理解を深めることができる。また、2進法で表された数の計算ができる。 ④平面上の点の位置を表す座標の考え方を理解する。また、その考えを空間内の座標へ拡張し、空間内の点の位置を表すことができる。 ⑤約数、倍数、素数、素因数分解などの整数に関する基本的概念について理解し、約数、倍数を求めたり、素因数分解したりすることができる。	○	○	◎
6	7月 12月	数学と人間の活動	P88～P97	①素因数分解を利用して最大公約数、最小公倍数を求めることができる。 ②ユークリッドの互除法を理解し、これを用いて2つの正の整数の最大公約数を求めることができる。 ③長さや面積の単位を調べることで、これをを用いて2つの正の整数の最大公約数を求めることができる。 ④体積や重さの単位を調べることで、これをを用いて2つの正の整数の最大公約数を求めることができる。 ⑤古代の人々の時計や、暦（うるう年）について理解する。また、うるう年を決めた理由を考えることができる。	○	○	◎

備考	・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
----	--

《通信教育実施計画》

授業科目名	科学と人間生活	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、 スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	自然に対する理解や科学技術の発展がこれまで私たちの日常生活や社会にいかに影響を与え、どのような役割を果たしてきたかについて学ぶ。「生物」「化学」「物理」「地学」を総合的に学ぶ。						
学習の到達目標	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。						
	観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。						
	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「科学と人間生活」（科人701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	5月 10月	1 編 生命の科学 1 章 微生物とその利用 ・身のまわりの微生物 ・生態系における微生物のはたらき ・微生物のはたらきと炭素の循環 ・窒素と微生物のはたらき ・水中の微生物のはたらき ・食品と微生物 ・発酵のしくみ	P 14～P 37	・カビは微生物であることを知り、微生物とはどのような生物かに問題を見いだす。 ・微生物を利用して、環境の浄化が行われていることを理解し、その利点を考える。 ・眼の網膜で受容した光の刺激を脳で処理することにより視覚が生じることを理解する。 ・ふだんの食事のメニューを想起し、エネルギー源である炭水化物は体内でどのように利用されているかについて問題を見いだす。	○		◎
2		1 編 生命の科学 2 章 ヒトの生命現象 ・視覚とは何か ・光の受容と視覚の成立 ・ヒトの眼球の構造 ・2種類の視細胞 ・血糖とは何か ・血糖濃度の調節、ホルモンによる血糖濃度の調節 ・血糖濃度の調節のしくみ ・感染症から体を守るしくみ ・免疫のしくみと日常生活 ・遺伝子DNA ・DNAの遺伝情報からタンパク質へ	P 38～P 65	・ヒトの眼の構造を理解する。 ・近くを見るときと遠くを見るときの調節の仕組みを理解する。 ・血糖濃度とそれを維持するための体内でのグルコースの流れについて理解する。 ・血糖濃度を調節するためにインスリンやグルカゴンがはたらいていることを知る。 ・食事の前後の血糖濃度、インスリン濃度、グルカゴン濃度のデータから、それらのはたらきについて考察する。 ・免疫とリンパ球のはたらきについて理解する。 ・抗原抗体反応の仕組みと特徴について理解する。 ・DNAの構造や遺伝子とDNAとの関係について理解する。 ・プラスチックの再生利用の重要性について考えとともに、プラスチックのマテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、サーマルリサイクルについて理解する。	○	◎	
3	6月 11月	2 編 物質の科学 1 章 材料とその再利用 ・金属の性質 ・金属が電気を通すのはなぜだろうか ・異なる金属の区別 ・性質の違いによる金属の分類 ・金属を区別するための方法があるだろうか ・プラスチックの性質と分類 ・プラスチックの構造 ・プラスチックの再生利用（リサイクル）の基本	P 66～P 93	・金属と非金属の性質の違いを比較して、金属の構造について問題を見いだす。 ・金属に特有の性質について理解する。 ・金属の構造について理解し、それを基に金属特有の性質について考える。 ・金属を区別するための方法を考えて実験を計画し、アルミニウム、鉄、銅の性質をさまざまな方法で調べる。 ・プラスチックと金属を比較して、プラスチックの性質や種類について問題を見いだす。 ・プラスチックの種類や特徴、用途について理解する。	○	○	◎
4		2 章 衣料と食品 繊維の種類と性質 ・繊維の種類 ・脂質の性質 ・油脂の構造と性質 ・油脂の分解	P 95～P 115	・繊維の種類とそれぞれの用途について理解する。 ・合成繊維は石油を原料とすることや、モノマーとポリマー、重合（付加重合、縮合重合）について理解する。また、さまざまな合成繊維のモノマーとポリマー、性質と用途について知る。 ・油脂の構造と性質について理解する。 ・エステル加水分解と油脂のけん化について理解する。 ・デンプンは多数のグルコースが連なった高分子化合物であること、ヨウ素デンプン反応で検出されることを理解する。 ・デンプンの消化の進行を、ヨウ素デンプン反応やフェーリング液の還元反応で確かめる。	◎		○
5	7月 12月	3 編 光や熱の科学 原子や分子の熱運動 ・ブラウン運動と熱運動 ・熱運動による現象 ・温度の表し方 ・温度の異なる物体間での熱の移動 ・物体の温度変化に必要な熱量 ・温度の異なる物体間での熱の移動 ・物体の温度変化に必要な熱量 ・可逆変化と不可逆変化 ・エネルギーの有効利用 ・太陽エネルギーの利用	P 138～P 157	・温度による水の状態変化を基に、温度による物質の状態変化と原子や分子の動きとの関係について問題を見いだす。 ・原子や分子の熱運動と温度との関係について理解する。 ・温度の表し方であるセ氏温度や絶対温度について理解する。 ・熱平衡、熱量、熱容量について理解する。 ・水の比熱が大きいことと人間生活とのかわりについての理解を深める。 ・熱量の保存について理解する。 ・熱量の保存について理解する。 ・計算演習を何度か実施し、熱量の計算式を身に着ける。また、概念を理解する ・地球環境を保全するためのエネルギーの有効利用について調べ、科学技術のあり方について判断するために必要な態度を身につける。	○		◎
6		4 編 宇宙や地球の科学 1 章 太陽と地球 ・太陽がつくる1日、そして1年 ・月がつくるひと月 ・潮の満ち干と月 ・潮位の変動と周期性 ・太陽のエネルギー源 ・太陽活動の変動 ・大気の構造 ・空気の性質と対流圏	P 158～P 179	・同じ時刻に太陽や月が見える方位は日によって変化するかを考え、太陽や月の日周運動について問題を見いだす。 ・潮位のデータを基に、潮位の変化の規則性について考察する ・既習の内容や生活経験などを基に、太陽が暖かく感じる理由に問題を見いだす。 ・太陽のエネルギー源、太陽活動の変動、太陽の放射エネルギーについて知る ・熱帯低気圧の経路図を基に、台風の発生場所と移動経路の特徴について考察する。	○	◎	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	化学基礎	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則を学ぶ。当科目は「化学と人間生活」、「物質の構成」、「物質の変化とその利用」の3つの大項目から構成されている。						
学習の到達目標	(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。						
	(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。						
	(3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編化学基礎」（東書702）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	1編 化学と人間生活 2章 物質の成分と構成元素	P12～P33	・純物質と混合物の性質を理解する。 ・純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。また、いくつかの元素には同素体があることを知る。 ・物質には三態があり、それぞれの状態のとき、物質を構成する粒子がどのように運動しているか推察する。 ・状態変化には粒子の熱運動が関係していることを理解する。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表	P34～P47	・原子の大きさや構造について知る。また、原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・質量数が陽子の数と中性子の数であることがわかり、同じ原子であっても質量数の異なるものがあることに気づく。 ・放射性同位体が年代測定や医療などに使われていることを知る。 ・電子配置で電子殻への電子の取りまり方を知る。 ・貴ガスの性質から閉殻を知り、極めて安定な電子配置があることに気づく。 ・最外殻電子と価電子を知る。また貴ガスの場合はこれらの示しているものが違うことを知る。 ・電子配置は原子番号の順に規則正しく変化することを理解する。	○	◎	○
3	前期：6月 後期：11月	2編 物質の構成 2章 化学結合	P48～79	・電子配置からイオンの生成を理解する。 ・イオン化エネルギーの周期性に気づき、教科書p.42図10などを参考にしながら、典型元素の陽性と陰性について理解する。 ・イオン結合の形成について理解する。 ・イオンからなる物質の組成式およびイオン結晶の性質を理解する。またそれらが身近に使われている用途を知る。 ・分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 ・共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 ・自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 ・結合の種類から物質の大きな性質について分類し考察する。	◎	○	○
4	前期：6月 後期：11月	3編 物質の変化 1章 物質量と化学反応式	P80～105	・天然に存在する多くの元素には一定の割合で同位体が存在するため、原子量はその加重平均の値であることを理解する。 ・原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。粒子の数に基づく量の表し方が物質量であることを知る。 ・物質量とその単位のmolの関係、さらに原子量・分子量・式量との関係やモル質量との関係がわかり、それらの単位変換を理解する。 ・質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。 ・化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 ・化学反応式の係数が表している量的関係を考える。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	3編 物質の変化 2章 酸と塩基	P105～P135	・アレニウスやブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。 ・水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 ・水溶液の水素イオン濃度は広い範囲で変化するため、pHでも表せることを理解する。 ・pH指示薬と変色域により、水溶液のpHが測定できることを知る。 ・酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 ・酸と塩基が完全に中和したときの塩の水溶液が中性になるとは限らないことがわかる。 ・中和の条件は、酸から生じるH ⁺ の物質量と塩基から生じるOH ⁻ の物質量が等しくなることだとわかる。 ・中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。	◎	○	○
6	前期：7月 後期：12月	3編 物質の変化 3章 酸化還元反応	P136～167	・酸化と還元は常に同時に起こることを知る。 ・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 ・酸化数は、原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。 ・酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。 ・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。 ・実験観察を通して、金属のイオン化傾向と電流の流れる向きを比較し関係性を考える。 ・ダニエル電池や身近に使われている乾電池の構造、それらの用途や特徴を知る。 ・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。	◎	○	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	生物基礎	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル ネットスタイル						
科目内容	中学校までに学習した内容を基礎として、日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行って、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。						
学習の到達目標	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。						
	・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。						
	・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「生物基礎」（生基702）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	5月 10月	1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 1節 生物の多様性 2節 生物の共通性 3節 細胞の特徴 2章 生物とエネルギー 1節 生体とATP 2節 生体内の化学反応 3節 呼吸と光合成 実習1 脊椎動物の特徴の比較 実習2 さまざまな生物の顕微鏡観察とDNAの抽出	P10～36	・脊椎動物の四肢の有無、呼吸の仕方、殖え方などの特徴について考え、表aにまとめる。 ・図aの系統樹上でそれらの特徴が現れた位置を推測し、進化との関係性を見いだす。 ・顕微鏡を用いてヒト口腔内上皮、タマネギの表皮、ヨーグルトの乳酸菌を観察し、スケッチを行う。 ・それぞれの細胞の大きさを測定してスケッチに記録する。 ・観察結果を比較し、生物のもつ共通性について考察する。 ・ヒト口腔内上皮、タマネギ、乳酸菌のDNAを抽出し、生物がDNAをもつという共通性があることについて考察する。	○	○	◎
2		2編 遺伝子とのはたらき 1章 遺伝情報とDNA 1節 生物と遺伝子 2節 DNAの構造 3節 DNAの複製と分配 2章 遺伝情報とタンパク質 1節 タンパク質 2節 DNAとタンパク質の合成 3節 細胞分化と遺伝子 実習3 酵素のはたらき 実習4 DNA模型の作製 実習5 DNAが2倍になるしくみ 実習6 アミノ酸とDNAの対応	P42～P70	・ゼラチンでつくった生のバイナップルのゼリーが固まらないことから、酵素の存在に気づく。 ・生のバイナップルを用いて、寒天のゼリーとゼラチンのゼリーがどのように変化するかを観察し、ゼラチンと寒天の主成分の違いから、バイナップルに含まれる酵素の性質を考察する。 ・DNAの分子モデルの写真から、DNAがどのような形をしているか、またDNAの構造にある規則性や特徴に気づく。 ・DNA模型の作製を通して、遺伝情報の担う物質としてのDNAの形状や塩基の結合のしかたの規則性を見いだす。 ・DNAの2本鎖が解離した状態と複製後の状態を示す資料から、塩基の相補性がDNAの複製のしくみに関わっていることを見いだす。 ・DNAの塩基配列と、それに対応するタンパク質のアミノ酸配列に関する資料から、DNAの塩基配列とアミノ酸配列の間にある関係性を見いだす。	○	○	◎
3	6月 11月	3編 ヒトの体の調節 1章 体内環境と情報伝達 1節 体内環境 2節 神経系による情報伝達 3節 ホルモンによる情報伝達 4節 血糖濃度の調節	P76～P94	・体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだす。 ・血糖濃度の調節機構による体内環境の維持とホルモンの関係について見いだして理解する。 ・血糖濃度の調節にかかわるホルモンの種類と、それぞれのはたらきについて理解する。 ・ここまでで学習した用語を使って、血糖濃度の調節のしくみを図で整理する。 ・インスリンの作用と糖尿病の関わりについて理解する。 ・糖尿病の患者数の変化を食事や移送手段の変化など生活と関連したデータをもとに考える。 ・体温の調節機構について、関係する器官と支配のしくみを知る。 ・人体の構造や各器官の役割について考える。	○	○	◎
4		2章 免疫のはたらき 1節 免疫のしくみ 2節 免疫記憶 3節 免疫とさまざまな疾患 実習7 運動の前後の体の変化 実習8 血糖濃度の調節 実習9 体内の抗体量の変化	P100～P114	・体内の抗体量の変化のデータから二次応答のしくみを見いだして理解する。 ・ヒトは免疫のしくみによって、病原体などの異物から体を防衛していることを理解する。 ・白血球の一種である好中球の食作用の資料から異物を除去する機構について気づく。 ・適応免疫を支えるリンパ球の種類と役割を理解する。 ・体内環境の維持の観点から血液凝固について理解する。 ・免疫のしくみについて俯瞰的に整理して理解する。 ・予防接種のしくみを理解する。 ・アレルギーについて考える。 ・花粉症発症のしくみを例にアレルギーの発症について理解を深める。 ・AIDSを例に免疫機能の低下による疾患について理解する。 ・免疫について整理する。	○	○	◎
5	7月 12月	4編 生物の多様性と生態系 1章 植生と遷移 1節 植生とその環境 2節 植生の遷移 3節 遷移とバイオーーム	P122～P139	・樹木のある場所とない場所における環境の違いを見いだす。 ・植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因として土壌や光環境について見いだして理解する。 ・世界のさまざまな地域の気候と植生の関係を調べ、バイオーームが遷移を経て成立していることを見いだして理解する。	○	○	◎
6		2章 生態系と生物の多様性 1節 生態系における生物の多様性 2節 生態系における生物間関係 3節 生態系と攪乱 4節 生態系の保全 実習10 身近な植生と環境の観察 実習11 植生の遷移の要因 実習12 森林・草原・砂漠と遷移の関係 実習13 地表を歩きまわる生物の観察 実習14 生態系から特定の生物を除去したときの影響 実習15 生活排水の流入による河川への影響 実習16 高速道路の建設に伴う環境アセスメント	P144～P163	・ビットフォールトラップから、生態系における種の多様性を見いだして理解する。 ・生態系から特定の生物を除去したときの影響から、被食と捕食による生物どうしのつなぐに気づき、生物の関係性が種多様性に関わることを見いだして理解する。 ・生活排水の河川への流入の例から、人為的攪乱による生態系への影響を見いだして理解する。 ・環境アセスメントの具体的な事例をもとに、生態系の保全の重要性を見いだして理解する。	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	体育①	スクーリング回数	15	レポート回数	3	単位数	3
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	現代社会における政治や経済、文化などの側面においてスポーツが及ぼす影響は大きくなってきている。そこで体育①では、スポーツの意義や歴史、文化的特徴、現代スポーツを取り巻く様々な問題について学習する。						
学習の到達目標	スポーツの文化的価値を理解し、幅広い知識と教養を身に付け、心理に求める態度を養い、豊かな情勢と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養う。						
	アンチ・ドーピング運動、スポーツにおける環境破壊・環境保護について理解し、生命の尊び、自然に対し環境の保全に寄与する態度を身に付ける。						
	日本生まれのスポーツ、オリンピックが世界平和の促進に大きな役割を果たしていることについて理解し、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を身に付ける。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に
1	前期：5月 後期：10月	スポーツの始まりと発展 近代スポーツから国際スポーツへ 世界の民族スポーツについて調べてみよう スポーツを文化としてとらえること スポーツ文化への多様なかかわり 日本生まれのスポーツ 競技スポーツにおける競争の意味	P.136～143	・スポーツがどのように始まったのか説明ができる。 ・なぜスポーツが世界中に広まったのかを説明ができる。 ・世界の民族衣装スポーツについて調べ、スポーツ文化の多様性を知る。 ・運動との比較から文化としてのスポーツの特徴を説明できる。 ・多様なかかわり方によるスポーツの文化の変容について例をあげて説明できる。 ・日本生まれのスポーツについて理解する。 ・競技スポーツにおける競争の意味を理解する。	◎	○	○
2	前期：6月 後期：11月	オリンピックの意義 パラリンピックの意味 オリンピックの課題 パラリンピックの課題 スポーツが経済に及ぼす効果 スポーツと経済 オリンピック スポーツ産業の拡大 スポーツの高潔さを守ること	P.144～150	・オリンピズムとオリンピックの価値について説明できる。 ・パラリンピックの価値について具体例をあげながら、パラリンピックの意義について説明できる。 ・オリンピックの課題について理解する。 ・パラリンピックの課題について理解する。 ・世界の民族衣装スポーツについて調べ、スポーツ文化の多様性を知る。 ・班ごとに民族スポーツにおける競技特性(スポーツ文化の多様性)を調べ、理解する。	◎	○	○
3	前期：7月 後期：12月	スポーツにおけるドーピング スポーツの価値について考えてみよう なぜドーピングは許されないのか考えてみよう スポーツと環境問題 これからのスポーツと環境保護 スポーツとまちづくり	P.151～156	・ドーピングがなぜスポーツを破壊する行為になるのかを具体的に説明できる。 ・スポーツの価値と理念を理解し、体现する。 ・ドーピングの定義を理解する。 ・スポーツにおける環境問題について例をあげて説明できる。 ・スポーツは、環境とどのように調和していけばよいのか説明できる。 ・スポーツとの多様なかかわりについて健康、ビジネス、コミュニティ、持続可能性について理解する。	◎	○	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	体育②	スクーリング回数	10	レポート回数	2	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	私たちは運動やスポーツを行うことで、大きな達成感や喜びを味わい心や体を健康にすることができます。そこで体育②では、合理的な動きを理解することや運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学ぶ。						
学習の到達目標	トレーニングの原理を理解し、より効果的なトレーニング方法を学ぶことで、効率よく技能や体力を向上させることが出来るようになる。						
	健康的な体力作りをするためのトレーニング計画・実施・確認・改善までが出来るようになり、目的に応じたメニューを立案し、実践できるようになる。						
	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に
1	前期：5月 後期：10月	①運動・スポーツにおける技能と体力の関係 ②練習とトレーニングの原理と原則 ③技術と技能の違い ④技能の型に応じた練習 ⑤戦術・作戦・戦略 ⑥技能の上達過程における3つの段階 ⑦効果的な練習方法	P158～P165	①技能と体力の関係について説明できる。 ②技能や体力を高めるときに気を付けるべき点をあげることができる。 ③技能の型の違いやそれぞれの練習のしかたを説明できる。 ④用具の改良やメディアの発達などによる技術や戦術、ルールの変化を説明できる。 ⑤技能がどのようなステップを経て上達するか説明できる。 ⑥練習によって技能が上達すると、どのような特徴がみられるかをあげることができる。	◎	○	○
2	前期：7月 後期：12月	①動きの開始と持続 ②動きのコントロール ③体力トレーニングを支える基礎理論 ④体力トレーニングの進め方 ⑤筋力トレーニング	P168～P173	①体の動きはどのようなしくみで開始され、持続していくのかを説明できる。 ②よい動きを支える調整力について例をあげて説明できる。 ①目的に応じたさまざまなトレーニングの方法を説明できる。 ②筋力、持久力、調整力、柔軟性を高める具体的な方法をあげることができる。	◎	○	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	体育③	スクーリング回数	10	レポート回数	2	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	生涯にわたって健康で豊かな生活を送るには、スポーツと継続的にかかわることが必要であり、ライフステージやライフスタイルに応じてスポーツライフを設計することが重要であるため、生涯にわたってスポーツと豊かにかかわるためのスポーツライフの設計のしかたについて学習をする。						
学習の到達目標	社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのか、ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を理解し、説明することができる。						
	豊かなスポーツライフを実現するために何が大切かについて理解し、現在のスポーツライフの諸条件を整理して、自分にあったスポーツライフを設計することができる。						
	国や自治体が行っているスポーツ推進の施策、企業や地域におけるスポーツの関り方について把握し、これからの豊かなスポーツライフにおける課題について考える力を養う。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に
1	前期：5月 後期：10月	①社会の変化とスポーツの役割 ②ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方 ③スポーツ科学について ④スポーツにかかわる職業について ⑤いろいろなスポーツライフスタイル ⑥豊かなスポーツライフの設計	P182～P187	①社会の変化にともなってスポーツの役割がどのように変化したのかを説明できる。 ②ライフステージに対応したスポーツの楽しみ方を説明できる。 ③スポーツ科学の学問分野について調べ、スポーツへの理解を深める。 ④スポーツにかかわる多様な職業は、互いに関連しながら文化としてのスポーツの質を高めていることを理解する。 ⑤「する」スポーツライフスタイルについて例をあげ説明できる。 ⑥現在の自分のスポーツライフの諸条件を整理し、今後の豊かな設計のための諸条件や工夫のしかたの例をあげられる。	◎	○	○
2	前期：7月 後期：12月	①日本のスポーツ推進の歩み ②地域とスポーツクラブ ③諸外国のスポーツを推進する取り組みを調べてみよう ④日本のスポーツライフの特徴 ⑤豊かなスポーツライフの創造のために	P190～P195	①国内でスポーツを推進してきた従来の取り組みを説明できる。 ②自分が住んでいる身近な地域におけるスポーツ推進の取り組みについて例をあげ、理解する。 ③欧米諸国によるスポーツ推進する取り組みの歴史を調べ、理解する。 ④これまでとこれからのスポーツライフの違いを理解する。 ⑤豊かなスポーツライフを創造していくための課題について、例をあげて説明ができる。	◎	○	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	保健①	スクーリング回数	1	レポート回数	3	単位数	1
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。						
学習の到達目標	1. 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。						
	2. 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。						
	3. 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に
1	前期：5月 後期：10月	現代社会と健康①	P.6～33	①さまざまな健康の考え方や健康を成り立たせている要因、わが国の健康水準の変化や健康問題について理解することができる。 ②生活習慣病の種類と要因について正しく理解した上で、適切な判断ができる。 ③がんの種類や原因、一次予防、二次予防について例をあげて説明できる。 ④健康と運動の関係、運動の意義について理解することができる。 ⑤健康と休養の関係を理解した上で、適切な休養のとり方について正しい判断ができる。 ⑥喫煙者やその周囲の人に起こる害、喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる。 ⑦飲酒による健康への短期的影響と長期的影響、飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげて説明できる。 ⑧薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について理解することができる。	◎	○	○
2	前期：6月 後期：11月	現代社会と健康②	P.36～55	①精神疾患を予防する方法、精神疾患の治療、精神疾患の適切な治療や回復のために、どのような社会環境が必要か説明できる。 ②感染症の予防対策、感染症への個人と社会の対策について例をあげて説明できる。 ③性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点、性感染症・エイズの予防とその対策について理解することができる。 ④意思決定・行動選択に影響を与える要因、健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげて説明できる。 ⑤社会環境の健康への影響、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について理解することができる。	◎	○	○
3	前期：7月 後期：12月	安全な社会生活	P.60～73	①事故の実態と被害の実態、事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて理解することができる。 ②安全のために必要な個人の行動、すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について理解することができる。 ③交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備、交通事故における責任について説明できる。 ④応急手当の意義、傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。 ⑤日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について理解した上で、実際に日常的なけがや熱中症の応急手当ができる。 ⑥心肺蘇生法の方法と手順について説明できる。	◎	○	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	保健②	スクーリング回数	1	レポート回数	3	単位数	1
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。						
学習の到達目標	1. 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。						
	2. 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。						
	3. 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	大修館「現代高等保健体育」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に
1	前期：5月 後期：10月	生涯を通じる健康①	P.76～91	①各ライフステージで活用できる社会からの支援について理解することができる。 ②思春期の心の発達にかかわって起こる問題について正しく理解し、判断することができる。 ③性情報が性行動の選択に影響を及ぼす要因について説明できる。 ④妊娠・出産期と健康について正しく理解し、人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。 ⑤結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。	◎	○	○
2	前期：6月 後期：11月	生涯を通じる健康② 健康を支える環境づくり①	P.92～107	①働き方の多様化や、健康問題の変化について説明できる。 ②労働災害を防止するために必要なことをあげることができる。 ③健康的な職業生活に必要な要素を理解することができる。 ④大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて理解することができる。 ⑤産業廃棄物の処理や、上下水道のしくみと健康にかかわる課題を説明できる。	◎	○	○
3	前期：7月 後期：12月	健康を支える環境づくり②	P.110～127	①食品の安全性を確保するための個人の役割について理解し、食物アレルギーについて説明できる。 ②食品衛生にかかわる活動について理解することができる。 ③さまざまな医療機関の役割や保健サービスについて説明できる。 ④医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。 ⑤さまざまな保健活動や行政機関による社会的対策について例をあげて説明できる。 ⑥健康に関する環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを理解することができる。	◎	○	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	音楽Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力について学ぶ。						
学習の到達目標	音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。						
	音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。						
	音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。						
	中学校音楽科の学習を踏まえ、楽曲固有のよさや美しさなどを味わうだけでなく、文化的・歴史的背景など広い視野で音楽を捉えて、我が国及び諸外国の音楽文化への理解を深める。						
	音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。						
使用教科書・副教材等	教育出版「音楽Ⅰ Tutti+」（17教出 音Ⅰ701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に
1	前期：5月 後期：10月	楽典・西洋音楽史・日本歌曲 「この道」	P14～15 P108～113 P146 P149	①音楽の楽典について理解する。 ②大譜表と音名について理解する。 ③西洋音楽史について理解する。 ④日本歌曲「この道」を通して、日本語の語感や言葉のリズムを感じる。 ⑤独弱記号について理解する。 ⑥各世紀の西洋音楽を聴き、時代背景と共に理解する。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	楽典・西洋音楽史・ドイツ歌曲 「野ばら」	P28～29 P114～117 P148～149	①音楽の楽典について理解する。 ②西洋音楽史について理解する。言葉のリズムを感じる。 ③独弱記号について理解する。 ④ドイツ歌曲「野ばら」を通して、旋律の動きやテンポの変化を感じる。 ⑤各世紀の西洋音楽を聴き、時代背景と共に理解する。	○	◎	○
3	前期：6月 後期：11月	声という大切な楽器 世界の声の音楽・楽器の音楽 カンツォーネ 「オー・ソレミオ（我が太陽）」	P12 P22～23 P106～107 P147 P149	①発声の仕組みについて理解する。 ②姿勢や声道と音色について理解する。 ③世界のような音楽の魅力や特徴を理解する。 ④カンツォーネ「オー・ソレ・ミオ（我が太陽）」に使われている楽典を理解する。	◎	○	○
4	前期：6月 後期：11月	楽典・「Danny boy」 （アイルランド民謡）	P38 P146～148	①音程について理解する。 ②音程を楽譜を見て表現できる。 ③アイルランド民謡「Danny boy」に用いられている和音について理解する。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	日本の民謡と芸能・日本音楽 「会津磐梯山」（福島民謡）	P46～47 P49 P96～99	①日本の民謡と芸能について理解する。 ②日本の音楽史について理解する。 ③福島県民謡「会津磐梯山」を聴き、コブシや囃子言葉などの民謡らしい表現を理解する。	○	○	◎
6	前期：7月 後期：12月	楽典・L' inverno「冬」	P83 P110 P118～119 P149 P151～152	①ピアノの進化と作品について理解する。 ②「交響曲第9番」などで使われている、ソナタ形式について理解する。 ③「L' inverno（冬）」を聴き、リコーダーやギターの合奏を感じる。 ④作曲されたバロック時代などの時代背景を理解する。	○	◎	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	美術Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	美術Ⅰは美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
学習の到達目標	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。						
	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。						
	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。						
使用教科書・副教材等	日本文教出版「高校生の美術1」（美Ⅰ-702）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	「人物を描く」 自分を見つめて描こう	18・21、 12・13、 24・25、 130・131、 132-135、 136・137、 138・139、 140・141、 142・143	自己の内面を見つめ、今の気持ちや性格など自分らしい印象などを基に、構図や表情などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、構図や表情、色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かして表す。	○	○	◎
2		「私の見付けた風景」 身近な風景を描こう	14-17、 22・23、 136・137、 138・139、 140・141、 142・143	身近な場所や風景のイメージなどを基に、形や色彩、構図などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、風景の中の空間、形や色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、風景から感じ取ったよさや美しさなどを絵の具などの特性を生かして表す。	○	◎	○
3	前期：6月 後期：11月	「ポスターで伝える」 メッセージを伝えるポスターをつくろう	72-75、 68・69、 70・71、 78・79、 80・81、 130、 131、 142・143、 145、 149、 150・151、 152-154	伝えたいメッセージや伝える場面などを基に、形や色彩、写真やイラスト、文字などによる伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、イラストや写真、文字の形や色、構成などの効果、伝達したいイメージなどを捉え、環境問題に対する注意喚起等を目的としたポスターを構想する。	○	◎	○
4		「サインのデザイン」 分かりやすい校内案内をデザインしよう	76・77、 68・69、 70・71、 78・79、 80・81、 130、 131、 142・143、 145、 149、 150・151、 152-154	伝達する内容や目的と見やすさや美しさの調和を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、認識されやすい効果的な形や色彩を使用し、伝達の目的や意図に基づいて、マークやビクトグラムをデザインする。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	「キャラクターのデザイン」 マスコットキャラクターをデザインしよう	80・81、 68・69、 70・71、 76・77、 78・79、 130、 131、 142・143、 145、 149、 150・151、 152-154	伝えたい情報や使われる場面などを基に、キャラクターの形や色彩、性格設定などによる伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、キャラクターの形や色、性格を表すポーズや持ち物などの効果、伝達したい情報やイメージなどを捉え、材料や用具などの特性を生かしてキャラクターをデザインする。	○	◎	○
6		「写真で表す」 学校生活を表す情景を撮ろう	92-95、 146	被写体の印象や瞬間の美しさなどを基に、構図やシャッター速度などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、写真角度や配置、拡大や縮小、光や影、時間の静止などの効果、全体のイメージなどを捉え、カメラの特性を生かして、学校生活で心に残る情景を思いが伝わるように表す。	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	書道Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力について学ぶ。						
学習の到達目標	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。						
	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。						
	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「書道Ⅰ」（書Ⅰ701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習に 取り組む 態度
1	前期：5月 後期：10月	書写から書道へ	P2～9	①楷書の基本について理解する。 ②行書の基本について理解する。 ③筆・墨の種類や特徴をとらえる。 ④硯・紙の種類や特徴をとらえる。 ⑤基本の姿勢について理解する。 ⑥執筆法の種類や特徴をとらえる。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	漢字の書（楷書、行書）	P12～37	①漢字の成立と変遷について理解する。 ②古典に基づく学習の流れについて理解する。 ③楷書の特長について理解する。 ④楷書の作品と作者について理解する。 ⑤作品を生み出した作者の人物像を理解する。	○	◎	○
3	前期：6月 後期：11月	漢字の書（行書）	P38～58	①行書の特長について理解する。 ②王羲之について理解する。 ③行書の作品を知る。 ④蘭亭序について知り、使われている表現を理解する。 ⑤争坐位文稿について知り表現の特長を理解する。 ⑥風信帖について知り表現の特長を理解する。	○	◎	○
4	前期：6月 後期：11月	漢字の書（草書、隸書、篆書）	P59～73	①草書の特長について理解する。 ②草書の作品を知る。 ③隸書の特長について理解する。 ④隸書の作品を知る。 ⑤篆書の特長について理解する。 ⑥篆書の作品について知る。 ⑦創作の手順を理解する。 ⑧古典を生かした創作を行う。	○	○	◎
5	前期：7月 後期：12月	仮名の書	P76～103	①仮名の成立について理解する。 ②仮名を書く準備について理解する。 ③仮名の表現の特長を理解する。 ④仮名で書かれた作品を知る。 ⑤平安時代の手本について理解する。	○	◎	○
6	前期：7月 後期：12月	漢字仮名交じりの書	P112～138	①線による表現の広がりや天の川の作品を通して理解する。 ②自分が表現することを想像し、適切な方法を選択できる。 ③用具・用材による表現の違いを理解する。 ④紙面構成などによる表現の違いを理解する。 ⑤書を生活に広げて考え、場面や目的に沿った表現を理解する。 ⑥街や自分の身の回りに生かされている書を知る。 ⑦篆刻と落款について理解する。 ⑧落款印の作成方法を理解する。	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ	スクーリング回数	12	レポート回数	9	単位数	3
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	英語コミュニケーションⅠは、日常生活や旅行の場面、電話・メールでの表現など、様々なシーンを題材として、英語でのコミュニケーションにおける「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やりとり）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」という5つの領域を基礎から総合的に学習する。						
学習の到達目標	1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。						
	2. 必要な情報を聞くことや、読むことを通して、話し手や書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。						
	3. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合ったり、文章に書いて伝えることができる。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「All Aboard! English Communication Ⅰ」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に
1	前期：5月 後期：10月	Lesson 1 Breakfast around the World 私の朝ごはん Lesson 2 Australia's Cute Quokkas 人なつっこい野生動物	p20～35	①世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。 ②過去形の用法を理解する。 ③好きな食べ物について、英語で述べるようになる。 ④オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習する。 ⑤進行形：（be動詞＋動詞の-ing形）の用法を理解する。 ⑥好きな動物について、英語で述べるようになる。	○	○	◎
2	前期：5月 後期：10月	Lesson 3 A Train Driver in Sanriku 笑顔を運ぶ列車	P38～45	①被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考える。 ②ある場所への行き方とそこでできることについて、英語で述べるようになる。 ③助動詞can、willを用いた文の形・意味・用法を理解する。	○	○	◎
3	前期：5月 後期：10月	Lesson 4 A Miracle Mirror 夢のような絶景	P48～57	①海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する ②行ってみたい場所について、英語で述べるができる ③to不定詞（to＋動詞の原形）を用いた文の形・意味・用法を理解する	◎	○	○
4	前期：6月 後期：11月	Lesson 5 Learning from the Sea 長浜高校水族館部	P60～69	①高校のユニークな部活動を通して、今好きなことと将来の夢について考える ②将来の夢について、英語で述べるができる ③動名詞（動詞の-ing形）を用いた文の形・意味・用法を理解する	◎	○	○
5	前期：6月 後期：11月	Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period 奇想天外な浮世絵師	P78～87	①江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチ。を通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。 ②好きな絵について、英語で述べるができる ③受け身（be動詞＋過去分詞）を用いた文の形・意味・用法を理解する。	◎	○	○

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
6	前期：6月 後期：11月	Lesson 7 A Diary of Hope アンネ・フランク	P88～97	①アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考える ②関心のある人物について、英語で説明することができる ③比較表現 〈-er〉 〈the -est〉 〈as＋原級＋as〉を用いた文の形・意味・用法を理解する	◎	○	○
7	前期：7月 後期：12月	Lesson 8 A Door to a New Life ロボットカフェ	P98～107	①ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える ②人の生活を豊かにするロボットについて考え、英語で提案することができる ③現在完了形 〈have [has]＋過去分詞〉の用法を理解する	○	◎	○
8	前期：7月 後期：12月	Lesson 9 Fighting Plastic Pollution 海の豊かさを守る	P112～121	①プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する。 ②環境を守るためにできることについて、英語で述べることができるようになる。 ③「名詞を後ろから説明する分詞」が用いられた文の形・意味・用法を理解する。	○	◎	○
9	前期：7月 後期：12月	Lesson 10 Pigs from across the Sea 海の間こうからの贈り物	P122～131	①第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する。 ②海外の文化や社会に対する理解を深める活動について、英語で述べることができるようになる。 ③関係代名詞who、whichを用いた文の形・意味・用法を理解する。	○	◎	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ	スクーリング回数	16	レポート回数	12	単位数	4
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	英語コミュニケーションⅠの学習内容を活用しながら、英語力のさらなる定着と向上を図る。日常生活や社会的な問題に関する対話やスピーチ、新聞記事や広告、論文文や報告文を題材として学ぶ。						
学習の到達目標	1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。						
	2. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。						
	3. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。						
	4. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。						
	5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「All Aboard! English Communication II」(CⅡ701)						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格(60点以上)を条件に単位認定試験を受験し、合格(30点以上)した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	Lesson 1 A Colorful Island ブラーノ島	P8～19	①イタリアのブラーノ島への旅行を報告するSNSを通して、その島の特色について理解する。 ②関係代名詞：whatを用いた文の形・意味を理解する。 ③海外の観光地や行ってみたい場所やそこでやりたいことについて調べ、その理由を話したり書いたりして伝え合う。 ④海外の観光地について、相手の意見を聞き、理解する。	◎	○	○
2		Lesson 2 With the Beatles サムのリクエスト	P20～27	①曲をリクエストしたラジオ番組の聴取者とディスクジョッキーの対話を通して、世帯を超えて人気のある音楽バンドについて学習する。 ②比較表現：more, the mostを用いた文の形・意味を理解する。 ③世帯を超えて人気のある音楽バンドについて学んだり、好きな人物について調べ、その理由を話したり書いたりして伝え合う。 ④世帯を超えて人気のある音楽バンドについて、相手の意見を聞き、理解する。	○	◎	○
3		Lesson 3 Wild Men ワイルドマンの世界	P30～39	①ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」についてのスピーチを通して、人間社会と自然について考える。 ②itの用法・文の形・意味を理解する。 ③身近な行事やお祭りについて調べ、その中から好きな行事やお祭りを選び、その理由を話したり書いたりして伝え合う。 ④好きな行事やお祭りについて、相手の意見を聞き理解する。	○	○	◎
4		Lesson 4 Little Hero ハチドリのしずく	P42～55	①世界最小の鳥であるハチドリを紹介する記事とハチドリの物語を通して、不断の努力と不屈の心について考える。 ②間接疑問文を用いた文の形・意味を理解する。 ③自分の好きな物語について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ④自分の好きな物語について、相手の意見を聞き、理解する。	○	○	◎
5	前期：6月 後期：11月	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki 歌舞伎メイクの物語	P56～67	①日本の伝統文化である歌舞伎と隈取について学習する。 ②to不定詞を含む表現を用いた文の形・意味を理解する。 ③日本の伝統文化について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ④日本の伝統文化について、相手の意見を聞き、理解する。	○	○	◎
6		Reading 1 Mujina	P70～77	①本文の英単語の意味を理解し、正確に書き、発音を理解する。 ②本文をリスニング、音読し、内容を理解する。 ③本文の単語や熟語に留意しながら本文を理解する。 ④情景や登場人物の心情を想像しながら、聞いている相手に内容が伝わりやすいように、物語を暗唱する。	○	○	◎
7		Lesson 6 Seeds for Future Generations 伝統野菜を未来につなぐ	P78～91	①海外の高校生に向けた、伝統野菜についてのグループ発表を通して、伝統の継承について考える。 ②動詞の目的語になる訂節を用いた文の形・意味を理解する。 ③地元で有名な場所やものについて、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ④地元で有名な場所やものについて、相手の意見を聞き、理解する。	○	○	◎
8	前期：7月 後期：12月	Lesson 7 Over the Wall アートで世界をつなぐ	P92～105	①世界中で壁画を描く活動についての話を通して、世界の人々と交流する方法について学習する。 ②関係副詞：where, whenを用いた文の形・意味を理解する。 ③世界の人々と交流する方法について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ④世界の人々と交流する方法について、相手の意見を聞き、理解する。	○	○	◎
9		Lesson 8 Inspiration from Nature 自然のデザインに学ぶ	P106～117	①自然界の動物や植物について、調べた事柄を用いて、素晴らしいと思った情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ②自然界の動物や植物で素晴らしいと思ったことについて、相手の意見を聞き、理解する。 ③自然界のデザインをヒントにした製品について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ④自然界のデザインをヒントにした製品について、相手が調べた情報を聞き、理解する。	○	○	◎
10		Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate 甘いチョコレートの苦い現実	P120～133	①チョコレートをめぐる現実を取り上げた雑誌記事を通して、カカオ農園の実態と児童労働及びその解決策について学習する。 ②使役動詞を用いた文の形・意味を理解する。 ③社会的な問題について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ④社会的な問題について、相手の意見を聞き、理解する。	○	◎	○
11		Lesson 10 Fighting Angel ナイチンゲール	P134～145	①医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯について学習する。 ②分詞構文を用いた文の形・意味を理解する。 ③人を助ける職業について、調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話したり、書いたりして伝え合う。 ④人を助ける職業について、相手の意見を聞き、理解する。	○	◎	○
12		Reading 2	P148～155	①本文の英単語の意味を理解し、正確に書き、発音を理解する。 ②本文をリスニング、音読し、内容を理解する。 ③本文の単語や熟語に留意しながら本文を理解する。 ④情景や登場人物の心情を想像しながら、聞いている相手に内容が伝わりやすいように、物語を暗唱する。	○	○	◎

備 考	【取り組みの方向性】 ・全体授業は、テーマについて情報や考え、気持ちなどを、ペアやチームで論理性に注意して発表する、話して伝えあうことができるようになる。 ・文法に関しては、Asu-mediaやウィングネットを使用して理解する。 ※ネットで単語を調べる際、「google翻訳」などが便利なので、使用を推奨するが、使用の際の注意点はしっかりと伝達する。 ※年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	--

《通信教育実施計画》

授業科目名	論理・表現Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	対話やディスカッション、スピーチ、ライティング等の言語活動を通して、これまで学習したことを実際のコミュニケーションにおいて活用できるようになることを目指して学ぶ。						
学習の到達目標	多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、 1. 文脈にあった質問や答えを続けることで、情報や考え、気持ちなどを、やり取りを通して伝え合うことができる。						
	2. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、話して伝えることができる。						
	3. 論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、書いて伝えることができる。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「NEW FAVORITE English Logic and ExpressionⅠ」（論Ⅰ701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	Unit1 Lesson2 道に迷う □提案することができる。 □依頼することができる。 □道順を説明することができる。	P20～P23	①相手の立場や状況を理解し、適切な表現を用いて、物事を提案したり、依頼する表現を理解する。 ②相手にわかりやすく道順を説明する表現を理解する。 ③目的地まで道案内をする表現を練習する。 ④実際の場面を想定してペアワークを行う。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	Unit1 Lesson6 行ってみたい場所 □希望を述べることができる。 □理由を述べることができる。	P44～P49	①希望を述べる、理由を述べるときの表現の形・意味・用法を理解する。 ②行ってみたい場所についてのエッセイを書く。（学んだ知識を用いて、希望を述べる、理由を述べるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。）	◎	○	○
3	前期：6月 後期：11月	Unit1 Lesson9 お気に入りを紹介 □映画や本のあらすじを要約したり登場人物を紹介したりすることができる。 □感想や批評を述べることができる。	P62～P67	①教科書をもとに、自身が選んだ本や映画をクラスに紹介するためのスピーチ原稿を作成する。 ②学んだ知識を用いて、映画や本のあらすじを要約する、登場人物などを紹介する、感想や批評を述べるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。	◎	○	○
4	前期：6月 後期：11月	Unit1 Lesson12 英字新聞に投稿 □要望や主張を述べることができる。 □理由を述べることができる。	P80～P85	①学んだ知識を用いて、要望や主張を述べる、理由を述べるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。 ②学んだ知識を用いて、映画や本のあらすじを要約する、登場人物などを紹介する、感想や批評を述べるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。 ③英字新聞記事を作成するにあたり、学校に対する要望を考え、その理由および補足を書く。 ④教科書を参考にし、要望をtopic sentenceとして、英字新聞の記事を完成させる。	○	◎	○
5	前期：7月 後期：12月	Unit2 Lesson4 遊びやスポーツを紹介 □ルールや手順を順序立てて説明することができる。 □聞き手の知識に合わせて説明することができる。	P106～P111	①ルールや手順を順序立てて説明する、聞き手や読み手の知識に合わせて説明するときの表現の形・意味・用法を理解する。 ②現在完了形と過去形の用法を理解する。 ③スポーツを選び、そのルールについて説明する英文を作成する。	○	◎	○
6	前期：7月 後期：12月	Unit2 Lesson5 日本をPR □事実と意見を区別して述べることができる。 □文化や習慣を説明することができる。	P112～P117	①学んだ知識を用いて、事実と意見を区別して述べる、文化や習慣を説明するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを表現する基本的な技能を身につける。 ②世界にPRしたい日本の文化や習慣について、事実と意見を区別して表現する。	◎	○	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	家庭基礎	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ペーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	人の一生と家族・家庭及び、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けることを目指す。家庭や地域社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策の構想から実践、評価など生涯を通して課題を解決する力を養う。様々な人々と協働し、地域の生活を創造することについて学ぶ。						
学習の到達目標	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて知る。						
	家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むための知識を得る。						
	生活を営むために必要な技能を身に付けるようとする姿勢を育む。						
	地域社会及び、家庭生活に参画するためのコミュニケーション能力を育む。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「家庭基礎 自立・共生・創造」2東書 家基701						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 取り組み の態度に
1	5月 10月	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる	P12～P37	・生涯発達の視点から、自身のステージの課題を知る ・自身の長所、短所を考えることで自己概念を理解する ・様々なライフコースを知ること、人生設計の選択肢を増やす ・家族・家庭の意義とこれらに関する法律を知る	○	◎	○
2	5月 10月	第3章 子どもと共に育つ 第4章 超高齢社会と共に生きる	P38～P77	・子どもの発達と特徴を知り、保育者の責任について考える ・家族・社会で協力して家庭を築く重要性を感じる・法律を知る ・高齢社会の現状と高齢者の心身の変化や特徴を知る ・高齢社会における課題と、支援制度を知る、対策を考える	◎	○	○
3	6月 11月	第5章 共に生き、共に支える 第6章 食生活をつくる	P78～P133	・多様な人々が生活する上での困難と解決策・施策を知る ・日本と、他国での社会保障の違いを知る ・社会生活を送る上で、自身にできる取り組みを考える ・食生活の課題を知り、自身の食生活を振り返る ・食品の栄養素を知り、食事の参考にする意識を養う ・食中毒や寄生虫病について理解し、安全な食生活の選択ができる ・食品添加物について知る	○	○	◎
4	6月 11月	第6章 食生活をつくる 第7章 衣生活をつくる	P86～P163	・日本の食文化について知る ・食をめぐる問題と、その対策を知る ・SDG s の観点も含めて、自分にできる取り組みを考える ・被服の役割を理解する ・被服のデザインについて考え、TP01に合わせた選択ができるようになる ・被服の素材における特徴を知る ・被服の正しい手入れの方法を知り、生活に活かそうとする気持ちを養う	○	◎	○
5	7月 12月	第8章 住生活をつくる	P164～P182	・住居の機能と造りの移り変わりを家族形態やライフステージの視点から知る ・平面図について理解し、適切な住居の選択に活かす知識を学ぶ ・健康で安全な住まいのための施策を知る	◎	○	○
6	7月 12月	第9章 経済生活を営む 第10章 持続可能な生活を営む	P184～P213	・消費者としての注意点を知り、消費活動に役立てることができる ・購入・支払い方法の特徴を知り、留意して消費活動ができる ・お金の管理と運用について知り、自分のお金の管理に役立てられる ・今現在の消費社会における課題と施策について知る	◎	○	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	情報Ⅰ	スクーリング回数	8	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、 スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	情報技術を適切に活用することを通して、情報を正しく理解すること、様々な情報を組み合わせて適切に活用すること、問題の発見・解決に繋げることについての知識を学ぶ。また、情報社会を生きる上で大切なコミュニケーションやプログラミングについても理解を深める。						
学習の到達目標	(1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。						
	(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。						
	(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。						
使用教科書・副教材等	東京書籍「新編情報Ⅰ」（情Ⅰ701）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点			
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	前期：5月 後期：10月	【1章】（理論編） 1 情報とメディアの特性	P6-7	・情報の特性から、情報とは何か理解する。 ・さまざまなメディアの特性を理解する。	◎	○		
		【1章】（理論編） 2 問題解決の流れ 3 発想法	P8-11	・問題を発見・解決するための一連の流れを理解する。 ・問題の発見・解決に情報技術が活用できることを理解する。 ・問題解決の各場面で活用できる発想法を学習する。	○	◎	○	
		【1章】（理論編） 4 情報モラル 5 個人情報の流出 6 傷つかない傷つけないために	P12-17	・情報社会で生活していくための情報モラルを理解する。 ・情報社会の安全を守るための、法規や制度および個人の責任について学習する。 ・個人情報とはどのようなものか理解する。 ・SNSを通して個人情報が出・特定される仕組みを学習する。 ・SNS等の不適切な使い方による問題を理解する。 ・ソーシャルエンジニアリングにより不正に情報が盗まれることを理解する。	◎		○	
		【1章】（理論編） 7 著作権	P18-19	・著作権について理解する。 ・引用の仕方を理解する。	◎	○	○	
		【1章】（理論編） 8 情報技術の発展 9 情報化と私たちの生活の変化 10 よりよい情報社会へ	P20-25	・画像処理や電子商取引などの新しい情報技術について学習する。 ・人工知能やロボットなどの情報技術と生活の変化を理解する。 ・情報化による健康への影響などの問題について学習する。 ・サイバー犯罪などの問題について学習する。	◎	○	○	
		2	【2章】（理論編） 11 コミュニケーション手段の変化 12 ネットコミュニケーションの特徴	P34-37	・メディアとコミュニケーションの変遷について学習する。 ・メディアの特性について学習する。 ・近年のソーシャルメディアによる人のつながりを理解する。 ・ネットコミュニケーションの特徴である記録性や匿名性について学習する。	○	◎	
			【2章】（理論編） 13 デジタルの世界へ 14 数値と文字のデジタル表現	P38-41	・デジタルデータとは何か学習する。 ・デジタルデータのメリットとデメリットを理解する。 ・2進法と情報の単位について学習する。 ・文字のデジタル表現について学習する。	◎	○	
			【2章】（理論編） 15 音と画像のデジタル表現 16 色と動画のデジタル表現 17 目的に応じたデジタル化	P42-47	・音、画像、動画のデジタル化について学習する。 ・デジタルでの色の原理を理解する。 ・デジタル情報の品質の違いについて学習する。 ・データの圧縮について学習する。	◎	○	
			【2章】（理論編） 18 情報デザイン 19 ユニバーサルデザイン 20 情報デザインの流れ	P48-53	・情報デザインとは何か学習する。 ・情報デザインの方法である抽象化、可視化、構造化を理解する。 ・学校のWebサイトがどのような階層構造になっているか調べる。 ・情報デザインの方法を使って分かりやすい文書を作成する。 ・ユニバーサルデザインについて学習する。 ・ユーザインタフェースについて学習する。 ・情報デザインのプロセスを理解する。 ・情報デザインのプロセスを活用する方法を身につける。 ・デザイン思考に基づいた分析を理解する。	○	◎	○
			3	【3章】（理論編） 21 コンピュータとは何か 22 ソフトウェアの仕組み	P62-65	・コンピュータの基本構成について理解する。 ・ハードウェアとソフトウェアについて理解する。	◎	○
【3章】（理論編） 23 演算の仕組みとコンピュータの限界 24 アルゴリズムの表現	P66-69	・プログラムの動作の仕組みについて学習する。 ・コンピュータの演算の仕方について学習する。 ・コンピュータの処理のための基本的な回路について学習する。 ・アルゴリズムの必要性を理解する。 ・アルゴリズムの表現方法について学習する。		○	◎	○		
【3章】（理論編） 25 演算の仕組みとコンピュータの限界 26 アルゴリズムの表現	P66-69	・プログラムの作り方について学習する。 ・プログラムの制御構造について学習する。		○	◎	○		
【3章】（理論編） 27 プログラムの基本構造1 28 プログラムの基本構造2 【巻末】Scratch	P70-73 P186-187	・プログラムで制御構造を組み合わせる方法を学習する。 ・プログラムの配列とリストについて学習する。 ・簡易な対話プログラムを開発する。 ・プログラムでの関数の利用について学習する。		○	◎	○		
【3章】（理論編） 29 発展的なプログラム1 30 発展的なプログラム2 【巻末】Python	P74-77 P176-177	・モデル化の考え方、モデルの種類について学習する。 ・シミュレーションによるモデルの評価について学習する。 ・モデル化とシミュレーションにおける注意点を学習する。 ・テーマを決めて、表計算ソフトウェアでシミュレーションを行う。		○	◎	○		
4	【4章】（理論編） 31 ネットワークとインターネット 32 インターネットの仕組み 33 サーバとクライアント	P90-95		・情報通信ネットワークとは何か学習する。 ・LANとWANの違いを学習する。 ・プロトコルと、その1つとしてTCP/IPについて学習する。 ・ネットワークを構成するハードウェアについて学習する。 ・サーバの役割について学習する。 ・インターネットでのIPアドレスとDNSの役割を学習する。 ・認証後に使えるようになるサービスには、どのようなものがあるか調べる。	◎	○		
	【4章】（理論編） 34 インターネット上のサービス 35 情報セキュリティ	P96-99		・WWWについて理解する。 ・電子メールについて学習する。 ・情報セキュリティの機密性、完全性、可用性を理解する。 ・情報セキュリティを確保するための方法・技術について学習する。	○	◎	○	
	【4章】（理論編） 36 データの形式 37 データベースの活用 38 さまざまなデータモデル	P100-105		・データとは何か学習する。 ・データの尺度とは何か学習する。 ・データベースの役割がどのようなものか理解する。 ・社会でのデータベースの活用例を学習する。 ・データベースで使用するデータモデルについて学習する。 ・関係データベースを分析して、解釈する。	◎	○	○	
	【4章】（理論編） 39 データ分析の流れ 40 目的に合わせたデータの利用	P106-109		・データ分析の流れと方法を学習する。 ・分析の目的に合わせたデータの活用方法を学習する。 ・適切なデータの解釈方法を学習する。	○	◎	○	
	5	【巻末】（資料編） 文書処理ソフトウェアの操作①（実習）		P150-151	・文書処理ソフトウェアについて、書式の設定や配置の変更など、基本的な操作を学習する。 ・文書処理ソフトウェアで図、表、画像を利用する方法を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	○	○	◎
【巻末】（資料編） 文書処理ソフトウェアの操作②（実習）		P150-151	・文書処理ソフトウェアについて、書式の設定や配置の変更など、基本的な操作を学習する。 ・文書処理ソフトウェアで図、表、画像を利用する方法を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	○	○	◎		
【巻末】（資料編） 表計算ソフトウェアの操作①（実習）		P152-153	・表計算ソフトウェアの書式の設定や配置の変更など、基本的な操作を学習する。 ・表計算ソフトウェアでの数式の利用を学習する。 ・表計算ソフトウェアでの関数の利用を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	○	○	◎		

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
6	前期：7月 後期：12月	【巻末】（資料編） 表計算ソフトウェアの操作②（実習）	P152-153	・表計算ソフトウェアの書式の設定や配置の変更など、基本的な操作を学習する。 ・表計算ソフトウェアでの数式の利用を学習する。 ・表計算ソフトウェアでの関数の利用を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	○	○	◎
		【巻末】（資料編） プレゼンテーションソフトウェアの操作①（実習）	P154-155	・プレゼンテーションソフトウェアの書式の設定や配置の変更など、基本的な操作を学習する。 ・プレゼンテーションソフトウェアでの視覚的な情報伝達の方法を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	○	○	◎
		【巻末】（資料編） プレゼンテーションソフトウェアの操作②（実習）	P154-155	・プレゼンテーションソフトウェアの書式の設定や配置の変更など、基本的な操作を学習する。 ・プレゼンテーションソフトウェアでの視覚的な情報伝達の方法を学習する。 ・ディレクトリやファイルの操作について学習する。	○	○	◎
備 考		・年度途中での入学者については、適宜補習を行い入学以前の授業内容を補填する。また、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。					

《通信教育実施計画》

授業科目名	医療事務	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ページスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	医療業界がおかれている現状や、医療に携わる各職種・仕事内容について理解を深める。医療スタッフの基本的なマナーや考え方についても学ぶ。また、医療事務の職種ごとの仕事内容の違いや、一日の仕事の流れを知り、職業イメージを掴む。						
学習の到達目標	1. 医療業界がおかれている現状を理解し、時代変化に対応できる思考力・判断力を身に付ける。						
	2. 医療機関で働く方々の職種を十分に理解し、その業務内容について学び、社会的な見方や考え方を培う。						
	3. 医療現場で必要とされる基本的マナーを理解することで、相手の立場に立って考え行動できる人間力を磨く。						
使用教科書・副教材等	日本医療事務協会「医療事務」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に
1回	前期 5月 後期 10月	1. 医療業界を理解しよう ・医療業界の現状 ・医療従事者に求められる資質 ・医療業界のやりがい 2. 医療の現場と医療の仕事を知ろう ・医療現場とは	6-17	・「国民皆保険制度」について知る ・医療業界の変化について理解する/調べる ・医療従事者に求められる資質、やりがいを学ぶ ・診療所と病院の違いを理解する	○	○	◎
2回		2. 医療の現場と医療の仕事を知ろう ・医療現場の特徴 ・医療現場の職種と医療に携わる仕事	18-30	・様々な医療現場の種類や特徴を学ぶ。 ・自分の近所の医療機関やかかりつけ医が、どのような位置付けの施設なのか等、自分自身の生活と結び付けて理解する。 ・医療現場が様々な職種のスタッフで成り立っていることを理解する ・興味のある職種について更に自分で調べ、職業理解を深める	◎	○	
3回	前期 6月 後期 11月	3. 医療現場に必要なマナー ・マナーの5つのポイント 4. 医療事務の仕事の概要を知ろう ・医療事務スタッフの仕事（初診受付・再診受付）	31-43	・医療機関におけるマナーと、一般的なマナーの違いを理解する ・自分の通院したことのある医療機関の患者接遇と比較し、患者の立場、医療従事者、両者の立場で接遇について考える ・医療事務の仕事にも様々な職種/仕事があることを学ぶ ・初診受付業務、再診受付業務の流れを理解する。 ・病院受診時に見たことがある「保険証」/「問診票」について理解、関心を深める。	◎	○	
4回		4. 医療事務の仕事の概要を知ろう ・医療事務スタッフの仕事 （会計業務・案内業務・レセプト業務・クラーク業務・秘書業務・診療情報管理士・調剤薬局事務・歯科医院事務） ・医療事務員の一日の流れ	44-60	・医療事務の多岐に渡る仕事内容・職種を知り、職業理解を深める ・組織には様々な役割の人がおり、それぞれが連携することで機能することを理解する。多職種の医療事務を通じて社会的視野を広げる ・医療事務について興味関心を深め、自分で職業について更に調べる	◎	○	
5回	前期 7月 後期 12月	【医療業界を取り巻く環境や考え方の変化】 第1章で扱った内容を中心に、自分が気になるテーマを1つ決めて探究する。	6-9	【記述式が主になる為自分で考えて主体的に取り組む】 ・以下から興味関心のあるテーマを自分で選択する ・ニュースや本、インターネット等、様々な情報ソースを駆使して医療業界への興味関心、理解を深める 例 ①「国民皆保険制度」日本と海外の医療保険制度の違い ②患者中心の医療 ③チーム医療 ④手術・技術の進化 ⑤医薬分業 ⑥病院のデジタル化推進（電子カルテ・オンライン診療） ⑦マイナ保険証		○	◎
6回		【医療現場と医療の仕事を知ろう】 第2章で取り扱った内容をもとに、自分の実生活や将来と絡めながら学びを深める ・医療現場とは （主な医療現場・医療現場の特徴） ・医療の現場の職種と仕事内容	16-30	【記述式が主になる為自分で考えて主体的に取り組む】 A：医療現場とは（主な医療現場・医療現場の特徴） ・自分が住んでいる地域の医療現場について調べること、診療所・病院の特徴を具体的に理解する ・自分の地域の医療体制・病診連携等を理解することで、より身近に医療事務を感じ教科としての学びを現実と結び付けて捉えられるようにする B：医療の現場の職種と仕事内容 ・教科書に記載のある職業から1つ選び、職業についてより深く調べまとめる ・仕事内容や資格等を調べることで、将来の選択肢を広げ社会に興味関心を持つ ※医療事務については第4章を参考に探究してもよい		◎	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	福祉	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	高齢社会の現状やサポートの方法、介護の定義、高齢者福祉の基本を学ぶ。						
学習の到達目標	福祉の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。						
	福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。						
	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
使用教科書・副教材等	日本医療企画「はじめて学ぶ介護」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的 に学習に 取り組む 態度
1	5・10月	・高齢社会の現状 ・介護の役割 ・介護とは ・介護の基本原則 ・介護者の健康管理 ・骨粗鬆症、骨折	P2～P18、 P21、P101	・介護の位置づけや介護職について知る。 ・日本の高齢社会の現状について理解する。 ・高齢者の健康と介護問題について知る。 ・高齢者の日常生活への影響を理解する。 ・平均寿命が延びている社会の背景を知り、介護が必要な高齢者の現状を知る。 ・高齢者が生活する環境について理解する。 ・自立の意味と意義について理解する。 ・人間の尊厳とは何か考え、視野や対応方法の視野を広げる。 ・介護をする上での基礎知識や支援方法を理解する。 ・利用者への寄り添い方を理解する。 ・介護とは利用者の日常生活を理解して支援することを理解する。 ・介護専門職として医療的な知識と技術を学ぶ必要性を知る。 ・高齢者に多い病気についての知識を得る。 ・ターミナルケアについて考え、つねに学習する。 ・介護者の健康管理の心掛けを理解する。	◎	○	○
2	5・10月	・介護保険制度の理念 ・介護保険制度はどうしてできたのか ・制度の理念 ・制度の特徴 ・介護保険制度のしくみとサービスの理解 ・介護保険制度のしくみ	P30～P39	・介護保険制度が創設された背景を理解する。 ・介護保険制度の理念を理解する。 ・介護保険制度の特徴を理解する。 ・要介護認定の受け方を理解する。 ・介護保険給付について理解する。 ・介護保険サービスの種類や内容について理解する。	◎	○	○
3	6・11月	・介護保険制度のサービス ・居宅サービス ・その他の居宅サービス ・高齢者向け福祉サービス ・地方自治体の関わる高齢者福祉サービス ・高齢者の保健サービス ・高齢者虐待の防止と対応 ・高齢者虐待防止法 ・高齢者虐待の定義	P41～P52、 P55～P58	・介護保険サービスの種類や内容について理解する。 ・介護保険以外の高齢者福祉サービスを把握する。 ・高齢者の保健サービスを理解する。 ・高齢者の虐待について理解する。 ・高齢者虐待防止法について理解する。	◎	○	○
4	6・11月	・介護技術の援助 ・家事援助 ・移乗、移動の介助 ・食事介助 ・入浴と清潔の介助	P168～P253	・家事援助によって利用者の生活、行動範囲が広がることを理解する。 ・家事援助の目的について理解する。 ・家事援助の具体的な介護技術の基本を学ぶ。 ・移乗、移動解除の基本を学ぶ。 ・安全な移乗、移動で利用者の生活、行動範囲が広がることを理解する。 ・食事は利用者の楽しみの一つであることを理解する。 ・食事介助の基本を学ぶ。 ・転倒は大きなけがにつながるので安全な介助方法を選択する。 ・プライバシーに配慮することを理解する。	◎	○	○
5	7・12月	【課題探究】 個人探究	-	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、 個人別探究を行い単元に対する理解を深める 例) 探究・発表「高齢者の現状に対し、私たち世代が出来ること」 例) 探究・発表「相手を大切にすることについて（尊厳・人権）」 例) 探究・発表「私が考える新しい介護保険制度」	○	○	◎
6	7・12月	【課題探究】 個人探究	-	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、 個人別探究を行い単元に対する理解を深める 例) 探究・発表「高齢者の現状に対し、私たち世代が出来ること」 例) 探究・発表「相手を大切にすることについて（尊厳・人権）」 例) 探究・発表「私が考える新しい介護保険制度」	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	健康スポーツ	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	スポーツ健康科学を理解するための解剖学、生理学の基本とトレーニングの基礎知識を学ぶ。						
学習の到達目標	身体の構造と機能を理解し、救急処置、コンディショニングの実践に繋げる。						
	運動のためのエネルギー供給と利用の仕組み、情報伝達の仕組みを理解し、トレーニングとからだづくりに必要な知識を身に着ける。						
	筋力トレーニングの基礎知識を理解し実践に繋げる。						
使用教科書・副教材等	金芳堂「図解スポーツ健康科学入門」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に
1	5,10月	からだの構造と機能について	2～12	主な骨、関節の構造、筋肉について理解する。	○	◎	○
2		運動のためのエネルギー供給と利用の仕組み	14～29	呼吸器系、循環器系の解剖と機能とエネルギー供給の仕組みについて理解する。	○	○	◎
3	6,11月	運動のための情報伝達の仕組み	31～42	神経細胞の構造や情報伝達の仕組み、神経系や運動単位などについて理解する。	○	○	◎
4		筋力トレーニングの基礎知識	44～54	筋の収縮様式やプログラム作成について理解する。	◎		
5	7,12月	【個人探究】	—	これまでの学習や実技を通して学んだ内容をもとに単元に対する理解を深める。 例) 体幹トレーニングの理解と実践を行う 例) 体幹トレーニングの目的・方法をまとめる	○		◎
6		【個人探究】	—	これまでの学習や実技を通して学んだ内容をもとに単元に対する理解を深める。 例) 体幹トレーニングの理解と実践を行う 例) 体幹トレーニングの目的・方法をまとめる	○		◎

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	メイク	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	ヘア・メイク分野に関する教養を身につける。						
学習の到達目標	ヘア、メイクに関する知識を身につける。						
	身に着けた知識を実技に活かすことができる。						
	状況に応じた施術ができるようにする。						
使用教科書・副教材等	高橋書店「あなたの美を引き出す正しいヘア＆メイク事典」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	【基礎】 □ベースメイク □目元のメイク	P12-P84	□ベースメイクの基本を正しく理解する。 □工夫のポイントを整理する。 □仕上がりの違いや印象について考察する。 □必要な道具を想像し、再現する方法を理解する。 □これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解をする。	◎	○	○
2		【考察】 □眉と目元メイクの考察 【基礎】 □メイクを直す際の注意点とポイント □リップメイク □実技学習 【探究学習】 □シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言①」	P85-P153	□仕上がりの違いや印象について考察する。 □メイクを修正するためのポイントを理解し、他者に説明が出来る力を身につける。 □リップメイクの特徴を正しく理解する。 □これまでの学習内容を振り返りながら、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。 □これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解をする。	○	◎	○
3	前期：6月 後期：11月	【考察】 □自身のヘアスタイルや過去のアレンジ経験を振り返る □ヘアの変化やダメージ 【探究学習】 □シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言②」	P154-P200	□イメージを具体化し、アレンジに対する理解を深める。 □ヘアの変化やダメージに関する正しい理解を行う。 □これまでの学習内容を振り返りながら、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。 □これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解をする。	○	◎	○
4		【基礎】 □シャンプーの意味について □トリートメントの意味について □ヘアの変化による印象の違い① □ヘアの変化による印象の違い② □実技・実習活動	P154-P200	□シャンプーの効果や方法について理解する。 □トリートメントの効果や方法について理解する。 □仕上がりの違いや印象について考察する。 □ヘアに関する知識を用いて、相談に対して適切なアドバイスが出来るようにする。 □これまでの学習内容を振り返りながら、実技学習（反復）を通して理解をする	◎	○	○
5	前期：7月 後期：12月	【課題探究】 個人探究	-	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、個人別探究を行い単元に対する理解を深める。 例）探究・発表「メイクが利用者の生活にどのような影響を与えるか」 例）探究・発表「私が感動したメイク作品とその理由」 例）探究・発表「メイク創作活動（個人作品）」	○	○	◎
6		【課題探究】 グループ探究	-	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、グループ別探究（協働学習）を行い単元に対する理解を深める。 例）探究・発表「他者の心を動かすメイク作品を考えよう」 例）探究・発表「メイクの魅力を広く伝えよう」 例）探究・発表「メイク創作活動（グループ作品）」	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	--------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	ネイル	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、 スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	ネイルに関する基礎的な教養を身につける。						
学習の到達目標	ネイルの正しい知識を知り、自己や他者の生活に「潤い」や「彩り」を与えることができる力を身につける。						
	探究的な視点を持ち、適切なアドバイスが出来るようになる。						
	実技を通して、器具や薬品の安全な取り扱いについて理解を深める。						
使用教科書・副教材等	『セルフジェルネイル教室』nailstepsリップ（ソーテック）						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	5、10月	【基礎】 □ネイルアレンジ、自分の爪をよく見てみよう □ジェルネイルについて □ファイル、ウッドスティックについて	P5-P12、P77	□自身の爪を観察し、特徴を理解する。 □ケアやアレンジに関して興味を持つ。 □ジェルネイルに対する正しい理解をする。 □ファイル、ウッドスティックに対する正しい理解をする。	◎	○	○
2		【基礎】 □ネイルケアについて □ウェットステリライザーの作り方、キューティクルニッパーのお手入れ □ネイルの形状と構造について	P5-P12、P77	□ネイルケアがもたらす効果を理解する。 □他者に与える印象について考察する。 □ウェットステリライザー、キューティクルニッパーに対する理解を深める。 □形状を比較し、特徴を理解する。 □爪の各構造を理解する。	◎	○	○
3	6、11月	【基礎】 □ネイルケアについて □ウェットステリライザーの作り方 □キューティクルニッパーのお手入れ □ネイルの形状と構造について	P13-P22	□ネイルケアがもたらす効果を理解する。 □他者に与える印象について考察をする。 □ウェットステリライザー、キューティクルニッパーに対する理解を深める。 □形状を比較し、特徴を理解する。 □爪の各構造を理解する。	◎	○	○
4		【基礎・探究】 □ドライケアについて □ウォーターケアについて □ジェルネイルの道具・工程について □筆の活用とお手入れについて 【探究学習】 □シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言①」	P23-P38	□ドライケアとウォーターケアの違いを理解する。 □それぞれの特徴を基に、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。 □道具に対する理解を深め、場面に応じた適切な活用ができるようになる。 □これまでの学習内容を振り返りながら、相談者に適切な提案が出来る力を身につける。	○	○	◎
5	7、12月	【考察】 □ジェルネイル作成上の注意点 【探究学習】 □シミュレーション活動 「相談に対する適切な助言②」 【基礎】 □ネイルオフについて	P40-P79	□想像力を働かせながら、ネイル作品の分析を行い、ポイントを理解する。 □相談者に適切な提案が出来る力を身につける。 □安全に施術を行うための知識を理解する。	○	◎	○
6		【課題探究】 □個人探究 □グループ探究	—	これまでの学習や実技を通して学んだ内容を基に、探究を行い単元に対する理解を深める。 【個人探究】 例）探究・発表「ネイルが利用者の生活にどのような影響を与えるか」 例）探究・発表「私が感動したネイル作品とその理由」 例）探究・発表「ネイル創作活動（個人作品）」 【グループ探究】 例）探究・発表「他者の心を動かすネイル作品を考えよう」 例）探究・発表「ネイルの魅力を広く伝えよう」 例）探究・発表「ネイル創作活動（グループ作品）」	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	こども	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ペーシックススタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	保育士、幼稚園教諭になる方法や幼児教育に関わる仕事内容を理解し、また資格取得方法について学ぶ。						
学習の到達目標	保育所と幼稚園の違いを理解し、幼保一元化の背景と今後について考察出来る力をつける。						
	保育士・幼稚園教諭の資格取得方法とその流れについて理解し、自身の将来のキャリア選択を省察する力を育む。						
	保育士・幼稚園教諭・福祉施設職員の役割や仕事内容について知り、自身の将来のキャリア選択を省察する力を育む。						
使用教科書・副教材等	日本実業出版社「保育の仕事がわかる本」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に
1	前期：5月 後期：10月	保育所と幼稚園の違いを知る 認定こども園が出来た背景について考察する	P10-11 P18-19	・保育所と幼稚園のそれぞれの目的をもとに行われている活動や特徴を理解する。 ・社会の変遷や人々の暮らしの変化と共に、認定こども園の必要性や制度の新設が行われたことを理解し自己で考察出来るようになる。	○	○	◎
2	前期：5月 後期：10月	保育士資格取得方法とその流れを理解する	P42-45 PP52-53	・保育士資格を取得する2つのルートと内容、難易度について知る。 ・実際の保育士養成校について知る。	◎	○	○
3	前期：6月 後期：11月	保育士の保護者や関係機関の連携について学ぶ 福祉施設の理解を深める	P72-73 P84-85 P86-117	・保育士は子どもだけでなく、保護者支援が年々必要になってきていることとその理由について考察する。 ・『小1プロブレム』が起きないよう子どもたちの育ちを連続していくための小学校との連携の大切さを理解する。 ・各福祉施設について理解を深める。	○	○	◎
4	前期：6月 後期：11月	幼稚園教諭の役割と仕事について知る	P144-153	・幼稚園において各園の教育方針がありそれに沿った活動や教育が行われていることを知る。 ・「園児のバス置き去り事故」について考え対策について考察する。 ・自身の教育観について考察する。	◎	○	○
5	前期：7月 後期：12月	幼児期の教育 折り紙について調べ学習を行う	70	・幼児の遊びの重要性について学び、季節による製作を実践する。 保育者は「遊びを通して学ぶ」ことを大切にし、子どもの育ちの保障をすること、なんとなく子どもがやりたいことに付き合っているわけではないということを理解する。 目標に向かって子ども自身が「生きる力」を身につけるためにはどのような体験が必要か考えながら、その「体験」を「遊び」の中に取り入れることが必要であることを理解する。	○	○	◎
6	前期：7月 後期：12月	幼児期の教育 廃材を使った玩具について調べ学習を行う	70	・幼児の遊びの重要性について学び、製作を実践する。 保育者は「遊びを通して学ぶ」ことを大切にし、子どもの育ちの保障をすること、なんとなく子どもがやりたいことに付き合っているわけではないということを理解する。 目標に向かって子ども自身が「生きる力」を身につけるためにはどのような体験が必要か考えながら、その「体験」を「遊び」の中に取り入れることが必要であることを理解する。	○	○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	スイーツ	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、 スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	ケーキに使用する材料や製法を知り、お菓子の基礎知識を学ぶ。						
学習の到達目標	①お菓子作りに必要な、材料や用具、動作について学び、基礎知識を身に付ける。						
	②実習を通して、主体性を育む。						
使用教科書・副教材等	新星出版社「お菓子の教科書きほん編」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・ 技能	思考・ 判断・ 表現	主体的に学習に 取り組む態度
1	前期：4月 後期：10月	①お菓子作りの道具 ②お菓子作りの下準備	P.12～27	①お菓子作りに使用する、道具の名称と使い方について理解する。 ②お菓子作りにおける、計量の重要性について理解する。 ③様々な計量の仕方について理解する。 ④オーブンの扱い方について理解する。 ⑤お菓子作りに使う型について理解する。	◎		
2	前期：4月 後期：10月	①基本動作	P.30～41	①お菓子作りの基本動作である、「ふるう」「混ぜる」「泡立てる」「ぬる」「のばす」について理解する。	◎		
3	前期：5月 後期：10月	①世界のお菓子 ②生地の種類	P.2～5 P.50～59	①普段何気なく食べているお菓子の発祥地を知る。 ②お菓子の土台となる、生地の種類について理解する。	◎		
4	前期：6月 後期：11月	①牛乳・生クリーム ②ケーキのデコレーション	P.82～87 P.140～143	◆知識を身につける ①牛乳と生クリームの違いについて理解する。 ②生クリームの種類について理解する。 ③牛乳の効果について理解する。 ④ケーキのデコレーション方法について理解する。 ⑤クリームのぬり方について理解する。 ⑥クリームの絞り方について理解する。 ◆表現する 2.(6)の通り、お気に入りのデコレーションケーキについて考える ①個人ワーク ②グループワーク ③全体発表 ※全体で発表できるよう、グループごとGoogleスライドを共同で編集し、発表スライドを作成する。	◎		○
5	前期：6月 後期：11月	実習1		◆実践（2コマ連続が望ましい） ①実習を通して、道具の使い方への理解をさらに深める。 ②実習を通して、計量の重要性についての理解をさらに深める。 ③実習を通して、お菓子作りの基本動作についての理解をさらに深める。 ④アイデアを形にすることの難しさと面白さを知る。 【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ ・パウンドケーキ ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る ・パウンドケーキ ◆課題 実習で学んだ内容をレポートにまとめる ※実習ができない場合には年間指導計画参照		○	◎
6	前期：6月 後期：11月	実習2		◆実践（2コマ連続が望ましい） ①実習を通して、ショートケーキの組み立て方について理解を深める。 ②実習を通して、クリームの塗り方について理解を深める。 ③実習を通して、クリームの絞り方について理解を深める。 【実習の内容（案）】 ・スポンジケーキ ・パウンドケーキ ・シフォンケーキ ※実習室がS校ではない場合※ ・スポンジを事前に購入しクリームを塗る ・パウンドケーキ ◆課題 実習で学んだ内容をレポートにまとめる ※実習ができない場合には年間指導計画参照		◎	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	総合探究Ⅰ	スクーリング回数	4	レポート回数	4	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	自分の興味関心のあることや社会の課題等について、突き詰めて研究し自分なりの結論を見出していく「探究学習」について学ぶ。探究学習とは何か、どのように行うのかという基礎を学ぶ。						
学習の到達目標	探究の見方・考え方を備かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識や能力を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。						
	・探究学習のプロセスや手法を理解する。						
	・簡単な探究に取り組み、主に情報収集とまとめ・表現を体験する。						
使用教材・副教材等	リクルート「興味研究型 探究講座」「課題発見型 探究講座」						
評価方法	添削指導、面接指導への取り組み状況を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格を条件に単位認定する。						

時限数	レポート 該当回	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	1	・「自分らしい問い」の意義 ・「問いをつくる」体験をする ・「自分らしい問い」の見つけ方	・「働く」ということについて考え、自分らしい問いもって働くことがやりがいや楽しさにつながることを学び、理解する。 ・事例から「問いをつくる」体験をし、問いをつくる考え方のヒントを学び、理解する。 ・「自分らしい問い」は、自分が好きなものから考えることもできるということを事例をもとに学び、理解する。	◎	○	
2	2	・「課題を発見する力」について ・「課題を発見する」体験をする ・探究活動について理解する	・「課題」とは何かを学び、理解する。 ・「課題を発見する」体験をし、課題を発見する考え方のヒントを学び、理解する。 ・これからの社会を生きていく上で「課題を発見する力」の重要性を学び、理解する。 ・「『課題』を動かす＝探究」であることを学び、探究活動について理解する。	◎	○	
3	3	・簡単な探究の実践	・1・2コマ目で学習したことを踏まえて簡単な探究に取り組み、実践を通して探究学習のプロセスや手法について理解を深める。 ・主に情報収集とまとめ・表現を体験し、調べたことを自分なりに整理し、アウトプットする力を身につける。 ・参考文献の書き方など、情報を収集する際のスキルを身につける。	○	○	◎
4	4			○	○	◎

備 考	・3・4コマ目の探究のテーマ設定は各キャンパスにて行う。
-----	------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	総合探究②	スクーリング回数	4	レポート回数	4	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	自分の興味関心のあることや社会の課題等について、突き詰めて研究し自分なりの結論を見出していく「探究学習」について学びます。探究学習とは何か、どのように行うのかという基礎を学びます。						
学習の到達目標	探究の見方・考え方を備かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。						
	・課題を見つける視点を持つ。						
	・他者との共有に挑戦する。						
使用教材・副教材等	飛鳥未来・飛鳥未来きずな・飛鳥未来きぼう高等学校 オリジナル教材						
評価方法	添削指導、面接指導への取り組み状況を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格を条件に単位認定する。						

時限数	レポート 該当回	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	1	・オリエンテーション ・探究課題の設定	・総合探究②の特徴や授業の進め方、受講のルールについて理解する。 ・探究課題を見つけるためのポイントや考え方を学び、探究課題を考える。 ・探究課題を設定した理由について考え、自分の言葉で表現する。	○	◎	
2	2	・探究課題の共有 ・情報収集	・設定した探究課題を、動機とともに自分の言葉で他者に共有する。 ・情報収集の目的や手段、ポイントやコツについて学び、理解する。 ・設定した探究課題に基づき、ポイントやコツを押さえながら情報収集を実践する。	○	○	◎
3	3	・情報収集結果の共有 ・整理・分析	・情報収集した結果を、気づいたこととともに自分の言葉で他者に共有する。 ・整理・分析の方法について学び、理解する。 ・収集した情報を整理・分析し、そこから自分なりの考察を導き出す。	○	◎	○
4	4	・これまでの成果の共有 ・探究のまとめ ・発表	・これまでの探究の成果を、自分の言葉で他者に共有し、お互いに新たな気づきを得る。 ・探究のまとめを行い、結論付け、探究全体を通しての学びや変化を振り返り、今後探究したい新たな問いや課題を見出す。 ・発表の準備を実施する（タイトルをつける→骨組みをつくる→原稿・視覚資料などの発表資料をつくる）。 ・お互いの発表を聞き、他者からのフィードバックを受けて視野を広げたりする。	○	○	◎

備 考	・探究のテーマ設定は各キャンパスにて行う。
-----	-----------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	総合探究③	スクーリング回数	4	レポート回数	4	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、 ネットスタイル						
科目内容	自分の興味関心のあることや社会の課題等について、突き詰めて研究し自分なりの結論を見出していく「探究学習」について学ぶ。探究学習とは何か、どのように行うのかという基礎を学ぶ。						
学習の到達目標	探究の見方・考え方を備かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（1）探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。（2）実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。（3）探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。						
	・学校外の人との関わり等も含んだ協働的な探究に取り組む。						
	・主体的に探究のプロセスを実践する。						
	・探究の最後にプレゼンテーションに挑戦する。						
使用教材・副教材等	各種提携プログラム もしくは 各校オリジナルプログラム より選択						
評価方法	添削指導、面接指導への取り組み状況を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格を条件に単位認定する。						

時限数	レポート 該当回	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
1	1	- 探究の意義について - プログラムゴールの理解 - テーマ理解 - 探究課題検討（個人で実施） - アイズブレイク	- 探究の意義について改めて理解する。 - 使用するプログラムのゴールについて理解する。 - 扱うテーマに関する知識や基本的な情報をインプットし、探究するにあたって理解を深める。 - グループでの活動に入る前に、個人での探究課題を検討する。 - グループでの探究活動に向け、グループを編成し、アイズブレイクを実施してグループでの探究がしやすい雰囲気づくりをする。	◎	○	
2	2	- 個人で検討した探究課題の共有 - グループの探究課題設定 - 情報収集準備 - 情報収集	- 個人で検討した探究課題を共有し、グループでの探究課題を設定する。 - 探究するために不足している情報や必要な情報をグループで洗い出し、情報収集の準備をする（インタビュー準備含む）。 - 適宜グループ内で共有しながら情報収集を行い、探究に必要な情報を蓄積する。	○	○	◎
3	3	- インタビューの動機づけ - インタビュー	- インタビューを実施する意義について学び、理解する。 - テーマ関係者に実際にインタビューを実施し、さらに深い情報を収集する。	○	○	◎
4	3・4	- 情報の整理・分析・まとめ - 考察や提案の検討 - グループ発表 - 探究活動全体のまとめ	- 情報収集やインタビューで得た情報を元に、グループで整理・分析を実施し、考察や提案を検討する準備をする。 - 整理・分析した情報を元にグループなりの考察・提案を検討する。 - 設定した探究課題・得られた情報・情報からの考察や結論（解決策や提案）を簡潔にグループごとに発表をする。 - お互いのグループの発表を聞き、感じたことや学んだことを記する。 - 適宜フィードバックや質疑応答等を実施し、他者の視点や考えを取り入れ、視野を広げたりする。 - 探究活動の各フェーズにおいて重要だと感じたことや意識したこと、活動全体を通して学んだことや感じたことについて、自分の言葉でアウトプットする。 - 改めて探究活動の意義を理解する。	○	○	◎

備 考	・探究プログラムの選択は各キャンパスにて行う。
-----	-------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	キャリア探究	スクーリング回数	2	レポート回数	4	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	働く意義や社会で求められる能力を知ると共に、自己分析により自己の在り方・生き方を考え、他者との意見交換により勤労観や職業観を持つ。						
学習の到達目標	社会的、職業的自立に向け、経済・社会・雇用の仕組みについての知識や税金、年金、保険や労働者としての権利と義務についての知識を付ける。						
	「働くことの喜び」と「世の中の実態や厳しさ」の両面を学び、職業選択・決定を先送りにせず主体的にキャリア形成について考え、望ましい勤労観、職業観を身に付ける。						
使用教科書・副教材等	学研出版「なぜ僕らは働くのか」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	前期5月 後期：10月	第1章 仕事ってなんだ？ 第2章 どうやって働く？どうやって生きる？	P9～66	①仕事の本質、なぜ私たちは働くのかを理解する。 ②社会は誰かの仕事によって成り立っていることを理解する。 ③お金と仕事の関係について理解する。 ④人生にかかるお金について考える。 ⑤様々な働き方やワークライフバランスについて理解する。		◎	○
2	前期6月 後期：11月	第2章 好きを仕事に？仕事を好きに？	P67～110	①やりたい仕事の見つけ方を理解する。 ②現在の自分の興味関心を起点に、関係する様々な仕事を知る。 ③現在の自分の興味関心や得意なことをもとに、自己分析をする。		○	◎
3	前期6月 後期：11月	第4章 幸せに働くってどういうこと？	P111～140	①幸せに働くための考え方や行動の特長を理解する。 ②適正な労働環境について知る。 ③自分の将来の生き方・在り方について考える。		◎	○
4	前期7月 後期：12月	第5章 大人も知らない未来の”働く” 第6章 いま あなたたちに伝えたいこと	P141～204	①仕事には課題解決の目的があることを知り、仕事は時代と共に変化することを理解する。 ②SDGsや多様性、人生100年時代といった現代社会における考え方、生き方について理解する。 ③未来のために今すべきこと、できることを考える。		○	◎

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	サイコロジー	スクーリング回数	2	レポート回数	6	単位数	2
面接指導実施日	各期15週、年間30週 前期：4月～8月 後期：10月～1月	レポート提出日	前期：5・6・7月 後期：10・11・12月の第2金曜日			試験期間	前期：9月上旬 後期：2月上旬
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	日々の悩みや疑問を通して、心理学の基本的な考え方を学ぶ。また、青年心理学の主な領域について系統的に学習し、自分の考えをアウトプットすることで、学びを深める。						
学習の到達目標	1. 心理学を通して、相手の心を汲み取る力を身につける。						
	2. 答えのない問いに対して、自分自身の考えをアウトプットする力を身につける。						
使用教科書・副教材等	福村出版「心のなかなはどうなっているの？高校生の「なぜ」に答える心理学」						
評価方法	添削指導、面接指導及び定期試験を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格（60点以上）を条件に単位認定試験を受験し、合格（30点以上）した場合に単位を認定する。						

レポート 該当回	レポート 提出月	学習内容	ページ	学習のねらい	評価の観点		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
1	前期：5月 後期：10月	第1部 心理学って？青年心理学って？	P.10～26	①心の法則を理解する。 ②自分や他人の心を理解する。 ③青年期について理解する。 ④心理学を生かした職業について理解する。	◎	○	○
2	前期：5月 後期：10月	第2部 思春期・青年期ってこんな時期？	P.29～51	①思春期・青年期の身体的発達について理解する。 ②思春期・青年期の脳の発達について理解する。 ③思春期・青年期の認知的能力の発達について理解する。 ④自律性について理解する。	◎	○	○
3	前期：6月 後期：11月	第3部 青年心理学が解き明かす若者のモヤモヤ 第11章 自分のことなのになぜわからないの？ 第12章 性格ってどうしようもないの？ 第18章 ネットやゲーム、好きにさせてくれない？	P.56～71 P.141～146	①自己・自我の心理学について理解する。 ②アイデンティティについて理解する。 ③パーソナリティの心理学について理解する。 ④デジタルをとりまく心理学について理解する。	◎	○	○
4	前期：6月 後期：11月	第3部 青年心理学が解き明かす若者のモヤモヤ 第16章 学校って塾と通信教育でもいいよね？ 第17章 進路なんて考えられないんだけど？ 第22章 毎日イライラ…こんな自分だけ？	P.115～132 P.184～194	①学校生活と社会性の心理学について理解する。 ②進路選択と社会的自立の心理学について理解する。 ③ストレスと不安の心理学について理解する。	◎	○	○
5	前期：7月 後期：12月	自由探究①	—	テキスト第3部にある各章の心理学の中から、最も興味のあるものを選択し、個人探究を行い、理解を深める。		◎	○
6	前期：7月 後期：12月	自由探究②	—	テキスト第3部にある各章の心理学の中から、最も興味のあるものを選択し、個人探究を行い、理解を深める。		◎	○

備 考	・年度途中での入学者については、教員と相談のうえレポート提出月を変更する。
-----	---------------------------------------

《通信教育実施計画》

授業科目名	きぼうプロジェクト	スクーリング回数	2	レポート回数	4	単位数	2
面接指導実施日	前期：2回 後期：2回	レポート提出日	前期：8月 後期：1月			試験期間	
対象スタイル	ベーシックスタイル、スタンダードスタイル、ネットスタイル						
科目内容	身近にある答えのない課題に取り組む過程において、社会の創り手として求められる、課題の発見と解決に必要な知識・技能を身につける。						
学習の到達目標	・課題の解決に向けて自分なりの考えを持ちアウトプットする力、得た情報を基に論理的に分析し、まとめ、表現する力を身につける。						
	・他者の考えを受容し、互いの良さを生かしながら協働的に取り組む。						
	・チームで取り組むことにより、何かを実現するには一人では限界があること、他者と協働することでより良い形で実現できることに気付く。						
	・一連の取り組みを通して自分の考えが形になっていく喜びを感じ、今後の学校生活や社会参画に主体的に関わろうという思いを持つ。						
使用教材・副教材等	ソーシャルチェンジ・ファースト ワークブック・オリエンテーション動画						
評価方法	添削指導、面接指導及び成果発表会への取り組み状況を基に総合的に評価する。						
単位認定方法	規定回数以上の面接指導出席、規定回数全てのレポート合格を条件に成果発表会へ参加する。各課題への取り組み状況を基に評価し、認定する。						

時限数	レポート 該当回	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
1	1	■導入 ■チームビルディング ■課題の発表	・授業で使う資料を確認する。 ・科目の意義・目的を理解する。 ・授業全体の流れを理解する。			◎
2	1	■課題に対する案出し・チーム内共有 ■事例・情報収集	・課題を理解し、自分自身のアイデア・考えを書きだす。 ・チームに向けて自分のアイデア・考えをしっかりと伝える。 ・チームメイトのアイデア・考えを聞いて、自分とは違うものの見方・考え方があることを知り、理解する。 ・過去の事例・情報を調べる方法を知る。	○	○	◎
3	2	■収集した情報の整理・共有 ■アイデア作り・深化 ■中間発表	・収集した情報の整理方法について知る。 ・自分の成果を他者に向けて発表する。 ・他者のアイデアを理解し、他者の考えを需要する大切さを学ぶ。 ・何かを実現するには一人では限界があること、他者と協働することでより良い形で実現できることに気付く。	○	◎	○
4	3	■1～3限までの学習内容の振り返り ■企画の具体化 (①企画を実現するにあたっての問題点 ②その解決策を検討)	・問題点を考えることにより、物事の多角的な見方、捉え方を理解する。 ・問題点の解決策を考え、企画を実現するための準備の方法を知る。	○	◎	○
5	3	■企画のまとめ ■発表の準備	・他者と話し合いながら、企画の具体的な実現方法を考える。 ・発表資料の作成方法を理解する。 ・他者と協働しながら、発表資料の準備を行う。	○	◎	○
6	4	■発表 ■個人・チームでの振り返り ■まとめ	・何かを実現したいと思った時、一人でやるのには限界があること、他者と協働することでより良い形で実現できることを改めて理解する。 ・自分の考えが形になる喜びを感じる。 ・「課題を見つけ実現方法を考え解決する」という探究のプロセスによってより良い社会を作っていけること、それが働くということであることを知る。	○	○	◎

備 考	レポートは、使用教材・副教材を元に作成している。使用教材のワークブックは必要に応じて授業内でも適宜活用すること。
-----	--